

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）の
報告案について

○ 後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査（右下頁）

・ 報告書（案）	．．．．．	1 頁
・ NDBデータ	．．．．．	103 頁
・ 集計資料	．．．．．	105 頁
・ 調査票	．．．．．	144 頁

令和 6 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査
(令和 7 年度調査)
後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査
報告書 (案)

◆◆目次◆◆

I. 調査の概要	1
1. 目的	1
2. 調査方法	1
3. 調査対象	2
4. 調査項目	5
5. 調査検討委員会	16
II. 調査の結果	17
1. 回収結果	17
2. 保険薬局調査	18
1) 回答者（保険薬局）について.....	18
2) 後発医薬品に係る最近の対応状況について.....	22
3) 後発医薬品の使用促進について.....	27
4) 一般名処方状況等について.....	28
5) 薬局におけるバイオ後続品の備蓄状況及び対応状況について.....	29
6) 高額医薬品や希少疾病医薬品の備蓄・調剤状況について.....	35
7) 流通改善ガイドラインの遵守状況について.....	39
3. 病院調査	43
1) 回答者（病院）について.....	43
2) 後発医薬品に係る最近の対応状況について.....	46
3) バイオ後続品の使用に関する考えについて.....	49
4) 長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）について.....	51
4. 一般診療所調査	53
1) 回答者（一般診療所）について.....	53
2) 後発医薬品に係る最近の対応状況について.....	57
3) 一般名処方に係る最近の対応状況について.....	58
4) バイオ後続品の使用に関する考えについて.....	59
5) 長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）について.....	61
5. 歯科診療所調査	62
1) 回答者（歯科診療所）について.....	62
2) 後発医薬品に係る最近の対応状況について.....	64
3) 長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）について.....	66
4) 医薬品の安定供給について.....	69
6. 医師調査	70
1) 回答者（医師）について.....	70
2) 後発医薬品に係る最近の対応状況について.....	71
3) バイオ後続品の使用に関する考えについて.....	73

4)	長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）の選定療養について.....	74
7.	患者調査（郵送調査／インターネット調査）.....	75
1)	回答者（患者）について.....	76
2)	ジェネリック医薬品の使用に関する経験などについて.....	80
3)	ジェネリック医薬品のある先発医薬品の使用に関する考えについて.....	85
4)	ジェネリック医薬品の使用に関する考えや、使用促進の取組について.....	90
5)	バイオ医薬品の使用に関する考えや、使用促進の取組について.....	93
	参考資料：NDB データを用いた集計	100

I. 調査の概要

1. 目的

令和6年度診療報酬改定において、後発医薬品使用体制加算及び外来後発医薬品使用体制加算について、医薬品の供給が不足等した場合における治療計画の見直し等に対応できる体制の整備並びに患者への説明及び院内掲示にかかる要件を設けるとともに、評価が見直された。また、バイオ後続品に係る患者への適切な情報提供を推進する観点から、入院医療においてバイオ後続品の有効性や安全性について十分な説明を行い、バイオ医薬品ごとの特性を踏まえた使用数量割合の基準を満たす医療機関について新たな評価を行うとともに、バイオ後続品導入初期加算について対象患者が拡大された。

これらを踏まえ、本調査では、昨年度調査と同様、バイオ後続品を含む後発医薬品の使用状況や、後発医薬品の供給状況等に係る課題や対応状況について調査・検証を行った。

2. 調査方法

本調査の（１）保険薬局調査、（２）病院調査、（３）一般診療所調査、（４）歯科診療所調査、（５）医師調査は、郵送発送による自記式アンケート調査方式により実施した。回答は、紙媒体（IDを印字した調査票）に記入後、郵送返送する方法と、専用ホームページより電子調査票（Excel）をダウンロードし、入力の上、メールへの添付により返送する方法から選択できるようにした。

なお、（５）医師調査は、自記式調査票（医師票）を前記（２）の対象施設（病院）を通じて配布を行った。

（６）患者調査（郵送調査）については、自記式調査票（患者票）の配布は前記（１）の対象施設（保険薬局）を通じて行い、回収は事務局宛の専用返信封筒により患者から直接郵送いただく方法で行った。また、Web上の回答用フォームから記入・送信する形式も選択できるようにした。

（７）患者調査（インターネット調査）については、インターネット上での回答・回収とした。

調査実施時期は、（１）保険薬局調査、（２）病院調査、（３）一般診療所調査、（４）歯科診療所調査、（５）医師調査、（６）患者調査（郵送調査）は令和7年8月4日から令和7年9月16日、（７）患者調査（インターネット調査）は令和7年8月28日から令和7年9月8日であった。

3. 調査対象

本調査では、（１）保険薬局調査、（２）病院調査、（３）一般診療所調査、（４）歯科診療所調査、（５）医師調査、（６）患者調査（郵送調査）、（７）患者調査（インターネット調査）の７つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

（１）保険薬局調査

全国の保険薬局の中から無作為抽出した保険薬局を調査対象とした。調査客体は 1,500 施設とした。

（２）病院調査

全国の病院の中から無作為抽出した病院を調査対象とした。調査客体は 1,000 施設とした。

（３）一般診療所調査

全国の一般診療所の中から無作為抽出した一般診療所を調査対象とした。調査客体は 1,500 施設とした。

（４）歯科診療所調査

全国の歯科診療所の中から無作為抽出した歯科診療所を調査対象とした。調査客体は 1,500 施設とした。

（５）医師調査

前記（２） 病院調査の対象施設で外来診療を担当する医師を調査対象とした。1 施設につき診療科の異なる医師 2 名を調査対象とし、調査客体数は最大で 2,000 人（病院 1,000 施設×2 人＝2,000 人）とした。

（６）患者調査（郵送調査）

前記（１）保険薬局調査の対象施設の調査日に来局した患者（調査期間の中で特定の 1 日を調査日とし、当該日において午前・午後にそれぞれ最初に来局された患者で、調査協力についてご本人の同意が得られた方 / 午前・午後それぞれの時間帯に来局者がなかった場合は、調査日を翌日に変更）を調査対象とした。1 施設につき 2 人を本調査の対象とし、調査客体数は最大で 3,000 人（保険薬局 1,500 施設×2 人＝3,000 人）とした。

(7) 患者調査（インターネット調査）

直近3か月間で、保険薬局に処方箋を持って来局した患者を調査対象とした。調査客体数は5,000人とした。調査客体は、性・年代（下記20区分）ごとに等分（250人ずつ）とし、地域別の割合を人口推計（総務省「人口推計（2024年（令和6年）10月1日現在）」）に比例配分する形とした。

※15歳未満の患者等、一部患者は保護者同意の下に回答いただいている。

男性	9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	全年代
北海道	9	9	9	9	10	10	11	11	12	11	101
東北	15	16	14	15	16	15	19	21	21	18	170
関東信越	95	94	107	107	103	104	98	92	90	92	982
東海北陸	36	37	35	36	36	36	35	35	35	36	357
近畿	41	41	41	38	38	41	39	37	38	42	396
中国	15	15	13	13	13	13	14	15	15	16	142
四国	7	7	6	6	7	7	7	8	8	8	71
九州	32	31	25	26	27	24	27	31	31	27	281
全国	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	2500

女性	9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	全年代
北海道	9	9	9	9	10	10	11	12	13	12	104
東北	15	16	13	15	16	15	19	21	20	18	168
関東信越	96	94	107	104	100	100	93	88	88	89	959
東海北陸	36	37	34	34	34	35	35	34	34	35	348
近畿	41	41	43	41	41	43	41	39	40	42	412
中国	14	15	12	13	14	14	14	15	15	16	142
四国	7	7	6	6	7	7	8	9	9	9	75
九州	32	31	26	28	28	26	29	32	31	29	292
全国	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	2500

(参考) 調査対象の母集団

	母数	調査対象数	抽出率
保険薬局調査（全数）		—	—
A：特段の条件なし	61,709 件	1,500 件	2.4%
病院調査（全数）		—	—
B：特段の条件なし	8,011 件	1,000 件	12.5%
一般診療所調査（全数）		—	—
C：特段の条件なし	88,180 件	1,500 件	1.7%
歯科診療所調査（全数）		—	—
D：特段の条件なし	67,542 件	1,500 件	2.2%

※抽出作業時点の情報

4. 調査項目

各調査の調査票（（１）保険薬局調査、（２）病院調査、（３）一般診療所調査、（４）歯科診療所調査、（５）医師調査、（６）患者調査（郵送調査）、（７）患者調査（インターネット調査））の調査項目は以下のとおりである。

（１）保険薬局調査

※赤字は本報告書に掲載している項目（それ以外の項目の調査結果は別紙の集計表を参照）

設問種類	設問項目
1. 施設の状況について	所在地
	開設者
	薬局の所在
	同一グループ店舗数
	開設年
	処方箋の応需状況（薬局立地）
	応需医療機関数
	処方箋の集中率が高い診療科
	売上高に占める保険調剤売上割合
	調剤基本料
	全処方箋の受付回数
	主たる保険医療機関に係る処方箋の受付回数の割合
	後発医薬品調剤割合
	カットオフ値の割合
	供給停止となっている後発医薬品等の診療報酬上の臨時的な取扱いの適用有無
	後発医薬品の調剤数量割合が著しく低い薬局の調剤基本料の減算該当の有無 （減算該当が無い場合）該当しない理由
	後発医薬品調剤体制加算
	地域支援体制加算
	在宅薬学総合体制加算
	職員数（薬剤師：常勤・常勤換算、その他：常勤・常勤換算）
	薬局の認定等の状況
2. 後発医薬品に係る最近の対応状況について	現時点での後発医薬品の供給体制についての考え
	1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化
	現在の医薬品の調達状況
	供給不安定の状況への対応として実施していること
	供給不安定の対策のために連携している薬局の種類
	薬局間での具体的な連携内容
	他の薬局又は薬剤師会等から開示された在庫状況の活用
	医薬品の融通
	やむをえず自家製剤加算を算定した場合の適用有無
	特定薬剤管理指導加算３の算定件数（長期収載品の説明実施件数）
	特定薬剤管理指導加算３の算定件数（後発医薬品への変更件数）
	特定薬剤管理指導加算３の算定件数（変更が必要になった患者への説明件数）
	供給不安報告制度の開始前と比較した、後発医薬品の調剤割合の変化 （減ったと回答した場合）後発医薬品の調剤割合が減った理由

設問種類	設問項目
3. 後発医薬品の使用促進に関して	特別の料金を支払っても、長期収載品の調剤を希望する患者の有無
	長期収載品の銘柄名処方に変更不可の処方について、1年前と比較した変化
	長期収載品の銘柄名処方のうち、処方箋に「患者の希望」が明記されていた品目数
	長期収載品の銘柄名処方のうち、処方箋に「患者の希望」が明記されていないが、患者が長期収載品の調剤を希望した品目数
	処方箋に「変更不可（医療上必要）」が指示されていた品目数
	長期収載品の選定療養制度を導入したことによる影響や課題
	調剤用医薬品備蓄品目数（全医薬品）
	調剤用医薬品備蓄品目数（全医薬品）のうち、先発医薬品の品目数
	調剤用医薬品備蓄品目数（全医薬品）のうち、後発医薬品の品目数
	先発医薬品の備蓄品目数の増減
	後発医薬品の備蓄品目数の増減
4. 一般名処方の状況等について	1年前と比較した一般名処方の件数の変化
	後発医薬品を調剤しなかった場合の理由別件数（患者の意向）
	後発医薬品を調剤しなかった場合の理由別件数（保険薬局の備蓄）
	後発医薬品を調剤しなかった場合の理由別件数（後発医薬品なし）
	後発医薬品を調剤しなかった場合の理由別件数（その他）
	1年前と比較した、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の変化（患者の意向）
	1年前と比較した、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の変化（保険薬局の備蓄）
	1年前と比較した、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の変化（後発医薬品なし）
	供給不安報告制度の開始前と比較した、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の変化（患者の意向）
	供給不安報告制度の開始前と比較した、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の変化（保険薬局の備蓄）
	供給不安報告制度の開始前と比較した、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の変化（後発医薬品なし）
5. 薬局におけるバイオ後続品の備蓄状況及び対応状況について	バイオ後続品についての取扱い
	バイオ後続品の備蓄状況から不安定供給を感じるものの有無
	（不安を感じる可能性がある場合）
	バイオ後続品のうち、不安定供給を感じる製品
	備蓄している医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）
	備蓄品目数（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）
	調剤した医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）
	調剤品目数（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）
	1年前と比較した備蓄品目数の増減（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）
	バイオ後続品の使用促進に関する説明について最も近いもの
	（積極的に取り組んでいない場合）
	バイオ後続品の使用促進における課題等
	（積極的に取り組んでいない場合）
	バイオ後続品の使用促進における課題等のうち最もあてはまるもの
	バイオ後続品の使用推進のために必要な対応
	バイオ後続品の使用推進のために最も必要な対応
	患者からバイオ後続品に関する相談を受けたものの有無

設問種類	設問項目
	(相談を受けたことがある場合) 患者から受けたバイオ後続品に関する相談の内容
	(相談を受けたことがある場合) 患者から最も多く受けたバイオ後続品に関する相談の内容
	(相談を受けたことがある場合) 相談を受けた患者が使用していたバイオ医薬品
6. 高額医薬品 や希少疾病医 薬品の備蓄・ 調剤状況につ いて	薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額（薬価・一日薬価）
	調剤用医薬品の廃棄額（全医薬品・うち後発医薬品）
	廃棄金額が最も多かった医薬品
	廃棄金額が最も多かった医薬品の廃棄額
	廃棄を減らすために行っている工夫や取組
	希少疾病用医薬品備蓄品目数
7. 流通改善ガ イドラインの 遵守状況につ いて	流通改善ガイドラインの認知
	卸売業者との単品単価契約の状況
	過大な値引き交渉及び不当廉売に関する対応状況
	頻繁な価格交渉の改善に関する対応状況
	医薬品の返品 of 取扱いに関する「医療用医薬品の流通の改善に関する懇談会」 の提言の遵守状況
	返品したことがある医薬品の有無、種類
	公正な競争の確保と法令の遵守に関する対応状況
	カテゴリーごとの流通のあり方に関する対応状況
	流通の効率化と安全性・安定供給の確保状況

(2) 病院調査

設問種類	設問項目
1. 回答者につ いて	所在地
	開設者
	開設年
	標榜診療科
	(標榜診療科が内科の場合) 内科の詳細
	(標榜診療科が外科の場合) 外科の詳細
	オーダーリングシステムの導入状況
	外来の院内・院外処方割合
	特定入院料の状況
	許可病床数
	医師数
	薬剤師数
	外来患者延数
	在院患者延数
	調剤用医薬品備蓄品目数（内服薬、外用薬、注射薬、合計／全医薬品・うち後 発医薬品）
	調剤用医薬品備蓄品目数（全医薬品）のうち、先行バイオ医薬品の品目数
	調剤用医薬品備蓄品目数（全医薬品）のうち、バイオ後続品の品目数

設問種類	設問項目
2. 後発医薬品に係る最近の対応状況について	1年前と比較した後発医薬品に係る対応の業務量の増減
	1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化
	現在の医薬品の調達状況
	医薬品の不安定な供給状況によって生じている影響
	医薬品の不安定な供給状況によって最も生じている影響
	後発医薬品の処方割合の変化
	出荷調整等で入手が難しくなっている品目数（先発医薬品）
	出荷調整等で入手が難しくなっている品目数（後発医薬品）
	供給停止となっている後発医薬品等の診療報酬上の臨時的な取扱いの適用有無
	後発医薬品使用体制加算の算定状況
	後発医薬品使用割合＜新指標、数量ベース＞
	カットオフ値の割合
	一般名処方による処方箋の発行有無
	（一般処方の処方箋の発行がない場合）
	一般名処方による処方箋を発行していない理由
	医薬品の安定供給に関連する取組内容
	後発医薬品の使用を進めるために必要な対応
	後発医薬品の使用を進めるために最も必要な対応
	後発医薬品の使用促進に向けた効果的な取組に関する意見
3. バイオ後続品の使用に関する考えについて	バイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）の処方有無
	（バイオ医薬品の処方がある場合）
	バイオ医薬品の院内処方（入院または院内の外来）の有無
	（バイオ医薬品の処方がある場合） バイオ医薬品の院外処方の有無
	（バイオ医薬品の処方がある場合）
	在庫のあるバイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）
	施設におけるバイオ後続品の使用に関する考え方に最も近いもの
	（バイオ医薬品の処方がある場合）
	バイオ後続品の院内処方（入院または院内の外来）の有無
	（バイオ医薬品の処方がある場合） バイオ後続品の院外処方の有無
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方のいずれかがある場合）
	バイオ後続品使用体制加算新設によるバイオ後続品の使用件数の変化
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方のいずれかがある場合）
	入院処方における処方総件数及びバイオ後続品の処方件数
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方のいずれかがある場合）
	外来で実施する処方における処方総件数及びバイオ後続品の処方件数
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方のいずれかがある場合）
	在宅自己注射における処方総件数及びバイオ後続品の処方件数
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方のいずれかがある場合）
	在宅自己注射指導管理料におけるバイオ後続品導入初期加算の有無
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方のいずれかがある場合）
	在宅自己注射指導管理料におけるバイオ後続品導入初期加算の件数
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方のいずれかがある場合）
	注射料通則におけるバイオ後続品導入初期加算の有無
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方のいずれかがある場合）
	注射料通則におけるバイオ後続品導入初期加算の件数

設問種類	設問項目
	(バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方のいずれかがある場合) バイオ後続品使用体制加算の有無
	(バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方のいずれかがある場合) バイオ後続品使用体制加算の件数
	(バイオ後続品導入初期加算を算定していない場合) バイオ後続品導入初期加算を算定していない理由
	(バイオ後続品使用体制加算を算定していない場合) バイオ後続品使用体制加算を算定していない理由
	(バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方のいずれかがある場合) バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品
	(バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方のいずれかがある場合) バイオ後続品の採用が進んでいない理由 (1 つ目)
	バイオ後続品の採用が進んでいない理由 (2 つ目)
	バイオ後続品の採用が進んでいない理由 (3 つ目)
	(診療報酬上の評価が十分でないとした場合) 診療報酬上の評価が十分ではないと考える理由 (1 つ目)
	診療報酬上の評価が十分ではないと考える理由 (2 つ目)
	診療報酬上の評価が十分ではないと考える理由 (3 つ目)
	(バイオ後続品の院外処方がある場合) バイオ後続品の院外処方の際の、処方箋への表記方法
	(バイオ後続品の院外処方がある場合) バイオ後続品を院外処方するにあたって薬局・薬剤師に望むこと
	(バイオ後続品の院外処方がない場合) バイオ後続品の院外処方をしていない理由
	外来腫瘍化学療法診療料の算定有無
	(外来腫瘍化学療法診療料の算定がある場合) 外来腫瘍化学療法診療料の算定回数
	(外来腫瘍化学療法診療料の算定がある場合) 外来腫瘍化学療法診療料の対象患者の月平均受診回数
	(外来腫瘍化学療法診療料の算定がある場合) 院内で採用している外来化学療法における後発品の使用状況 (6 区分)
	外来化学療法加算の算定有無
	(外来化学療法加算の算定がある場合) 院内で採用している外来化学療法における後発品の使用状況 (4 区分)
4. 長期収載品 (後発医薬品 のある先発医 薬品) につい て	選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数 (1 か月間)
	(長期収載品の処方箋発行枚数が 1 枚以上ある場合) 発行した長期収載品の処方箋の内訳 (医療上必要性があると医師が判断したもの)
	(長期収載品の処方箋発行枚数が 1 枚以上ある場合) 発行した長期収載品の処方箋の内訳 (後発医薬品の在庫がないもの)
	(長期収載品の処方箋発行枚数が 1 枚以上ある場合) 発行した長期収載品の処方箋の内訳 (患者が希望したもの)
	長期収載品の選定療養による影響や課題

(3) 一般診療所調査

設問種類	設問項目
1. 施設の状況について	所在地
	開設者
	開設年
	種別
	(有床診療所のみ) 許可病床数
	標榜診療科
	(標榜診療科が内科の場合) 内科の詳細
	(標榜診療科が外科の場合) 外科の詳細
	オーダーリングシステムの導入状況
	外来の院内・院外処方割合
	医師数 (常勤・常勤換算)
	薬剤師数 (常勤・常勤換算)
	外来患者延数
	在院患者延数
	医薬品の備蓄品目数 (調剤用医薬品)
	医薬品の備蓄品目数 (調剤用医薬品) のうち、後発医薬品の品目数
	医薬品の備蓄品目数 (調剤用医薬品) のうち、先行バイオ医薬品の品目数
	医薬品の備蓄品目数 (調剤用医薬品) のうち、バイオ後続品の品目数
	後発医薬品使用割合<新指標、数量ベース>
	カットオフ値の割合 (調剤報酬算定上の数値)
2. 後発医薬品に係る最近の対応状況について	1年前と比較した後発医薬品に係る対応の業務量の増減
	1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化
	現在の医薬品の調達状況
	医薬品の不安定な供給状況によって生じている影響
	医薬品の不安定な供給状況によって最も生じている影響
	後発医薬品の処方割合の変化
	出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 (先発医薬品・後発医薬品)
	供給停止となっている後発医薬品等の診療報酬上の臨時的な取扱いの適用有無
	(有床診療所のみ) 後発医薬品使用体制加算の算定状況
	外来後発医薬品使用体制加算の算定状況
3. 一般名処方に係る最近の対応状況について	一般名処方による処方箋の発行有無
	(一般名処方の処方箋の発行がある場合)
	1年前と比較した一般名処方の件数の増減
	(一般名処方の件数が増えた場合) 一般名処方が増えた理由
	(一般名処方の件数が変わらない、もしくは減った場合)
	一般名処方が増えない理由
	(一般名処方の処方箋の発行がない場合)
	一般名処方による処方箋を発行していない理由
	医薬品の安定供給に関連する取組内容
	後発医薬品の使用を進めるために必要な対応
	後発医薬品の使用を進めるために最も必要な対応
	後発医薬品の使用促進に向けた効果的な取組に関する意見

設問種類	設問項目
4. バイオ後続品の使用に関する考えについて	バイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）の処方（使用）有無
	（バイオ医薬品の処方がある場合） バイオ医薬品の院内処方（入院または院内の外来）の有無
	（バイオ医薬品の処方がある場合） バイオ医薬品の院外処方の有無
	（バイオ医薬品の処方がある場合） 在庫のあるバイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品） 施設におけるバイオ後続品の使用に関する考え方に最も近いもの
	（バイオ後続品を積極的に処方している場合） バイオ後続品を積極的に処方（使用）する理由
	（バイオ後続品を積極的に処方している場合） 先行バイオ医薬品からバイオ後続品への変更を考慮する場合の理由
	（バイオ後続品を積極的に処方（使用）していない場合） バイオ後続品を積極的に処方（使用）していない理由
	バイオ後続品の処方（使用）を進めるために必要な対応
	（バイオ医薬品の処方がある場合） バイオ後続品の院内処方（入院または院内の外来）の有無
	（バイオ医薬品の処方がある場合） バイオ後続品の院外処方の有無
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方がある場合） 入院処方における処方総件数及びバイオ後続品の処方件数
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方がある場合） 外来で実施する処方における処方総件数及びバイオ後続品の処方件数
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方がある場合） 在宅自己注射における処方総件数及びバイオ後続品の処方件数
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方がある場合） 在宅自己注射指導管理料におけるバイオ後続品導入初期加算の有無
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方がある場合） 在宅自己注射指導管理料におけるバイオ後続品導入初期加算の件数
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方がある場合） 注射料通則におけるバイオ後続品導入初期加算の有無
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方がある場合） 注射料通則におけるバイオ後続品導入初期加算の件数
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方がある場合） バイオ後続品導入初期加算を算定していない理由
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方がある場合） バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方がある場合） バイオ後続品の採用が進んでいない理由（1つ目）
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方がある場合） バイオ後続品の採用が進んでいない理由（2つ目）
	（バイオ後続品の院内処方またはバイオ後続品の院外処方がある場合） バイオ後続品の採用が進んでいない理由（3つ目）
	（診療報酬上の評価が十分でない場合） 診療報酬上の評価が十分ではないと考える理由（1つ目）

設問種類	設問項目
	(診療報酬上の評価が十分でない場合) 診療報酬上の評価が十分ではないと考える理由 (2 つ目)
	(診療報酬上の評価が十分でない場合) 診療報酬上の評価が十分ではないと考える理由 (3 つ目)
	(バイオ後続品の院外処方がある場合) バイオ後続品の院外処方の際の、処方箋への表記方法
	(バイオ後続品の院外処方がある場合) バイオ後続品を院外処方するにあたって薬局・薬剤師に望むこと
	(バイオ後続品の院外処方がない場合) バイオ後続品の院外処方をしていない理由
	外来腫瘍化学療法診療料の算定有無
	(外来腫瘍化学療法診療料の算定がある場合) 外来腫瘍化学療法診療料の算定回数
	(外来腫瘍化学療法診療料の算定がある場合) 外来腫瘍化学療法診療料の対象患者の月平均受診回数
	(外来腫瘍化学療法診療料の算定がある場合) 院内で採用している外来化学療法における後発品の使用状況 (6 区分)
	外来化学療法加算の算定有無
	(外来化学療法加算の算定がある場合) 院内で採用している外来化学療法における後発品の使用状況 (4 区分)
5. 長期収載品 (後発医薬品 のある先発医 薬品) につい て	選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数 (1 か月間)
	(長期収載品の処方箋発行枚数が 1 枚以上ある場合) 発行した長期収載品の処方箋の内訳 (医療上必要があると医師が判断したもの)
	(長期収載品の処方箋発行枚数が 1 枚以上ある場合) 発行した長期収載品の処方箋の内訳 (後発医薬品の在庫がないもの)
	(長期収載品の処方箋発行枚数が 1 枚以上ある場合) 発行した長期収載品の処方箋の内訳 (患者が希望したもの)
	長期収載品の選定療養による影響や課題

(4) 歯科診療所調査

設問種類	設問項目
1. 施設の状況 について	所在地
	開設者
	開設年
	標榜診療科
	医科の医療機関の併設状況
	外来の院内・院外処方の割合
	歯科医師数 (常勤・常勤換算)
	薬剤師数 (常勤・常勤換算)
	外来患者延数
	外来後発医薬品使用体制加算の届出状況
2. 後発医薬品 に係る最近の	1 年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化
	後発医薬品の処方割合の変化
	出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 (先発医薬品)

設問種類	設問項目
対応状況について	出荷調整等で入手が難しくなっている品目数（後発医薬品）
	供給停止となっている後発医薬品等の診療報酬上の臨時的な取扱いの適用有無
	後発医薬品使用割合＜数量ベース＞
	カットオフ値の割合（調剤報酬算定上の数値）
	一般名処方による処方箋の発行有無
	（一般名処方の処方箋の発行がある場合）
	1年前と比較した一般名処方の件数の増減
	（一般名処方の件数が増えた場合）
	一般名処方が増えた理由
	（一般名処方の件数が変わらない、もしくは減った場合）
	一般名処方が増えない理由
	（一般名処方の処方箋の発行がない場合）
	一般名処方による処方箋を発行していない理由
3. 長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）の状況について	後発医薬品の使用を進めるために必要な対応
	後発医薬品の使用を進めるために最も必要な対応
	長期収載品の選定療養費についての認知有無
	処方箋発行枚数（1か月間）
	処方箋発行枚数のうち、選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数
	（長期収載品の処方箋発行枚数が1枚以上の場合） 発行した長期収載品の処方箋の内訳（医療上必要性があると医師が判断したもの）
	（長期収載品の処方箋発行枚数が1枚以上の場合） 発行した長期収載品の処方箋の内訳（後発医薬品の在庫がないもの）
4. 医薬品の安定供給について	（長期収載品の処方箋発行枚数が1枚以上の場合） 発行した長期収載品の処方箋の内訳（患者が希望したもの）
	長期収載品の選定療養による影響や課題
	長期収載品の選定療養による影響や課題
5. その他	後発医薬品の使用促進や医薬品の安定供給に向けた効果的な取組に関する意見

（５）医師調査

設問種類	設問項目
1. 自身について	性別
	年代
	主たる担当診療科
	（主たる担当診療科が内科の場合）内科の詳細
	（主たる担当診療科が外科の場合）外科の詳細
2. 後発医薬品に係る最近の対応状況について	1年前と比較した供給体制の変化
	後発医薬品の処方割合の変化
	クリニカルパスの変更有無
	一般名処方による処方箋の発行有無
	（一般名処方の処方箋の発行がある場合） 1年前と比較した一般名処方の件数の変化

設問種類	設問項目
	(一般名処方の件数が増えた場合) 一般名処方が増えた理由
	(一般名処方の件数が変わらない、もしくは減った場合) 一般名処方が増えない理由
	(一般名処方の処方箋の発行がない場合) 一般名処方による処方箋を発行していない理由
	医薬品の供給状況が不安定であると感じるか
	(医薬品の供給状況が不安定であると感じる場合) 不安定な供給状況によって生じている影響
	後発医薬品の使用を進めるために必要な対応
	後発医薬品の使用を進めるために最も必要な対応
	後発医薬品の使用促進のために効果的な取組に関する意見
3. バイオ後続品の使用に関する考えについて	バイオ医薬品(先行バイオ医薬品・バイオ後続品)の処方有無
	(バイオ医薬品の処方がある場合) バイオ医薬品の院内処方(入院または院内の外来)の有無
	(バイオ医薬品の処方がある場合) バイオ医薬品の院外処方の有無
	施設におけるバイオ後続品の使用に関する考え方
	(バイオ後続品を積極的に使用する場合) バイオ後続品を積極的に使用する理由
	(バイオ後続品を積極的に使用する場合) 先行バイオ医薬品からバイオ後続品への変更を考慮する場合の理由
	(バイオ後続品を積極的に使用していない場合) バイオ後続品を積極的に使用していない理由
	バイオ後続品の使用を進めるために必要な対応
	(バイオ医薬品の処方がある場合) バイオ後続品の院内処方(入院または院内の外来)の有無
	(バイオ医薬品の処方がある場合) バイオ後続品の院外処方の有無
	バイオ後続品使用体制加算が新設されたことの認知
	(バイオ後続品使用体制加算が新設されたことを認知している場合) バイオ後続品使用体制加算の算定有無
	(バイオ後続品使用体制加算を算定している場合) バイオ後続品使用体制加算の新設によるバイオ後続品の使用件数の変化
	(バイオ後続品の院外処方がある場合) バイオ後続品の院外処方の際の、処方箋への表記方法
	(バイオ後続品の院外処方がある場合) バイオ後続品を院外処方するにあたって薬局・薬剤師に望むこと
	(バイオ後続品の院外処方がない場合) バイオ後続品の院外処方をしていない理由
4. 長期収載品(後発医薬品のある先発医薬品)の選定療養について	選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋の発行経験有無
	(長期収載品の処方箋の発行経験がある場合) 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋を発行した理由
	患者が選定療養の対象となりうる長期収載品の処方等又は調剤を希望した理由
	「特別の料金」による影響や課題

(6) 患者調査（郵送調査）・(7) 患者調査（インターネット調査）

設問種類	設問項目
0. 調査票の記入者について	記入者と患者の関係
1. 患者本人について	性別
	年代
	居住地
	公的医療保険の種類
	医療費の自己負担額の有無
	かかりつけ医の有無
	かかりつけ薬剤師の有無
	自己注射の有無
2. ジェネリック医薬品の使用に関する経験などについて	ジェネリック医薬品に対する認知度
	ジェネリック医薬品の使用経験の有無
	ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無
	ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無
	ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験の有無
	今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬の有無
	(今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬がある場合) 先発医薬品からジェネリック医薬品に変更したきっかけ
	今までにジェネリック医薬品から先発医薬品や他のジェネリック医薬品に変更した薬の有無
3. ジェネリック医薬品のある先発医薬品の使用に関する考えについて	「特別の料金」の認知
	「特別の料金」を支払った経験の有無
	(「特別の料金」を支払った経験がある場合) 支払った金額
	先発医薬品(長期収載品)の処方希望した理由
	先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えようと思う特別の料金の程度
	(特別の料金を支払った経験がない場合) 特別の料金を支払っていない理由
4. ジェネリック医薬品の使用に関する考えや、使用促進の取組について	ジェネリック医薬品使用に関する考えに最も近いもの
	ジェネリック医薬品を使用する上で重要なこと
	ジェネリック医薬品を使用する上で最も重要なこと
5. バイオ医薬品の使用に関する考えや、使用促進の取組について	関連した疾患の治療のための通院有無
	(関連した疾患の治療のために通院している場合) 通院している疾患名
	「バイオ後続品(バイオシミラー)」の認知度
	(「バイオ後続品(バイオシミラー)」を認知している場合) 「バイオ後続品(バイオシミラー)」使用経験の有無
	(「バイオ後続品(バイオシミラー)」を認知している場合) 「バイオ後続品(バイオシミラー)」使用の意向
	(「バイオ後続品(バイオシミラー)」を使用したくない場合) 「バイオ後続品(バイオシミラー)」をできれば使用したくないと思う理由
	バイオ後続品(バイオシミラー)を使用してもよいと思う自己負担額上の差額

5. 調査検討委員会

本調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計・分析、報告書案等の検討を行うため、以下のとおり、調査検討委員会を設置・開催した。

(1) 委員等

【委員】（○は委員長、五十音順、敬称略）

小野沢 真一 公益社団法人日本歯科医師会 理事

藤原 慶正 公益社団法人日本医師会 常任理事

○本田 文子 一橋大学大学院経済学研究科教授

村杉 紀明 公益社団法人日本薬剤師会 常務理事

渡邊 伸一 帝京平成大学薬学部教授

【オブザーバー】（敬称略）

永瀬 伸子 大妻女子大学データサイエンス学部教授

※所属は報告書取りまとめ時のもの

(2) 開催概要

第1回：令和7年5月15日（木） 17:00～19:00（対面/オンライン併用）

【議事】調査概要・調査票・分析方針案及びとりまとめイメージ案に関する議論

第2回：令和7年10月15日（水） 15:00～17:00（対面/オンライン併用）

【議事】調査結果（速報）及びとりまとめの方向性に関する議論

II. 調査の結果

1. 回収結果

(1) 保険薬局調査の有効回答数(施設数)は690件、有効回答率は46.0%、(2) 病院調査の有効回答数(施設数)は223件、有効回答率は22.3%、(3) 一般診療所調査の有効回答数(施設数)は385件、有効回答率は25.7%、(4) 歯科診療所調査の有効回答数(施設数)は627件、有効回答率は41.8%、(5) 医師調査の有効回答数(医師数)は307件、(6) 患者調査(郵送調査)の有効回答数823件、(7) 患者調査(インターネット調査)の有効回答数は5,000件であった。

図表 1-1 回収状況

	発送数	有効回答数	有効回答率
(1) 保険薬局調査	1,500 件	690 件	46.0%
(2) 病院調査	1,000 件	223 件	22.3%
(3) 一般診療所調査	1,500 件	385 件	25.7%
(4) 歯科診療所調査	1,500 件	627 件	41.8%
(5) 医師調査	—	307 件	—
(6) 患者調査(郵送調査)	—	823 件	—
(7) 患者調査(インターネット調査)	—	5,000 件	—

※医師調査、患者調査(郵送調査)については、病院や薬局から何部配布されたかが正確に把握できない方法で調査を行っていることから、発送数と有効回答率の表記を行っていない。また、患者調査(インターネット調査)については、回答数が5,000件になるまで回収を続けるという他との調査とは異なる方式で調査を行っていることから、発送数、有効回答率の表記を行っていない。

なお、「2. 調査対象」の「(参考) 調査対象の母集団」(P4)に記載のとおり、本調査は病院や診療所などを悉皆で調査したり、母集団比率に応じて比例配分したものではなく、特定の条件に沿って抽出して調査したものである。本報告書における調査結果は、あくまで回答が得られた施設における状況である点に十分留意する必要がある。

また本調査の回答率は、病院調査で22.3%、一般診療所調査で25.7%と低水準である。回答率の低さにより、結果には回答していない層の意見が反映されていない可能性があり、統計的な信頼性には限界がある。そのため、結果の解釈には十分な注意が必要である。

2. 保険薬局調査

【調査対象等】

調査対象：全国の保険薬局の中から無作為抽出した保険薬局を調査対象とした。調査客体は1,500施設とした。

回 答 数：690施設（回答率：46.0%）

回 答 者：開設者・管理者

※ クロス集計表に記載されている「全体」はその設問に回答したすべての人数を示している。ただし、クロス集計に使用している設問に未回答の場合、その人数はクロス集計の対象外となる。そのため、「全体」とクロス集計軸の合計数は一致しない場合がある。

※ 単純集計・クロス集計の各図に記載された「回答数（件）」の数値は実際の全回答者数、同じ列のそれ以外の項目の数値は全回答者数に対する設問の選択肢の回答者の割合（％）をそれぞれ示し、オレンジのバーは回答者の割合の大きさを視覚的に表している。

1) 回答者（保険薬局）について

（1）開設者（調査票設問1. ②）

回答があった薬局の開設者は、「法人」が88.4%であった。

図表 2-1 開設者

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	689	610
法人	88.4	84.6
個人	10.2	12.0
その他	1.0	0.8
無回答	0.4	2.6

（2）薬局の所在（調査票設問1. ③）

薬局の所在は、「その他」（特別区、政令指定都市、中核市以外）が44.1%で最も多かった。なお、「その他」と回答した薬局について、所在地を市町村単位で集計したところ、8割以上が「市」であり、残りが「町村」であった。

図表 2-2 薬局の所在

	割合
回答数（件）	689
特別区	6.4
政令指定都市	27.0
中核市	18.4
その他	44.1
無回答	4.1

(3) 処方箋の応需状況（薬局立地）（調査票設問1. ⑥）

処方箋の応需状況は、「様々な保険医療機関からの処方箋を応需している薬局」が48.2%で最も多かった。

図表 2-3 処方箋の応需状況

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	689	610
様々な保険医療機関からの処方箋を応需している薬局	 48.2	 42.0
主に近隣にある特定の病院の処方箋を応需している薬局	 18.9	 22.1
主に不動産賃貸借関係のある特定の病院の処方箋を応需している薬局	 0.9	 0.3
主に近隣にある特定の診療所の処方箋を応需している薬局	 26.9	 30.0
主に不動産賃貸借関係のある特定の診療所の処方箋を応需している薬局	 1.0	 1.6
主に複数の近接する特定の保険医療機関（いわゆる医療モールやビル診療所など）の処方箋を応需している薬局	 2.8	 2.5
その他	 0.3	 0.2
無回答	 1.2	 1.3

(4) 応需医療機関数（調査票設問1. ⑦）

令和7年6月1か月間に処方箋を応需した医療機関数について、「80機関以上」が19.9%で最も多かった。

図表 2-4 応需医療機関数

	割合
回答数（件）	689
1～9機関	 5.5
10～19機関	 10.9
20～29機関	 10.0
30～39機関	 12.9
40～49機関	 7.5
50～59機関	 6.5
60～69機関	 6.0
70～79機関	 5.5
80機関以上	 19.9
無回答	 15.2

回答数（件）	584
平均値	62.8
標準偏差	62.7
中央値	43

※本表の「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「機関数」を単位としている。

(5) 処方箋の集中率が高い診療科（調査票設問1. ⑧）

処方箋の集中率が高い診療科は、「内科」が91.7%で最も多かったほか、次いで「整形外科」が43.4%であった。

図表 2-5 処方箋の集中率が高い診療科（上位3つ）

	割合
回答数（件）	689
内科	91.7
外科	15.4
精神科	16.8
小児科	14.7
皮膚科	20.5
泌尿器科	7.8
産婦人科・産科	3.9
眼科	20.8
耳鼻咽喉科	20.5
放射線科	0.1
脳神経外科	3.9
整形外科	43.4
麻酔科	0.4
救急科	0.0
歯科・歯科口腔外科	7.3
リハビリテーション科	0.4
その他	2.6
無回答	0.6

(6) 調剤基本料（調査票設問1. ⑩）

調剤基本料は、「調剤基本料1」が64.9%、「調剤基本料3ハ」が17.6%、「調剤基本料3ロ」が6.2%であった。

図表 2-6 調剤基本料

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	689	610
調剤基本料1	64.9	63.8
調剤基本料2	4.1	4.9
調剤基本料3イ	5.5	4.4
調剤基本料3ロ	6.2	5.9
調剤基本料3ハ	17.6	17.5
特別調剤基本料A	0.7	1.1
特別調剤基本料B	0.0	0.0
無回答	1.0	2.3

(7) 後発医薬品調剤体制加算（調査票設問 1. ⑮）

後発医薬品調剤体制加算の届出状況は、薬局の所在に関わらず、「後発医薬品調剤体制加算 3」が 67.9%と最も多かった。NDB データ（令和 6 年 11 月診療分）※では、「後発医薬品調剤体制加算 3」の届出件数は全体の中で最多となっているが、その割合は 5 割程度であり、調査対象薬局において加算 3 の届出が特に進んでいる実態が示唆された。ただし、この違いは、調査対象の地域構成や薬局の特性による影響も考えられるため、留意が必要である。

※8.1. 「後発医薬品調剤体制加算等の算定薬局数」（P100）参照

図表 2-7 後発医薬品調剤体制加算
（薬局所在別）

	全体	特別区	政令指定都市	中核市	その他
回答数（件）	689	44	186	127	304
後発医薬品調剤体制加算 1	6.1	13.6	4.8	7.1	5.3
後発医薬品調剤体制加算 2	18.7	29.5	22.0	7.9	19.7
後発医薬品調剤体制加算 3	67.9	50.0	64.0	78.0	69.4
届出（算定）なし	6.0	6.8	7.0	7.1	4.3
無回答	1.3	0.0	2.2	0.0	1.3

(8) 薬局の認定等の状況（調査票設問 1. ⑲）

薬局の認定等の状況は、「地域連携薬局」が 16.0%、「該当なし」が 63.3%であった。

図表 2-8 薬局の認定等の状況（複数回答）

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	689	610
地域連携薬局	16.0	15.2
専門医療機関連携薬局	0.4	0.3
健康サポート薬局（健康増進支援薬局）	8.9	6.7
該当なし	63.3	62.6
無回答	15.4	18.4

2) 後発医薬品に係る最近の対応状況について

(1) 現時点での後発医薬品の供給体制についての考え (調査票設問2. ①)

現時点での後発医薬品の供給体制についての考えについてみると、「支障を来たしている」が77.9%で最も多かった。

図表 2-9 現時点での後発医薬品の供給体制についての考え

	割合
回答数 (件)	689
支障を来たしている	77.9
影響はあるが大きな支障は無い	21.3
支障は無い	0.7
無回答	0.0

(2) 1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化 (調査票設問2. ②)

1年前 (令和6年7月1日) と比較した後発医薬品の供給体制の変化についてみると、「変わらない」が59.1%で最も多かった。

図表 2-10 1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化

	割合
回答数 (件)	689
改善した	15.5
変わらない	59.1
悪化した	24.2
無回答	1.2

(3) 現在の医薬品の調達状況（調査票設問2. ③）

現在（令和7年7月1日時点）の医薬品の調達状況についてみると、「卸に医薬品の新規の注文を受けてもらえない（実績のある注文のみ）」が全体では90.1%で最も多かった。

図表 2-11 現在の医薬品の調達状況（複数回答）
（調剤基本料別）

	今回調査								参考:令和6年度調査							
	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数(件)	689	447	28	38	43	121	5	0	610	389	30	27	36	107	7	0
医薬品の発注から納品までに時間がかかる	66.9	70.2	67.9	65.8	55.8	57.9	40.0	0.0	85.6	86.4	96.7	85.2	80.6	82.2	71.4	0.0
医薬品の発注作業の回数が増えた	43.5	43.2	50.0	34.2	39.5	47.9	20.0	0.0	58.5	56.6	60.0	40.7	55.6	70.1	42.9	0.0
卸に医薬品の新規の注文を受けてもらえない(実績のある注文のみ)	90.1	89.0	92.9	92.1	81.4	95.9	80.0	0.0	93.0	93.3	96.7	88.9	86.1	94.4	85.7	0.0
卸の医薬品在庫がないため注文を受けてもらえない	75.5	72.0	82.1	57.9	86.0	86.8	80.0	0.0	81.3	79.9	83.3	85.2	75.0	87.9	71.4	0.0
卸からの医薬品の注文の取り消しが頻発している	49.5	46.8	46.4	39.5	58.1	59.5	40.0	0.0	64.1	60.9	63.3	70.4	69.4	71.0	28.6	0.0
処方箋が必要量準備できず、不足医薬品を後日患者に届ける業務が頻発している	60.2	57.3	57.1	63.2	58.1	70.2	80.0	0.0	65.2	61.7	70.0	63.0	86.1	69.2	42.9	0.0
処方箋が必要量準備できず、不足医薬品を近隣の薬局間で融通する業務が頻発している	52.5	46.3	57.1	44.7	58.1	72.7	60.0	0.0	59.8	53.2	53.3	74.1	69.4	78.5	28.6	0.0
これまでの取引実績にもかかわらず、限定出荷となった医薬品が入荷しない	80.3	78.7	92.9	84.2	81.4	80.2	100.0	0.0								
限定出荷等が解除された医薬品がある一方で、別の医薬品では新たに限定出荷等が発生している	82.1	80.5	92.9	73.7	88.4	85.1	80.0	0.0								
特に困難な状況はない	0.6	0.7	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	1.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「調剤基本料2」「特別調剤基本料A」「特別調剤基本料B」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

図表 2-12 現在の医薬品の調達状況（複数回答）
（開設者別）

	全体	法人	個人	その他
回答数(件)	689	609	70	7
医薬品の発注から納品までに時間がかかる	66.9	69.0	51.4	42.9
医薬品の発注作業の回数が増えた	43.5	44.0	38.6	57.1
卸に医薬品の新規の注文を受けてもらえない(実績のある注文のみ)	90.1	91.5	81.4	71.4
卸の医薬品在庫がないため注文を受けてもらえない	75.5	76.5	67.1	71.4
卸からの医薬品の注文の取り消しが頻発している	49.5	50.1	45.7	42.9
処方箋が必要量準備できず、不足医薬品を後日患者に届ける業務が頻発している	60.2	61.1	50.0	71.4
処方箋が必要量準備できず、不足医薬品を近隣の薬局間で融通する業務が頻発している	52.5	53.9	40.0	57.1
これまでの取引実績にもかかわらず、限定出荷となった医薬品が入荷しない	80.3	81.1	75.7	71.4
限定出荷等が解除された医薬品がある一方で、別の医薬品では新たに限定出荷等が発生している	82.1	83.3	77.1	42.9
特に困難な状況はない	0.6	0.7	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0

※「その他」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

図表 2-13 現在の医薬品の調達状況（複数回答）
（グループ店舗数別）

	全体	1店舗	2～5店舗	6～19店舗	20～299店舗	300店舗以上
回答数(件)	689	154	130	98	116	150
医薬品の発注から納品までに時間がかかる	66.9	72.1	72.3	66.3	69.0	57.3
医薬品の発注作業の回数が増えた	43.5	43.5	45.4	40.8	43.1	48.0
卸に医薬品の新規の注文を受けてもらえない(実績のある注文のみ)	90.1	87.0	88.5	92.5	93.1	94.0
卸の医薬品在庫がないため注文を受けてもらえない	75.5	72.7	72.3	68.4	74.1	86.7
卸からの医薬品の注文の取り消しが頻発している	49.5	45.5	45.4	49.0	50.0	60.0
処方箋が必要量準備できず、不足医薬品を後日患者に届ける業務が頻発している	60.2	61.0	50.8	44.9	69.0	71.3
処方箋が必要量準備できず、不足医薬品を近隣の薬局間で融通する業務が頻発している	52.5	42.2	49.2	42.9	57.8	72.7
これまでの取引実績にもかかわらず、限定出荷となった医薬品が入荷しない	80.3	79.9	83.1	74.5	81.0	82.7
限定出荷等が解除された医薬品がある一方で、別の医薬品では新たに限定出荷等が発生している	82.1	83.8	76.9	84.7	81.0	86.7
特に困難な状況はない	0.6	0.6	0.0	1.0	0.0	0.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(4) 供給不安定の対策のために連携している薬局の種類 (調査票設問2. ④-1)

供給不安定への対策として「地域の薬局間で医薬品の備蓄状況の共有や医薬品の融通を行った」と回答した薬局について、応需診療科別では、外科からの処方箋の集中率が高い薬局においては「同一法人間での連携」よりも「近隣薬局との連携」の割合が多かった。またグループ店舗数別においては、単独店舗では「近隣薬局との連携」が89.1%と最も多かった。一方で複数店舗では、店舗数が多いほど「同一法人間での連携」が重要される傾向がみられた。

図表 2-14 供給不安定の対策のために連携している薬局の種類 (複数回答)
(応需診療科別)

	全体	内科	外科	精神科	小児科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科・産科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	脳神経外科	整形外科	麻酔科	救急科	歯科・歯科口腔外科	リハビリテーション科	その他
回答数(件)	350	327	56	60	49	73	31	15	76	67	0	11	161	0	0	23	1	7
同一法人間での連携	72.0	72.8	57.1	71.7	79.6	69.9	83.9	86.7	68.4	73.1	0.0	81.8	72.7	0.0	0.0	57.1	0.0	57.1
近隣薬局との連携	67.7	66.7	73.2	58.3	71.4	67.1	58.1	86.7	72.4	64.2	0.0	45.5	65.2	0.0	0.0	71.4	100.0	100.0
地域薬剤師会・都道府県薬剤師会による薬局間の連携	20.3	19.6	26.8	23.3	22.4	13.7	12.9	20.0	19.7	11.9	0.0	9.1	21.7	0.0	0.0	23.8	0.0	28.6
その他	1.1	1.2	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	3.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0
特に困難な状況はない	0.6	0.6	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.6	0.6	0.0	1.7	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「産婦人科・産科」「放射線科」「脳神経外科」「麻酔科」「救急科」「歯科・歯科口腔外科」「リハビリテーション科」「その他」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-15 供給不安定の対策のために連携している薬局の種類 (複数回答)
(応需医療機関数別)

	全体	1～29機関	30～59機関	60機関以上
回答数(件)	350	69	99	128
同一法人間での連携	72.0	65.2	76.8	75.8
近隣薬局との連携	67.7	63.8	67.7	68.8
地域薬剤師会・都道府県薬剤師会による薬局間の連携	20.3	23.2	22.2	18.0
その他	1.1	0.0	2.0	1.6
実施していない	0.6	0.0	0.0	0.8
無回答	0.6	0.0	0.0	0.8

図表 2-16 供給不安定の対策のために連携している薬局の種類 (複数回答)
(グループ店舗数別)

	全体	1店舗	2～5店舗	6～19店舗	20～299店舗	300店舗以上
回答数(件)	350	64	68	51	64	84
同一法人間での連携	72.0	0.0	88.2	90.2	92.2	92.9
近隣薬局との連携	67.7	89.1	67.6	62.7	65.6	58.3
地域薬剤師会・都道府県薬剤師会による薬局間の連携	20.3	45.3	30.9	15.7	14.1	3.6
その他	1.1	3.1	1.5	2.0	0.0	0.0
実施していない	0.6	0.0	1.5	2.0	0.0	0.0
無回答	0.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0

(5) 薬局間での具体的な連携内容（調査票設問2. ④-2）

供給不安定への対策として「地域の薬局間で医薬品の備蓄状況の共有や医薬品の融通を行った」と回答した薬局について、薬局間での具体的な連携内容をみると、「薬剤師会等が作成しているリストやシステムを通じた情報提供及び医薬品の融通や分譲」は、全体では29.7%であった。

図表 2-17 薬局間での具体的な連携内容（複数回答）
（開設者別）

	全体	法人	個人	その他
回答数（件）	350	318	25	6
地域の薬局に対して、自薬局の医薬品の在庫状況を薬剤師会等が作成しているリストやシステムを通じて情報提供を行うとともに、必要に応じて、同一グループではない薬局間において医薬品の融通や分譲を行っている	29.7	29.6	36.0	16.7
自薬局の医薬品の在庫状況に関する情報提供について、他の薬局からの問い合わせなどがあった際には、融通・分譲可能な医薬品やその量などについて情報提供し、必要な対応を行っている	85.7	85.2	92.0	83.3
現在はシステムを使用していないが、今後導入を予定している	2.0	2.2	0.0	0.0
その他	3.1	3.1	4.0	0.0
無回答	4.9	4.7	4.0	16.7

※「個人」「その他」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-18 薬局間での具体的な連携内容（複数回答）
（薬局所在別）

	全体	特別区	政令指定都市	中核市	その他
回答数（件）	350	18	89	62	165
地域の薬局に対して、自薬局の医薬品の在庫状況を薬剤師会等が作成しているリストやシステムを通じて情報提供を行うとともに、必要に応じて、同一グループではない薬局間において医薬品の融通や分譲を行っている	29.7	22.2	27.0	22.6	34.5
自薬局の医薬品の在庫状況に関する情報提供について、他の薬局からの問い合わせなどがあった際には、融通・分譲可能な医薬品やその量などについて情報提供し、必要な対応を行っている	85.7	66.7	87.6	83.9	86.7
現在はシステムを使用していないが、今後導入を予定している	2.0	0.0	4.5	1.6	1.2
その他	3.1	11.1	2.2	4.8	2.4
無回答	4.9	16.7	4.5	6.5	3.6

※「特別区」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

(6) 医薬品の融通（調査票設問2. ④－4）

供給不安定への対策として「地域の薬局間で医薬品の備蓄状況の共有や医薬品の融通を行った」と回答した薬局について、医薬品の融通有無をみると、「融通している」は全体で89.1%であった。また医薬品を融通している平均回数（年）は、148.2回であった。

図表 2-19 医薬品の融通

	割合
回答数（件）	350
融通している	89.1
融通していない	6.9
無回答	4.0

図表 2-20 （融通している場合）
医薬品を融通している頻度（年間）（回）

回答数（件）	265
平均値	148.2
標準偏差	528.4
中央値	50

図表 2-21 医薬品の融通
（開設者別）

	全体	法人	個人	その他
回答数（件）	350	318	25	6
融通している	89.1	88.7	96.0	83.3
融通していない	6.9	6.9	4.0	16.7
無回答	4.0	4.4	0.0	0.0

※「個人」「その他」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

図表 2-22 医薬品の融通
（グループ店舗数別）

	全体	1店舗	2～5店舗	6～19店舗	20～299店舗	300店舗以上
回答数（件）	350	64	68	51	64	84
融通している	89.1	93.8	89.7	88.2	87.5	90.5
融通していない	6.9	3.1	5.9	11.8	6.3	6.0
無回答	4.0	3.1	4.4	0.0	6.3	3.6

(7) 特定薬剤管理指導加算3の算定件数（長期収載品の説明実施件数）（調査票設問2. ⑥－1）

特定薬剤管理指導加算3の算定について、長期収載品の選定療養に関する説明を実施した件数（令和7年6月実績）は、全体で平均9.8件であった。

図表 2-23 特定薬剤管理指導加算3の算定件数（長期収載品の説明実施件数）
（調剤基本料別）

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数（件）	634	409	26	37	41	111	5	0
平均値	9.8	9.8	15.2	15.5	8.6	7.4	3	0
標準偏差	32.7	37	30.1	30.2	13.9	20.8	3.8	0
中央値	1	0	0	4	3	1	1	0

※「調剤基本料2」「特別調剤基本料A」「特別調剤基本料B」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

※本表の「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「長期収載品の説明実施件数」を単位としている。

(8) 後発医薬品の調剤割合が減った理由 (調査票設問 2. ⑧)

供給不安報告制度の開始前 (令和 2 年 12 月以前) と比較し、「後発医薬品の調剤割合がかなり減った」または「後発医薬品の調剤割合がやや減った」と回答した薬局について、後発医薬品の調剤割合が減った理由をみると、「後発医薬品の在庫が無い、あるいは入庫 (入手) できないのでやむをえず先発医薬品を調剤した」が全体では 97.0%であった。

図表 2-24 後発医薬品の調剤割合が減った理由
(調剤基本料別)

	全体	調剤基本料 1	調剤基本料 2	調剤基本料 3 イ	調剤基本料 3 ロ	調剤基本料 3 ハ	特別調剤基本料 A	特別調剤基本料 B
回答数 (件)	99	65	3	5	4	21	0	0
後発医薬品を調剤できる処方箋が減った	2.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
患者 (家族含む) が先発医薬品を希望した	1.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
後発医薬品の在庫が無い、あるいは入庫 (入手) できないのでやむをえず先発医薬品を調剤した	97.0	95.4	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「調剤基本料 1」以外の回答数は 30 件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-25 後発医薬品の調剤割合が減った理由
(後発医薬品調剤体制加算別)

	全体	後発医薬品 調剤体制加算 1	後発医薬品 調剤体制加算 2	後発医薬品 調剤体制加算 3	届出 (算定) なし
回答数 (件)	99	3	17	69	9
後発医薬品を調剤できる処方箋が減った	2.0	0.0	0.0	2.9	0.0
患者 (家族含む) が先発医薬品を希望した	1.0	0.0	5.9	0.0	0.0
後発医薬品の在庫が無い、あるいは入庫 (入手) できないのでやむをえず先発医薬品を調剤した	97.0	100.0	94.1	97.1	100.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「加算 3」以外の回答数は 30 件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

3) 後発医薬品の使用促進について

(1) 特別の料金を支払っても長期収載品の調剤を希望する患者の有無 (調査票設問 3. ①)

特別の料金を支払っても長期収載品の調剤を希望する患者の有無は、「よくいる」「時々いる」「まれにいる」が合計で 98.3%であった。

図表 2-26 特別の料金を支払っても長期収載品の調剤を希望する患者の有無

	割合
回答数 (件)	689
よくいる	7.5
時々いる	60.2
まれにいる	30.6
いない	1.5
無回答	0.1

(2) 長期収載品の選定療養による影響や課題（調査票設問3. ③）

長期収載品の選定療養による影響や課題について、「患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい」が70.1%と最も多く、次いで「薬価改定に伴い、対象品目が変わってしまう」「患者の制度に対する理解が不十分である」が多かった。

図表 2-27 長期収載品の選定療養による影響や課題（複数回答）

	割合
回答数（件）	689
患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい	70.1
患者の制度に対する理解が不十分である	59.8
薬価改定に伴い、これまで選定療養の対象であった長期収載品が対象外となった際に、患者への説明等に苦慮したことがある	46.2
薬価改定に伴い、対象品目が変わってしまう	64.0
医療関係者への制度に関する周知が不十分である	21.9
制度そのものがわかりづらい	37.7
特別の料金の計算がわかりづらい	43.3
レセコンなどシステム改修が不十分である	3.5
後発医薬品を選択する患者が増えた	57.0
患者からのクレーム対応に苦慮したことがある	30.2
その他	4.1
わからない	0.6
無回答	0.7

4) 一般名処方状況等について

(1) 1年前と比較した一般名処方の件数の変化（調査票設問4. ①）

1年前（令和6年7月1日）と比較した一般名処方の件数についてみると、件数が「増えた」が39.6%であった。

図表 2-28 1年前と比較した一般名処方の件数の変化

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	689	610
増えた	39.6	56.2
変わらない	56.6	40.7
減った	2.9	0.7
無回答	0.9	2.5

5) 薬局におけるバイオ後続品の備蓄状況及び対応状況について

(1) バイオ後続品についての取扱い(調査票設問5. ①)

バイオ後続品についての取扱いについてみると、取扱いが「ある」は全体で64.9%で、調剤基本料別では「調剤基本料3ハ」が81.8%で最も多かった。

図表 2-29 バイオ後続品についての取扱い
(調剤基本料別)

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数(件)	689	447	28	38	43	121	5	0
ある	64.9	61.1	78.6	55.3	62.8	81.8	60.0	0.0
ない	33.2	37.1	17.9	44.7	34.9	16.5	40.0	0.0
無回答	1.9	1.8	3.6	0.0	2.3	1.7	0.0	0.0

※「調剤基本料2」「特別調剤基本料A」「特別調剤基本料B」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-30 バイオ後続品についての取扱い
(薬局立地※別)

	全体	面分業	病院前門前	病院敷地内	診療所前門前	診療所敷地内	医療モール	その他
回答数(件)	689	332	130	6	185	7	19	2
ある	64.9	72.3	66.9	50.0	49.7	71.4	63.2	50.0
ない	33.2	25.0	31.5	50.0	49.2	28.6	36.8	50.0
無回答	1.9	2.7	1.5	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0

※「面分業」「病院前門前」「診療所前門前」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

※調査票設問1. ①「処方箋の応需状況」(7区分)

(2) 備蓄している医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）（調査票設問5. ④）

バイオ後続品の取り扱いが「ある」と回答した薬局について、備蓄医薬品をみると、先行バイオ医薬品・バイオ後続品ともに「インスリン グラルギン」が全体では最も多かった。

図表 2-31 備蓄している医薬品（先行バイオ医薬品）（複数回答）
（調剤基本料別）

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数（件）	447	273	22	21	27	99	3	0
ソマトロピン	2.0	1.1	4.5	0.0	3.7	3.0	33.3	0.0
フィリグラスチム	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
インスリン グラルギン	50.3	46.2	59.1	57.1	44.4	60.6	33.3	0.0
エタネルセプト	7.6	5.1	22.7	9.5	14.8	9.1	0.0	0.0
テリパラチド	11.2	9.9	22.7	4.8	11.1	13.1	0.0	0.0
インスリン リスプロ	42.5	38.8	22.7	28.6	51.9	56.6	66.7	0.0
インスリン アスパルト	39.4	37.0	45.5	33.3	44.4	44.4	66.7	0.0
アダリムマブ	10.3	7.0	13.6	9.5	18.5	15.2	66.7	0.0
備蓄した医薬品はない	1.8	1.5	9.1	0.0	0.0	1.0	33.3	0.0
無回答	30.6	33.7	27.3	33.3	37.0	22.2	0.0	0.0

※ 「調剤基本料1」「調剤基本料3ハ」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-32 備蓄している医薬品（バイオ後続品）（複数回答）
（調剤基本料別）

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数（件）	447	273	22	21	27	99	3	0
ソマトロピン	0.9	0.4	4.5	0.0	7.4	0.0	0.0	0.0
フィリグラスチム	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
インスリン グラルギン	68.5	64.8	68.2	76.2	77.8	73.7	100.0	0.0
エタネルセプト	14.8	10.3	18.2	28.6	33.3	18.2	33.3	0.0
テリパラチド	16.3	13.9	36.4	14.3	14.8	15.2	100.0	0.0
インスリン リスプロ	30.9	26.0	36.4	28.6	44.4	38.4	66.7	0.0
インスリン アスパルト	30.2	27.5	45.5	14.3	40.7	34.3	66.7	0.0
アダリムマブ	8.9	4.0	4.5	28.6	22.2	15.2	33.3	0.0
備蓄した医薬品はない	1.1	1.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	21.0	25.6	9.1	4.8	11.1	18.2	0.0	0.0

※ 「調剤基本料1」「調剤基本料3ハ」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

(3) 備蓄品目数（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）（調査票設問5. ⑤）

備蓄品目数についてみると、「備蓄している先行バイオ医薬品」は平均2.5品目、「備蓄しているバイオ後続品」は平均2.3品目であった。

※本設問の図表にある「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「品目数」を単位としている。

図表 2-33 備蓄品目数（先行バイオ医薬品）
（調剤基本料別）

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数（件）	286	173	13	12	16	69	2	0
平均値	2.5	2.3	3.1	2.3	3.1	2.7	4	0
標準偏差	1.3	1.2	1.4	1.4	1.3	1.4	0	0
中央値	2	2	2	2	3	3	4	0

※ 「調剤基本料1」「調剤基本料3ハ」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-34 備蓄品目数（先行バイオ医薬品）
（薬局立地別）

	全体	面分業	病院前門前	病院敷地内	診療所前門前	診療所敷地内	医療モール	その他
回答数（件）	286	152	54	2	61	2	10	0
平均値	2.5	2.5	2.7	4.0	2.3	2.5	2.3	0
標準偏差	1.3	1.2	1.5	1.9	1.4	1.2	1.3	0
中央値	2	2	2	4	2	2	2	0

※「面分業」「病院前門前」「診療所前門前」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-35 備蓄品目数（先行バイオ医薬品）
（応需医療機関数別）

	全体	1～29機関	30～59機関	60機関以上
回答数(件)	286	44	79	121
平均値	2.5	2.0	2.4	2.7
標準偏差	1.3	1.1	1.1	1.4
中央値	2	2	2	3

図表 2-36 備蓄品目数（バイオ後続品）
（調剤基本料別）

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数（件）	330	191	18	20	23	75	2	0
平均値	2.3	2.1	2.6	2.1	2.7	2.5	5	0
標準偏差	1.3	1.1	1.3	1.6	1	1.4	0	0
中央値	2	2	2	1	3	2	5	0

※「調剤基本料1」「調剤基本料3ハ」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-37 備蓄品目数（バイオ後続品）
（薬局立地別）

	全体	面分業	病院前門前	病院敷地内	診療所前門前	診療所敷地内	医療モール	その他
回答数（件）	330	171	70	2	70	4	8	1
平均値	2.3	2.3	2.4	5.0	1.9	2.5	2.4	5.0
標準偏差	1.3	1.2	1.3	0.0	1.1	0.5	0.9	0.0
中央値	2	2	2	5	1.5	2.5	2	5

※「面分業」「病院前門前」「診療所前門前」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-38 備蓄品目数（バイオ後続品）
（応需医療機関数別）

	全体	1～29機関	30～59機関	60機関以上
回答数(件)	330	53	91	139
平均値	2.3	1.6	2.4	2.5
標準偏差	1.3	0.8	1.2	1.4
中央値	2	1	2	2

(4) 調剤した医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）（調査票設問5. ④）

バイオ後続品の取り扱いが「ある」と回答した薬局について、令和7年6月1か月間において調剤した医薬品をみると、先行バイオ医薬品・バイオ後続品ともに「インスリン グラルギン」が全体では最も多かった。

図表 2-39 調剤した医薬品（先行バイオ医薬品）
（調剤基本料別）

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数（件）	447	273	22	21	27	99	3	0
ソマトロピン	1.6	0.4	4.5	0.0	3.7	3.0	33.3	0.0
フィルグラスチム	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
インスリン グラルギン	40.9	36.6	63.6	47.6	40.7	47.5	0.0	0.0
エタネルセプト	6.0	4.8	13.6	9.5	3.7	8.1	0.0	0.0
テリパラチド	8.1	6.6	18.2	4.8	7.4	11.1	0.0	0.0
インスリン リスプロ	35.6	33.0	18.2	33.3	44.4	43.4	66.7	0.0
インスリン アスパルト	35.8	33.3	45.5	33.3	37.0	41.4	33.3	0.0
アダリムマブ	8.9	5.5	9.1	4.8	11.1	17.2	66.7	0.0
調剤した医薬品はない	2.7	2.6	9.1	0.0	0.0	1.0	33.3	0.0
無回答	34.9	38.1	22.7	42.9	40.7	27.3	0.0	0.0

※ 「調剤基本料1」「調剤基本料3ハ」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-40 調剤した医薬品（バイオ後続品）
（調剤基本料別）

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数（件）	447	273	22	21	27	99	3	0
ソマトロピン	0.7	0.4	4.5	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0
フィルグラスチム	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
インスリン グラルギン	60.9	57.5	59.1	76.2	59.3	66.7	100.0	0.0
エタネルセプト	11.9	9.2	22.7	28.6	22.2	10.1	33.3	0.0
テリパラチド	13.0	11.4	31.8	9.5	11.1	13.1	66.7	0.0
インスリン リスプロ	23.3	19.8	27.3	19.0	33.3	28.3	66.7	0.0
インスリン アスパルト	24.6	23.4	40.9	9.5	37.0	23.2	66.7	0.0
アダリムマブ	7.4	5.1	9.1	19.0	11.1	9.1	33.3	0.0
調剤した医薬品はない	1.8	2.2	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	27.3	30.4	18.2	9.5	25.9	26.3	0.0	0.0

※ 「調剤基本料1」「調剤基本料3ハ」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

(5) 調剤品目数（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）（調査票設問5. ⑤）

令和7年6月1か月間における調剤品目数についてみると、「調剤した先行バイオ医薬品」は平均2.3品目、「調剤したバイオ後続品」は平均2.0品目であった。

※本設問の図表にある「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「品目数」を単位としている。

図表 2-41 調剤品目数（先行バイオ医薬品）
（調剤基本料別）

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数（件）	265	158	13	11	15	65	2	0
平均値	2.3	2.1	2.5	2.5	2.7	2.4	3	0
標準偏差	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.2	1	0
中央値	2	2	2	3	3	2	3	0

※「調剤基本料1」「調剤基本料3ハ」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-42 調剤品目数（先行バイオ医薬品）
（薬局立地別）

	全体	面分業	病院前門前	病院敷地内	診療所前門前	診療所敷地内	医療モール	その他
回答数（件）	265	149	47	2	51	2	10	0
平均値	2.3	2.3	2.5	3.0	2.1	1.0	2.0	0.0
標準偏差	1.2	1.2	1.1	1.0	1.4	0.0	1.2	0.0
中央値	2	2	3	3	2	1	1.5	0

※「面分業」「病院前門前」「診療所前門前」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-43 調剤品目数（バイオ後続品）
（調剤基本料別）

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数（件）	301	175	17	19	19	68	2	0
平均値	2	1.9	2.5	1.9	2.4	2.1	5	0
標準偏差	1.1	1	1.2	1.4	1	1.1	0	0
中央値	2	2	2	1	3	2	5	0

※「調剤基本料1」「調剤基本料3ハ」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-44 調剤品目数（バイオ後続品）
（薬局立地別）

	全体	面分業	病院前門前	病院敷地内	診療所前門前	診療所敷地内	医療モール	その他
回答数（件）	301	162	61	2	60	4	7	1
平均値	2	2.0	2.1	5.0	1.8	2.3	2.0	5.0
標準偏差	1.1	1.1	1.1	0.0	1.0	0.4	0.8	0.0
中央値	2	2	2	5	1.5	2	2	5

※「面分業」「病院前門前」「診療所前門前」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

(6) 1年前と比較した備蓄品目数の増減（調査票設問5. ⑥・⑦）

バイオ後続品の取り扱いが「ある」と回答した薬局について、1年前と比較した備蓄品目数の増減をみると、先行バイオ医薬品は、「変わらない」が全体では72.5%であった。またバイオ後続品は、「変わらない」が全体では71.4%であった。

図表 2-45 1年前と比較した備蓄品目数の増減（先行バイオ医薬品）
（調剤基本料別）

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数（件）	447	273	22	21	27	99	3	0
増えた	10.3	8.4	0.0	4.8	11.1	18.2	0.0	0.0
変わらない	72.5	73.6	86.4	76.2	74.1	65.7	100.0	0.0
減った	4.9	3.7	9.1	9.5	3.7	6.1	0.0	0.0
備蓄していない	10.1	11.0	4.5	9.5	7.4	10.1	0.0	0.0
無回答	2.2	3.3	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0

※ 「調剤基本料1」「調剤基本料3ハ」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-46 1年前と比較した備蓄品目数の増減（バイオ後続品）
（調剤基本料別）

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数（件）	447	273	22	21	27	99	3	0
増えた	19.5	16.5	13.6	28.6	18.5	27.3	33.3	0.0
変わらない	71.4	72.2	81.8	71.4	74.1	65.7	66.7	0.0
減った	1.6	2.2	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
備蓄していない	5.1	5.5	4.5	0.0	3.7	6.1	0.0	0.0
無回答	2.5	3.7	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0

※ 「調剤基本料1」「調剤基本料3ハ」以外の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

(7) バイオ後続品の使用促進に関する説明について最も近いもの（調査票設問5. ⑧）

薬局で実施しているバイオ後続品の使用促進に関する説明についてみると、「バイオ後続品の説明や調剤に積極的には取り組んでいない」が全体では56.0%で最も多かった。

図表 2-47 バイオ後続品の使用促進に関する説明について最も近いもの
（調剤基本料別）

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数（件）	689	447	28	38	43	121	5	0
全般的に、積極的にバイオ後続品の説明や情報提供を行っている	6.2	5.4	0.0	2.6	7.0	10.7	40.0	0.0
患者によって、バイオ後続品の説明や情報提供を行っている	13.1	11.0	14.3	7.9	20.9	19.0	20.0	0.0
新規でバイオ医薬品が処方された患者に、バイオ後続品の説明や情報提供を行っている	19.9	20.8	25.0	18.4	18.6	17.4	0.0	0.0
バイオ後続品の説明や情報提供に積極的には取り組んでいない	56.0	57.5	53.6	65.8	51.2	50.4	40.0	0.0
無回答	4.8	5.4	7.1	5.3	2.3	2.5	0.0	0.0

※ 「調剤基本料2」「特別調剤基本料A」「特別調剤基本料B」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

6) 高額医薬品や希少疾病医薬品の備蓄・調剤状況について

(1) 薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額（調査票設問6. ①）

薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額についてみると、「薬価」は平均 10,289 円、「一日薬価」は平均 12,737 円であった。

※本設問の図表にある「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「円」を単位としている。

図表 2-48 薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額（薬価）

回答数（件）	593
平均値	10289.3
標準偏差	54261.3
中央値	1000

図表 2-49 薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額（一日薬価）

回答数（件）	555
平均値	12737.8
標準偏差	77093.9
中央値	1500

図表 2-50 薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額（薬価）
（開設者別）

	全体	法人	個人	その他
回答数(件)	593	527	57	6
平均値	10,289.3	11,139.9	1,834.2	4,166.7
標準偏差	54,261.3	57,337.0	2,836.2	3,091.2
中央値	1,000	1,000	500	4,000

図表 2-51 薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額（一日薬価）
（開設者別）

	全体	法人	個人	その他
回答数(件)	555	489	56	7
平均値	12,737.8	13,895.6	3,634.4	7,928.6
標準偏差	77,093.9	82,043.7	4,581.1	5,858.0
中央値	1,500	1,500	1,000	7,000

※「その他」の回答数は 30 件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-52 薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額（薬価）
（グループ店舗数別）

	全体	1店舗	2～5店舗	6～19店舗	20～299店舗	300店舗以上
回答数(件)	593	128	106	85	104	139
平均値	10,289.3	3,259.6	15,773.0	8,730.0	11,733.1	13,410.2
標準偏差	54,261.3	9,842.9	97,779.7	54,028.8	35,849.7	48,122.9
中央値	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000

図表 2-53 薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額（一日薬価）
（グループ店舗数別）

	全体	1店舗	2～5店舗	6～19店舗	20～299店舗	300店舗以上
回答数(件)	555	126	99	78	95	129
平均値	12,737.8	5,429.3	14,402.8	17,147.1	8,537.4	20,894.4
標準偏差	77,093.9	13,362.8	100,000.0	112,264.9	20,093.7	98,176.7
中央値	1,500	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000

図表 2-54 薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額（薬価）
（処方箋受付回数別）

	全体	500回以下	501～1000回	1001～2000回	2001回以上
回答数(件)	593	103	175	219	80
平均値	10,289.3	9,800	15,778	6,127	10,561
標準偏差	54,261.3	50,681	87,537	17,370	27,825
中央値	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

図表 2-55 薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額（一日薬価）
（処方箋受付回数別）

	全体	500回以下	501～1000回	1001～2000回	2001回以上
回答数(件)	555	98	170	198	76
平均値	12,737.8	7,785	20,130	11,762	6,552
標準偏差	77,093.9	17,635	113,846	72,279	13,824
中央値	1,500	1,350	1,500	1,000	1,300

図表 2-56 薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額（薬価）
（後発医薬品調剤体制加算別）

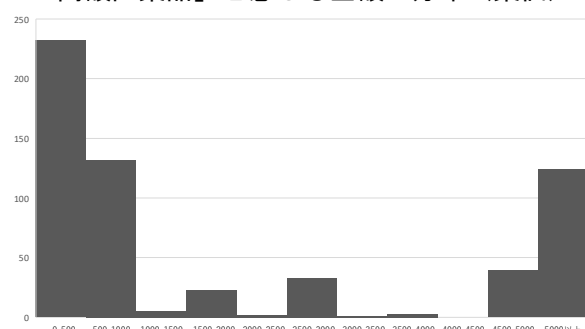
	全体	後発医薬品調剤体制加算1	後発医薬品調剤体制加算2	後発医薬品調剤体制加算3	届出(算定)なし
回答数(件)	593	38	109	409	30
平均値	10,289.3	17,576.3	5,520.1	11,052.5	9,773.3
標準偏差	54,261.3	80,898.9	14,373.3	59,144.1	35,971.2
中央値	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

図表 2-57 薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額（一日薬価）
（後発医薬品調剤体制加算別）

	全体	後発医薬品調剤体制加算1	後発医薬品調剤体制加算2	後発医薬品調剤体制加算3	届出(算定)なし
回答数(件)	555	35	105	380	28
平均値	12,737.8	6,170.0	4,367.2	16,407.8	4,839.3
標準偏差	77,093.9	16,531.1	6,285.5	92,725.4	6,630.3
中央値	1,500	1,000	2,000	1,000	2,000

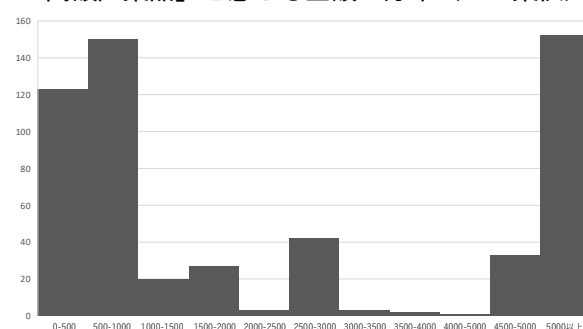
※ 図表 2-58 の「届出（算定）なし」の回答数は 30 件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-58 薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額の分布（薬価）



※本表はすべて「円」を単位としている。

図表 2-59 薬局として医薬品を提供する際に「高額医薬品」と感じる金額の分布（一日薬価）



（２）調剤用医薬品の廃棄額（全医薬品・うち後発医薬品）（調査票設問 6. ②）

調剤用医薬品の廃棄額（薬価ベース）（令和 7 年 4 月～6 月の合計値）についてみると、全医薬品は全体で平均 74,477 円、そのうち後発医薬品は全体で平均 21,979 円であった。

※本設問の図表にある「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「円」を単位としている。

図表 2-60 調剤用医薬品の廃棄額（全医薬品）
（開設者別）

	全体	法人	個人	その他
回答数（件）	546	494	44	7
平均値	74,477	75,945	64,885	36,326
標準偏差	294,296	308,116	91,434	30,699
中央値	29,000	29,000	29,500	21,687

※「その他」の回答数は 30 件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

図表 2-61 調剤用医薬品の廃棄額（全医薬品）
（グループ店舗数別）

	全体	1 店舗	2～5 店舗	6～19店舗	20～299店舗	300店舗以上
回答数（件）	546	111	97	76	103	136
平均値	74,477	71,656	63,833	67,695	68,537	93,808
標準偏差	294,296	91,335	103,714	89,532	224,373	536,799
中央値	29,000	42,000	26,000	30,000	18,000	27,500

図表 2-62 調剤用医薬品の廃棄額（全医薬品）
（処方箋受付回数別）

	全体	500回以下	501～1000回	1001～2000回	2001回以上
回答数（件）	546	94	165	197	78
平均値	74,477	50,090	48,282	68,134	174,106
標準偏差	294,296	93,491	78,734	168,964	704,603
中央値	29,000	18,587	20,000	33,000	57,956

図表 2-63 調剤用医薬品の廃棄額（うち後発医薬品）
（開設者別）

	全体	法人	個人	その他
回答数（件）	495	448	41	5
平均値	21,979	22,489	18,069	11,133
標準偏差	115,661	121,145	32,926	14,608
中央値	5,000	5,000	6,000	4,554

※「その他」の回答数は 30 件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

図表 2-64 調剤用医薬品の廃棄額（うち後発医薬品）
（グループ店舗数別）

	全体	1 店舗	2～5 店舗	6～19店舗	20～299店舗	300店舗以上
回答数（件）	495	104	90	65	89	128
平均値	21,979	17,660	15,233	19,846	33,756	24,578
標準偏差	115,661	34,844	25,478	31,884	191,026	155,486
中央値	5,000	5,500	6,548	5,552	4,000	4,000

図表 2-65 調剤用医薬品の廃棄額（うち後発医薬品）
（処方箋受付回数別）

	全体	500回以下	501～1000回	1001～2000回	2001回以上
回答数（件）	495	85	148	178	73
平均値	21,979	18,433	11,749	22,259	46,391
標準偏差	115,661	40,613	23,039	136,002	204,212
中央値	5,000	4,554	4,000	4,150	10,000

図表 2-66 調剤用医薬品の廃棄額（うち後発医薬品）
（後発医薬品調剤体制加算別）

	全体	後発医薬品調剤体制加算1	後発医薬品調剤体制加算2	後発医薬品調剤体制加算3	届出（算定）なし
回答数（件）	495	20	98	347	25
平均値	21,979	105,966	21,342	18,275	6,522
標準偏差	115,661	389,256	40,768	97,033	8,499
中央値	5,000	9,000	6,000	5,000	5,000

※「加算1」「届出（算定）なし」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

（3）廃棄を減らすために行っている工夫や取組（調査票設問6. ④）

医薬品の廃棄を減らすために行っている工夫や取組についてみると、「医薬品の使用頻度や期限を踏まえた在庫管理を強化している」が全体では66.0%で最も多かった。

図表 2-67 廃棄を減らすために行っている工夫や取組（複数回答）
（調剤基本料別）

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数(件)	689	447	28	38	43	121	5	0
同一グループ(調剤基本料のグループ)で分譲・融通を行っている	61.8	52.6	57.1	89.5	83.7	85.1	60.0	0.0
地域の同一グループ以外の薬局間で分譲・融通を行っている	30.8	35.8	32.1	26.3	23.3	16.5	0.0	0.0
医薬品の発注単位を見直している	55.7	53.5	53.6	57.9	67.4	59.5	60.0	0.0
医薬品の使用頻度や期限を踏まえた在庫管理を強化している	66.0	62.4	64.3	73.7	83.7	71.9	80.0	0.0
医療機関と連携し、処方傾向に応じた在庫調整を行っている	15.1	15.7	14.3	10.5	23.3	11.6	0.0	0.0
廃棄リスクの高い医薬品の採用を見直している	25.0	22.8	14.3	21.1	37.2	31.4	60.0	0.0
特に工夫していることはない	1.5	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3.0	4.0	3.6	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0
無回答	3.3	4.7	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0

※「調剤基本料2」「特別調剤基本料A」「特別調剤基本料B」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-68 廃棄を減らすために行っている工夫や取組（複数回答）
（グループ店舗数別）

	全体	1店舗	2～5店舗	6～19店舗	20～299店舗	300店舗以上
回答数（件）	689	154	130	98	116	150
同一グループ（調剤基本料のグループ）で分譲・融通を行っている	61.8	0.0	77.7	83.7	84.5	84.0
地域の同一グループ以外の薬局間で分譲・融通を行っている	30.8	35.1	41.5	36.7	26.7	17.3
医薬品の発注単位を見直している	55.7	51.9	61.5	50.0	51.7	65.3
医薬品の使用頻度や期限を踏まえた在庫管理を強化している	66.0	58.4	65.4	65.3	71.6	75.3
医療機関と連携し、処方傾向に応じた在庫調整を行っている	15.1	13.6	19.2	18.4	10.3	13.3
廃棄リスクの高い医薬品の採用を見直している	25.0	25.3	23.8	21.4	19.8	32.7
特に工夫していることはない	1.5	4.5	-	-	-	-
その他	3.0	5.8	4.6	3.1	0.9	0.7
無回答	3.3	9.7	3.8	4.1	1.7	1.3

(4) 希少疾病用医薬品備蓄品目数（調査票設問 6. ⑤）

希少疾病用医薬品備蓄品目数（令和 7 年 7 月 1 日または把握可能な直近月の初日時点）についてみると、平均 9.4 品目であった。

※本設問の図表にある「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「品目数」を単位としている。

図表 2-69 希少疾病用医薬品備蓄品目数（調剤基本料別）

	全体	調剤基本料 1	調剤基本料 2	調剤基本料 3 イ	調剤基本料 3 ロ	調剤基本料 3 ハ	特別調剤基本料 A	特別調剤基本料 B
回答数（件）	594	383	25	34	38	105	4	0
平均値	9.4	11.7	3.5	5.4	6	5.3	12	0
標準偏差	85.5	106.2	4.5	9.8	13	7.5	15.6	0
中央値	0	0	1	0.5	0	2	5	0

※「調剤基本料 2」「特別調剤基本料 A」「特別調剤基本料 B」の回答数は 30 件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

図表 2-70 希少疾病用医薬品備蓄品目数（薬局立地別）

	全体	面分業	病院前門前	病院敷地内	診療所前門	診療所敷地	医療モール	その他
回答数（件）	594	284	114	5	162	5	17	0
平均値	9.4	10.9	16	9.6	3	2.4	6.4	0
標準偏差	85.5	100.8	111.8	14.7	10.3	3.5	7.2	0
中央値	0	1	0.5	0	0	0	6	0

※「病院敷地内」「診療所敷地」「医療モール」「その他」の回答数は 30 件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

7) 流通改善ガイドラインの遵守状況について

(1) 流通改善ガイドラインの認知（調査票設問 7. ①）

流通改善ガイドラインの認知についてみると、「知っている」より「知らない」と回答した薬局の方が上回っていた。

図表 2-71 流通改善ガイドラインの認知

	割合
回答数（件）	689
知っている	46.7
知らない	50.1
無回答	3.2

(2) 卸売業者との単品単価契約の状況 (調査票設問7. ②)

卸売業者との単品単価契約の状況についてみると、「卸売業者と原則として全ての品目について単品単価交渉を行い、単品ごとの価格を明示した覚書を利用する等により契約を締結している」が全体では45.7%で最も多かった。

図表 2-72 卸売業者との単品単価契約の状況 (複数回答)
(調剤基本料別)

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数(件)	689	447	28	38	43	121	5	0
卸売業者と原則として全ての品目について単品単価交渉を行い、単品ごとの価格を明示した覚書を利用する等により契約を締結している	45.7	51.5	42.9	42.1	37.2	28.9	60.0	0.0
卸売業者と価格交渉の段階から個々の医薬品の価値を踏まえた単品単価交渉を行い、前年度より単品単価交渉の範囲を拡大している	17.3	14.5	14.3	18.4	11.6	30.6	0.0	0.0
基礎的医薬品、安定確保医薬品(カテゴリーA)、不採算品再算定品、血液製剤、麻薬、覚醒剤及び覚醒剤原料については、価格交渉の段階から別枠とし、卸売業者と個々の医薬品の価値を踏まえた単品単価交渉を行っている	15.7	12.3	14.3	18.4	16.3	27.3	20.0	0.0
新薬創出等加算品等についても、引き続き単品単価交渉を行っている	13.9	12.3	10.7	5.3	11.6	24.0	20.0	0.0
いずれもしていない	30.6	28.9	42.9	21.1	39.5	35.5	20.0	0.0
無回答	13.8	13.4	3.6	23.7	11.6	13.2	20.0	0.0

※ 「特別調剤基本料A」「特別調剤基本料B」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-73 卸売業者との単品単価契約の状況 (複数回答)
(グループ店舗数別)

	全体	1店舗	2～5店舗	6～19店舗	20～299店舗	300店舗以上
回答数(件)	689	154	130	98	116	150
卸売業者と原則として全ての品目について単品単価交渉を行い、単品ごとの価格を明示した覚書を利用する等により契約を締結している	45.7	58.4	53.1	40.8	44.0	31.3
卸売業者と価格交渉の段階から個々の医薬品の価値を踏まえた単品単価交渉を行い、前年度より単品単価交渉の範囲を拡大している	17.3	9.7	13.1	14.3	22.4	27.3
基礎的医薬品、安定確保医薬品(カテゴリーA)、不採算品再算定品、血液製剤、麻薬、覚醒剤及び覚醒剤原料については、価格交渉の段階から別枠とし、卸売業者と個々の医薬品の価値を踏まえた単品単価交渉を行っている	15.7	7.8	9.2	17.3	21.6	26.0
新薬創出等加算品等についても、引き続き単品単価交渉を行っている	13.9	9.1	13.1	14.3	12.1	22.7
いずれもしていない	30.6	30.5	27.7	32.7	25.0	34.0
無回答	13.8	6.5	13.1	18.4	20.7	14.0

図表 2-74 卸売業者との単品単価契約の状況 (複数回答)
(後発医薬品調剤体制加算別)

	全体	後発医薬品調剤体制加算1	後発医薬品調剤体制加算2	後発医薬品調剤体制加算3	届出(算定)なし
回答数(件)	689	42	129	468	41
卸売業者と原則として全ての品目について単品単価交渉を行い、単品ごとの価格を明示した覚書を利用する等により契約を締結している	45.7	40.5	45.0	47.0	41.5
卸売業者と価格交渉の段階から個々の医薬品の価値を踏まえた単品単価交渉を行い、前年度より単品単価交渉の範囲を拡大している	17.3	16.7	14.7	19.4	2.4
基礎的医薬品、安定確保医薬品(カテゴリーA)、不採算品再算定品、血液製剤、麻薬、覚醒剤及び覚醒剤原料については、価格交渉の段階から別枠とし、卸売業者と個々の医薬品の価値を踏まえた単品単価交渉を行っている	15.7	11.9	14.7	17.1	4.9
新薬創出等加算品等についても、引き続き単品単価交渉を行っている	13.9	11.9	14.0	14.7	7.3
いずれもしていない	30.6	35.7	29.5	29.9	34.1
無回答	13.8	9.5	14.0	13.5	24.4

(3) 返品したことがある医薬品の有無、種類 (調査票設問7. ⑥)

返品したことがある医薬品についてみると、全体では「1. ～7. の中で返品したことがある医薬品はない」が51.4%と最も多く、次いで「在庫調整を目的とした医薬品」が38.6%であった。

図表 2-75 返品したことがある医薬品の有無、種類 (複数回答)
(グループ店舗数別)

	全体	1店舗	2～5店舗	6～19店舗	20～299店舗	300店舗以上
回答数 (件)	689	154	130	98	116	150
厳格な温度管理を要する医薬品	0.9	1.9	1.5	0.0	0.0	0.7
有効期限を経過した医薬品	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
開封された医薬品	1.3	0.0	1.5	0.0	4.3	1.3
汚損、破損した医薬品	3.0	2.6	2.3	4.1	2.6	2.0
卸売業者と保険医療機関・保険薬局等との契約により「返品不能」と指定されている医薬品	0.1	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
その他、価値、安全性等が棄損されている又はそのおそれがあると合理的に認められる医薬品	4.9	3.2	6.2	0.0	7.8	6.0
在庫調整を目的とした医薬品	38.6	39.0	46.9	41.8	32.8	34.0
1. ～7. の中で返品したことがある医薬品はない	51.4	51.9	40.8	46.9	54.3	60.0
無回答	5.1	3.2	6.2	9.2	6.9	2.7

(4) 流通の効率化と安全性・安定供給の確保状況 (調査票設問7. ⑨)

流通の効率化と安全性・安定供給の取組状況についてみると、「流通の効率化と安定供給の確保のため、常に適正な在庫量を維持している」が全体では73.9%で最も多かった。

図表 2-76 流通の効率化と安全性・安定供給の確保状況
(調剤基本料別)

	全体	調剤基本料1	調剤基本料2	調剤基本料3イ	調剤基本料3ロ	調剤基本料3ハ	特別調剤基本料A	特別調剤基本料B
回答数 (件)	689	447	28	38	43	121	5	0
流通の効率化と安定供給の確保のため、常に適正な在庫量を維持している	73.9	72.0	71.4	71.1	81.4	81.0	60.0	0.0
高額な医薬品の増加などに伴い、偽造品の混入を防止するため、流通関係者間で取組を進めている	22.1	17.9	10.7	18.4	32.6	38.0	40.0	0.0
サプライチェーンの安定性確保のため、過剰な在庫確保や不必要な急配を控えるとともに、実際に供給不安が生じた際には、安定供給の確保のための取組を行っている、又は行う予定である	44.3	40.3	42.9	44.7	51.2	57.0	60.0	0.0
安定確保医薬品については、医療上の重要性に鑑み、特に安定供給の確保に配慮している	49.5	46.8	28.6	52.6	65.1	58.7	80.0	0.0
医薬品の供給量が不足している状況において、必要な患者に必要な医薬品が行き渡るよう、過剰な発注は控え、当面の必要量に見合う量のみの購入を行っている、又は行う予定である	64.9	65.8	60.7	52.6	67.4	66.9	80.0	0.0
医薬品の供給量が不足している状況において、自らの店舗で不足している医薬品について、系列店舗や地域における連携により、可能な限り不足している医薬品の調整に努めている、又はその予定である	63.3	58.6	60.7	65.8	79.1	76.9	60.0	0.0
医療安全の観点からGS1識別コードを活用している	40.3	36.0	35.7	42.1	41.9	58.7	40.0	0.0
いずれもしていない	3.2	3.1	3.6	5.3	2.3	2.5	0.0	0.0
無回答	6.5	6.9	3.6	13.2	4.7	3.3	0.0	0.0

※ 「調剤基本料2」「特別調剤基本料A」「特別調剤基本料B」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 2-77 流通の効率化と安全性・安定供給の確保状況
(グループ店舗数別)

	全体	1店舗	2～5店舗	6～19店舗	20～29店舗	300店舗以上
回答数(件)	689	154	130	98	116	150
流通の効率化と安定供給の確保のため、常に適正な在庫量を維持している	73.9	70.8	74.6	69.4	72.4	84.7
高額な医薬品の増加などに伴い、偽造品の混入を防止するため、流通関係者間で取組を進めている	22.1	13.0	22.3	16.3	19.0	42.0
サプライチェーンの安定性確保のため、過剰な在庫確保や不必要な急配を控えるとともに、実際に供給不安が生じた際には、安定供給の確保のための取組を行っている、又は行う予定である	44.3	33.1	45.4	45.9	41.4	60.0
安定確保医薬品については、医療上の重要性に鑑み、特に安定供給の確保に配慮している	49.5	45.5	50.0	39.8	46.6	64.0
医薬品の供給量が不足している状況において、必要な患者に必要な医薬品が行き渡るよう、過剰な発注は控え、当面の必要量に見合う量のみの購入を行っている、又は行う予定である	64.9	65.6	63.1	65.3	62.1	70.7
医薬品の供給量が不足している状況において、自らの店舗で不足している医薬品について、系列店舗や地域における連携により、可能な限り不足している医薬品の調整に努めている、又はその予定である	63.3	39.0	60.8	76.5	72.4	79.3
医療安全の観点からGS1識別コードを活用している	40.3	28.6	38.5	38.8	43.1	58.0
いずれもしていない	3.2	5.2	4.6	0.0	1.7	2.7
無回答	6.5	4.5	7.7	9.2	6.9	4.0

図表 2-78 流通の効率化と安全性・安定供給の確保状況
(後発医薬品調剤体制加算別)

	全体	後発医薬品 調剤体制加算1	後発医薬品 調剤体制加算2	後発医薬品 調剤体制加算3	届出(算定)なし
回答数(件)	689	42	129	468	41
流通の効率化と安定供給の確保のため、常に適正な在庫量を維持している	73.9	71.4	71.3	75.0	70.7
高額な医薬品の増加などに伴い、偽造品の混入を防止するため、流通関係者間で取組を進めている	22.1	21.4	22.5	22.6	14.6
サプライチェーンの安定性確保のため、過剰な在庫確保や不必要な急配を控えるとともに、実際に供給不安が生じた際には、安定供給の確保のための取組を行っている、又は行う予定である	44.3	50.0	41.1	46.8	24.4
安定確保医薬品については、医療上の重要性に鑑み、特に安定供給の確保に配慮している	49.5	64.3	45.7	51.1	29.3
医薬品の供給量が不足している状況において、必要な患者に必要な医薬品が行き渡るよう、過剰な発注は控え、当面の必要量に見合う量のみの購入を行っている、又は行う予定である	64.9	64.3	67.4	65.0	58.5
医薬品の供給量が不足している状況において、自らの店舗で不足している医薬品について、系列店舗や地域における連携により、可能な限り不足している医薬品の調整に努めている、又はその予定である	63.3	66.7	56.6	67.1	41.5
医療安全の観点からGS1識別コードを活用している	40.3	45.2	35.7	42.7	24.4
いずれもしていない	3.2	4.8	3.9	2.8	4.9
無回答	6.5	4.8	3.9	6.8	12.2

3. 病院調査

【調査対象等】

調査対象：全国の病院の中から無作為抽出した病院を調査対象とした。調査客体は1,000施設とした。

回答数：223施設（回答率：22.3%）

回答者：開設者・管理者

※ クロス集計表に記載されている「全体」はその設問に回答したすべての人数を示している。ただし、クロス集計に使用している設問に未回答の場合、その人数はクロス集計の対象外となる。そのため、「全体」とクロス集計軸の合計数は一致しない場合がある。

※ 単純集計・クロス集計の各図に記載された「回答数（件）」の数値は実際の全回答者数、同じ列のそれ以外の項目の数値は全回答者数に対する設問の選択肢の回答者の割合（％）をそれぞれ示し、オレンジのバーは回答者の割合の大きさを視覚的に表している。

1) 回答者（病院）について

（1）開設者（調査票設問1. ②）

回答があった病院の開設者は、「医療法人」が60.2%で最も多かった。

図表 3-1 開設者

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	221	229
国	3.6	3.9
公立	11.8	20.1
公的	6.3	6.6
社会保険関係団体	0.0	0.9
医療法人	60.2	47.6
その他の法人	16.7	19.2
個人	0.9	1.3
無回答	0.5	0.4

(2) 標榜診療科 (調査票設問 1. ④)

標榜診療科は、「内科」が 83.7%で最も多かった。

図表 3-2 標榜診療科 (複数回答)

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数 (件)	221	229
内科	83.7	90.0
外科	50.2	63.8
精神科	30.3	31.9
小児科	30.3	41.9
皮膚科	31.2	43.2
泌尿器科	33.5	42.8
産婦人科・産科	14.5	29.3
眼科	24.4	38.0
耳鼻咽喉科	19.9	36.2
放射線科	31.7	40.2
脳神経外科	25.3	39.3
整形外科	60.6	67.2
麻酔科	26.2	42.4
救急科	9.5	17.9
歯科・歯科口腔外科	10.9	27.5
リハビリテーション科	57.9	67.2
その他	21.7	27.9
無回答	0.5	0.4

(3) オーダリングシステムの導入状況（調査票設問1. ⑤）

オーダリングシステムの導入状況は、「一般名処方に対応できるオーダリングシステムを導入している」が52.5%で最も多かった。

図表 3-3 オーダリングシステムの導入状況（複数回答）

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	221	229
一般名処方に対応できるオーダリングシステムを導入している	52.5	57.6
後発医薬品名が表示されるオーダリングシステムを導入している	31.7	31.9
バイオ後続品が表示されるオーダリングシステムを導入している	17.6	21.0
オーダリングシステムを導入している（上記1.～3.の機能はない）	14.0	12.2
オーダリングシステムを導入していない	21.7	23.1
無回答	4.5	3.9

(4) 外来の院内処方の割合（調査票設問1. ⑥）

外来の院内処方の割合は、「0%超～10%未満」が38.9%で最も多く、平均は34.2%であった。

図表 3-4 外来の院内処方の割合

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	221	229
0 %_	13.6	13.5
0 %超～10%未満	38.9	35.8
10%以上20%未満	4.1	5.7
20%以上30%未満	1.8	2.2
30%以上40%未満	0.9	0.4
40%以上50%未満	0.5	0.4
50%以上60%未満	1.4	0.9
60%以上70%未満	1.4	1.3
70%以上80%未満	2.3	1.7
80%以上90%未満	3.6	1.3
90%以上100%未満	13.1	8.3
100%_	9.5	9.2
無回答	9.0	19.2

回答数（件）	201	185
平均値	34.2	29.3
標準偏差	42.1	39.9
中央値	5	6

※本表にある「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「%」を単位としている。

(5) 許可病床数（調査票設問1. ⑧）

許可病床数は、「100～199床」が42.1%で最も多かった。

図表 3-5 許可病床数

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	221	229
99床以下	36.2	30.1
100～199床	42.1	31.9
200～299床	6.8	8.3
300～399床	6.3	7.4
400～499床	2.3	4.8
500床以上	2.3	0.0
無回答	4.1	17.5

2) 後発医薬品に係る最近の対応状況について

(1) 1年前と比較した後発医薬品に係る対応の業務量の増減（調査票設問2. ①）

1年前（令和6年7月1日）と比較した後発医薬品に係る対応の業務量の増減について、「増えた」が57.5%で最も多かった。

図表 3-6 1年前と比較した後発医薬品に係る対応の業務量の増減

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	221	229
増えた	57.5	72.1
変わらない	39.8	24.9
減った	2.3	0.4
無回答	0.5	2.6

(2) 1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化（調査票設問2. ②）

1年前（令和6年7月1日）と比較した後発医薬品の供給体制の変化について、「悪化した」が54.8%で最も多かった。

図表 3-7 1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	221	229
改善した	7.7	0.9
変わらない	35.3	31.4
悪化した	54.8	63.3
無回答	2.3	4.4

(3) 現在の医薬品の調達状況（調査票設問2. ③）

現在（令和7年7月1日）の医薬品の調達状況は、「医薬品の納品までに時間がかかる」が86.0%で最も多かった。

図表 3-8 現在の医薬品の調達状況（複数回答）

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	221	229
医薬品の納品までに時間がかかる	86.0	87.3
医薬品の発注作業の回数が増えた	45.7	57.2
卸に医薬品の注文を受け付けてもらえない	54.3	63.8
卸からの医薬品の注文の取り消しが頻発している	44.8	46.7
特に困難な状況はない	1.8	2.2
その他	9.0	8.3
無回答	0.0	0.9

(4) 後発医薬品の処方割合の変化（調査票設問2. ⑥）

後発医薬品の処方割合の変化について、「後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった」が46.6%で最も多かった。

図表 3-9 後発医薬品の処方割合の変化

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	221	229
後発医薬品の処方割合がかなり減った	2.7	3.5
後発医薬品の処方割合がやや減った	19.5	23.1
後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった	46.6	49.3
後発医薬品の処方割合が増えた	18.1	17.0
わからない	10.4	6.1
無回答	2.7	0.9

(5) 後発医薬品使用割合＜新指標、数量ベース＞（調査票設問2. ⑩）

後発医薬品使用割合について、「90%以上」が47.1%で最も多かった。

図表 3-10 後発医薬品使用割合

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	221	229
20%未満	2.7	3.1
20%以上25%未満	1.4	1.7
25%以上30%未満	0.0	0.9
30%以上35%未満	0.5	0.4
35%以上40%未満	0.5	0.9
40%以上45%未満	1.4	0.9
45%以上50%未満	1.4	0.0
50%以上55%未満	1.8	0.9
55%以上60%未満	0.5	0.9
60%以上65%未満	1.4	2.2
65%以上70%未満	0.9	1.3
70%以上75%未満	1.4	4.4
75%以上80%未満	3.2	2.6
80%以上85%未満	5.4	5.2
85%以上90%未満	12.2	8.7
90%以上	47.1	47.2
無回答	18.6	18.8

回答数（件）	180	186
平均値	83.4	81.98
標準偏差	20.8	22.52
中央値	91.9	91.65

※本表にある「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「%」を単位としている。

(6) 後発医薬品の使用を進めるために必要な対応 (調査票設問2. ⑮)

後発医薬品の使用促進に向けて必要とされる対応は、「後発医薬品に関する安定供給体制の確保」が91.0%で最も多く、次いで「後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置」や「後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること」が多かった。

図表 3-11 後発医薬品の使用を進めるために必要な対応 (複数回答)

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数 (件)	221	229
厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	27.1	36.7
後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること	51.1	54.6
後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保	42.5	48.0
後発医薬品に関する安定供給体制の確保	91.0	90.8
後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合	34.8	33.6
後発医薬品の在庫管理の負担軽減	30.3	33.6
先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダーリングシステムの導入	16.7	17.9
後発医薬品に対する患者の理解	16.7	28.4
後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価	29.9	34.9
後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価	23.1	27.5
後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置	56.6	59.0
後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示	23.1	29.7
調剤に関する保険薬局との連携	6.8	12.7
患者負担が軽減されること	12.2	15.7
その他	4.1	5.2
特に対応は必要ない	0.9	0.4
無回答	3.2	1.3

3) バイオ後続品の使用に関する考えについて

(1) バイオ医薬品の院内処方 (入院または院内の外来) の有無 (調査票設問3. ②)

バイオ医薬品を「処方あり」と回答した場合、院内処方 (入院または院内の外来) の有無をみると、「あり」は全体では97.0%であった。

図表 3-12 バイオ医薬品の院内処方 (入院または院内の外来) の有無 (バイオ後続品導入初期加算別)

	全体	算定あり	算定なし
回答数 (件)	164	36	110
あり	97.0	97.2	97.3
なし	1.8	2.8	1.8
無回答	1.2	0.0	0.9

(2) バイオ後続品使用体制加算新設によるバイオ後続品の使用件数の変化（調査票設問 3. ⑧）

バイオ後続品の院内処方または院外処方いずれかで「あり」と回答した病院について、バイオ後続品使用体制加算の新設によるバイオ後続品の使用件数が増加したかをみると、「いいえ（増加していない）」が全体では 59.8%であった。

図表 3-13 バイオ後続品使用体制加算が新設されたことでバイオ後続品の使用件数が増加したか（バイオ後続品導入初期加算別）

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	164	167
はい	12.8	19.2
いいえ	59.8	49.1
わからない	24.4	26.9
無回答	3.0	4.8

(3) バイオ後続品使用体制加算を算定していない理由（調査票設問 3. ⑩）

バイオ後続品使用体制加算について「算定なし」と回答した病院について、算定していない理由をみると、「対象となる患者がいないから」が全体では 36.0%で最も多かった。

図表 3-14 バイオ後続品使用体制加算を算定していない理由（複数回答）（バイオ後続品導入初期加算別）

	全体	算定あり	算定なし
回答数（件）	139	27	110
加算点数が少ないから	7.9	0.0	10.0
算定要件が厳しいから	16.5	22.2	14.5
バイオ後続品の使用を促進するための体制が整備できないから	11.5	3.7	13.6
バイオ医薬品使用回数が少なく施設基準をクリアできないから	26.6	29.6	25.5
バイオ後続品の置き換え割合が満たせず施設基準をクリアできないから	13.7	14.8	13.6
入院初日しか算定できないから	5.8	3.7	6.4
対象となる患者がいないから	36.0	14.8	41.8
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	10.1	3.7	11.8
バイオ後続品への置き換え割合の計算に手間がかかるから	2.9	0.0	3.6
その他	7.2	0.0	9.1
無回答	10.8	22.2	7.3

※ 「算定あり」の回答数は 30 件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

(4) バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品（調査票設問3. ⑫）

バイオ後続品の院内処方または院外処方いずれかで「あり」と回答した病院について、バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品をみると、「インスリン製剤」が全体では31.1%で最も多かった。

図表 3-15 バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品（複数回答）
（バイオ後続品導入初期加算別）

	全体	算定あり	算定なし
回答数（件）	164	36	110
インスリン製剤	31.1	16.7	38.2
ヒト成長ホルモン剤	15.9	13.9	17.3
エタネルセプト製剤	17.1	13.9	18.2
テリバラチド製剤	23.2	16.7	27.3
リツキシマブ製剤	13.4	11.1	14.5
トラスツズマブ製剤	14.6	13.9	15.5
ペバシズマブ製剤	17.7	19.4	18.2
インフリキシマブ製剤	16.5	13.9	17.3
アダリムマブ製剤	16.5	13.9	18.2
ラニビズマブ製剤	11.6	11.1	11.8
アガルシダーゼ_ベータ製剤	15.2	13.9	16.4
ベグフィルグラスチム製剤	16.5	25.0	14.5
ウステキヌマブ製剤	18.9	27.8	17.3
アフリベルセプト製剤	17.1	22.2	16.4
バイオ後続品の採用状況の差は、医薬品ごとにあまりない	23.2	27.8	22.7
バイオ後続品を採用していない	3.0	0.0	4.5
無回答	12.2	11.1	8.2

4) 長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）について

(1) 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数（調査票設問4. ①）

選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数（令和7年6月1か月間）をみると、平均350.2枚であった。

図表 3-16 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数（1か月間）

	割合
回答数（件）	221
0枚	24.4
1枚	1.4
2枚	1.8
3枚	0.9
4枚以上	45.2
無回答	26.2

回答数（件）	163
平均値	350.2
標準偏差	1833.6
中央値	10

※本表にある「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「枚数」を単位としている。

(2) 長期収載品の選定療養による影響や課題（調査票設問4. ③）

長期収載品の選定療養による影響や課題について、「患者の制度に対する理解が不十分である」が45.7%と最も多く、次いで「制度そのものがわかりづらい」「患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい」が多かった。

図表 3-17 長期収載品の選定療養による影響や課題

	割合
回答数（件）	221
患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい	38.0
患者の制度に対する理解が不十分である	45.7
薬価改定に伴い、これまで選定療養の対象であった長期収載品が対象外となった際に、患者への説明等に苦慮したことがある	14.9
薬価改定に伴い、対象品目が変わってしまう	36.2
医療関係者への制度に関する周知が不十分である	29.4
制度そのものがわかりづらい	41.6
特別の料金の計算がわかりづらい	26.7
レセコンなどシステム改修が不十分である	7.2
後発医薬品を選択する患者が増えた	12.7
患者からのクレーム対応に苦慮したことがある	11.3
その他	8.1
わからない	8.1
無回答	10.9

4. 一般診療所調査

【調査対象等】

調査対象：全国の一般診療所の中から無作為抽出した一般診療所を調査対象とした。調査客体は1,500施設とした。
回 答 数：385施設（回答率：25.7%）
回 答 者：開設者・管理者

※ クロス集計表に記載されている「全体」はその設問に回答したすべての人数を示している。ただし、クロス集計に使用している設問に未回答の場合、その人数はクロス集計の対象外となる。そのため、「全体」とクロス集計軸の合計数は一致しない場合がある。

※ 単純集計・クロス集計の各図に記載された「回答数（件）」の数値は実際の全回答者数、同じ列のそれ以外の項目の数値は全回答者数に対する設問の選択肢の回答者の割合（％）をそれぞれ示し、オレンジのバーは回答者の割合の大きさを視覚的に表している。

1) 回答者（一般診療所）について

（1）開設者（調査票設問1. ②）

回答があった一般診療所の開設者は、「法人」が50.1%で最も多かった。

図表 4-1 開設者

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	383	339
個人	 46.7	 48.1
法人	 50.1	 49.9
その他	 2.9	 1.2
無回答	0.3	0.9

（2）種別（調査票設問1. ④）

種別は、「無床診療所」が93.2%で最も多かった。

図表 4-2 種別

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	383	339
無床診療所	 93.2	 90.0
有床診療所	 4.2	 3.8
無回答	2.6	6.2

(3) 標榜診療科（調査票設問1. ⑤）

標榜診療科は、「内科」が57.4%で最も多かった。

図表 4-3 標榜診療科（複数回答）

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	383	339
内科	57.4	53.1
外科	12.0	11.8
精神科	9.4	6.5
小児科	14.9	15.9
皮膚科	11.7	15.0
泌尿器科	2.9	4.4
産婦人科・産科	3.7	4.7
眼科	10.7	10.9
耳鼻咽喉科	6.3	6.5
放射線科	2.6	2.9
脳神経外科	1.6	3.5
整形外科	11.5	14.5
麻酔科	1.0	0.6
救急科	0.0	0.0
歯科・歯科口腔外科	0.5	0.9
リハビリテーション科	7.0	7.7
その他	9.1	13.9
無回答	0.5	0.6

(4) オーダリングシステムの導入状況（調査票設問1. ⑥）

オーダリングシステムの導入状況については、「一般名処方に対応できるオーダリングシステムを導入している」が52.5%で最も多かった。

図表 4-4 オーダリングシステムの導入状況（複数回答）

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	383	339
一般名処方に対応できるオーダリングシステムを導入している	52.5	51.3
後発医薬品名が表示されるオーダリングシステムを導入している	25.3	22.1
バイオ後続品が表示されるオーダリングシステムを導入している	7.3	7.1
オーダリングシステムを導入している（上記1.～3.の機能はない）	3.4	4.1
オーダリングシステムを導入していない	33.4	34.5
無回答	5.0	6.5

(5) 外来の院内・院外処方割合：院内処方（調査票設問1. ⑦）

外来の院内処方割合は、「0%」が57.2%で最も多く、平均は25.1%であった。

図表 4-5 外来の院内・院外処方割合：院内処方

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	383	339
0 %_	57.2	49.6
0 %超～10%未満	9.1	5.0
10%以上20%未満	2.9	0.9
20%以上30%未満	1.0	1.2
30%以上40%未満	1.0	0.0
40%以上50%未満	0.3	0.3
50%以上60%未満	0.5	0.3
60%以上70%未満	0.3	2.4
70%以上80%未満	0.5	1.8
80%以上90%未満	2.1	0.9
90%以上100%未満	9.7	10.0
100%_	11.2	8.0
無回答	4.2	19.8

回答数（件）	367	272
平均値	25.1	27.17
標準偏差	40.9	41.52
中央値	0	0

※本表にある「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「%」を単位としている。

(6) 後発医薬品使用割合＜新指標、数量ベース＞（調査票設問1. ⑫）

後発医薬品使用割合について、無回答を除けば「90%以上」が21.4%で最も多かった。なお、使用割合の平均値は61.6%、中央値は76.1%であった。

図表 4-6 後発医薬品使用割合

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	154	107
20%未満	11.7	7.5
20%以上25%未満	1.3	0.9
25%以上30%未満	1.3	0.9
30%以上35%未満	2.6	2.8
35%以上40%未満	0.6	0.0
40%以上45%未満	1.9	0.0
45%以上50%未満	0.6	3.7
50%以上55%未満	1.9	0.9
55%以上60%未満	0.0	0.0
60%以上65%未満	1.9	0.9
65%以上70%未満	2.6	0.0
70%以上75%未満	1.3	1.9
75%以上80%未満	2.6	0.9
80%以上85%未満	1.9	3.7
85%以上90%未満	3.2	5.6
90%以上	21.4	19.6
無回答	42.9	50.5

回答数（件）	88	53
平均値	61.6	66.54
標準偏差	36.8	34.34
中央値	76.1	85.3

※本表にある「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「%」を単位としている。

2) 後発医薬品に係る最近の対応状況について

(1) 1年前と比較した後発医薬品に係る対応の業務量の増減（調査票設問2. ①）

1年前（令和6年7月1日）と比較した後発医薬品に係る対応の業務量の増減について、「増えた」が41.8%だった。

図表 4-7 1年前と比較した後発医薬品に係る対応の業務量の増減

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	383	339
増えた	41.8	54.6
変わらない	55.4	41.3
減った	0.5	0.0
無回答	2.3	4.1

(2) 1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化（調査票設問2. ②）

1年前（令和6年7月1日）と比較した後発医薬品の供給体制の変化について、「悪化した」が46.2%で最も多かった。

図表 4-8 1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	383	339
改善した	7.6	5.0
変わらない	41.5	35.7
悪化した	46.2	53.4
無回答	4.7	5.9

(3) 現在の医薬品の調達状況（調査票設問2. ③）

現在（令和7年7月1日）の医薬品の調達状況について、「医薬品の納品までに時間がかかる」が46.2%で最も多かった。

図表 4-9 現在の医薬品の調達状況（複数回答）

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	383	339
医薬品の納品までに時間がかかる	46.2	50.4
医薬品の発注作業の回数が増えた	13.1	16.5
卸に医薬品の注文を受け付けてもらえない	27.7	35.4
卸からの医薬品の注文の取り消しが頻発している	18.8	25.7
特に困難な状況はない	27.4	22.7
その他	12.3	11.5
無回答	5.0	8.0

(4) 後発医薬品の処方割合の変化（調査票設問2. ⑥）

後発医薬品の処方割合の変化について、「後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった」が45.7%で最も多かった。

図表 4-10 後発医薬品の処方割合の変化

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	383	339
後発医薬品の処方割合がかなり減った	0.0	1.5
後発医薬品の処方割合がやや減った	8.1	9.1
後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった	45.7	35.1
後発医薬品の処方割合が増えた	21.7	32.2
わからない	20.9	15.9
無回答	3.7	6.2

3) 一般名処方に係る最近の対応状況について

(1) 一般名処方による処方箋の発行有無（調査票設問3. ①）

一般名処方による処方箋の発行について、発行「あり」は82.5%であった。

図表 4-11 一般名処方による処方箋の発行有無

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	383	339
あり	82.5	78.8
なし	15.9	16.8
無回答	1.6	4.4

(2) 1年前と比較した一般名処方の件数の増減（調査票設問3. ②）

一般名処方による処方箋の発行が「ある」と回答した診療所について、1年前と比較した一般名処方の件数の変化をみると、件数が「増えた」が38.3%であった。

図表 4-12 1年前と比較した一般名処方の件数の増減

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	316	339
増えた	38.3	43.8
変わらない	58.9	50.2
減った	2.2	2.2
無回答	0.6	3.7

(4) 後発医薬品の使用を進めるために必要な対応（調査票設問3. ⑦）

後発医薬品の使用促進に向けて必要とされる対応は、「後発医薬品に関する安定供給体制の確保」が64.5%で最も多く、次いで「後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること」や「厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底」が多かった。

図表 4-13 後発医薬品の使用を進めるために必要な対応（複数回答）

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	383	339
厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	42.3	44.0
後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること	53.0	54.6
後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保	33.2	33.0
後発医薬品に関する安定供給体制の確保	64.5	65.8
後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合	18.8	23.3
後発医薬品の在庫管理の負担軽減	10.7	10.6
先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダーリングシステムの導入	8.9	10.6
後発医薬品に対する患者の理解	26.4	28.9
後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価	24.5	23.3
後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価	15.1	13.6
後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置	22.7	23.6
後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示	14.1	17.7
調剤に関する保険薬局との連携	15.7	10.6
患者負担が軽減されること	15.4	15.6
その他	3.7	2.4
特に対応は必要ない	8.1	4.4
無回答	3.1	5.0

4) バイオ後続品の使用に関する考えについて

(1) バイオ医薬品の院内処方（入院または院内の外来）の有無（調査票設問4. ②）

バイオ医薬品を「処方あり」と回答した診療所について、院内処方（入院または院内の外来）の有無をみると、処方「あり」は全体では45.6%であった。

図表 4-14 バイオ医薬品の院内処方（入院または院内の外来）の有無（バイオ後続品導入初期加算別）

	全体	算定あり	算定なし
回答数（件）	79	14	64
あり	45.6	42.9	45.3
なし	51.9	57.1	51.6
無回答	2.5	0.0	3.1

※ 「算定あり」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

(2) バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品（調査票設問4. ⑮）

バイオ後続品の院内処方または院外処方いずれかで「あり」と回答した病院について、バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品をみると、全体では「バイオ後続品の採用状況の差は、医薬品ごとにあまりない」が35.4%で最も多かった。

図表 4-15 バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品（複数回答）
（バイオ後続品導入初期加算別）

	全体	算定あり	算定なし
回答数（件）	79	14	64
インスリン製剤	15.2	7.1	17.2
ヒト成長ホルモン剤	11.4	21.4	9.4
エタネルセプト製剤	11.4	28.6	7.8
テリバラチド製剤	8.9	7.1	9.4
リツキシマブ製剤	10.1	21.4	7.8
トラスツズマブ製剤	10.1	21.4	7.8
ペバシズマブ製剤	10.1	21.4	7.8
インフリキシマブ製剤	10.1	21.4	7.8
アダリムマブ製剤	11.4	21.4	9.4
ラニビズマブ製剤	11.4	21.4	9.4
アガルシダーゼ ベータ製剤	10.1	21.4	7.8
ベグフィルグラスチム製剤	12.7	21.4	10.9
ウスデキヌマブ製剤	10.1	21.4	7.8
アフリベルセプト製剤	10.1	21.4	7.8
バイオ後続品の採用状況の差は、医薬品ごとにあまりない	35.4	35.7	35.9
バイオ後続品を採用していない	8.9	7.1	9.4
無回答	29.1	28.6	28.1

※ 「算定あり」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

5) 長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）について

(1) 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数（1か月間）（調査票設問5. ①）

選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数（令和7年6月1か月間）をみると、平均 23.0 枚であった。

図表 4-16 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数（1か月間）

	割合
回答数（件）	383
49枚以下	82.0
50～99枚	1.6
100～149枚	1.8
150～199枚	0.3
200枚以上	2.1
無回答	12.3

回答数（件）	336
平均値	23.0
標準偏差	142.9
中央値	1

※本表にある「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「枚数」を単位としている。

(2) 長期収載品の選定療養による影響や課題（調査票設問5. ③）

長期収載品の選定療養による影響や課題について、全体では「患者の制度に対する理解が不十分である」が 46.7%と最も多く、次いで「患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい」「制度そのものがわかりづらい」が多かった。

図表 4-17 長期収載品の選定療養による影響や課題（複数回答）

	割合
回答数（件）	383
患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい	43.9
患者の制度に対する理解が不十分である	46.7
薬価改定に伴い、これまで選定療養の対象であった長期収載品が対象外となった際に、患者への説明等に苦慮したことがある	16.2
薬価改定に伴い、対象品目が変わってしまう	12.3
医療関係者への制度に関する周知が不十分である	12.5
制度そのものがわかりづらい	35.5
特別の料金の計算がわかりづらい	21.1
レセコンなどシステム改修が不十分である	3.4
後発医薬品を選択する患者が増えた	13.8
患者からのクレーム対応に苦慮したことがある	13.6
その他	3.9
わからない	17.2
無回答	6.3

5. 歯科診療所調査

【調査対象等】

調査対象：全国の歯科診療所の中から無作為抽出した歯科診療所を調査対象とした。調査客体は1,500施設とした。

回答数：627施設（回答率：41.8%）

回答者：開設者・管理者

※ クロス集計表に記載されている「全体」はその設問に回答したすべての人数を示している。ただし、クロス集計に使用している設問に未回答の場合、その人数はクロス集計の対象外となる。そのため、「全体」とクロス集計軸の合計数は一致しない場合がある。

※ 単純集計・クロス集計の各図に記載された「回答数（件）」の数値は実際の全回答者数、同じ列のそれ以外の項目の数値は全回答者数に対する設問の選択肢の回答者の割合（%）をそれぞれ示し、オレンジのバーは回答者の割合の大きさを視覚的に表している。

※ 歯科診療所においては、歯科医師が処方できる薬剤が医科に比べて限定されている。そのため、医師調査との単純な比較はできない点に留意する必要がある。

1) 回答者（歯科診療所）について

（1）開設者（調査票設問1. ②）

回答があった歯科診療所の開設者は、「個人」が79.4%で最も多かった。

図表 5-1 開設者
(外来後発医薬品使用体制加算の算定有無別)

	全体	届出していない	届出している
回答数（件）	627	562	44
個人	79.4	79.5	72.7
法人	19.9	19.8	27.3
その他	0.5	0.5	0.0
無回答	0.2	0.2	0.0

（2）標榜診療科（調査票設問1. ④）

標榜診療科は、「歯科」が97.8%で最も多かった。

図表 5-2 標榜診療科（複数回答）
(外来後発医薬品使用体制加算の算定有無別)

	全体	届出していない	届出している
回答数（件）	627	562	44
歯科	97.8	97.9	100.0
矯正歯科	25.8	25.6	31.8
小児歯科	50.1	50.4	54.5
歯科口腔外科	28.9	28.8	36.4
その他	0.8	0.9	0.0
無回答	0.3	0.4	0.0

(3) 医科の医療機関の併設状況 (調査票設問 1. ⑤)

医科の医療機関の併設状況は、「併設していない」が 96.2%であった。

図表 5-3 医科の医療機関の併設状況
(外来後発医薬品使用体制加算の算定有無別)

	全体	届出していない	届出している
回答数 (件)	627	562	44
併設している	1.3	1.4	0.0
併設していない	96.2	96.6	93.2
無回答	2.6	2.0	6.8

(4) 外来の院内処方割合 (調査票設問 1. ⑥)

外来の院内処方割合は、「100%」が 58.5%で最も多く、平均は 81.1%であった。

図表 5-4 外来の院内・院外処方の割合：院内処方
(外来後発医薬品使用体制加算の算定有無別)

	割合
回答数 (件)	627
0 % _	10.0
0 % 超～10%未満	2.4
10%以上20%未満	2.9
20%以上30%未満	1.1
30%以上40%未満	0.3
40%以上50%未満	0.5
50%以上60%未満	1.4
60%以上70%未満	0.3
70%以上80%未満	0.6
80%以上90%未満	1.3
90%以上100%未満	16.7
100% _	58.5
無回答	3.8

回答数 (件)	603
平均値	81.1
標準偏差	36.3
中央値	100

※本表にある「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「%」を単位としている。

2) 後発医薬品に係る最近の対応状況について

(1) 1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化（調査票設問2.①）

1年前（令和6年7月1日）と比較した後発医薬品の供給体制の変化について、全体では「変わらない」が69.4%で最も多かった。

図表 5-5 1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化（外来後発医薬品使用体制加算の算定有無別）

	全体	届出していない	届出している
回答数(件)	627	562	44
改善した	11.8	11.7	11.4
変わらない	69.4	70.8	56.8
悪化した	14.4	12.8	31.8
無回答	4.5	4.6	0.0

図表 5-6 1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化（市町村区分別）

	全体	特別区	政令指定都市	中核市	その他の市	町村
合計	627	57	152	94	274	50
改善した	11.8	12.3	15.1	9.6	11.3	8.0
変わらない	69.4	64.9	67.8	74.5	69.7	68.0
悪化した	14.4	21.1	11.8	14.9	13.9	16.0
無回答	4.5	1.8	5.3	1.1	5.1	8.0

(2) 後発医薬品の処方割合の変化（調査票設問2.③）

後発医薬品の処方割合の変化について、全体では「後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった」が41.6%で最も多かった。

図表 5-7 後発医薬品の処方割合の変化（外来後発医薬品使用体制加算の算定有無別）

	全体	届出していない	届出している
回答数（件）	627	562	44
後発医薬品の処方割合がかなり減った	2.7	2.8	0.0
後発医薬品の処方割合がやや減った	5.3	3.7	22.7
後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった	41.6	41.8	47.7
後発医薬品の処方割合が増えた	19.3	19.2	20.5
わからない	27.3	28.5	9.1
無回答	3.8	3.9	0.0

図表 5-8 後発医薬品の処方割合の変化（市町村区分別）

	全体	特別区	政令指定都市	中核市	その他の市	町村
合計	627	57	152	94	274	50
後発医薬品の処方割合がかなり減った	2.7	1.8	3.9	3.2	2.2	2.0
後発医薬品の処方割合がやや減った	5.3	10.5	3.3	3.2	5.1	10.0
後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった	41.6	38.6	39.5	48.9	42.7	32.0
後発医薬品の処方割合が増えた	19.3	14.0	21.7	16.0	19.7	22.0
わからない	27.3	33.3	28.9	25.5	25.2	30.0
無回答	3.8	1.8	2.6	3.2	5.1	4.0

(3) 後発医薬品使用割合＜新指標、数量ベース＞（調査票設問2. ⑤）

後発医薬品使用割合について、「90%以上」が63.6%で最も多かった。なお、使用割合の平均値は89.3%であった。

図表 5-9 後発医薬品使用割合

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	44	125
20%未満	4.5	4.0
20%以上25%未満	0.0	0.0
25%以上30%未満	0.0	0.0
30%以上35%未満	0.0	0.0
35%以上40%未満	0.0	0.0
40%以上45%未満	0.0	1.6
45%以上50%未満	2.3	0.0
50%以上55%未満	0.0	0.0
55%以上60%未満	2.3	0.0
60%以上65%未満	0.0	0.8
65%以上70%未満	0.0	0.0
70%以上75%未満	0.0	0.8
75%以上80%未満	0.0	0.8
80%以上85%未満	0.0	3.2
85%以上90%未満	2.3	5.6
90%以上	63.6	70.4
無回答	25.0	12.8

回答数（件）	33	112
平均値	89.3	90.5
標準偏差	21.8	21.6
中央値	100	100

※本表にある「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「%」を単位としている。

(4) 1年前と比較した一般名処方の件数の増減（調査票設問2.⑧）

一般名処方による処方箋の発行が「ある」と回答した歯科診療所について、1年前と比較した一般名処方の件数の変化について、全体では件数は「変わらない」が75.2%で最も多かった。

図表 5-10 1年前と比較した一般名処方の件数の増減（外来後発医薬品使用体制加算の算定有無別）

	全体	届出していない	届出している
回答数(件)	210	185	20
増えた	20.0	17.3	45.0
変わらない	75.2	77.8	50.0
減った	4.3	4.3	5.0
無回答	0.5	0.5	0.0

図表 5-11 1年前と比較した一般名処方の件数の増減（市町村区分別）

	全体	特別区	政令指定都市	中核市	その他の市	町村
合計	210	24	44	35	91	16
増えた	20.0	16.7	25.0	14.3	19.8	25.0
変わらない	75.2	70.8	70.5	80.0	78.0	68.8
減った	4.3	12.5	2.3	5.7	2.2	6.3
無回答	0.5	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0

※ 算定有無別の「届出している」及び市町村区分別の「特別区」「町村」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

3) 長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）について

(1) 長期収載品の選定療養費についての認知有無（調査票設問3.①）

長期収載品の選定療養費の認知は、全体では「知らない」と回答した歯科診療所が55.3%であった。

図表 5-12 長期収載品の選定療養費についての認知有無（外来後発医薬品使用体制加算の算定有無別）

	全体	届出していない	届出している
回答数(件)	627	562	44
はい	41.5	43.4	27.3
いいえ	55.3	53.4	70.5
無回答	3.2	3.2	2.3

図表 5-13 長期収載品の選定療養費についての認知有無（市町村区分別）

	全体	特別区	政令指定都市	中核市	その他の市	町村
合計	627	57	152	94	274	50
はい	41.5	36.8	34.9	44.7	44.5	44.0
いいえ	55.3	63.2	61.2	54.3	51.1	54.0
無回答	3.2	0.0	3.9	1.1	4.4	2.0

(2) 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数（調査票設問3. ②-1）

選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数（令和7年6月1か月間）をみると、全体では平均10.7枚であった。

※本設問の図表にある「平均値」「標準偏差」「中央値」はすべて「枚数」を単位としている。

図表 5-14 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数（外来後発医薬品使用体制加算の算定有無別）

	全体	届出していない	届出している
回答数(件)	627	562	44
9枚以下	66.8	66.9	54.5
10～19枚	6.7	6.6	9.1
20～29枚	4.1	4.3	4.5
30～39枚	3.5	3.9	0.0
40枚以上	8.0	7.8	13.6
無回答	10.8	10.5	18.2

	全体	届出していない	届出している
回答数(件)	559	503	36
平均値	10.7	10.6	16.6
標準偏差	25.1	24.9	32.4
中央値	0	0	0

図表 5-15 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数（市町村区分別）

	全体	特別区	政令指定都市	中核市	その他の市	町村
合計	627	57	152	94	274	50
9枚以下	66.8	64.9	74.3	60.6	65.3	66.0
10～19枚	6.7	3.5	5.3	9.6	7.7	4.0
20～29枚	4.1	3.5	2.6	3.2	5.1	6.0
30～39枚	3.5	3.5	2.6	7.4	2.6	4.0
40枚以上	8.0	5.3	7.2	9.6	7.7	12.0
無回答	10.8	19.3	7.9	9.6	11.7	8.0

	全体	特別区	政令指定都市	中核市	その他の市	町村
合計	559	46	140	85	242	46
平均値	10.7	8	8.3	14.3	10.9	12.5
標準偏差	25.1	16.6	21.2	30.7	26.1	25.2
中央値	0	0	0	0	0	0

(3) 長期収載品の選定療養による影響や課題(調査票設問3.③)

長期収載品の選定療養による影響や課題について、全体では「制度そのものがわかりづらい」が36.4%と最も多かった。

図表 5-16 長期収載品の選定療養による影響や課題
(外来後発医薬品使用体制加算の算定有無別)

	全体	届出していない	届出している
回答数(件)	627	562	44
患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい	22.0	22.6	20.5
患者の制度に対する理解が不十分である	31.6	31.7	31.8
薬価改定に伴い、これまで選定療養の対象であった長期収載品が対象外となった際に、患者への説明等に苦慮したことがある	7.0	7.5	4.5
薬価改定に伴い、対象品目が変わってしまう	6.5	6.4	9.1
医療関係者への制度に関する周知が不十分である	19.1	18.5	27.3
制度そのものがわかりづらい	36.4	36.8	34.1
特別の料金の計算がわかりづらい	14.7	14.1	22.7
レセコンなどシステム改修が不十分である	12.4	11.6	20.5
後発医薬品を選択する患者が増えた	2.1	2.0	4.5
患者からのクレーム対応に苦慮したことがある	1.9	1.6	4.5
その他	2.1	2.1	0.0
わからない	35.6	34.7	40.9
無回答	5.6	5.7	2.3

図表 5-17 長期収載品の選定療養による影響や課題
(市町村区分別)

	全体	特別区	政令指定都市	中核市	その他の市	町村
合計	627	57	152	94	274	50
患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい	22.0	17.5	23.0	21.3	23.0	20.0
患者の制度に対する理解が不十分である	31.6	31.6	31.6	31.9	31.0	34.0
薬価改定に伴い、これまで選定療養の対象であった長期収載品が対象外となった際に、患者への説明等に苦慮したことがある	7.0	15.8	3.9	7.4	7.3	4.0
薬価改定に伴い、対象品目が変わってしまう	6.5	14.0	4.6	5.3	6.6	6.0
医療関係者への制度に関する周知が不十分である	19.1	28.1	18.4	21.3	17.9	14.0
制度そのものがわかりづらい	36.4	42.1	34.2	44.7	33.2	38.0
特別の料金の計算がわかりづらい	14.7	22.8	11.8	21.3	12.0	16.0
レセコンなどシステム改修が不十分である	12.4	17.5	14.5	12.8	10.9	8.0
後発医薬品を選択する患者が増えた	2.1	3.5	3.3	1.1	1.8	0.0
患者からのクレーム対応に苦慮したことがある	1.9	1.8	2.6	3.2	1.1	2.0
その他	2.1	5.3	0.0	3.2	2.2	2.0
わからない	35.6	28.1	40.1	29.8	36.9	34.0
無回答	5.6	1.8	3.9	3.2	7.7	8.0

4) 医薬品の安定供給について

(1) 医薬品の安定供給に関連する取組内容（調査票設問4. ①）

医薬品の安定供給に関連する取組内容は、全体では「安定供給問題に備えた処方薬の見直しの検討」が43.1%で最も多かった。

図表 5-18 医薬品の安定供給に関連する取組内容（複数回答）
（外来後発医薬品使用体制加算の算定有無別）

	全体	届出していない	届出している
回答数（件）	627	562	44
銘柄名処方と比較し一般名処方において、医薬品が安定的に提供可能である旨を周知	20.4	20.6	22.7
院内処方から院外処方への切り替え	14.5	14.8	13.6
処方可能な医薬品に関する保険薬局との情報共有	18.5	18.0	25.0
安定供給問題に備えた処方薬の見直しの検討	43.1	42.7	47.7
その他	8.8	8.5	11.4
無回答	11.2	11.6	6.8

図表 5-19 医薬品の安定供給に関連する取組内容（複数回答）
（市町村区分別）

	全体	特別区	政令指定都市	中核市	その他の市	町村
合計	627	57	152	94	274	50
銘柄名処方と比較し一般名処方において、医薬品が安定的に提供可能である旨を周知	20.4	19.3	16.4	21.3	21.2	28.0
院内処方から院外処方への切り替え	14.5	17.5	15.8	13.8	12.8	18.0
処方可能な医薬品に関する保険薬局との情報共有	18.5	14.0	22.4	20.2	17.2	16.0
安定供給問題に備えた処方薬の見直しの検討	43.1	49.1	47.4	38.3	42.7	34.0
その他	8.8	5.3	7.9	11.7	8.8	10.0
無回答	11.2	10.5	10.5	9.6	11.3	16.0

6. 医師調査

【調査対象等】

調査対象：病院調査の対象施設で外来診療を担当する医師を調査対象とした。1施設につき診療科の異なる医師2名を調査対象とした。

回 答 数：307人

※ クロス集計表に記載されている「全体」はその設問に回答したすべての人数を示している。ただし、クロス集計に使用している設問に未回答の場合、その人数はクロス集計の対象外となる。そのため、「全体」とクロス集計軸の合計数は一致しない場合がある。

※ 単純集計・クロス集計の各図に記載された「回答数（件）」の数値は実際の全回答者数、同じ列のそれ以外の項目の数値は全回答者数に対する設問の選択肢の回答者の割合（％）をそれぞれ示し、オレンジのバーは回答者の割合の大きさを視覚的に表している。

1) 回答者（医師）について

(1) 主たる担当診療科（調査票設問1. ③）

主たる担当診療科は、「内科」が45.4%で最も多かった。

図表 6-1 主たる担当診療科

	割合
回答数（件）	306
内科	45.4
外科	12.4
精神科	18.3
小児科	3.6
皮膚科	1.6
泌尿器科	2.3
産婦人科・産科	2.3
眼科	1.3
耳鼻咽喉科	0.0
放射線科	0.0
脳神経外科	2.3
整形外科	7.2
麻酔科	0.0
救急科	0.0
歯科・歯科口腔外科	0.0
リハビリテーション科	0.7
その他	1.6
無回答	1.0

2) 後発医薬品に係る最近の対応状況について

(1) 1年前と比較した供給体制の変化（調査票設問2. ①）

1年前（令和6年7月1日）と比較した後発医薬品の供給体制の変化について、「改善した」が全体では13.4%であった。

図表 6-2 1年前と比較した供給体制の変化

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	306	299
改善した	13.4	13.0
変わらない	50.7	42.5
悪化した	34.0	42.1
無回答	2.0	2.3

※令和6年度調査の比較対象は、調査期間当時の1年前の令和5年6月である。

(2) 後発医薬品の処方割合の変化（調査票設問2. ②）

後発医薬品の処方割合の変化について、「後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった」が全体では44.8%で最も多かった。

図表 6-3 後発医薬品の処方割合の変化

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	306	299
後発医薬品の処方割合がかなり減った	0.7	0.7
後発医薬品の処方割合がやや減った	11.8	8.0
後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった	44.8	35.5
後発医薬品の処方割合が増えた	36.9	44.8
わからない	5.6	10.0
無回答	0.3	0.7

(3) 一般名処方による処方箋の発行有無（調査票設問2. ④）

一般名処方による処方箋の発行は、「発行している」が全体では70.3%であった

図表 6-4 一般名処方による処方箋の発行有無

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数（件）	306	299
している	70.3	70.2
していない	27.8	27.8
無回答	2.0	2.0

(4) 1年前と比較した一般名処方の件数の変化(調査票設問2. ⑤)

一般名処方による処方箋の発行をしていると回答した医師について、1年前と比較した一般名処方の件数の変化をみると、件数が「増えた」が全体では42.3%であった。

図表 6-5 1年前と比較した一般名処方の件数の変化

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数(件)	215	210
増えた	42.3	46.7
変わらない	54.4	49.5
減った	3.3	2.9
無回答	0.0	1.0

(5) 医薬品の供給状況が不安定であると感じるか(調査票設問2. ⑨)

医薬品の供給状況が不安定であると「感じる」が全体では90.2%であった。

図表 6-6 医薬品の供給状況が不安定であると感じるか

	今回調査	参考:令和6年度調査
回答数(件)	306	299
感じる	90.2	93.0
感じない	8.8	6.7
無回答	1.0	0.3

(6) 後発医薬品の使用を進めるために必要な対応(調査票設問2. ⑪)

後発医薬品の使用促進に向けて必要とされる対応は、「後発医薬品に関する安定供給体制の確保」が全体では74.2%で最も多く、次いで「後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること」や「厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底」が多かった。

図表 6-7 後発医薬品の使用を進めるために必要な対応(複数回答)

	割合
回答数(件)	306
厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	46.4
後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること	55.9
後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保	37.6
後発医薬品に関する安定供給体制の確保	74.2
後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合	24.5
後発医薬品の在庫管理の負担軽減	19.3
先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダーリングシステムの導入	34.3
後発医薬品に対する患者の理解	33.3
後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価	33.7
後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価	22.2
後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置	31.4
後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示	20.6
調剤に関する保険薬局との連携	14.7
患者負担が軽減されること	20.9
その他	3.3
特に対応は必要ない	2.3
無回答	0.7

3) バイオ後続品の使用に関する考えについて

(1) バイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）の処方有無（調査票設問3. ①）

バイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）の処方について、「処方あり」が全体では55.2%であった。

図表 6-8 バイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）の処方有無
（バイオ後続品使用体制加算の算定有無別）

	全体	算定している	算定していない、または加算を知らない
回答数（件）	306	30	266
処方あり	55.2	90.0	52.6
処方なし	43.1	10.0	46.6
無回答	1.6	0.0	0.8

(2) バイオ医薬品の院内処方（入院または院内の外来）の有無（調査票設問3. ②）

バイオ医薬品を「処方あり」と回答した医師について、院内処方（入院または院内の外来）の有無をみると、「処方あり」は全体では95.9%であった。

図表 6-9 バイオ医薬品の院内処方（入院または院内の外来）の有無
（バイオ後続品使用体制加算の算定有無別）

	全体	算定している	算定していない、または加算を知らない
回答数（件）	169	27	140
あり	95.9	96.3	95.7
なし	4.1	3.7	4.3
無回答	0.0	0.0	0.0

※「算定している」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

(3) バイオ後続品を院外処方するにあたって薬局・薬剤師に望むこと（調査票設問3. ④）

バイオ後続品を院外処方するにあたって薬局・薬剤師に望むことについて、「患者に対して、バイオ後続品の品質や有効性、安全性について説明を行うこと」が全体では66.3%で最も多かった。

図表 6-10 バイオ後続品を院外処方するにあたって薬局・薬剤師に望むこと（複数回答）
（バイオ後続品使用体制加算の算定有無別）

	全体	算定している	算定していない、または加算を知らない
回答数（件）	86	17	68
「一般名処方の調剤」または「バイオ後続品への変更調剤」について、予め合意した方法で情報提供を受けること	27.9	23.5	27.9
「一般名処方の調剤」または「バイオ後続品への変更調剤」について、合意方法や頻度によらず情報提供を受けること	19.8	29.4	16.2
患者に対して、バイオ後続品の品質や有効性、安全性について説明を行うこと	66.3	70.6	64.7
患者に対して、バイオ後続品の普及啓発を行うこと	29.1	29.4	27.9
その他	3.5	0.0	4.4
無回答	5.8	5.9	5.9

4) 長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）の選定療養について

(1) 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋の発行経験有無（調査票設問4. ①）

令和7年6月1か月間における選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋の発行経験は「発行あり」が全体では56.2%であった。

図表 6-11 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋の発行経験有無

	割合
回答数（件）	306
ある	56.2
ない	39.2
無回答	4.6

(2) 「特別の料金」による影響や課題（調査票設問4. ④）

「特別の料金」による影響や課題は、「患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担増になっている」が全体では36.3%で最も多かった。

図表 6-12 「特別の料金」による影響や課題（複数回答）

	割合
回答数（件）	306
患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担増になっている	36.3
患者の制度に対する理解が不十分である	28.4
医療関係者への制度に関する周知が不十分である	15.0
その他	3.3
特になし	22.5
わからない	19.6
無回答	9.2

7. 患者調査（郵送調査／インターネット調査）

【調査対象等】

○調査票 患者票（郵送調査）

調査対象：保険薬局調査の対象施設の調査日に来局した患者を調査対象とした。1施設につき2人を本調査の対象とした。

回 答 数：823 人

回 答 者：患者本人もしくは家族

○調査票 患者票（インターネット調査）

調査対象：インターネット調査会社のモニターのうち、直近3か月以内に保険薬局に処方箋を持参した患者。男女別、年齢階級別に対象者数を確定した。

回 答 数：5,000 人

回 答 者：患者本人もしくは家族

（15歳未満の患者等一部患者は保護者同意の下に回答いただいている）

※ クロス集計表に記載されている「全体」はその設問に回答したすべての人数を示している。ただし、クロス集計に使用している設問に未回答の場合、その人数はクロス集計の対象外となる。そのため、「全体」とクロス集計軸の合計数は一致しない場合がある。

※ 単純集計・クロス集計の各図に記載された「回答数（件）」の数値は実際の全回答者数、同じ列のそれ以外の項目の数値は全回答者数に対する設問の選択肢の回答者の割合（％）をそれぞれ示し、オレンジのバーは回答者の割合の大きさを視覚的に表している。

＜調査方法・調査対象の違いと回答結果の特徴＞

- 郵送調査は、保険薬局調査の対象施設の調査日に来局した患者を調査対象としている。性別や年齢階級での割り付けは行っていない。最大で合計3,000人を対象とし823人（男性：女性＝4：6程度）の回答を得た。
- 一方、インターネット調査は、直近3ヶ月以内に保険薬局に処方箋を持って来局した患者を調査対象としている。性・年代ごとに等分（150人ずつ）とし、地域別の割合を人口推計（総務省「人口推計（2024年（令和6年）10月1日現在）」）に比例配分する形とした。5,000人の回答が得られるまで調査を行い、年代別の男女構成比は男性：女性＝1：1、郵送調査と比較すると20歳代以下の割合が多かった。
- 上記のように、郵送調査とインターネット調査では回答者の性別・年代特性に違いがあるため、単純な比較はできないため留意が必要である。
- また、郵送調査とインターネット調査で回答に大きな違いがあったのは下記の点である。
 - ✓ 公的医療保険の種類について年代別にみると、郵送調査では「協会けんぽ」が29.5%で最も多く、インターネット調査では「国保」が32.8%で最も多かった。
 - ✓ ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無について年代別にみると、郵送調査では「20歳代」から「50歳代」までは「経験がない」と回答した方が多く、「60歳代以降」は「経験がある」と回答した方が多くなるのに対して、インターネット調査では全世代において「経験がある」と回答した方が多かった。

患者調査（郵送調査／インターネット調査）

- ✓ ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験の有無について、郵送調査では薬剤師に調剤を頼んだ経験が 85.3%と高く、インターネット調査では 59.1%にとどまった。
- ✓ 特別の料金の認知度について、特別の料金を「知っていた」と回答した割合は郵送調査で 70.3%、インターネット調査で 28.9%と大きな差があり、性別・年代別ともに同様の傾向がみられた。
- 郵送調査とインターネット調査で回答結果に差が出た背景には、調査対象者の属性と薬局の利用頻度の違いがあると推察される。郵送調査は薬局に来局した患者を対象としている。今回の調査票には医療機関や薬局の利用頻度を直接問う設問はないが、「ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験」など、薬局との関わりの深さを示す設問が含まれている。こうした回答結果から、郵送調査は薬局の利用頻度が高い層が多く含まれていると推察される。実際に、郵送調査では薬剤師に調剤を頼んだ経験が 85.3%であったのに対して、インターネット調査では 59.1%にとどまっている。このため、郵送調査の対象者はジェネリック医薬品や特別の料金など医療制度に関する情報に接する機会が多いと考えられる。一方、インターネット調査は年代を均等に割り付けており、若年層など、一般に薬局の利用頻度が比較的低いと考えられる層が含まれており、薬局や医師から説明を受ける機会が限られることも影響していると考えられる。また、インターネット調査は薬局を介さずに自宅で回答する形式であり、医療制度への関心が低い層も参加しやすく、結果として高齢層でも認知度が低くなっている可能性がある。こうした利用状況と情報接触機会の違いが、両調査の結果差を生んだと考えられる。

1) 回答者（患者）について

(1) 性別（調査票設問 1. ①）

回答者の性別は、郵送調査では「男性」が 41.2%、「女性」が 57.0%であった。
インターネット調査では性別にサンプル数を同数で割り付けているため、割合はそれぞれ 50.0%である。

図表 7-1 性別（郵送調査・インターネット調査）

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
男性	 41.2	 50.0
女性	 57.0	 50.0
無回答	 1.7	 0.0

（２）年代（調査票設問１．②）

年代は、郵送調査では全体では「50 歳代」が 20.1%で最も多く、男性では「60 歳代」、女性では「50 歳代」がそれぞれ 21.1%、22.3%で最も多かった。

インターネット調査では、年齢階級別にサンプル数を割り付けているため、性別にみたときの構成割合は男女ともにほぼ同様である。

図表 7-2 年代（性別）
（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	817	337	466
9 歳以下	2.3	2.7	2.1
10 歳代	1.7	1.8	1.5
20 歳代	5.0	4.2	5.8
30 歳代	11.8	11.6	12.2
40 歳代	14.6	11.6	17.0
50 歳代	20.1	17.2	22.3
60 歳代	17.0	21.1	14.2
70 歳代	16.2	17.8	14.6
80 歳代	8.8	10.1	7.7
90 歳以上	1.8	1.2	2.4
無回答	0.7	0.9	0.2

図表 7-3 年代（性別）
（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	5000	2500	2500
9 歳以下	10.0	10.0	10.0
10 歳代	10.0	10.0	10.0
20 歳代	10.0	10.0	10.0
30 歳代	10.0	10.0	10.0
40 歳代	10.0	10.0	10.0
50 歳代	10.0	10.0	10.0
60 歳代	20.0	20.0	20.0
70 歳代	17.1	17.6	16.6
80 歳代	2.5	2.3	2.6
90 歳以上	0.4	0.1	0.8
無回答	0.0	0.0	0.0

（３）公的医療保険の種類（調査票設問１．④）

公的医療保険の種類は、郵送調査・インターネット調査ともに、「60 歳代」以下では「国民健康保険（国保）」「健康保険組合（健保組合）」「全国健康保険協会（協会けんぽ）」が多かった。

図表 7-4 公的医療保険の種類（性別）
（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数(件)	817	337	466
国民健康保険(国保)	21.1	23.7	18.7
健康保険組合(健保組合)	27.1	27.9	26.8
全国健康保険協会(協会けんぽ)	29.5	23.4	34.3
共済組合(共済)	2.6	3.3	2.1
後期高齢者医療広域連合(広域連合)	14.0	16.3	12.0
生活保護	0.4	0.0	0.6
その他	0.0	0.0	0.0
わからない	1.0	0.6	1.1
無回答	4.5	4.7	4.3

図表 7-5 公的医療保険の種類（性別）
（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数(件)	5000	2500	2500
国民健康保険(国保)	32.8	32.0	33.7
健康保険組合(健保組合)	29.1	30.2	27.9
全国健康保険協会(協会けんぽ)	19.4	18.2	20.6
共済組合(共済)	8.2	8.9	7.5
後期高齢者医療広域連合(広域連合)	6.0	7.0	5.0
生活保護	0.5	0.4	0.6
その他	0.3	0.3	0.3
わからない	2.5	2.3	2.7
無回答	1.2	0.7	1.6

図表 7-6 公的医療保険の種類（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数(件)	817	19	14	41	96	119	164	139	132	72	15
国民健康保険(国保)	21.1	0.0	21.4	4.9	8.3	6.7	18.9	40.3	47.0	0.0	0.0
健康保険組合(健保組合)	27.1	57.9	50.0	51.2	47.9	33.6	37.8	22.3	1.5	0.0	0.0
全国健康保険協会(協会けんぽ)	29.5	36.8	28.6	43.9	38.5	52.1	37.2	30.9	6.1	0.0	0.0
共済組合(共済)	2.6	5.3	0.0	0.0	4.2	4.2	4.3	2.9	0.0	0.0	0.0
後期高齢者医療広域連合(広域連合)	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	41.7	59.4	46.7
生活保護	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	6.7
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	2.2	2.3	0.0	0.0
無回答	4.5	0.0	0.0	0.0	1.0	0.8	0.6	1.4	1.5	30.6	46.7

※「9 歳以下」「10 歳代」「90 歳以上」の回答数は 30 件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 7-7 公的医療保険の種類（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数(件)	5000	500	500	500	500	500	500	1000	855	124	21
国民健康保険(国保)	32.8	13.6	20.6	32.8	22.8	21.0	21.8	45.5	61.2	0.0	0.0
健康保険組合(健保組合)	29.1	38.6	36.6	33.0	34.2	39.2	41.4	26.9	8.1	0.0	0.0
全国健康保険協会(協会けんぽ)	19.4	31.2	25.0	16.4	27.8	26.4	22.2	17.1	6.3	0.0	0.0
共済組合(共済)	8.2	13.6	10.8	9.0	11.4	8.4	11.2	7.5	1.5	0.0	0.0
後期高齢者医療広域連合(広域連合)	6.0	0.0	0.6	1.2	0.6	0.2	0.4	1.1	22.2	57.3	57.1
生活保護	0.5	0.0	0.2	0.6	0.0	0.8	1.8	0.6	0.5	0.0	0.0
その他	0.3	0.0	0.8	0.4	0.4	0.6	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0
わからない	2.5	3.0	5.4	6.6	2.8	3.4	0.8	1.0	0.2	2.4	4.8
無回答	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.3	38.1

※「90 歳以上」の回答数は 30 件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

（４）医療費の自己負担額の有無（調査票設問１．⑤）

医療費の自己負担額の有無についてみると、自己負担額が「ある」の割合は、郵送調査では全体で92.9%、インターネット調査では全体で84.5%であった。

年代別にみると、郵送調査・インターネット調査ともに、「10歳代」以下では自己負担額が「ある」の割合は「20歳代」以上に比べて低かった。

図表 7-8 医療費の自己負担額の有無（性別）
（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	817	337	466
ある	92.9	92.0	93.8
ない	7.0	8.0	6.2
無回答	0.1	0.0	0.0

図表 7-9 医療費の自己負担額の有無（性別）
（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	5000	2500	2500
ある	84.5	85.4	83.6
ない	15.5	14.6	16.4
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-10 医療費の自己負担額の有無（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	817	19	14	41	96	119	164	139	132	72	15
ある	92.9	21.1	42.9	95.1	93.8	95.8	97.6	97.1	95.5	93.1	86.7
ない	7.0	78.9	57.1	4.9	6.3	4.2	2.4	2.2	4.5	6.9	13.3
無回答	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0

※「9歳以下」「10歳代」「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 7-11 医療費の自己負担額の有無（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	5000	500	500	500	500	500	500	1000	855	124	21
ある	84.5	36.4	54.4	88.8	93.4	92.8	92.8	96.2	96.8	99.2	90.5
ない	15.5	63.6	45.6	11.2	6.6	7.2	7.2	3.8	3.2	0.8	9.5
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

2) ジェネリック医薬品の使用に関する経験などについて

(1) ジェネリック医薬品に対する認知度（調査票設問2. ①）

ジェネリック医薬品に対する認知度についてみると、「知っていた」の割合は郵送調査・インターネット調査ともに、全体で9割以上であった。

図表 7-12 ジェネリック医薬品に対する認知度（性別）（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	817	337	466
知っていた	96.2	95.3	97.2
名前は聞いたことがあった	3.3	4.5	2.1
知らなかった	0.5	0.3	0.6
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-13 ジェネリック医薬品に対する認知度（性別）（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	5000	2500	2500
知っていた	93.4	93.6	93.2
名前は聞いたことがあった	5.6	5.6	5.6
知らなかった	1.1	0.8	1.3
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-14 ジェネリック医薬品に対する認知度（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	817	19	14	41	96	119	164	139	132	72	15
知っていた	96.2	100.0	100.0	95.1	97.9	96.6	98.8	95.7	94.7	93.1	93.3
名前は聞いたことがあった	3.3	0.0	0.0	4.9	2.1	2.5	1.2	3.6	5.3	5.6	0.0
知らなかった	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.7	0.0	1.4	6.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「9歳以下」「10歳代」「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 7-15 ジェネリック医薬品に対する認知度（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	5000	500	500	500	500	500	500	1000	855	124	21
知っていた	93.4	90.8	89.2	85.2	93.6	93.2	95.8	96.4	97.1	93.5	90.5
名前は聞いたことがあった	5.6	7.4	9.2	12.8	5.0	5.4	3.0	3.2	2.8	6.5	4.8
知らなかった	1.1	1.8	1.6	2.0	1.4	1.4	1.2	0.4	0.1	0.0	4.8
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

（２）ジェネリック医薬品の使用経験の有無（調査票設問２．②）

ジェネリック医薬品の使用経験についてみると、使用したことが「ある」の割合は、郵送調査・インターネット調査ともに、全体で９割以上であった。

図表 7-16 ジェネリック医薬品の使用経験の有無（性別）（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	817	337	466
ある	98.2	98.2	98.3
ない	0.6	0.9	0.4
わからない・覚えていない	1.2	0.9	1.3
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-17 ジェネリック医薬品の使用経験の有無（性別）（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	5000	2500	2500
ある	91.4	91.5	91.3
ない	2.9	3.1	2.6
わからない・覚えていない	5.8	5.4	6.1
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-18 ジェネリック医薬品の使用経験の有無（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	817	19	14	41	96	119	164	139	132	72	15
ある	98.2	94.7	92.9	97.6	97.9	99.2	99.4	97.8	97.7	97.2	100.0
ない	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	1.5	2.8	0.0
わからない・覚えていない	1.2	5.3	7.1	2.4	2.1	0.8	0.6	1.4	0.8	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「9歳以下」「10歳代」「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 7-19 ジェネリック医薬品の使用経験の有無（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	5000	500	500	500	500	500	500	1000	855	124	21
ある	91.4	87.8	87.2	84.4	91.0	93.6	93.8	94.4	94.7	91.1	85.7
ない	2.9	3.6	2.6	6.0	3.0	2.4	1.4	2.7	2.1	2.4	0.0
わからない・覚えていない	5.8	8.6	10.2	9.6	6.0	4.0	4.8	2.9	3.7	6.5	14.3
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「90歳以上」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

（３）ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無（調査票設問２．③）

ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無についてみると、「ある」の割合は郵送調査では全体では36.8%、インターネット調査では全体では63.3%であった。年代別にみると、「ある」の割合について、郵送調査では一定の傾向はみられなかった。インターネット調査では、いずれの年代でも5割以上であった。

図表 7-20 ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無（性別）（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	817	337	466
ある	36.8	41.8	33.0
ない	44.4	42.4	46.1
わからない・覚えていない	18.6	15.7	20.6
無回答	0.1	0.0	0.2

図表 7-21 ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無（性別）（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	5000	2500	2500
ある	63.3	67.4	59.1
ない	22.8	20.5	25.0
わからない・覚えていない	13.9	12.0	15.8
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-22 ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	817	19	14	41	96	119	164	139	132	72	15
ある	36.8	15.8	7.1	34.1	36.5	28.6	39.6	45.3	40.2	34.7	46.7
ない	44.4	78.9	57.1	48.8	47.9	55.5	43.9	39.6	38.6	33.3	13.3
わからない・覚えていない	18.6	5.3	35.7	17.1	15.6	16.0	16.5	15.1	20.5	31.9	40.0
無回答	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0

※「9歳以下」「10歳代」「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 7-23 ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	5000	500	500	500	500	500	500	1000	855	124	21
ある	63.3	55.6	55.4	65.4	68.6	69.0	69.6	62.9	62.3	57.3	61.9
ない	22.8	29.6	25.4	16.4	16.8	19.8	18.2	25.5	25.5	25.0	19.0
わからない・覚えていない	13.9	14.8	19.2	18.2	14.6	11.2	12.2	11.6	12.2	17.7	19.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

（４）ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無（調査票設問２．④）

ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無についてみると、「ある」の割合は郵送調査では全体では72.3%、インターネット調査では78.2%であった。

図表 7-24 ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無（性別）
（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	817	337	466
ある	72.3	74.5	71.0
ない	19.5	17.5	20.8
わからない・覚えていない	8.0	7.4	8.2
無回答	0.2	0.6	0.0

図表 7-25 ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無（性別）
（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	5000	2500	2500
ある	78.2	80.8	75.6
ない	10.6	9.9	11.4
わからない・覚えていない	11.2	9.4	13.0
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-26 ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無（年代別）
（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	817	19	14	41	96	119	164	139	132	72	15
ある	72.3	84.2	78.6	78.0	82.3	78.2	73.2	76.3	60.6	56.9	60.0
ない	19.5	15.8	14.3	17.1	13.5	12.6	18.9	15.8	28.8	30.6	33.3
わからない・覚えていない	8.0	0.0	7.1	4.9	4.2	9.2	7.9	7.9	10.6	9.7	6.7
無回答	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0

※「9歳以下」「10歳代」「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 7-27 ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無（年代別）
（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	5000	500	500	500	500	500	500	1000	855	124	21
ある	78.2	77.2	75.6	74.0	81.2	83.4	83.0	78.2	75.9	73.4	71.4
ない	10.6	9.4	11.2	11.2	6.8	8.2	7.6	11.9	13.9	15.3	14.3
わからない・覚えていない	11.2	13.4	13.2	14.8	12.0	8.4	9.4	9.9	10.2	11.3	14.3
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

（５）ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験の有無（調査票設問２．⑤）

ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験の有無についてみると、「ある」の割合は郵送調査では全体では 85.3%、インターネット調査では 59.1%であった。

図表 7-28 ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験の有無（性別）
（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	817	337	466
ある	85.3	84.9	86.1
ない	7.6	8.9	6.7
わからない・覚えていない	7.1	6.2	7.3
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-29 ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験の有無（性別）
（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	5000	2500	2500
ある	59.1	59.0	59.1
ない	29.2	29.4	29.0
わからない・覚えていない	11.7	11.5	11.9
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-30 ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験の有無（年代別）
（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	817	19	14	41	96	119	164	139	132	72	15
ある	85.3	78.9	71.4	75.6	87.5	84.0	89.0	83.5	86.4	88.9	73.3
ない	7.6	15.8	7.1	14.6	9.4	5.0	6.7	7.9	7.6	5.6	6.7
わからない・覚えていない	7.1	5.3	21.4	9.8	3.1	10.9	4.3	8.6	6.1	5.6	20.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「9歳以下」「10歳代」「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 7-31 ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験の有無（年代別）
（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	5000	500	500	500	500	500	500	1000	855	124	21
ある	59.1	53.2	51.0	52.2	63.2	66.0	66.6	61.5	58.9	52.4	38.1
ない	29.2	29.2	33.4	26.8	24.8	22.8	24.6	31.1	33.5	40.3	33.3
わからない・覚えていない	11.7	17.6	15.6	21.0	12.0	11.2	8.8	7.4	7.6	7.3	28.6
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

3) ジェネリック医薬品のある先発医薬品の使用に関する考えについて

- ✓ 令和6年10月から後発医薬品(ジェネリック医薬品)があるお薬で、先発医薬品の処方を希望される場合は、都度ごとに特別の料金を支払うこととなった。
- ✓ 特別の料金とは先発医薬品と後発医薬品（ジェネリック医薬品）の価格差の4分の1相当の料金のことを言う。



(1) 特別の料金の認知度（調査票設問3. ①）

「特別の料金」の認知度についてみると、「知っていた」の割合は、郵送調査では全体では70.3%、インターネット調査では全体では28.9%であった。

年代別にみると、「知っていた」の割合は、郵送調査では「70歳代」以上において他の年代よりも低い傾向が見られた。インターネット調査ではいずれの年代でも郵送調査よりも低い傾向が見られた。

図表 7-32 特別の料金の認知度（性別）（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	817	337	466
知っていた	70.3	64.7	75.5
知らなかった	29.5	35.0	24.2
無回答	0.2	0.3	0.2

図表 7-33 特別の料金の認知度（性別）（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	5000	2500	2500
知っていた	28.9	28.4	29.4
知らなかった	71.1	71.6	70.6
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-34 特別の料金の認知度（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	817	19	14	41	96	119	164	139	132	72	15
知っていた	70.3	89.5	50.0	85.4	82.3	83.2	78.7	74.8	50.0	41.7	33.3
知らなかった	29.5	10.5	50.0	14.6	17.7	16.8	21.3	25.2	49.2	58.3	60.0
無回答	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	6.7

※「9歳以下」「10歳代」「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 7-35 特別の料金の認知度（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	5000	500	500	500	500	500	500	1000	855	124	21
知っていた	28.9	27.2	32.4	31.0	33.4	28.4	30.4	26.7	26.4	25.0	33.3
知らなかった	71.1	72.8	67.6	69.0	66.6	71.6	69.6	73.3	73.6	75.0	66.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

（２）特別の料金を支払った経験の有無（調査票設問３．②）

「特別の料金」を支払った経験の有無についてみると、「支払った」の割合は、郵送調査では全体では 5.4%、インターネット調査では 9.2%であった。

図表 7-36 特別の料金を支払った経験の有無（性別）（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	817	337	466
支払った	5.4	4.5	6.2
支払っていない	79.1	78.9	79.4
わからない	14.6	16.3	13.1
無回答	1.0	0.3	1.3

図表 7-37 特別の料金を支払った経験の有無（性別）（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	5000	2500	2500
支払った	9.2	9.9	8.6
支払っていない	50.7	51.1	50.2
わからない	40.1	39.0	41.2
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-38 特別の料金を支払った経験の有無（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	817	19	14	41	96	119	164	139	132	72	15
支払った	5.4	0.0	0.0	2.4	4.2	5.9	6.1	4.3	6.1	9.7	0.0
支払っていない	79.1	94.7	64.3	87.8	85.4	80.7	79.9	81.3	73.5	65.3	86.7
わからない	14.6	5.3	35.7	9.8	10.4	12.6	14.0	13.7	18.2	22.2	13.3
無回答	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.7	2.3	2.8	0.0

※「9歳以下」「10歳代」「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 7-39 特別の料金を支払った経験の有無（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	5000	500	500	500	500	500	500	1000	855	124	21
支払った	9.2	3.6	6.8	12.8	12.8	11.8	8.6	9.0	9.0	8.9	9.5
支払っていない	50.7	60.0	55.8	44.4	47.2	46.2	49.2	50.0	53.6	44.4	33.3
わからない	40.1	36.4	37.4	42.8	40.0	42.0	42.2	41.0	37.4	46.8	57.1
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「90歳以上」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

（３）特別の料金を支払った金額（調査票設問３．②－１）

「特別の料金」を「支払った」と回答した者について、支払った金額についてみると、郵送調査では「500 円未満」が 50.0%で最も多く、平均値は 560.6 円だった。インターネット調査では「2000 円以上」が 31.8%で最も多く、平均値は 2,823.3 円だった。

図表 7-40 支払った金額（性別）
（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	44	15	29
500円未満	50.0	46.7	51.7
500～999円	9.1	6.7	10.3
1000～1499円	4.5	0.0	6.9
1500～1999円	0.0	0.0	0.0
2000円以上	6.8	6.7	6.9
無回答	29.5	40.0	24.1

図表 7-41 支払った金額（性別）
（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	462	248	214
500円未満	24.9	21.8	28.5
500～999円	16.0	12.1	20.6
1000～1499円	17.5	19.0	15.9
1500～1999円	6.1	6.5	5.6
2000円以上	31.8	38.3	24.3
無回答	3.7	2.4	5.1

※ 郵送調査の「男性」「女性」の回答数は 30 件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 7-42 支払った金額（年代別）（郵送調査）

	全体	9 歳以下	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	90 歳以上
回答数（件）	44	0	0	1	4	7	10	6	8	7	0
500円未満	50.0	0.0	0.0	0.0	75.0	85.7	50.0	33.3	50.0	28.6	0.0
500～999円	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	28.6	0.0
1000～1499円	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1500～1999円	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2000円以上	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	16.7	0.0	14.3	0.0
無回答	29.5	0.0	0.0	100.0	25.0	14.3	30.0	50.0	25.0	28.6	0.0

※ クロス集計の全ての項目の回答数は 30 件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 7-43 支払った金額（年代別）（インターネット調査）

	全体	9 歳以下	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	90 歳以上
回答数（件）	462	18	34	64	64	59	43	90	77	11	2
500円未満	24.9	55.6	44.1	9.4	20.3	10.2	30.2	25.6	32.5	27.3	50.0
500～999円	16.0	16.7	14.7	9.4	17.2	11.9	16.3	14.4	22.1	45.5	0.0
1000～1499円	17.5	11.1	14.7	18.8	14.1	27.1	9.3	12.2	24.7	18.2	50.0
1500～1999円	6.1	0.0	5.9	10.9	4.7	6.8	4.7	6.7	5.2	0.0	0.0
2000円以上	31.8	11.1	14.7	51.6	37.5	44.1	34.9	37.8	10.4	0.0	0.0
無回答	3.7	5.6	5.9	0.0	6.3	0.0	4.7	3.3	5.2	9.1	0.0

※ 「9 歳以下」「80 歳代」「90 歳以上」の回答数は 30 件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

（４）先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えようと思う特別の料金の程度（調査補票設問３．②－３）

「特別の料金」を「支払った」と回答した者について、特別の料金が具体的にいくらになれば、先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えようと思うか尋ねたところ、郵送調査では「特別の料金がいくらであろうと、先発医薬品を選択する」が34.1%で最も多く、インターネット調査では「501円～1000円」が19.5%で最も多かった。

図表 7-44 先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えようと思う特別の料金の程度（性別）（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	44	15	29
1円～500円	9.1	20.0	3.4
501円～1,000円	20.5	0.0	31.0
1,001円～2,000円	6.8	6.7	6.9
2,001円～3,000円	2.3	0.0	3.4
3,001円以上	11.4	20.0	6.9
特別の料金がいくらであろうと、先発医薬品を選択する	34.1	33.3	34.5
現在の特別の料金でもそのうち切り替える	2.3	0.0	3.4
わからない	11.4	20.0	6.9
無回答	2.3	0.0	3.4

図表 7-45 先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えようと思う特別の料金の程度（性別）（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	462	248	214
1円～500円	12.1	11.3	13.1
501円～1,000円	19.5	18.5	20.6
1,001円～2,000円	16.7	21.0	11.7
2,001円～3,000円	11.7	13.7	9.3
3,001円以上	10.2	12.9	7.0
特別の料金がいくらであろうと、先発医薬品を選択する	12.1	11.3	13.1
現在の特別の料金でもそのうち切り替える	3.5	1.6	5.6
わからない	14.3	9.7	19.6
無回答	0.0	0.0	0.0

※ 郵送調査の「男性」「女性」の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 7-46 先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えようと思う特別の料金の程度（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	44	0	0	1	4	7	10	6	8	7	0
1円～500円	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	16.7	12.5	14.3	0.0
501円～1,000円	20.5	0.0	0.0	0.0	25.0	28.6	30.0	0.0	12.5	28.6	0.0
1,001円～2,000円	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	16.7	12.5	0.0	0.0
2,001円～3,000円	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3,001円以上	11.4	0.0	0.0	0.0	25.0	14.3	20.0	0.0	12.5	0.0	0.0
特別の料金がいくらであろうと、先発医薬品を選択する	34.1	0.0	0.0	0.0	25.0	28.6	20.0	33.3	37.5	57.1	0.0
現在の特別の料金でもそのうち切り替える	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	11.4	0.0	0.0	100.0	25.0	0.0	10.0	33.3	0.0	0.0	0.0
無回答	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0

※ クロス集計の全ての項目の回答数は30件未満でサンプル数が十分ではないため、参考値として掲載しており、解釈には注意が必要である。

図表 7-47 先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えようと思う特別の料金の程度（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	462	18	34	64	64	59	43	90	77	11	2
1円～500円	12.1	22.2	14.7	4.7	18.8	8.5	11.6	13.3	10.4	18.2	0.0
501円～1,000円	19.5	33.3	29.4	26.6	12.5	13.6	11.6	16.7	22.1	36.4	0.0
1,001円～2,000円	16.7	11.1	2.9	26.6	23.4	23.7	20.9	8.9	14.3	0.0	0.0
2,001円～3,000円	11.7	0.0	2.9	20.3	18.8	18.6	9.3	8.9	6.5	0.0	0.0
3,001円以上	10.2	5.6	14.7	12.5	9.4	13.6	16.3	10.0	3.9	0.0	0.0
特別の料金がいくらであろうと、先発医薬品を選択する	12.1	5.6	17.6	1.6	6.3	6.8	7.0	20.0	19.5	27.3	50.0
現在の特別の料金でもそのうち切り替える	3.5	5.6	5.9	0.0	3.1	5.1	2.3	6.7	1.3	0.0	0.0
わからない	14.3	16.7	11.8	7.8	7.8	10.2	20.9	15.6	22.1	18.2	50.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※ 「9歳以下」「80歳代」「90歳以上」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

（５）特別の料金を支払っていない理由（調査票設問３．②－４）

「特別の料金」を「支払っていない」と回答した者について、その理由を尋ねたところ、郵送調査・インターネット調査ともに「従来からジェネリック医薬品を使用していたため」がそれぞれ 73.4%、71.4% で最も多かった。郵送調査では、全体では次いで「医療機関又は薬局にジェネリック医薬品の在庫がなかったため」が 14.2% で多かった。

図表 7-48 特別の料金を支払っていない理由
【複数回答】（性別）
（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	646	266	370
先発医薬品を使用する医療上の必要があったため	4.5	5.6	3.8
医療機関又は薬局にジェネリック医薬品の在庫がなかったため	14.2	12.4	15.9
これまで先発医薬品を使用していたが、特別の料金を支払いたくないので、ジェネリック医薬品へ変更したため	5.6	3.8	7.0
従来からジェネリック医薬品を使用していたため	73.4	77.8	70.0
無回答	9.3	6.8	10.8

図表 7-49 特別の料金を支払っていない理由
【複数回答】（性別）
（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	2534	1278	1256
先発医薬品を使用する医療上の必要があったため	8.1	7.3	8.9
医療機関又は薬局にジェネリック医薬品の在庫がなかったため	9.2	10.4	7.9
これまで先発医薬品を使用していたが、特別の料金を支払いたくないので、ジェネリック医薬品へ変更したため	10.3	9.9	10.7
従来からジェネリック医薬品を使用していたため	71.4	71.5	71.3
無回答	5.1	4.8	5.3

図表 7-50 特別の料金を支払っていない理由（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	646	18	9	36	82	96	131	113	97	47	13
先発医薬品を使用する医療上の必要があったため	4.5	11.1	0.0	8.3	3.7	5.2	4.6	0.9	7.2	4.3	0.0
医療機関又は薬局にジェネリック医薬品の在庫がなかったため	14.2	44.4	11.1	11.1	12.2	15.6	9.2	9.7	17.5	21.3	23.1
これまで先発医薬品を使用していたが、特別の料金を支払いたくないので、ジェネリック医薬品へ変更したため	5.6	5.6	11.1	2.8	9.8	5.2	3.8	6.2	5.2	4.3	7.7
従来からジェネリック医薬品を使用していたため	73.4	72.2	77.8	75.0	80.5	68.8	80.2	75.2	64.9	63.8	76.9
無回答	9.3	5.6	0.0	2.8	4.9	12.5	7.6	11.5	11.3	12.8	7.7

※「9歳以下」「10歳代」「90歳以上」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

図表 7-51 特別の料金を支払っていない理由（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	2534	300	279	222	236	231	246	500	458	55	7
先発医薬品を使用する医療上の必要があったため	8.1	4.7	10.4	10.8	5.1	7.8	9.3	9.2	7.6	3.6	28.6
医療機関又は薬局にジェネリック医薬品の在庫がなかったため	9.2	7.3	13.3	13.5	16.1	9.1	9.3	7.0	5.2	3.6	0.0
これまで先発医薬品を使用していたが、特別の料金を支払いたくないので、ジェネリック医薬品へ変更したため	10.3	11.7	14.0	9.9	11.9	9.5	8.9	9.4	8.5	10.9	14.3
従来からジェネリック医薬品を使用していたため	71.4	69.7	62.4	66.7	70.3	72.3	72.8	73.2	77.3	78.2	57.1
無回答	5.1	12.7	6.8	1.8	2.1	3.9	5.3	4.2	3.5	5.5	0.0

※「90歳以上」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

4) ジェネリック医薬品の使用に関する考えや、使用促進の取組について

(1) ジェネリック医薬品使用に関する考えに最も近いもの（調査票設問4. ①）

ジェネリック医薬品使用に関する考えについてみると、郵送調査では、全体では「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」が46.5%で最も多く、次いで「できればジェネリック医薬品を使いたい」が32.2%であった。年代別にみると、「できればジェネリック医薬品を使いたい」は「20歳代」「30歳代」で4割以上と他の年代に比べて高い傾向がみられた。

インターネット調査では、全体では「できればジェネリック医薬品を使いたい」が40.8%で最も多く、次いで「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」が26.2%であった。年代別にみると、「できればジェネリック医薬品を使いたい」は「30歳代」から「80歳代」において4割以上と他の年代に比べて高い傾向がみられた。

図表 7-52 ジェネリック医薬品使用に関する考えに最も近いもの（性別）（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	817	337	466
できればジェネリック医薬品を使いたい	32.2	32.9	32.2
とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい	8.9	7.7	10.1
できればジェネリック医薬品を使いたくない	8.2	7.7	8.8
ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない	46.5	48.4	44.0
わからない	3.5	3.0	4.1
無回答	0.6	0.3	0.9

	全体	男性	女性
回答数（件）	5000	2500	2500
できればジェネリック医薬品を使いたい	40.8	43.8	37.8
とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい	14.8	14.9	14.8
できればジェネリック医薬品を使いたくない	9.9	9.1	10.7
ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない	26.2	25.0	27.5
わからない	8.2	7.3	9.2
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-54 ジェネリック医薬品使用に関する考えに最も近いもの（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	817	19	14	41	96	119	164	139	132	72	15
できればジェネリック医薬品を使いたい	32.2	21.1	21.4	46.3	41.7	34.5	33.5	25.9	23.5	33.3	60.0
とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい	8.9	0.0	14.3	14.6	6.3	10.1	10.4	12.2	8.3	2.8	0.0
できればジェネリック医薬品を使いたくない	8.2	10.5	14.3	2.4	5.2	5.9	9.1	10.8	12.1	5.6	0.0
ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない	46.5	68.4	50.0	34.1	43.8	48.7	43.9	43.2	50.8	51.4	33.3
わからない	3.5	0.0	0.0	2.4	3.1	0.8	3.0	7.2	3.0	5.6	6.7
無回答	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	2.3	1.4	0.0

※「9歳以下」「10歳代」「90歳以上」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

図表 7-55 ジェネリック医薬品使用に関する考えに最も近いもの（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	5000	500	500	500	500	500	500	1000	855	124	21
できればジェネリック医薬品を使いたい	40.8	28.2	26.2	36.8	40.6	40.2	45.0	47.5	48.7	46.8	23.8
とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい	14.8	16.8	16.4	19.8	17.6	16.2	15.2	12.4	11.1	8.9	9.5
できればジェネリック医薬品を使いたくない	9.9	8.2	11.4	5.4	8.4	10.0	8.6	11.9	11.5	11.3	19.0
ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない	26.2	35.2	34.0	25.0	25.2	25.8	23.4	22.5	23.7	28.2	28.6
わからない	8.2	11.6	12.0	13.0	8.2	7.8	7.8	5.7	5.0	4.8	19.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「90歳以上」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

（２）ジェネリック医薬品を使用する上で重要なこと（調査票設問４．②）

ジェネリック医薬品を使用するにあたって重要なことを尋ねたところ、郵送調査では、全体では「効果（効き目）が先発医薬品と同じであること」が81.6%で最も多く、次いで「窓口で支払う薬代が安くなること」が55.2%であった。

インターネット調査では、全体では「効果（効き目）が先発医薬品と同じであること」が75.0%で最も多く、次いで「副作用の不安が少ないこと」が45.5%であった。

図表 7-56 ジェネリック医薬品を使用する上で
重要なこと【複数回答】（性別）
（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	817	337	466
効果（効き目）が先発医薬品と同じであること	81.6	81.0	82.0
使用感（味を含む）がよいこと	23.1	18.4	26.6
副作用の不安が少ないこと	43.7	40.7	45.3
有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること	20.8	17.5	23.2
先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえること	16.0	16.6	15.2
医師のすすめがあること	11.6	13.1	10.3
薬剤師のすすめがあること	19.8	21.4	18.7
窓口で支払う薬代が安くなること	55.2	50.7	58.8
医療費が安くなり、医療保険制度の持続可能性に貢献すること	29.5	30.9	29.2
その他	0.7	1.2	0.4
特になし	2.8	3.0	2.6
無回答	0.2	0.0	0.4

図表 7-57 ジェネリック医薬品を使用する上で
重要なこと【複数回答】（性別）
（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	5000	2500	2500
効果（効き目）が先発医薬品と同じであること	75.0	72.7	77.4
使用感（味を含む）がよいこと	13.9	12.5	15.2
副作用の不安が少ないこと	45.5	41.8	49.2
有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること	27.7	25.0	30.4
先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえること	22.0	19.2	24.8
医師のすすめがあること	18.9	18.3	19.5
薬剤師のすすめがあること	18.7	17.9	19.4
窓口で支払う薬代が安くなること	44.3	42.8	45.8
医療費が安くなり、医療保険制度の持続可能性に貢献すること	27.3	26.4	28.1
その他	0.5	0.6	0.4
特になし	8.1	9.4	6.9
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-58 ジェネリック医薬品を使用する上で重要なこと【複数回答】
（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	817	19	14	41	96	119	164	139	132	72	15
効果（効き目）が先発医薬品と同じであること	81.6	84.2	92.9	80.5	72.9	81.5	87.2	79.1	78.8	86.1	86.7
使用感（味を含む）がよいこと	23.1	52.6	64.3	39.0	30.2	26.9	15.9	20.9	19.7	12.5	20.0
副作用の不安が少ないこと	43.7	47.4	57.1	46.3	40.6	47.9	42.7	41.0	44.7	41.7	33.3
有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること	20.8	5.3	21.4	14.6	18.8	21.0	22.6	28.8	22.0	15.3	0.0
先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえること	16.0	15.8	28.6	12.2	12.5	16.0	13.4	19.4	16.7	19.4	6.7
医師のすすめがあること	11.6	5.3	21.4	9.8	5.2	9.2	10.4	13.7	18.2	13.9	0.0
薬剤師のすすめがあること	19.8	10.5	7.1	17.1	14.6	16.8	17.7	20.9	22.7	33.3	26.7
窓口で支払う薬代が安くなること	55.2	63.2	64.3	63.4	67.7	59.7	54.3	44.6	47.0	56.9	73.3
医療費が安くなり、医療保険制度の持続可能性に貢献すること	29.5	31.6	14.3	31.7	21.9	36.1	32.3	32.4	27.3	25.0	26.7
その他	0.7	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.6	1.4	0.8	1.4	0.0
特になし	2.8	0.0	0.0	0.0	6.3	2.5	1.8	4.3	2.3	1.4	6.7
無回答	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0

※「9歳以下」「10歳代」「90歳以上」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

図表 7-59 ジェネリック医薬品を使用する上で重要なこと【複数回答】
（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	5000	500	500	500	500	500	500	1000	855	124	21
効果（効き目）が先発医薬品と同じであること	75.0	74.4	73.4	56.4	65.0	70.8	81.2	81.2	83.3	85.5	76.2
使用感（味を含む）がよいこと	13.9	18.0	20.6	16.2	16.0	15.8	9.0	12.4	9.1	8.9	9.5
副作用の不安が少ないこと	45.5	52.6	46.4	36.6	41.4	44.4	42.6	46.4	48.8	46.8	66.7
有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること	27.7	27.4	30.6	18.2	20.6	24.2	25.4	30.9	35.0	28.2	42.9
先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえること	22.0	21.8	25.8	15.2	21.2	19.2	21.4	23.7	23.6	26.6	23.8
医師のすすめがあること	18.9	16.6	17.6	14.0	12.8	16.6	20.4	19.7	25.4	29.8	19.0
薬剤師のすすめがあること	18.7	19.0	18.8	12.8	14.2	16.2	18.6	20.2	24.1	21.8	4.8
窓口で支払う薬代が安くなること	44.3	43.2	39.8	33.2	43.4	40.4	48.6	48.1	49.7	44.4	47.6
医療費が安くなり、医療保険制度の持続可能性に貢献すること	27.3	23.4	26.4	17.0	25.0	21.2	26.6	30.0	36.7	35.5	33.3
その他	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	1.0	0.4	0.3	0.8	0.0	0.0
特になし	8.1	10.6	9.6	17.0	10.2	8.0	6.0	5.5	4.2	6.5	4.8
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「90歳以上」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

5) バイオ医薬品の使用に関する考えや、使用促進の取組について

- ✓ 本調査では、以下に挙げる疾患（以下「特定の疾患」という）の治療のために通院しているか尋ねた上で、バイオ医薬品の使用状況等について調査した。

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| ■ 糖尿病 | ■ クローン病、潰瘍性大腸炎 |
| ■ 骨粗鬆症 | ■ ベーチェット病 |
| ■ 腎性貧血 | ■ がん（リンパ腫） |
| ■ 成長ホルモン分泌不全性低身長症 | ■ がん（乳がん、胃がん） |
| ■ ファブリー病 | ■ がん（結腸・直腸がん、肺がん、卵巣がん） |
| ■ 加齢黄斑変性、黄斑浮腫、脈絡膜、新生血管、糖尿病黄斑浮腫 | ■ 好中球減少症 |
| ■ 関節リウマチ | ■ 尋常性乾癬、関節性乾癬 |

（1）特定の疾患の治療のための通院状況（調査票設問5. ①）

特定の疾患の治療のために通院しているか尋ねたところ、「通院あり」の割合は、郵送調査では、全体では20.8%、インターネット調査では15.9%であった。

年代別にみると、「通院あり」は郵送調査では「50歳代」以上、インターネット調査では「60歳代以上」において2割超であった。

図表 7-60 特定の疾患の治療のための通院状況（性別）
（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	817	337	466
通院あり	20.8	19.6	21.7
通院なし	76.9	78.6	75.8
無回答	2.3	1.8	2.6

図表 7-61 特定の疾患の治療のための通院状況（性別）
（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	5000	2500	2500
通院あり	15.9	15.5	16.4
通院なし	84.1	84.5	83.6
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-62 特定の疾患の治療のための通院状況（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	817	19	14	41	96	119	164	139	132	72	15
通院あり	20.8	5.3	7.1	4.9	3.1	10.1	20.7	25.9	35.6	38.9	26.7
通院なし	76.9	94.7	92.9	95.1	94.8	88.2	79.3	73.4	56.8	58.3	56.7
無回答	2.3	0.0	0.0	0.0	2.1	1.7	0.0	0.7	7.6	2.8	6.7

※「9歳以下」「10歳代」「90歳以上」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

図表 7-63 特定の疾患の治療のための通院状況（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	5000	500	500	500	500	500	500	1000	855	124	21
通院あり	15.9	2.4	3.4	11.4	12.8	13.0	17.6	22.6	26.5	29.0	23.8
通院なし	84.1	97.6	96.6	88.6	87.2	87.0	82.4	77.4	73.5	71.0	76.2
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「90歳以上」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

（２）通院している疾患名（調査票設問５．①－１）

特定の疾患※の治療のために通院していると回答した者について、当該疾患を尋ねたところ、郵送調査・インターネット調査ともに、「男性」では「糖尿病」、「女性」では「骨粗鬆症」がそれぞれ最も多かった。

※患者調査「５）バイオ医薬品の使用に関する考えや、使用促進の取組について」（P93）参照

図表 7-64 通院している疾患名（複数回答）
（性別）（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	170	66	101
糖尿病	48.2	78.8	27.7
骨粗鬆症	36.5	7.6	55.4
腎性貧血	1.8	3.0	1.0
成長ホルモン分泌不全性低身長症	0.6	0.0	1.0
ファブリー病	0.0	0.0	0.0
加齢黄斑変性、黄斑浮腫、脈絡膜、新生血管、糖尿病黄斑浮腫	2.9	3.0	3.0
関節リウマチ	7.1	1.5	10.9
クローン病、潰瘍性大腸炎	4.1	4.5	4.0
ベーチェット病	0.0	0.0	0.0
がん（リンパ腫）	0.0	0.0	0.0
がん（乳がん、胃がん）	7.1	0.0	11.9
がん（結腸・直腸がん、肺がん、卵巣がん）	2.4	4.5	1.0
好中球減少症	0.6	1.5	0.0
尋常性乾癬、関節性乾癬	2.4	3.0	2.0
無回答	1.8	3.0	1.0

図表 7-65 通院している疾患名（複数回答）
（性別）（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	797	388	409
糖尿病	43.7	61.6	26.7
骨粗鬆症	24.0	6.4	40.6
腎性貧血	3.1	3.6	2.7
成長ホルモン分泌不全性低身長症	3.0	3.6	2.4
ファブリー病	1.1	1.8	0.5
加齢黄斑変性、黄斑浮腫、脈絡膜、新生血管、糖尿病黄斑浮腫	3.3	2.8	3.7
関節リウマチ	9.2	6.4	11.7
クローン病、潰瘍性大腸炎	4.8	4.9	4.6
ベーチェット病	1.1	1.5	0.7
がん（リンパ腫）	2.4	2.8	2.0
がん（乳がん、胃がん）	6.4	2.8	9.8
がん（結腸・直腸がん、肺がん、卵巣がん）	6.0	8.2	3.9
好中球減少症	0.8	0.5	1.0
尋常性乾癬、関節性乾癬	4.5	5.4	3.7
無回答	0.0	0.0	0.0

患者調査（郵送調査／インターネット調査）

図表 7-66 通院している疾患名（複数回答）（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	170	1	1	2	3	12	34	36	47	28	4
糖尿病	48.2	0.0	100.0	0.0	33.3	50.0	41.2	55.6	46.8	50.0	50.0
骨粗鬆症	36.5	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	17.6	33.3	48.9	50.0	100.0
腎性貧血	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	2.1	0.0	0.0
成長ホルモン分泌不全性低身長症	0.6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ファブリー病	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
加齢黄斑変性、黄斑浮腫、脈絡膜、新生血管、糖尿病黄斑浮腫	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	2.9	0.0	4.3	3.6	0.0
関節リウマチ	7.1	0.0	0.0	50.0	0.0	16.7	8.8	5.6	4.3	7.1	0.0
クローン病、潰瘍性大腸炎	4.1	0.0	0.0	50.0	0.0	8.3	11.8	2.8	0.0	0.0	0.0
ベーチェット病	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
がん（リンパ腫）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
がん（乳がん、胃がん）	7.1	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	17.6	2.8	2.1	3.6	0.0
がん（結腸・直腸がん、肺がん、卵巣がん）	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	6.4	0.0	0.0
好中球減少症	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0
尋常性乾癬、関節性乾癬	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	2.8	2.1	0.0	0.0
無回答	1.8	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	2.9	0.0	2.1	0.0	0.0

※「40歳代」以下及び「80歳代」以上の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

図表 7-67 通院している疾患名（複数回答）（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	797	12	17	57	64	65	88	226	227	36	5
糖尿病	43.7	41.7	11.8	38.6	34.4	40.0	54.5	46.9	46.3	33.3	0.0
骨粗鬆症	24.0	16.7	5.9	8.8	15.6	9.2	14.8	24.3	35.7	38.9	80.0
腎性貧血	3.1	0.0	11.8	12.3	6.3	7.7	3.4	1.3	0.0	0.0	20.0
成長ホルモン分泌不全性低身長症	3.0	25.0	29.4	7.0	7.8	9.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0
ファブリー病	1.1	0.0	0.0	7.0	3.1	3.1	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0
加齢黄斑変性、黄斑浮腫、脈絡膜、新生血管、糖尿病黄斑浮腫	3.3	0.0	5.9	8.8	4.7	1.5	1.1	2.7	3.1	5.6	0.0
関節リウマチ	9.2	8.3	17.6	7.0	7.8	12.3	11.4	9.7	7.9	5.6	0.0
クローン病、潰瘍性大腸炎	4.8	0.0	17.6	12.3	15.6	6.2	4.5	1.8	2.2	2.8	0.0
ベーチェット病	1.1	0.0	0.0	0.0	6.3	3.1	2.3	0.4	0.0	0.0	0.0
がん（リンパ腫）	2.4	0.0	5.9	5.3	6.3	1.5	0.0	2.2	1.8	2.8	0.0
がん（乳がん、胃がん）	6.4	0.0	5.9	3.5	1.6	13.8	9.1	5.8	5.7	11.1	0.0
がん（結腸・直腸がん、肺がん、卵巣がん）	6.0	0.0	5.9	1.8	4.7	7.7	2.3	8.8	5.7	8.3	0.0
好中球減少症	0.8	8.3	0.0	5.3	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
尋常性乾癬、関節性乾癬	4.5	0.0	5.9	10.5	6.3	4.6	6.8	4.4	2.6	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「9歳代以下」「10歳代」及び「90歳以上」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

（３）バイオ後続品（バイオシミラー）の認知度（調査票設問５．②）

「バイオ後続品（バイオシミラー）」の認知度についてみると、「知っていた」の割合は、郵送調査では、全体では22.2%、インターネット調査では6.8%であった。

特定の疾患*での通院の有無別にみると、「知っていた」の割合は、郵送調査では「通院あり」（14.7%）よりも「通院なし」（24.4%）のほうが高い傾向がみられた。

インターネット調査では、「通院あり」（16.3%）のほうが「通院なし」（5.0%）よりも高い傾向がみられた。

※患者調査「５）バイオ医薬品の使用に関する考えや、使用促進の取組について」（P93）参照

図表 7-68 バイオ後続品（バイオシミラー）の認知度（性別）（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	817	337	466
知っていた	22.2	27.9	18.5
知らなかった	76.9	71.2	80.5
無回答	1.0	0.9	1.1

図表 7-69 バイオ後続品（バイオシミラー）の認知度（性別）（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	5000	2500	2500
知っていた	6.8	7.8	5.9
知らなかった	93.2	92.2	94.1
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-70 バイオ後続品（バイオシミラー）の認知度（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	817	19	14	41	96	119	164	139	132	72	15
知っていた	22.2	31.6	14.3	36.6	35.4	27.7	28.0	21.6	8.3	4.2	0.0
知らなかった	76.9	68.4	85.7	63.4	64.6	71.4	70.7	77.7	88.6	95.8	100.0
無回答	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.2	0.7	3.0	0.0	0.0

※「9歳以下」「10歳代」及び「90歳以上」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として参照する必要がある。

図表 7-71 バイオ後続品（バイオシミラー）の認知度（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	5000	500	500	500	500	500	500	1000	855	124	21
知っていた	6.8	3.0	5.4	14.0	11.0	8.2	7.0	5.2	4.3	7.3	0.0
知らなかった	93.2	97.0	94.6	86.0	89.0	91.8	93.0	94.8	95.7	92.7	100.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「90歳以上」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

図表 7-72 バイオ後続品（バイオシミラー）の認知度（特定の疾患での通院の有無別）（郵送調査）

	全体	通院あり	通院なし
回答数（件）	817	170	628
知っていた	22.2	14.7	24.4
知らなかった	76.9	82.9	75.3
無回答	1.0	2.4	0.3

図表 7-73 バイオ後続品（バイオシミラー）の認知度（特定の疾患での通院の有無別）（インターネット調査）

	全体	通院あり	通院なし
回答数（件）	5000	797	4203
知っていた	6.8	16.3	5.0
知らなかった	93.2	83.7	95.0
無回答	0.0	0.0	0.0

（４）バイオ後続品（バイオシミラー）の使用経験の有無（調査票設問５．③）

バイオ後続品（バイオシミラー）について「知っていた」と回答した者について、使用経験の有無を尋ねたところ、使用経験が「ある」と回答した割合は、郵送調査では、全体では3.3%、インターネット調査では21.4%であった。

特定の疾患*での通院の有無別にみると、使用経験が「ある」と回答した割合は、郵送調査では「通院あり」の患者では16.0%、インターネット調査では46.9%であった。

※患者調査「５）バイオ医薬品の使用に関する考えや、使用促進の取組について」（P93）参照

図表 7-74 バイオ後続品（バイオシミラー）の使用経験の有無（性別）（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	181	94	86
ある	3.3	2.1	4.7
ない	93.9	97.9	89.5
わからない	1.7	0.0	3.5
無回答	1.1	0.0	2.3

図表 7-75 バイオ後続品（バイオシミラー）の使用経験の有無（性別）（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	341	194	147
ある	21.4	24.2	17.7
ない	71.0	69.1	73.5
わからない	7.6	6.7	8.8
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-76 バイオ後続品（バイオシミラー）の使用経験の有無（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	181	6	2	15	34	33	46	30	11	3	0
ある	3.3	16.7	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	6.7	9.1	33.3	0.0
ない	93.9	83.3	100.0	93.3	94.1	93.9	100.0	93.3	90.9	33.3	0.0
わからない	1.7	0.0	0.0	6.7	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
無回答	1.1	0.0	0.0	0.0	2.9	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「20歳代」以下及び「70歳代」以上の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

図表 7-77 バイオ後続品（バイオシミラー）の使用経験の有無（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	341	15	27	70	55	41	35	52	37	9	0
ある	21.4	6.7	14.8	40.0	25.5	19.5	14.3	17.3	8.1	11.1	0.0
ない	71.0	93.3	77.8	48.6	67.3	78.0	74.3	80.8	78.4	77.8	0.0
わからない	7.6	0.0	7.4	11.4	7.3	2.4	11.4	1.9	13.5	11.1	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「10歳代」以下及び「80歳代」以上の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

図表 7-78 バイオ後続品（バイオシミラー）の使用経験の有無（特定の疾患での通院の有無別）（郵送調査）

	全体	通院あり	通院なし
回答数（件）	181	25	153
ある	3.3	16.0	1.3
ない	93.9	76.0	96.7
わからない	1.7	8.0	0.7
無回答	1.1	0.0	1.3

図表 7-79 バイオ後続品（バイオシミラー）の使用経験の有無（特定の疾患での通院の有無別）（インターネット調査）

	全体	通院あり	通院なし
回答数（件）	341	130	211
ある	21.4	46.9	5.7
ない	71.0	42.3	88.6
わからない	7.6	10.8	5.7
無回答	0.0	0.0	0.0

（５）バイオ後続品（バイオシミラー）の使用意向（調査票設問５．④）

バイオ後続品（バイオシミラー）について「知っていた」と回答した者について、使用したいと思うか尋ねたところ、郵送調査・インターネット調査ともに「バイオ後続品かどうかにはこだわらない」がそれぞれ 30.9%、29.6%で最も多かった。

図表 7-80 バイオ後続品（バイオシミラー）の使用意向（性別）（郵送調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	181	94	86
できればバイオ後続品を使用したい	14.9	20.2	8.1
とりあえずバイオ後続品を試してみたい	13.3	11.7	15.1
バイオ後続品かどうかにはこだわらない	30.9	35.1	26.7
できればバイオ後続品を使いたくない	11.6	11.7	11.6
わからない	23.8	18.1	30.2
無回答	5.5	3.2	8.1

図表 7-81 バイオ後続品（バイオシミラー）の使用意向（性別）（インターネット調査）

	全体	男性	女性
回答数（件）	341	194	147
できればバイオ後続品を使用したい	15.5	17.0	13.6
とりあえずバイオ後続品を試してみたい	21.7	25.3	17.0
バイオ後続品かどうかにはこだわらない	29.6	29.4	29.9
できればバイオ後続品を使いたくない	12.0	12.9	10.9
わからない	21.1	15.5	28.6
無回答	0.0	0.0	0.0

図表 7-82 バイオ後続品（バイオシミラー）の使用の意向（年代別）（郵送調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	181	6	2	15	34	33	46	30	11	3	0
できればバイオ後続品を使用したい	14.9	0.0	0.0	20.0	17.6	18.2	13.0	20.0	0.0	0.0	0.0
とりあえずバイオ後続品を試してみたい	13.3	16.7	0.0	13.3	23.5	18.2	6.5	6.7	18.2	0.0	0.0
バイオ後続品かどうかにはこだわらない	30.9	50.0	50.0	40.0	32.4	24.2	34.8	16.7	36.4	66.7	0.0
できればバイオ後続品を使いたくない	11.6	0.0	0.0	6.7	5.9	15.2	8.7	23.3	18.2	0.0	0.0
わからない	23.8	16.7	50.0	20.0	17.6	18.2	30.4	23.3	27.3	33.3	0.0
無回答	5.5	16.7	0.0	0.0	2.9	6.1	6.5	10.0	0.0	0.0	0.0

※「20歳代」以下及び「70歳代」以上の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

図表 7-83 バイオ後続品（バイオシミラー）の使用の意向（年代別）（インターネット調査）

	全体	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
回答数（件）	341	15	27	70	55	41	35	52	37	9	0
できればバイオ後続品を使用したい	15.5	20.0	22.2	18.6	12.7	19.5	11.4	15.4	8.1	11.1	0.0
とりあえずバイオ後続品を試してみたい	21.7	0.0	11.1	31.4	38.2	19.5	28.6	15.4	5.4	0.0	0.0
バイオ後続品かどうかにはこだわらない	29.6	20.0	33.3	28.6	21.8	41.5	28.6	28.8	37.8	11.1	0.0
できればバイオ後続品を使いたくない	12.0	33.3	11.1	14.3	10.9	9.8	2.9	13.5	10.8	11.1	0.0
わからない	21.1	26.7	22.2	7.1	16.4	9.8	28.6	26.9	37.8	66.7	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「10歳代」以下及び「80歳代」以上の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

図表 7-84 バイオ後続品（バイオシミラー）の
使用の意向（特定の疾患での通院の有無別）
（郵送調査）

	全体	通院あり	通院なし
回答数（件）	181	25	153
できればバイオ後続品 を使用したい	14.9	16.0	15.0
とりあえずバイオ後続 品を試してみたい	13.3	12.0	13.7
バイオ後続品かどうか にはこだわらない	30.9	32.0	30.7
できればバイオ後続品 を使いたくない	11.6	20.0	9.8
わからない	23.8	16.0	24.8
無回答	5.5	4.0	5.9

※郵送調査の「通院あり」の回答数は30件以下であり、結果のばらつきが大きくなる可能性があるため、参考値として掲載している。

図表 7-85 バイオ後続品（バイオシミラー）の
使用の意向（特定の疾患での通院の有無別）
（インターネット調査）

	全体	通院あり	通院なし
回答数（件）	341	130	211
できればバイオ後続品 を使用したい	15.5	26.9	8.5
とりあえずバイオ後続 品を試してみたい	21.7	35.4	13.3
バイオ後続品かどうか にはこだわらない	29.6	16.9	37.4
できればバイオ後続品 を使いたくない	12.0	7.7	14.7
わからない	21.1	13.1	26.1
無回答	0.0	0.0	0.0

参考資料：NDB データを用いた集計

1. 後発医薬品調剤体制加算等の算定薬局数

	令和5年11月診療分	令和6年11月診療分
後発医薬品調剤体制加算1	9,638	6,330
後発医薬品調剤体制加算2	20,009	18,216
後発医薬品調剤体制加算3	18,937	27,597
後発医薬品減算	97	56

2. 後発医薬品使用体制加算の算定医療機関数

	令和5年11月診療分		令和6年11月診療分	
	診療所	病院	診療所	病院
後発医薬品使用体制加算1	161	3,173	174	2,901
後発医薬品使用体制加算2	70	1,073	68	741
後発医薬品使用体制加算3	70	877	69	700
合計	301	5,123	311	4,342

※令和6年度診療報酬改定において、医薬品の供給が不足等した場合における治療計画の見直し等に対応できる体制の整備並びに患者への説明及び院内掲示にかかる要件を設けるとともに、評価を見直した。

3. 外来後発医薬品使用体制加算の算定医療機関数

	令和5年11月診療分	令和6年11月診療分
外来後発医薬品使用体制加算1	4,170	4,608
外来後発医薬品使用体制加算2	1,623	1,627
外来後発医薬品使用体制加算3	2,008	1,898
合計	7,801	8,133

※令和6年度診療報酬改定において、医薬品の供給が不足等した場合における治療計画の見直し等に対応できる体制の整備並びに患者への説明及び院内掲示にかかる要件を設けるとともに、評価を見直した。

4. 一般名処方加算の算定回数

	令和5年11月診療分		令和6年11月診療分	
	診療所	病院	診療所	病院
一般名処方加算1	21,343,385	3,290,423	26,078,367	3,757,021
一般名処方加算2	15,015,608	4,115,267	15,313,182	4,026,894
合計	36,358,993	7,405,690	41,391,549	7,783,915

※令和6年度診療報酬改定において、医薬品の供給が不足等した場合における治療計画の見直し等に対応できる体制の整備並びに患者への説明及び院内掲示にかかる要件を設けるとともに、評価を見直した。

5. バイオ後続品導入初期加算の算定回数

	令和5年11月診療分		令和6年11月診療分	
	診療所	病院	診療所	病院
在宅自己注射管理指導料 バイオ後続品導入初期加算	3,361	6,436	3,478	7,289
注射料通則バイオ後続品導入初期加算	7	162	1,520	4,682

※令和6年度診療報酬改定において、外来におけるバイオ後続品導入初期加算の対象患者について、外来化学療法を実施している患者から、医療機関において注射するバイオ後続品を使用する全ての患者に見直した。

6. バイオ後続品使用体制加算の算定回数

	令和6年11月診療分	
	診療所	病院
バイオ後続品使用体制加算	19	9,357

7. 長期収載品を処方等し、選定療養の対象となった件数とその理由

令和6年11月分	全レセプト 件数	うち長期収載品処方ありの レセプト件数		長期収載品を処方した理由別件数			
		選定療養の 対象	選定療養の 対象外	患者希望	医療上の 必要	後発医薬品 在庫なし	その他
調剤	60,622,898	3,584,672	5,679,201	4,045,615	133,687	8,474,297	1,079,256
医科外来 (院内処方)	12,356,434	87,720	3,878,731	-	441,192	2,235,814	-
歯科外来 (院内処方)	1,740,386	5,310	205,243	-	43,804	168,478	-

1.① 所在地

	割合
回答数（件）	689
北海道	4.5
青森県	0.9
岩手県	1.2
宮城県	2.5
秋田県	0.6
山形県	1.2
福島県	2.8
茨城県	3.2
栃木県	2.0
群馬県	0.7
埼玉県	4.8
千葉県	4.1
東京都	10.2
神奈川県	7.0
新潟県	1.5
富山県	0.6
石川県	0.1
福井県	0.4
山梨県	0.7
長野県	1.6
岐阜県	0.9
静岡県	2.8
愛知県	5.8
三重県	1.7
滋賀県	0.6
京都府	1.9
大阪府	7.4
兵庫県	5.2
奈良県	0.4
和歌山県	0.9
鳥取県	0.1
島根県	0.1
岡山県	1.6
広島県	2.6
山口県	2.0
徳島県	0.7
香川県	0.9
愛媛県	1.2
高知県	0.9
福岡県	5.7
佐賀県	0.7
長崎県	0.4
熊本県	1.5
大分県	0.6
宮崎県	0.9
鹿児島県	1.0
沖縄県	1.2
無回答	0.0

1.① 所在地

	割合
回答数（件）	689
東京・大阪のみ	17.6
東京・大阪以外	82.4
無回答	0.0

1.② 開設者

	割合
回答数（件）	689
法人	88.4
個人	10.2
その他	1.0
無回答	0.4

1.③ 薬局の所在

	割合
回答数（件）	689
特別区	6.4
政令指定都市	27.0
中核市	18.4
その他	44.1
無回答	4.1

1.④ 同一グループ等による薬局店舗数

	割合
回答数（件）	689
1店舗	22.4
2～4店舗	15.5
5～9店舗	9.9
10～19店舗	7.7
20～29店舗	3.9
30～39店舗	2.3
40～49店舗	1.9
50～99店舗	4.1
100～199店舗	3.8
200店舗以上	22.6
無回答	6.0

1.④ 同一グループ等による薬局店舗数（店舗）

	割合
回答数（件）	648
平均値	341.4
標準偏差	704.9
中央値	9

1.⑤ 開設年

	割合
回答数（件）	689
1995年以前	12.2
1996～2000年	9.7
2001～2005年	9.7
2006～2010年	12.0
2011～2015年	13.9
2016～2020年	19.2
2021年以降	17.3
無回答	6.0

1.⑤ 開設年（西暦）

回答数（件）	648
平均値	2008.7
標準偏差	14.0
中央値	2012

1.⑥ 薬局の処方箋の応需状況として最も近いもの（薬局立地）

	割合
回答数（件）	689
様々な保険医療機関からの処方箋を応需している薬局	48.2
主に近隣にある特定の病院の処方箋を応需している薬局	18.9
主に不動産賃貸借関係のある特定の病院の処方箋を応需している薬局	0.9
主に近隣にある特定の診療所の処方箋を応需している薬局	26.9
主に不動産賃貸借関係のある特定の診療所の処方箋を応需している薬局	1.0
主に複数の近接する特定の保険医療機関（いわゆる医療モールやビル診療所など）の処方箋を応需している薬局	2.8
その他	0.3
無回答	1.2

1.⑦ 応需医療機関数

	割合
回答数（件）	689
1～9機関	5.5
10～19機関	10.9
20～29機関	10.0
30～39機関	12.9
40～49機関	7.5
50～59機関	6.5
60～69機関	6.0
70～79機関	5.5
80機関以上	19.9
無回答	15.2

1.⑦ 応需医療機関数（機関）

回答数（件）	584
平均値	62.8
標準偏差	62.7
中央値	43

1.⑧ 薬局において、処方箋の集中度が高い診療科

	割合
回答数（件）	689
内科	91.7
外科	15.4
精神科	16.8
小児科	14.7
皮膚科	20.5
泌尿器科	7.8
産婦人科・産科	3.9
眼科	20.8
耳鼻咽喉科	20.5
放射線科	0.1
脳神経外科	3.9
整形外科	43.4
麻酔科	0.4
救急科	0.0
歯科・歯科口腔外科	7.3
リハビリテーション科	0.4
その他	2.6
無回答	0.6

1.⑨ 薬局の売上高に占める保険調剤売上の割合（令和6年度決算）

	割合
回答数（件）	689
30%未満	6.2
30%以上40%未満	0.6
40%以上50%未満	0.4
50%以上60%未満	0.7
60%以上70%未満	1.3
70%以上80%未満	0.9
80%以上90%未満	2.9
90%以上95%未満	6.5
95%以上100%未満	52.7
100%_	16.8
無回答	10.9

1.⑨ 薬局の売上高に占める保険調剤売上の割合（令和6年度決算）（％）

回答数（件）	614
平均値	89.3
標準偏差	24.1
中央値	99

1.⑩ 基本調剤料

	割合
回答数（件）	689
調剤基本料1	64.9
調剤基本料2	4.1
調剤基本料3イ	5.5
調剤基本料3ロ	6.2
調剤基本料3ハ	17.6
特別調剤基本料 A	0.7
特別調剤基本料 B	0.0
無回答	1.0

1.⑩ - 1 全処方箋の受付回数（調剤基本料の根拠となる数字）

	割合
回答数（件）	689
200回以下	3.5
201～400回	8.1
401～600回	11.9
601～800回	12.5
801～1000回	11.3
1001～1200回	11.8
1201～1400回	9.9
1401～1600回	7.1
1601～1800回	4.4
1801～2000回	4.1
2001～3000回	7.8
3001～4000回	2.8
4001回以上	1.7
無回答	3.2

1.⑩ - 1 全処方箋の受付回数（調剤基本料の根拠となる数字）（回／月）

回答数（件）	667
平均値	1436.1
標準偏差	4532.4
中央値	1029

1.⑩ - 1 全処方箋の受付回数（調剤基本料の根拠となる数字）

	割合
回答数（件）	689
500回以下	17.4
501～1000回	29.9
1001～2000回	37.2
2001回以上	12.3
無回答	3.2

1.⑩ - 2 主たる保険医療機関に係る処方箋の受付回数の割合（調剤基本料の根拠となる数字）

	割合
回答数（件）	689
10%以下	3.5
10%超～20%以下	5.5
20%超～30%以下	5.2
30%超～40%以下	5.5
40%超～50%以下	7.3
50%超～60%以下	9.0
60%超～70%以下	4.9
70%超～80%以下	9.6
80%超～90%以下	15.1
90%超	26.0
無回答	8.4

1.⑩ - 2 主たる保険医療機関に係る処方箋の受付回数の割合（調剤基本料の根拠となる数字）（％）

回答数（件）	654
平均値	66.1
標準偏差	28.3
中央値	75.4

1.⑪ - 1 後発医薬品調剤割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年1月～3月の3か月間）

	割合
回答数（件）	689
20％未満	0.3
20％以上25％未満	0.1
25％以上30％未満	0.0
30％以上35％未満	0.0
35％以上40％未満	0.0
40％以上45％未満	0.0
45％以上50％未満	0.1
50％以上55％未満	0.1
55％以上60％未満	0.3
60％以上65％未満	0.3
65％以上70％未満	0.7
70％以上75％未満	1.3
75％以上80％未満	1.6
80％以上85％未満	4.5
85％以上90％未満	16.1
90％以上	67.2
無回答	7.3

1.⑪ - 1 後発医薬品調剤割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年1月～3月の3か月間）（％）

回答数（件）	639
平均値	90.4
標準偏差	8.2
中央値	92

1.⑪ - 2 後発医薬品調剤割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年4月～6月の3か月間）

	割合
回答数（件）	689
20％未満	0.3
20％以上25％未満	0.1
25％以上30％未満	0.0
30％以上35％未満	0.0
35％以上40％未満	0.0
40％以上45％未満	0.0
45％以上50％未満	0.0
50％以上55％未満	0.0
55％以上60％未満	0.6
60％以上65％未満	0.4
65％以上70％未満	0.7
70％以上75％未満	1.9
75％以上80％未満	1.7
80％以上85％未満	2.2
85％以上90％未満	13.5
90％以上	71.8
無回答	6.7

1.⑪ - 2 後発医薬品調剤割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年4月～6月の3か月間）（％）

回答数（件）	643
平均値	90.9
標準偏差	8.4
中央値	92.7

1.⑫ - 1 カットオフ値の割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年1月～3月の3か月間）

	割合
回答数（件）	689
20％未満	0.1
20％以上25％未満	0.1
25％以上30％未満	0.0
30％以上35％未満	0.1
35％以上40％未満	0.0
40％以上45％未満	0.1
45％以上50％未満	0.3
50％以上55％未満	1.7
55％以上60％未満	4.4
60％以上65％未満	9.9
65％以上70％未満	25.8
70％以上75％未満	31.3
75％以上80％未満	10.7
80％以上85％未満	2.5
85％以上90％未満	0.7
90％以上	2.6
無回答	9.4

1.⑫ - 1 カットオフ値の割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年1月～3月の3か月間）（％）

回答数（件）	624
平均値	69.9
標準偏差	8.3
中央値	70.2

1.⑫ - 1 カットオフ値の割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年1月～3月の3か月間）

	割合
回答数（件）	689
20％未満	0.1
20％以上25％未満	0.1
25％以上30％未満	0.0
30％以上35％未満	0.1
35％以上40％未満	0.0
40％以上45％未満	0.1
45％以上50％未満	0.3
50％以上55％未満	1.7
55％以上60％未満	4.4
60％以上65％未満	9.9
65％以上70％未満	25.8
70％以上75％未満	31.3
75％以上80％未満	10.7
80％以上85％未満	2.5
85％以上90％未満	0.7
90％以上	2.6
無回答	9.4

1.⑫ - 1 カットオフ値の割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年1月～3月の3か月間）（％）

回答数（件）	624
平均値	69.9
標準偏差	8.3
中央値	70.2

1.⑫ - 2 カットオフ値の割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年4月～6月の3か月間）

	割合
回答数（件）	689
20％未満	0.3
20％以上25％未満	0.0
25％以上30％未満	0.0
30％以上35％未満	0.1
35％以上40％未満	0.0
40％以上45％未満	0.3
45％以上50％未満	0.7
50％以上55％未満	3.6
55％以上60％未満	8.3
60％以上65％未満	23.9
65％以上70％未満	29.0
70％以上75％未満	15.7
75％以上80％未満	5.5
80％以上85％未満	1.5
85％以上90％未満	0.7
90％以上	1.3
無回答	9.0

1.⑫ - 2 カットオフ値の割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年4月～6月の3か月間）（％）

回答数（件）	627
平均値	66.4
標準偏差	8.2
中央値	66.5

1.⑬ 供給停止となっている後発医薬品等の診療報酬上の臨時的な取扱いの適用（令和7年7月1日時点）

	割合
回答数（件）	689
あり	35.7
なし	55.4
無回答	8.9

1.⑬ 後発医薬品の調剤数量割合が著しく低い薬局の調剤基本料の減算対象に該当するか（令和7年7月1日時点）

	割合
回答数（件）	689
該当する	1.3
該当しない	97.0
無回答	1.7

1.⑭ 後発医薬品の調剤数量割合が著しく低い薬局の調剤基本料の減算対象に該当しない理由

	割合
回答数（件）	668
後発医薬品の調剤数量割合が50％超	88.8
処方箋の受付回数が月600回以下	13.8
直近1か月の処方箋受付回数の5割以上が先発医薬品変更不可	1.5
無回答	9.3

1.⑮ 後発医薬品調剤体制加算

	割合
回答数（件）	689
後発医薬品調剤体制加算1	6.1
後発医薬品調剤体制加算2	18.7
後発医薬品調剤体制加算3	67.9
届出（算定）なし	6.0
無回答	1.3

1.⑯ 地域支援体制加算

	割合
回答数（件）	689
地域支援体制加算1	17.1
地域支援体制加算2	14.1
地域支援体制加算3	7.7
地域支援体制加算4	6.0
届出（算定）なし	54.0
無回答	1.2

--

1.⑰ 在宅薬学総合体制加算

	割合
回答数（件）	689
在宅薬学総合体制加算1	40.9
在宅薬学総合体制加算2	7.3
無回答	51.8

1.⑱ - 1 薬剤師数 常勤職員（人）

回答数（件）	671
平均値	2.4
標準偏差	1.7
中央値	2

1.⑱ - 1 薬剤師数 非常勤職員（常勤換算）（人）

回答数（件）	568
平均値	1.3
標準偏差	2.4
中央値	0.9

1.⑱ - 2 その他（事務職員等） 常勤職員（人）

回答数（件）	643
平均値	2.0
標準偏差	1.6
中央値	2

1.⑱ - 2 その他（事務職員等） 非常勤職員（常勤換算）（人）

回答数（件）	557
平均値	0.9
標準偏差	1.5
中央値	0.5

1.⑲ 薬局の認定等の状況

	割合
回答数（件）	689
地域連携薬局	16.0
専門医療機関連携薬局	0.4
健康サポート薬局（健康増進支援薬局）	8.9
該当なし	63.3
無回答	15.4

2.① 現時点での後発医薬品の供給体制についてどのように感じるか

	割合
回答数（件）	689
支障を来している	77.9
影響はあるが大きな支障は無い	21.3
支障は無い	0.7
無回答	0.0

2.② 1年前（令和6年7月1日）と比較して、後発医薬品の供給体制についてどのように感じるか

	割合
回答数（件）	689
改善した	15.5
変わらない	59.1
悪化した	24.2
無回答	1.2

2.③ 現在（令和7年7月1日）の医薬品の調達状況

	割合
回答数（件）	689
医薬品の発注から納品までに時間がかかる	66.9
医薬品の発注作業の回数が増えた	43.5
卸に医薬品の新規の注文を受けてもらえない（実績のある注文のみ）	90.1
卸の医薬品在庫がないため注文を受けてもらえない	75.5
卸からの医薬品の注文の取り消しが頻発している	49.5
処方薬が必要量準備できず、不足医薬品を後日患者に届ける業務が頻発している	60.2
処方薬が必要量準備できず、不足医薬品を近隣の薬局間で融通する業務が頻発している	52.5
これまでの取引実績にもかかわらず、限定出荷となった医薬品が入荷しない	80.3
限定出荷等が解除された医薬品がある一方で、別の医薬品では新たに限定出荷が発生している	82.1
特に困難な状況はない	0.6
無回答	0.0

2.④ 供給不安定の状況への対応として実施していること

	割合
回答数（件）	689
後発医薬品を先発医薬品へ切り替える採用品目の見直しを行った	76.2
事前対応として後発医薬品を別の後発医薬品に採用品目の見直しを行った	72.9
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、代替のための後発医薬品の調達を行った	76.3
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、同一成分の先発医薬品の調達を行った	85.2
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、剤形の変更等を行った	59.1
後発医薬品に関する患者の意向を把握または確認する頻度を増やした	35.6
患者からの後発医薬品使用に関する相談や苦情等の対応を行った	37.9
患者に対し医薬品の供給が不安定であるという旨の啓発を行った	85.6
後発医薬品の品質や安全性に係る情報収集を行った	19.3
後発医薬品メーカーや卸から供給に関する情報の収集を行った	67.1
地域の薬局間で医薬品の備蓄状況の共有や医薬品の融通を行った	50.8
医師と医薬品の供給・在庫の状況を踏まえた処方内容の調整を行った	70.5
卸と医薬品の供給・在庫の状況に関する情報共有を行った	68.4
医療機関と医薬品の供給・在庫の状況や使用に関する情報共有を行った	59.4
行政機関（都道府県、保健所等）と医薬品の供給情報等に関する連携を行った	0.9
その他	1.0
特に困難な状況はない	0.1
無回答	0.1

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）
_01-2 【後発】 単純集計表_v1.3.xlsx_1.保険薬局調査

2.④ - 1 供給不安定への対策における地域の薬局間での医薬品の備蓄状況等の共有や医薬品の融通について、薬局との連携内容

	割合
回答数（件）	350
同一法人間での連携	72.0
近隣薬局との連携	67.7
地域薬剤師会・都道府県薬剤師会による薬局間の連携	20.3
その他	1.1
実施していない	0.6
無回答	0.6

2.④ - 2 薬局間での具体的な連携内容について、あてはまるもの

	割合
回答数（件）	350
地域の薬局に対して、自家薬局の医薬品の在庫状況を薬剤師会等が作成しているリストやシステムを通じて情報提供を行うとともに、必要に応じて、同一グループではない薬局間において医薬品の融通や分譲を行っている	29.7
自家薬局の医薬品の在庫状況に関する情報提供について、他の薬局からの問い合わせなどがあった際には、融通・分譲可能な医薬品やその量などについて情報提供し、必要な対応を行っている	85.7
現在はシステムを使用していないが、今後導入を予定している	2.0
その他	3.1
無回答	4.9

2.④ - 3 他の薬局又は薬剤師会等から開示された在庫状況の活用について、あてはまるもの

	割合
回答数（件）	350
活用している	34.0
仕組みがあるが活用していない	19.7
在庫状況が開示される仕組みがない	42.6
無回答	3.7

2.④ - 4 医薬品の融通について、あてはまるもの

	割合
回答数（件）	350
融通している	89.1
融通していない	6.9
無回答	4.0

2.④ - 4 医薬品を融通している頻度（年間）（回）

回答数（件）	265
平均値	148.2
標準偏差	528.4
中央値	50

2.⑤ 医薬品の供給上の問題により当該医薬品が入手困難であり、やむを得ず自家製剤加算を算定した場合の適用の有無

	割合
回答数（件）	689
あり	20.9
なし	77.6
無回答	1.5

2.⑥ - 1 特定薬剤管理指導加算3の算定の件数 長期収載品の選定療養に関する説明を実施した場合（件）

回答数（件）	634
平均値	9.8
標準偏差	32.7
中央値	1

2.⑥ - 2 特定薬剤管理指導加算3の算定の件数 前記⑥-1のうち、実際に長期収載品から後発医薬品に変更した件数

回答数（件）	619
平均値	4.6
標準偏差	23.3
中央値	0

2.⑥ - 3 特定薬剤管理指導加算3の算定の件数（別の銘柄の医薬品に変更が必要となった患者に対する説明を実施した場合）

回答数（件）	615
平均値	11.0
標準偏差	45.6
中央値	0

2.⑦ 供給不安報告制度の開始前（令和2年12月より以前）と比べ、後発医薬品の調剤割合に変化はあったか

	割合
回答数（件）	689
後発医薬品の調剤割合がかなり減った	1.3
後発医薬品の調剤割合がやや減った	13.1
後発医薬品の調剤割合の変化はほとんどなかった	32.8
後発医薬品の調剤割合が増えた	35.4
分からない	14.9
無回答	2.5

2.⑧ 後発医薬品の調剤割合が減った理由

	割合
回答数（件）	99
後発医薬品を調剤できる処方箋が減った	2.0
患者（家族含む）が先発医薬品を希望した	1.0
後発医薬品の在庫が無い、あるいは入庫（入手）できないのでやむをえず先発医薬品を調剤した	97.0
その他	0.0
無回答	0.0

3.① 特別の料金を支払っても、長期収載品の調剤を希望する患者の有無

	割合
回答数（件）	689
よくいる	7.5
時々いる	60.2
まれにいる	30.6
いない	1.5
無回答	0.1

3.② 長期収載品の銘柄名処方で変更不可の処方について、1年前と比較してどう変化したか

	割合
回答数（件）	689
減った	28.7
変わらない	55.3
増えた	14.9
無回答	1.0

3.② - 1 前記②の長期収載品の銘柄名処方のうち、処方箋に「患者の希望」が明記されていた品目数

	割合
回答数（件）	689
減った	16.0
変わらない	59.2
増えた	23.8
無回答	1.0

3.②-2 前記②の長期収載品の銘柄名処方のうち、「患者の希望」が明記されていないが、患者が長期収載品の調剤を希望した品目数

	割合
回答数（件）	689
減った	23.8
変わらない	61.2
増えた	13.4
無回答	1.6

3.② - 3 前記②のうち、処方箋に「変更不可（医療上必要）」が指示されていた品目数

	割合
回答数（件）	689
減った	16.4
変わらない	52.7
増えた	29.3
無回答	1.6

3.③ 長期収載品の選定療養制度を導入したことによって、どのような影響や課題があったか

	割合
回答数（件）	689
患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい	70.1
患者の制度に対する理解が不十分である	59.8
薬価改定に伴い、これまで選定療養の対象であった長期収載品が対象外となった際に、患者への説明等に苦慮したことがある	46.2
薬価改定に伴い、対象品目が変わってしまう	64.0
医療関係者への制度に関する周知が不十分である	21.9
制度そのものがわかりづらい	37.7
特別の料金の計算がわかりづらい	43.3
レセコンなどシステム改修が不十分である	3.5
後発医薬品を選択する患者が増えた	57.0
患者からのクレーム対応に苦慮したことがある	30.2
その他	4.1
わからない	0.6
無回答	0.7

3.④ 調剤用医薬品備蓄品目数（全医薬品）

	割合
回答数（件）	689
499品目以下	7.0
500～999品目	20.0
1000～1499品目	49.8
1500～1999品目	12.0
2000品目以上	5.1
無回答	6.1

3.④ 調剤用医薬品備蓄品目数（全医薬品）（品目）

回答数（件）	647
平均値	1191.9
標準偏差	502.0
中央値	1217

3.④ - 1 前記④のうち、先発医薬品

	割合
回答数（件）	689
249品目以下	17.4
250～499品目	19.3
500～749品目	23.1
750～999品目	16.4
1000品目以上	8.7
無回答	15.1

3.④ - 1 前記④のうち、先発医薬品

回答数（件）	585
平均値	565.0
標準偏差	355.6
中央値	537

3.④ - 2 前記④のうち、後発医薬品

	割合
回答数（件）	689
249品目以下	7.3
250～499品目	27.9
500～749品目	28.9
750～999品目	12.2
1000品目以上	10.2
無回答	13.6

3.④ - 2 前記④のうち、後発医薬品

回答数（件）	595
平均値	594.9
標準偏差	321.6
中央値	534

3.⑤ 1年前と比較して、先発医薬品の備蓄品目数は増えたか

	割合
回答数（件）	689
増えた	25.7
変わらない	41.1
減った	29.6
無回答	3.6

3.⑥ 1年前と比較して、後発医薬品の備蓄品目数は増えたか

	割合
回答数（件）	689
増えた	60.5
変わらない	30.0
減った	6.0
無回答	3.5

4.④ 1年前（令和6年7月1日）と比較して一般名処方の件数に変化はあったか

	割合
回答数（件）	689
増えた	39.6
変わらない	56.6
減った	2.9
無回答	0.9

4.② - 1 一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の件数 患者の意向（件）

回答数（件）	466
平均値	26.6
標準偏差	59.8
中央値	11.5

4.② - 2 一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の件数 保険薬局の備蓄（件）

回答数（件）	456
平均値	42.5
標準偏差	78.4
中央値	18.5

4.② - 3 一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の件数 後発医薬品なし（件）

回答数（件）	422
平均値	22.0
標準偏差	124.2
中央値	1

4.② - 4 一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の件数 その他（件）

回答数（件）	387
平均値	7.1
標準偏差	31.1
中央値	0

4.③ - 1 1年前と比較して一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の変化：患者の意向

	割合
回答数（件）	689
増えた	11.8
変わらない	54.1
減った	28.9
無回答	5.2

4.③ - 2 1年前と比較して一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の変化：医薬品の備蓄品目数

	割合
回答数（件）	689
増えた	40.1
変わらない	47.9
減った	6.2
無回答	5.8

4.③ - 3 1年前と比較して一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の変化：後発医薬品なし

	割合
回答数（件）	689
増えた	17.6
変わらない	70.1
減った	5.8
無回答	6.5

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）
_01-2 【後発】 単純集計表_v1.3.xlsx_1.保険薬局調査

4.③-1 供給不安報告制度前と比較して一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の変化：患者の意向

	割合
回答数（件）	689
増えた	10.7
変わらない	57.5
減った	25.0
無回答	6.8

4.③-2 供給不安報告制度前と比較して一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の変化：医薬品の備蓄品目数

	割合
回答数（件）	689
増えた	41.7
変わらない	45.3
減った	6.5
無回答	6.5

4.③-3 供給不安報告制度前と比較して一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の変化：後発医薬品なし

	割合
回答数（件）	689
増えた	21.2
変わらない	66.5
減った	5.5
無回答	6.8

5.① バイオ後続品について現在取扱いはあるか

	割合
回答数（件）	689
ある	64.9
ない	33.2
無回答	1.9

5.② バイオ後続品の備蓄状況から不安定供給を感じたことはあるか

	割合
回答数（件）	447
ある	38.7
ない	60.9
無回答	0.4

5.③ バイオ後続品のうち、不安定供給を感じた製品は何か

	割合
回答数（件）	173
ソマトロビン	1.2
フィルグラスチム	0.6
インスリン_グラルギン	31.2
エタネルセプト	10.4
テリパラチド	2.3
インスリン_リスプロ	52.6
インスリン_アスパルト	34.1
アダリムマブ	1.2
特定の医薬品はない	9.2
無回答	0.6

5.④ バイオ医薬品のうち、薬局が備蓄している医薬品 先行バイオ医薬品

	割合
回答数（件）	447
ソマトロビン	2.0
フィルグラスチム	0.4
インスリン_グラルギン	50.3
エタネルセプト	7.6
テリパラチド	11.2
インスリン_リスプロ	42.5
インスリン_アスパルト	39.4
アダリムマブ	10.3
備蓄した医薬品はない	1.8
無回答	30.6

5.④ バイオ医薬品のうち、薬局が備蓄している医薬品 バイオ後続品

	割合
回答数（件）	447
ソマトロビン	0.9
フィルグラスチム	0.0
インスリン_グラルギン	68.5
エタネルセプト	14.8
テリパラチド	16.3
インスリン_リスプロ	30.9
インスリン_アスパルト	30.2
アダリムマブ	8.9
備蓄した医薬品はない	1.1
無回答	21.0

5.④ バイオ医薬品のうち、調剤した医薬品 先行バイオ医薬品

	割合
回答数（件）	447
ソマトロビン	1.6
フィルグラスチム	0.0
インスリン_グラルギン	40.9
エタネルセプト	6.0
テリパラチド	8.1
インスリン_リスプロ	35.6
インスリン_アスパルト	35.8
アダリムマブ	8.9
調剤した医薬品はない	2.7
無回答	34.9

5.④ バイオ医薬品のうち、調剤した医薬品 バイオ後続品

	割合
回答数（件）	447
ソマトロビン	0.7
フィルグラスチム	0.0
インスリン_グラルギン	60.9
エタネルセプト	11.9
テリパラチド	13.0
インスリン_リスプロ	23.3
インスリン_アスパルト	24.6
アダリムマブ	7.4
調剤した医薬品はない	1.8
無回答	27.3

5.⑤ 備蓄品目数 先行バイオ医薬品

回答数（件）	286
平均値	2.5
標準偏差	1.3
中央値	2

5.⑤ 備蓄品目数 バイオ後続品

回答数（件）	330
平均値	2.3
標準偏差	1.3
中央値	2

5.⑤ 調剤品目数 先行バイオ医薬品

回答数（件）	265
平均値	2.3
標準偏差	1.2
中央値	2

5.⑤ 調剤品目数 バイオ後続品

回答数（件）	301
平均値	2.0
標準偏差	1.1
中央値	2

5.⑥ 1年前と比較して、先行バイオ医薬品の備蓄品目数は増えたか

	割合
回答数（件）	447
増えた	10.3
変わらない	72.5
減った	4.9
備蓄していない	10.1
無回答	2.2

5.⑦ 1年前と比較して、バイオ後続品の備蓄品目数は増えたか

	割合
回答数（件）	447
増えた	19.5
変わらない	71.4
減った	1.6
備蓄していない	5.1
無回答	2.5

5.⑧ バイオ後続品の使用促進に関する説明について、最も近いもの

	割合
回答数（件）	689
全般的に、積極的にバイオ後続品の説明や情報提供を行っている	6.2
患者によって、バイオ後続品の説明や情報提供を行っている	13.1
新規でバイオ医薬品が処方された患者に、バイオ後続品の説明や情報提供を行っている	19.9
バイオ後続品の説明や情報提供に積極的には取り組んでいない	56.0
無回答	4.8

5.⑨ バイオ後続品の使用促進における課題等

	割合
回答数（件）	386
バイオ後続品の品質や有効性、安全性に疑問がある	7.3
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の違いが分からない	20.5
バイオ後続品は、先行バイオ医薬品と同等／同質の品質・安全性・有効性を有するが同一ではないこと	18.1
バイオ後続品の安定供給に不安	14.2
バイオ後続品に関する情報提供の不足	3.1
患者への普及啓発の不足	23.1
バイオ後続品の説明に時間がかかること	13.0
患者が先行バイオ医薬品を希望すること（自己注射）	7.5
患者の費用負担が変わらないこと	5.7
先行バイオ医薬品とバイオ後続品では適応症が異なること	6.7
先行バイオ医薬品とバイオ後続品のデバイスのタイプが異なること	8.3
在庫管理の負担が大きいこと	28.5
経営者（会社）の理解が得られないこと	0.5
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の両方を備蓄すること	15.3
バイオ後続品の調剤対象となる患者がいない	37.0
その他	9.3
無回答	1.8

5.⑩ 前記⑨の選択肢1.～16.のうち、最もあてはまるもの

	割合
回答数（件）	386
バイオ後続品の品質や有効性、安全性に疑問がある	2.6
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の違いが分からない	5.7
バイオ後続品は、先行バイオ医薬品と同等／同質の品質・安全性・有効性を有するが同一ではないこと	5.7
バイオ後続品の安定供給に不安	4.9
バイオ後続品に関する情報提供の不足	0.0
患者への普及啓発の不足	7.5
バイオ後続品の説明に時間がかかること	2.3
患者が先行バイオ医薬品を希望すること（自己注射）	2.6
患者の費用負担が変わらないこと	0.3
先行バイオ医薬品とバイオ後続品では適応症が異なること	0.0
先行バイオ医薬品とバイオ後続品のデバイスのタイプが異なること	0.8
在庫管理の負担が大きいこと	6.2
経営者（会社）の理解が得られないこと	0.3
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の両方を備蓄すること	2.6
バイオ後続品の調剤対象となる患者がいない	30.1
その他	8.0
無回答	20.5

5.⑪ 今後、どのような対応が進めば、バイオ後続品の使用が推進すると考えるか

	割合
回答数（件）	689
調剤報酬を含む経営的メリットがあること	39.6
患者負担の軽減がより明確になること	55.4
医師、薬剤師への国からのバイオ後続品に関する情報の周知	29.8
国からの国民への啓発と患者の理解	34.0
バイオ後続品企業から医師、薬剤師への情報提供	30.2
バイオ後続品の安定供給	45.0
バイオ後続品の在庫負担の軽減	28.4
バイオ後続品の品目数の増加	13.9
先行バイオ医薬品からバイオ後続品に切り替えを含む臨床試験データの充実やガイドライン等の整備	19.2
卸売業者への返品が可能になること	51.8
一社流通品目における安定供給の確保	16.7
その他	3.8
バイオ後続品の使用推進の必要はない	2.3
無回答	1.9

5.⑫ 前記⑪の選択肢1.～12.のうち、最もあてはまるもの

	割合
回答数（件）	660
調剤報酬を含む経営的メリットがあること	11.2
患者負担の軽減がより明確になること	14.2
医師、薬剤師への国からのバイオ後続品に関する情報の周知	5.9
国からの国民への啓発と患者の理解	9.7
バイオ後続品企業から医師、薬剤師への情報提供	7.1
バイオ後続品の安定供給	8.6
バイオ後続品の在庫負担の軽減	3.9
バイオ後続品の品目数の増加	1.4
先行バイオ医薬品からバイオ後続品に切り替えを含む臨床試験データの充実やガイドライン等の整備	5.8
卸売業者への返品が可能になること	19.2
一社流通品目における安定供給の確保	0.8
その他	2.4
無回答	9.7

5.⑬ 患者からバイオ後続品に関する相談を受けたことはあるか

	割合
回答数（件）	689
ある	3.9
ない	92.0
無回答	4.1

5.⑭ 患者からバイオ後続品に関するどのような相談を受けたか

	割合
回答数（件）	27
バイオ後続品そのものに関する相談（患者がバイオ後続品を知らない場合など）	40.7
バイオ後続品の品質・有効性及び安全性に関する相談	48.1
バイオ医薬品全般に関する相談（患者がバイオ医薬品を知らない場合など）	18.5
先行バイオ医薬品とデバイスが異なる場合の使用方法に関する相談	11.1
患者負担に関する相談	63.0
その他	3.7
無回答	0.0

5.⑮ 前記⑭の選択肢1.～6.のうち、最もあてはまるもの

	割合
回答数（件）	27
バイオ後続品そのものに関する相談（患者がバイオ後続品を知らない場合など）	18.5
バイオ後続品の品質・有効性及び安全性に関する相談	22.2
バイオ医薬品全般に関する相談（患者がバイオ医薬品を知らない場合など）	0.0
先行バイオ医薬品とデバイスが異なる場合の使用方法に関する相談	7.4
患者負担に関する相談	48.1
その他	3.7
無回答	0.0

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）
_01-2 【後発】 単純集計表_v1.3.xlsx_1.保険薬局調査

5.⑤ 前記④で「3.バイオ医薬品全般に関する相談」を選択した場合、相談を受けた患者が使用していたバイオ医薬品は何か

	割合
回答数（件）	27
ソマトロピン	7.4
フィルグラスチム	0.0
インスリン_グラルギン	29.6
エタネルセプト	18.5
テリパラチド	7.4
インスリン_リスプロ	11.1
インスリン_アスパルト	11.1
アダリムマブ	0.0
バイオ医薬品未使用の患者	3.7
無回答	22.2

6.① 薬局として医薬品を提供する際に、いくらからが「高額医薬品」と感じるか 薬価（円）

回答数（件）	593
平均値	10289.3
標準偏差	54261.3
中央値	1000

6.① 薬局として医薬品を提供する際に、いくらからが「高額医薬品」と感じるか 一日薬価（円）

回答数（件）	555
平均値	12737.8
標準偏差	77093.9
中央値	1500

6.②・1 調剤用医薬品の廃棄額（薬価ベース） 全医薬品（（令和7年4月～6月の合計値））（円）

回答数（件）	546
平均値	74476.7
標準偏差	294296.0
中央値	29000

6.②・2 調剤用医薬品の廃棄額（薬価ベース） うち、後発医薬品（（令和7年4月～6月の合計値））（円）

回答数（件）	495
平均値	21978.6
標準偏差	115661.5
中央値	5000

6.③・1 廃棄した医薬品のうち、廃棄金額が最も多かった医薬品の廃棄額（薬価ベース）（令和7年度（令和7年4月～6月の合計値））（円）

回答数（件）	492
平均値	19656.7
標準偏差	36495.5
中央値	7112

6.④ 廃棄を減らすためにを行っている工夫や取組

	割合
回答数（件）	689
同一グループ（調剤基本料のグループ）で分譲・融通を行っている	61.8
地域の同一グループ以外の薬局間で分譲・融通を行っている	30.8
医薬品の発注単位を見直している	55.7
医薬品の使用頻度や期限を踏まえた在庫管理を強化している	66.0
医療機関と連携し、処方傾向に応じた在庫調整を行っている	15.1
廃棄リスクの高い医薬品の採用を見直している	25.0
特に工夫していることはない	1.5
その他	3.0
無回答	3.3

6.⑤ 希少疾病用医薬品備蓄品目数（品目）

回答数（件）	594
平均値	9.4
標準偏差	85.5
中央値	0

7.① 流通改善ガイドラインを知っているか

	割合
回答数（件）	689
知っている	46.7
知らない	50.1
無回答	3.2

7.② 卸売業者との単品単価契約に関して、あてはまるもの

	割合
回答数（件）	689
卸売業者と原則として全ての品目について単品単価交渉を行	45.7
卸売業者と価格交渉の段階から個々の医薬品の価値を踏まえ	17.3
基礎的医薬品、安定確保医薬品（カテゴリーA）、不採算品再	15.7
新薬創出等加算品等についても、引き続き単品単価交渉を行っている	13.9
いずれもしていない	30.6
無回答	13.8

7.③ 過大な値引き交渉及び不当廉売に関して、あてはまるもの

	割合
回答数（件）	689
取引条件等を考慮せずにベンチマークを用いての一方的な値引	40.2
取引品目等の相違を無視して同一の総値引率を用いた交渉は	37.9
取引条件等を考慮せずに同一の納入単価での取引を求める交渉	35.4
価格交渉を代行する者に価格交渉を依頼する場合、価格交渉を	22.9
いずれもしていない	34.4
無回答	14.4

7.④ 頻繁な価格交渉の改善に関して、あてはまるもの

	割合
回答数（件）	689
これまで、期中で薬価改定（再算定等）があるなど医薬品の	77.1
年度内に卸売業者と妥結価格の変更を行ったことがある	5.4
無回答	17.6

7.⑤ 医薬品の返品に関して、返品の取扱いに関する「医療用医薬品の流通の

	割合
回答数（件）	689
遵守している	88.4
遵守していない	2.2
無回答	9.4

7.⑥ 返品したことがある医薬品

	割合
回答数（件）	689
厳格な温度管理を要する医薬品	0.9
有効期限を経過した医薬品	0.0
開封された医薬品	1.3
汚損、破損した医薬品	3.0
卸売業者と保険医療機関・保険薬局等との契約により「返品	0.1
その他、価値、安全性等が棄損されている又はそのおそれがあ	4.9
在庫調整を目的とした医薬品	38.6
1～7.の中で返品したことがある医薬品はない	51.4
無回答	5.1

7.⑦ 公正な競争の確保と法令の遵守に関して、あてはまるもの

	割合
回答数（件）	689
独占禁止法をはじめ、不当景品類及び不当表示防止法（昭和	73.7
企業又は団体等が主催する研修を定期的に受講すること等によ	27.0
いずれもしていない	12.3
無回答	11.3

7.⑧ カテゴリーごとの流通のあり方に関して、あてはまるもの

	割合
回答数（件）	689
特別な管理が必要な医薬品、長期収載品、後発医薬品など、	50.9
上記取組はしていない	35.7
無回答	13.4

7.⑨ 流通の効率化と安全性・安定供給の確保に関して、あては

	割合
回答数（件）	689
流通の効率化と安定供給の確保のため、常に適正な在庫量を	73.9
高額な医薬品の増加などに伴い、偽造品の混入を防止するた	22.1
サプライチェーンの安定性確保のため、過剰な在庫確保や不必	44.3
安定確保医薬品については、医療上の重要性に鑑み、特に安	49.5
定供給の確保に配慮している	
医薬品の供給量が不足している状況において、必要な患者に必	64.9
医薬品の供給量が不足している状況において、自らの店舗で不	63.3
医療安全の観点からGS1識別コードを活用している	40.3
いずれもしていない	3.2
無回答	6.5

1.① 所在地

	割合
回答数（件）	221
北海道	7.7
青森県	0.5
岩手県	1.4
宮城県	0.9
秋田県	0.9
山形県	0.5
福島県	0.5
茨城県	2.3
栃木県	1.4
群馬県	2.7
埼玉県	2.3
千葉県	0.9
東京都	7.2
神奈川県	5.0
新潟県	0.5
富山県	1.4
石川県	0.0
福井県	0.9
山梨県	1.4
長野県	1.4
岐阜県	1.4
静岡県	5.0
愛知県	2.3
三重県	0.9
滋賀県	1.8
京都府	2.7
大阪府	4.5
兵庫県	5.0
奈良県	1.4
和歌山県	0.9
鳥取県	0.9
島根県	0.0
岡山県	0.9
広島県	5.0
山口県	0.5
徳島県	0.5
香川県	0.9
愛媛県	2.7
高知県	2.3
福岡県	4.5
佐賀県	2.3
長崎県	3.2
熊本県	1.8
大分県	1.4
宮崎県	1.4
鹿児島県	4.5
沖縄県	2.3
無回答	0.0

1.② 開設者

	割合
回答数（件）	221
国	3.6
公立	11.8
公的	6.3
社会保険関係団体	0.0
医療法人	60.2
その他の法人	16.7
個人	0.9
無回答	0.5

1.③ 開設年（西暦）

回答数（件）	192
平均値	1977.9
標準偏差	25.5
中央値	1978.5

1.③ 開設年

	割合
回答数（件）	221
1995年以前	60.6
1996～2000年	4.1
2001～2005年	5.9
2006～2010年	4.5
2011～2015年	5.4
2016～2020年	5.9
2021年以降	0.5
無回答	13.1

1.④ 標榜診療科

	割合
回答数（件）	221
内科	83.7
外科	50.2
精神科	30.3
小児科	30.3
皮膚科	31.2
泌尿器科	33.5
産婦人科・産科	14.5
眼科	24.4
耳鼻咽喉科	19.9
放射線科	31.7
脳神経外科	25.3
整形外科	60.6
麻酔科	26.2
救急科	9.5
歯科・歯科口腔外科	10.9
リハビリテーション科	57.9
その他	21.7
無回答	0.5

1.④ - 1 内科の詳細

	割合
回答数（件）	185
腎臓内科	21.6
血液内科	10.8
リウマチ内科	14.1
糖尿病内科	31.9
消化器内科	54.6
呼吸器内科	40.0
循環器内科	55.7
1～7.に該当なし	31.9
無回答	2.7

1.④ - 2 外科の詳細

	割合
回答数（件）	111
呼吸器外科	19.8
心臓血管外科	16.2
乳腺外科	23.4
気管食道外科	0.9
消化器外科	45.0
肛門外科	22.5
小児外科	6.3
1～7.に該当なし	37.8
無回答	5.4

1.⑤ オーダリングシステムの導入状況

	割合
回答数（件）	221
一般名処方に対応できるオーダリングシステムを導入している	52.5
後発医薬品名が表示されるオーダリングシステムを導入している	31.7
バイオ後続品が表示されるオーダリングシステムを導入している	17.6
オーダリングシステムを導入している（上記1～3.の機能はない）	14.0
オーダリングシステムを導入していない	21.7
無回答	4.5

1.⑥ 外来の院内処方の割合

	割合
回答数（件）	221
0 %_	13.6
0 %超～10%未満	38.9
10%以上20%未満	4.1
20%以上30%未満	1.8
30%以上40%未満	0.9
40%以上50%未満	0.5
50%以上60%未満	1.4
60%以上70%未満	1.4
70%以上80%未満	2.3
80%以上90%未満	3.6
90%以上100%未満	13.1
100%_	9.5
無回答	9.0

1.⑥ 外来の院内処方の割合（％）

回答数（件）	201
平均値	34.2
標準偏差	42.1
中央値	5

1.⑥ 外来の院外処方の割合

	割合
回答数（件）	221
0 %_	9.5
0 %超～10%未満	12.2
10%以上20%未満	3.6
20%以上30%未満	3.2
30%以上40%未満	1.4
40%以上50%未満	0.9
50%以上60%未満	0.5
60%以上70%未満	0.5
70%以上80%未満	2.3
80%以上90%未満	2.3
90%以上100%未満	41.2
100%_	13.6
無回答	9.0

1.⑥ 外来の院外処方の割合（％）

回答数（件）	201
平均値	65.8
標準偏差	42.1
中央値	95

1.⑦ 特定入院料の状況

	割合
回答数（件）	221
回復期リハビリテーション病棟入院料	17.2
地域包括ケア病棟入院料	31.2
地域包括医療病棟入院料	3.6
救命救急入院料	0.9
特定集中治療室管理料	4.5
小児入院医療管理料	5.9
その他、投薬・注射に係る薬剤料が包括されている特定入院料（精神科救急入院料等）	12.2
いずれも算定していない	27.1
無回答	16.7

1.⑧ 許可病床数 1）一般病床（床）

回答数（件）	213
平均値	88.9
標準偏差	124.9
中央値	60

1.⑧ 許可病床数 2）療養病床（床）

回答数（件）	213
平均値	32.0
標準偏差	54.1
中央値	0

1.⑧ 許可病床数 3）精神病床（床）

回答数（件）	213
平均値	36.5
標準偏差	87.8
中央値	0

1.⑧ 許可病床数 4）結核病床（床）

回答数（件）	213
平均値	0.1
標準偏差	0.7
中央値	0

1.⑧ 許可病床数 5）感染症病床（床）

回答数（件）	213
平均値	0.2
標準偏差	1.1
中央値	0

1.⑧ 許可病床数 6）合計（床）

回答数（件）	213
平均値	157.7
標準偏差	132.9
中央値	130

1.⑧ 許可病床数 合計

	割合
回答数（件）	221
99床以下	36.2
100～199床	42.1
200～299床	6.8
300～399床	6.3
400～499床	2.3
500床以上	2.3
無回答	4.1

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）

01-2 【後発】単純集計表_v1.3.xlsx_2.病院調査

1.⑨ - 1 医師数 1）常勤のみ

	割合
回答数（件）	221
5人以下	39.8
6～10人	21.7
11～15人	10.0
16～20人	7.2
21人以上	11.3
無回答	10.0

1.⑨ - 1 医師数 1）常勤のみ（人）

回答数（件）	199
平均値	22.6
標準偏差	85.8
中央値	6

1.⑨ - 1 医師数 2）常勤換算

	割合
回答数（件）	221
5人未満	48.0
5人以上10人未満	14.5
10人以上15人未満	6.8
15人以上20人未満	3.6
20人以上	5.9
無回答	21.3

1.⑨ - 1 医師数 2）常勤換算（人）

回答数（件）	174
平均値	9.5
標準偏差	23.2
中央値	3.7

1.⑨ - 2 薬剤師数 1）常勤のみ

	割合
回答数（件）	221
3人以下	60.2
4～6人	19.0
7～9人	8.6
10～12人	1.4
13人以上	6.3
無回答	4.5

1.⑨ - 2 薬剤師数 1）常勤のみ（人）

回答数（件）	211
平均値	5.3
標準偏差	10.8
中央値	3

1.⑨ - 2 薬剤師数 2）常勤換算

	割合
回答数（件）	221
3人未満	62.9
3人以上6人未満	12.2
6人以上9人未満	1.8
9人以上12人未満	1.8
12人以上	1.8
無回答	19.5

1.⑨ - 2 薬剤師数 2）常勤換算（人）

回答数（件）	178
平均値	2.1
標準偏差	4.1
中央値	1

1.⑩ 外来患者延数

	割合
回答数（件）	221
999人以下	19.9
1000～1999人	17.6
2000～2999人	11.8
3000～3999人	10.4
4000人以上	26.2
無回答	14.0

1.⑩ 外来患者延数（人）

回答数（件）	190
平均値	4066.1
標準偏差	7509.3
中央値	2332.5

1.⑪ 在院患者延数

	割合
回答数（件）	221
499人以下	6.8
500～999人	7.2
1000～1499人	9.5
1500～1999人	5.4
2000人以上	56.6
無回答	14.5

1.⑪ 在院患者延数（人）

回答数（件）	189
平均値	3528.6
標準偏差	3263.1
中央値	2750

1.⑫ - 1 調剤用医薬品備蓄品目数 内服薬 全医薬品

回答数（件）	187
平均値	401.5
標準偏差	225.7
中央値	372

1.⑫ - 2 調剤用医薬品備蓄品目数 外用薬 全医薬品

回答数（件）	187
平均値	124.6
標準偏差	77.3
中央値	113

1.⑫ - 3 調剤用医薬品備蓄品目数 注射薬 全医薬品

回答数（件）	188
平均値	205.4
標準偏差	178.6
中央値	153.5

1.⑫ - 4 調剤用医薬品備蓄品目数 合計 全医薬品

回答数（件）	201
平均値	753.4
標準偏差	578.3
中央値	640

1.⑫ - 1 調剤用医薬品備蓄品目数 内服薬 うち、後発医薬品

	割合
回答数（件）	221
0 品目	0.5
1～49品目	7.7
50～99品目	11.3
100～199品目	31.7
200～299品目	19.9
300品目以上	9.0
無回答	19.9

1.⑫ - 1 調剤用医薬品備蓄品目数 内服薬 うち、後発医薬品

回答数（件）	177
平均値	173.7
標準偏差	108.4
中央値	160

1.⑫ - 2 調剤用医薬品備蓄品目数 外用薬 うち、後発医薬品

	割合
回答数（件）	221
0 品目	0.5
1～49品目	61.1
50～99品目	14.5
100～199品目	3.2
200～299品目	0.9
300品目以上	0.0
無回答	19.9

1.⑫ - 2 調剤用医薬品備蓄品目数 外用薬 うち、後発医薬品

回答数（件）	177
平均値	40.2
標準偏差	36.0
中央値	30

1.⑫ - 3 調剤用医薬品備蓄品目数 注射薬 うち、後発医薬品

	割合
回答数（件）	221
0 品目	0.9
1～49品目	46.6
50～99品目	19.9
100～199品目	9.0
200～299品目	2.3
300品目以上	0.9
無回答	20.4

1.⑫ - 3 調剤用医薬品備蓄品目数 注射薬 うち、後発医薬品

回答数（件）	176
平均値	56.2
標準偏差	60.7
中央値	37

1.⑫ - 4 調剤用医薬品備蓄品目数 合計 うち、後発医薬品

	割合
回答数（件）	221
0 品目	0.5
1～49品目	4.1
50～99品目	8.1
100～199品目	22.2
200～299品目	19.9
300品目以上	30.3
無回答	14.9

1.⑫ - 4 調剤用医薬品備蓄品目数 合計 うち、後発医薬品

回答数（件）	188
平均値	276.9
標準偏差	201.1
中央値	245.5

1.⑬ 調剤用医薬品備蓄品目数の全医薬品合計のうち、先行バイオ医薬品

	割合
回答数（件）	221
0 品目	22.6
1品目	11.3
2品目	8.1
3品目	5.9
4品目	2.7
5品目	5.0
6品目	0.9
7品目	2.7
8品目	0.9
9品目	2.7
10品目以上	18.1
無回答	19.0

1.⑬ 調剤用医薬品備蓄品目数の全医薬品合計のうち、先行バイオ医薬品

回答数（件）	179
平均値	11.9
標準偏差	39.1
中央値	2

1.⑭ 調剤用医薬品備蓄品目数の全医薬品合計のうち、バイオ後続品

	割合
回答数（件）	221
0 品目	20.8
1品目	14.0
2品目	11.3
3品目	7.2
4品目	4.1
5品目	4.5
6品目	1.8
7品目	1.8
8品目	3.2
9品目	3.2
10品目以上	10.9
無回答	17.2

1.⑭ 調剤用医薬品備蓄品目数の全医薬品合計のうち、バイオ後続品（品目）

回答数（件）	183
平均値	13.5
標準偏差	126.2
中央値	2

2.① 1年前（令和6年7月1日）と比較して後発医薬品に係る対応において業務量は増えたか

	割合
回答数（件）	221
増えた	57.5
変わらない	39.8
減った	2.3
無回答	0.5

2.② 1年前（令和6年7月1日）と比較して、後発医薬品の供給体制についてどのように感じるか

	割合
回答数（件）	221
改善した	7.7
変わらない	35.3
悪化した	54.8
無回答	2.3

2.③ 現在（令和7年7月1日）の医薬品の調達状況

	割合
回答数（件）	221
医薬品の納品までに時間がかかる	86.0
医薬品の発注作業の回数が増えた	45.7
卸に医薬品の注文を受け付けてもらえない	54.3
卸からの医薬品の注文の取り消しが頻発している	44.8
特に困難な状況はない	1.8
その他	9.0
無回答	0.0

2.④ 医薬品の不安定な供給状況によって生じている影響

	割合
回答数（件）	221
後発医薬品を先発医薬品に採用品目の見直しを行っている	73.3
後発医薬品を別の後発医薬品に採用品目の見直しを行っている	82.8
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、代替のための後発医薬品の調達を行っている	68.3
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、同一成分の先発医薬品の調達を行っている	73.8
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、剤形の変更等を行っている	37.6
患者からの後発医薬品使用に関する相談や苦情等の対応を行っている	10.4
後発医薬品の品質や安全性に係る情報収集を行っている	29.9
後発医薬品メーカーや卸から供給に関する情報の収集を行っている	71.5
処方可能な医薬品のリストを作成し、日々更新している	12.7
オーダーリングシステムの医薬品マスタにおいて処方可否の設定を日々更新している	37.6
その他	4.5
特になし	0.9
無回答	0.5

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）

_01-2 【後発】単純集計表_v1.3.xlsx 2.病院調査

2.⑤ 前記④の選択肢1.～11.のうち、最もあてはまるもの

	割合
回答数（件）	218
後発医薬品を先発医薬品に採用品目の見直しを行っている	9.6
後発医薬品を別の後発医薬品に採用品目の見直しを行っている	20.2
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、代替のための後発医薬品の調達を行っている	15.6
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、同一成分の先発医薬品の調達を行っている	6.4
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、剤形の変更等を行っている	0.0
患者からの後発医薬品使用に関する相談や苦情等の対応を行っている	0.0
後発医薬品の品質や安全性に係る情報収集を行っている	0.9
後発医薬品メーカーや卸から供給に関する情報の収集を行っている	15.1
処方可能な医薬品のリストを作成し、日々更新している	0.5
オーダリングシステムの医薬品マスタにおいて処方可否の設定を日々更新している	2.8
その他	2.3
無回答	26.6

2.⑥ 現在（令和7年7月1日）において、後発医薬品の処方割合に変化はあったか

	割合
回答数（件）	221
後発医薬品の処方割合がかなり減った	2.7
後発医薬品の処方割合がやや減った	19.5
後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった	46.6
後発医薬品の処方割合が増えた	18.1
わからない	10.4
無回答	2.7

2.⑦ - 1 出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 先発医薬品

	割合
回答数（件）	221
0品目	8.6
1～4品目	26.2
5～9品目	13.1
10～14品目	14.5
15品目以上	16.7
無回答	20.8

2.⑦ - 1 出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 先発医薬品

回答数（件）	175
平均値	10.5
標準偏差	16.0
中央値	5

2.⑦ - 2 出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 後発医薬品

	割合
回答数（件）	221
0品目	1.8
1～4品目	22.2
5～9品目	18.1
10～14品目	16.7
15品目以上	22.2
無回答	19.0

2.⑦ - 2 出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 後発医薬品

回答数（件）	179
平均値	14.9
標準偏差	25.7
中央値	8

2.⑧ 供給停止となっている後発医薬品等の診療報酬上の臨時的な取扱いの適用（令和7年7月1日時点）

	割合
回答数（件）	221
あり	28.1
なし	56.6
無回答	15.4

2.⑨ 後発医薬品使用体制加算の算定状況

	割合
回答数（件）	221
算定していない	38.0
後発医薬品使用体制加算1	33.5
後発医薬品使用体制加算2	8.6
後発医薬品使用体制加算3	11.8
無回答	8.1

2.⑩ 後発医薬品使用割合<新指標、数量ベース>（令和7年6月）

	割合
回答数（件）	221
20%未満	2.7
20%以上25%未満	1.4
25%以上30%未満	0.0
30%以上35%未満	0.5
35%以上40%未満	0.5
40%以上45%未満	1.4
45%以上50%未満	1.4
50%以上55%未満	1.8
55%以上60%未満	0.5
60%以上65%未満	1.4
65%以上70%未満	0.9
70%以上75%未満	1.4
75%以上80%未満	3.2
80%以上85%未満	5.4
85%以上90%未満	12.2
90%以上	47.1
無回答	18.6

2.⑩ 後発医薬品使用割合<新指標、数量ベース>（令和7年6月）（％）

回答数（件）	180
平均値	83.4
標準偏差	20.8
中央値	91.9

2.⑪ カットオフ値の割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年6月）

	割合
回答数（件）	221
20%未満	0.9
20%以上25%未満	0.0
25%以上30%未満	0.5
30%以上35%未満	0.5
35%以上40%未満	1.4
40%以上45%未満	2.3
45%以上50%未満	6.8
50%以上55%未満	19.9
55%以上60%未満	17.2
60%以上65%未満	11.3
65%以上70%未満	7.7
70%以上75%未満	5.9
75%以上80%未満	0.0
80%以上85%未満	0.0
85%以上90%未満	1.4
90%以上	3.2
無回答	21.3

2.⑪ カットオフ値の割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年6月）（％）

回答数（件）	174
平均値	58.4
標準偏差	13.1
中央値	57.1

2.⑫ 現在、一般名処方による処方箋を発行しているか

	割合
回答数（件）	221
あり	72.4
なし	23.1
無回答	4.5

2.⑬ 一般名処方による処方箋を発行していない理由

	割合
回答数（件）	51
オーダリングシステムや電子カルテが未導入であるため	25.5
現在のシステムが一般名処方に対応していないため	43.1
処方箋が手書きのため	13.7
一般名では分かりにくく、医療従事者が混乱するため	21.6
一般名では分かりにくく、患者が混乱するため	9.8
手間が増えるため	15.7
保険薬局がメーカーを選択できることに疑問や不安があるため	0.0
その他	17.6
特に理由はない	7.8
無回答	3.9

2.⑭ 施設で実施している医薬品の安定供給に関連する取組

	割合
回答数（件）	221
先発医薬品へ切り替えた	63.3
クリニカルパスの見直しを行った	4.5
レジメンの見直しを行った	5.0
その他	24.0
特になし	23.1
無回答	2.7

2.⑮ 今後、どのような対応がなされれば、後発医薬品の使用を進めてもよいと思うか

	割合
回答数（件）	221
厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	27.1
後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること	51.1
後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保	42.5
後発医薬品に関する安定供給体制の確保	91.0
後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合	34.8
後発医薬品の在庫管理の負担軽減	30.3
先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダリングシステムの導入	16.7
後発医薬品に対する患者の理解	16.7
後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価	29.9
後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価	23.1
後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置	56.6
後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示	23.1
調剤に関する保険薬局との連携	6.8
患者負担が軽減されること	12.2
その他	4.1
特に対応は必要ない	0.9
無回答	3.2

2.⑯ 前記⑮の選択肢1.～15.のうち、最もあてはまるもの

	割合
回答数（件）	212
厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	2.8
後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること	6.1
後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保	0.5
後発医薬品に関する安定供給体制の確保	67.5
後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合	1.9
後発医薬品の在庫管理の負担軽減	2.4
先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダリングシステムの導入	0.5
後発医薬品に対する患者の理解	0.0
後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価	0.5
後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価	0.5
後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置	5.2
後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示	0.0
調剤に関する保険薬局との連携	0.0
患者負担が軽減されること	0.9
その他	1.4
無回答	9.9

3.① バイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）を処方（使用）しているか	
	割合
回答数（件）	221
処方（使用）あり	85.5
処方（使用）なし	13.6
無回答	0.9

3.② 院内処方（入院または院内の外来）の有無

	割合
回答数（件）	189
あり	96.3
なし	2.6
無回答	1.1

3.③ 院外処方の有無

	割合
回答数（件）	189
あり	68.8
なし	26.5
無回答	4.8

3.④ 在庫のあるバイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）

	割合
回答数（件）	189
インスリン製剤	87.3
ヒト成長ホルモン剤	4.2
エタネルセプト製剤	18.5
テリバラチド製剤	34.9
リツキシマブ製剤	8.5
トラスツズマブ製剤	15.9
ペバシズマブ製剤	17.5
インフリキシマブ製剤	20.1
アダリムマブ製剤	15.3
ラニビズマブ製剤	10.1
アガルシダーゼ_ベータ製剤	1.6
ペグフィルグラスチム製剤	11.1
ウスティヌマブ製剤	3.7
アフリベルセプト製剤	4.8
バイオ医薬品の在庫なし	5.3
無回答	1.1

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）

_01-2 【後発】単純集計表_v1.3.xlsx 2.病院調査

3.⑤ 施設におけるバイオ後続品の使用に関する考え方について最も近いもの

	割合
回答数（件）	221
バイオ後続品が発売されているものは、積極的に処方（使用）する	10.9
品質や有効性、安全性に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方（使用）する	18.6
安定供給に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方（使用）する	10.4
品目によってはバイオ後続品を積極的に処方（使用）する	16.3
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が同じ場合は積極的に処方（使用）する	7.7
いわゆるバイオAGであれば積極的に使用する	8.1
バイオ後続品を積極的には処方（使用）していない	12.7
バイオ医薬品（先行バイオ医薬品、バイオ後続品）の対象となる患者がいない	9.5
その他	4.5
無回答	1.4

3.⑥ バイオ後続品の院内処方（入院または院内の外来）の有無

	割合
回答数（件）	189
あり	84.1
なし	13.2
無回答	2.6

3.⑦ バイオ後続品の院外処方の有無

	割合
回答数（件）	189
あり	57.1
なし	39.2
無回答	3.7

3.⑧ バイオ後続品使用体制加算が新設により、施設におけるバイオ後続品の使用件数が増えたか

	割合
回答数（件）	164
はい	12.8
いいえ	59.8
わからない	24.4
無回答	3.0

3.⑧ - 1 入院処方件数 A.エボエチン 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	1.8
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	1.2
9件	0.6
10件以上	7.9
無回答	52.4

3.⑧ - 1 入院処方件数 A.エボエチン 処方総件数

回答数（件）	78
平均値	21.5
標準偏差	113.2
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	32.3
1件	1.8
2件	0.6
3件	0.6
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.6
7件	1.2
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	1.8
無回答	61.0

3.⑧ - 1 入院処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数

回答数（件）	64
平均値	2.0
標準偏差	7.6
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.8
1件	1.8
2件	0.6
3件	0.6
4件	1.2
5件	0.0
6件	0.6
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	60.4

3.⑧ - 1 入院処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数

回答数（件）	65
平均値	0.3
標準偏差	1.1
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 D.テリバラチド 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.8
1件	4.3
2件	2.4
3件	2.4
4件	0.6
5件	0.6
6件	0.0
7件	1.8
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	3.0
無回答	50.0

3.⑧ - 1 入院処方件数 D.テリバラチド 処方総件数

回答数（件）	82
平均値	4.2
標準偏差	17.8
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 E.ソマトロビン 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	37.8
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	62.2

3.⑧ - 1 入院処方件数 E.ソマトロビン 処方総件数

回答数（件）	62
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	35.4
1件	2.4
2件	0.0
3件	0.6
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.6
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	60.4

3.⑧ - 1 入院処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数

回答数（件）	65
平均値	0.3
標準偏差	1.0
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	37.8
1件	1.8
2件	0.6
3件	0.0
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	59.1

3.⑧ - 1 入院処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数

回答数（件）	67
平均値	0.1
標準偏差	0.6
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 H.アガルシダーゼベータ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	37.2
1件	0.6
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	62.2

3.⑧ - 1 入院処方件数 H.アガルシダーゼベータ 処方総件数

回答数（件）	62
平均値	0.0
標準偏差	0.1
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 I.ベバシズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	32.9
1件	1.8
2件	1.8
3件	0.6
4件	1.2
5件	0.6
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	1.8
無回答	59.1

3.⑧ - 1 入院処方件数 I.ベバシズマブ 処方総件数

回答数（件）	67
平均値	1.0
標準偏差	3.2
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	23.8
1件	6.7
2件	6.7
3件	2.4
4件	1.2
5件	2.4
6件	1.8
7件	0.6
8件	0.6
9件	0.0
10件以上	9.8
無回答	43.9

3.⑧ - 1 入院処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数

回答数（件）	92
平均値	13.4
標準偏差	40.3
中央値	1

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）

_01-2 【後発】単純集計表_v1.3.xlsx_2.病院調査

3.⑧ - 1 入院処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	23.8
1件	7.9
2件	5.5
3件	3.7
4件	2.4
5件	2.4
6件	1.2
7件	1.2
8件	0.6
9件	0.6
10件以上	7.3
無回答	43.3

3.⑧ - 1 入院処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数

回答数（件）	93
平均値	16.2
標準偏差	80.1
中央値	1

3.⑧ - 1 入院処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	36.0
1件	0.6
2件	1.8
3件	0.0
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	61.0

3.⑧ - 1 入院処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数

回答数（件）	64
平均値	0.2
標準偏差	0.7
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	36.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	1.2
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	62.2

3.⑧ - 1 入院処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数

回答数（件）	62
平均値	0.2
標準偏差	0.9
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	33.5
1件	1.8
2件	1.2
3件	0.0
4件	1.2
5件	0.6
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.6
10件以上	1.2
無回答	59.8

3.⑧ - 1 入院処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数

回答数（件）	66
平均値	1.8
標準偏差	8.7
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	37.8
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	62.2

3.⑧ - 1 入院処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数

回答数（件）	62
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	37.2
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	62.2

3.⑧ - 1 入院処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数

回答数（件）	62
平均値	0.1
標準偏差	0.5
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 A.エボエチン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.8
1件	1.2
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	1.2
9件	0.0
10件以上	7.9
無回答	53.7

3.⑧ - 1 入院処方件数 A.エボエチン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	76
平均値	21.9
標準偏差	114.6
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	32.3
1件	1.2
2件	0.6
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.6
6件	0.6
7件	1.2
8件	0.0
9件	0.6
10件以上	1.8
無回答	61.0

3.⑧ - 1 入院処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	64
平均値	2.3
標準偏差	7.9
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.8
1件	1.2
2件	0.6
3件	0.6
4件	1.2
5件	0.0
6件	0.6
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	61.0

3.⑧ - 1 入院処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	64
平均値	0.3
標準偏差	1.1
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 D.テリバラチド 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	36.0
1件	3.7
2件	1.8
3件	1.2
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	1.8
8件	0.6
9件	0.0
10件以上	3.0
無回答	51.2

3.⑧ - 1 入院処方件数 D.テリバラチド 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	80
平均値	4.2
標準偏差	18.0
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 E.ソマトロビン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	37.8
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	62.2

3.⑧ - 1 入院処方件数 E.ソマトロビン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	62
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧ - 1 入院処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	36.6
1件	1.8
2件	0.0
3件	0.6
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.6
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	60.4

3.⑧ - 1 入院処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	65
平均値	0.2
標準偏差	0.8
中央値	0

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）

_01-2 【後発】単純集計表_v1.3.xlsx 2.病院調査

3.⑧・1入院処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	39.0
1件	1.2
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	59.1

3.⑧・1入院処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	67
平均値	0.1
標準偏差	0.5
中央値	0

3.⑧・1入院処方件数 H.アガルシダーゼベータ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	37.8
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	62.2

3.⑧・1入院処方件数 H.アガルシダーゼベータ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	62
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧・1入院処方件数 I.ベバシズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.8
1件	0.0
2件	1.2
3件	1.2
4件	1.2
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.6
9件	0.6
10件以上	1.2
無回答	59.1

3.⑧・1入院処方件数 I.ベバシズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	67
平均値	1.0
標準偏差	3.1
中央値	0

3.⑧・1入院処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	41.5
1件	1.8
2件	3.0
3件	1.8
4件	0.6
5件	0.6
6件	1.2
7件	0.6
8件	0.6
9件	0.0
10件以上	4.3
無回答	43.9

3.⑧・1入院処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	92
平均値	5.4
標準偏差	24.4
中央値	0

3.⑧・1入院処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	37.8
1件	6.1
2件	3.0
3件	0.6
4件	1.2
5件	1.8
6件	0.0
7件	0.6
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	4.3
無回答	44.5

3.⑧・1入院処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	91
平均値	8.0
標準偏差	33.9
中央値	0

3.⑧・1入院処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	38.4
1件	0.6
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	61.0

3.⑧・1入院処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	64
平均値	0.0
標準偏差	0.1
中央値	0

3.⑧・1入院処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	36.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	1.2
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	62.2

3.⑧・1入院処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	62
平均値	0.2
標準偏差	0.9
中央値	0

3.⑧・1入院処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	36.6
1件	1.2
2件	0.0
3件	0.0
4件	1.2
5件	0.6
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.6
無回答	59.8

3.⑧・1入院処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	66
平均値	0.5
標準偏差	2.6
中央値	0

3.⑧・1入院処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	37.8
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	62.2

3.⑧・1入院処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	62
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧・1入院処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	37.2
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.6
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	62.2

3.⑧・1入院処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	62
平均値	0.1
標準偏差	0.8
中央値	0

3.⑧・2外来処方件数 A.エボエチン 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	31.1
1件	0.6
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.6
5件	0.6
6件	0.6
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	7.3
無回答	57.9

3.⑧・2外来処方件数 A.エボエチン 処方総件数

回答数（件）	69
平均値	34.9
標準偏差	94.4
中央値	0

3.⑧・2外来処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	31.7
1件	0.6
2件	1.8
3件	0.6
4件	0.0
5件	0.6
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	2.4
無回答	62.2

3.⑧・2外来処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数

回答数（件）	62
平均値	1.7
標準偏差	6.2
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 C.トラスズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	28.7
1件	1.8
2件	2.4
3件	1.8
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	3.7
無回答	61.0

3.⑧ - 2 外来処方件数 C.トラスズマブ 処方総件数

回答数（件）	64
平均値	2.2
標準偏差	6.2
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 D.テリパラチド 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	31.1
1件	4.3
2件	1.2
3件	0.6
4件	0.6
5件	0.6
6件	0.0
7件	0.6
8件	0.6
9件	0.6
10件以上	4.3
無回答	55.5

3.⑧ - 2 外来処方件数 D.テリパラチド 処方総件数

回答数（件）	73
平均値	2.0
標準偏差	4.5
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 E.ソマトロピン 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	35.4
1件	0.6
2件	0.6
3件	0.0
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	62.8

3.⑧ - 2 外来処方件数 E.ソマトロピン 処方総件数

回答数（件）	61
平均値	0.1
標準偏差	0.6
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	28.0
1件	4.3
2件	3.0
3件	0.6
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.6
9件	0.6
10件以上	3.7
無回答	58.5

3.⑧ - 2 外来処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数

回答数（件）	68
平均値	4.4
標準偏差	15.8
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	28.7
1件	4.9
2件	4.3
3件	0.0
4件	1.8
5件	0.0
6件	0.6
7件	0.6
8件	0.0
9件	0.6
10件以上	1.2
無回答	57.3

3.⑧ - 2 外来処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数

回答数（件）	70
平均値	1.3
標準偏差	3.5
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 H.アガルシダーゼベータ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.8
1件	0.6
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	63.4

3.⑧ - 2 外来処方件数 H.アガルシダーゼベータ 処方総件数

回答数（件）	60
平均値	0.1
標準偏差	0.4
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 I.ペバシズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	28.0
1件	1.2
2件	0.0
3件	3.7
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.6
8件	1.8
9件	0.6
10件以上	5.5
無回答	57.9

3.⑧ - 2 外来処方件数 I.ペバシズマブ 処方総件数

回答数（件）	69
平均値	6.9
標準偏差	18.2
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	30.5
1件	4.9
2件	0.6
3件	1.2
4件	1.2
5件	0.6
6件	0.0
7件	0.6
8件	0.6
9件	0.0
10件以上	7.9
無回答	51.8

3.⑧ - 2 外来処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数

回答数（件）	79
平均値	6.3
標準偏差	18.5
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	28.7
1件	2.4
2件	1.2
3件	3.0
4件	0.6
5件	0.6
6件	0.6
7件	0.6
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	7.9
無回答	54.3

3.⑧ - 2 外来処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数

回答数（件）	75
平均値	4.5
標準偏差	10.0
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	29.9
1件	4.3
2件	2.4
3件	2.4
4件	0.0
5件	0.0
6件	1.2
7件	0.0
8件	1.2
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	58.5

3.⑧ - 2 外来処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数

回答数（件）	68
平均値	0.8
標準偏差	1.8
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	31.7
1件	0.6
2件	0.6
3件	1.8
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.6
7件	0.6
8件	0.6
9件	0.6
10件以上	1.2
無回答	61.6

3.⑧ - 2 外来処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数

回答数（件）	63
平均値	1.3
標準偏差	4.0
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	29.3
1件	0.6
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.6
5件	1.8
6件	1.2
7件	1.2
8件	0.6
9件	0.0
10件以上	4.3
無回答	59.1

3.⑧ - 2 外来処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数

回答数（件）	67
平均値	5.4
標準偏差	17.3
中央値	0

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）

_01-2 【後発】単純集計表_v1.3.xlsx 2.病院調査

3.⑧ - 2 外来処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	30.5
1件	0.6
2件	2.4
3件	0.0
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	3.0
無回答	62.8

3.⑧ - 2 外来処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数

回答数（件）	61
平均値	2.0
標準偏差	6.9
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	29.3
1件	0.6
2件	0.6
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.6
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.6
10件以上	4.9
無回答	63.4

3.⑧ - 2 外来処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数

回答数（件）	60
平均値	7.3
標準偏差	20.2
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 A.エボエチン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	32.9
1件	0.6
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.6
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	6.7
無回答	57.9

3.⑧ - 2 外来処方件数 A.エボエチン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	69
平均値	33.8
標準偏差	93.8
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	31.7
1件	1.2
2件	1.2
3件	0.6
4件	0.0
5件	0.6
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	3.0
無回答	61.6

3.⑧ - 2 外来処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	63
平均値	2.3
標準偏差	7.7
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	29.9
1件	1.8
2件	1.2
3件	1.8
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	1.2
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	2.4
無回答	61.0

3.⑧ - 2 外来処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	64
平均値	2.5
標準偏差	9.7
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 D.テリバラチド 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	36.6
1件	3.0
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.6
6件	0.0
7件	0.6
8件	0.0
9件	0.6
10件以上	0.6
無回答	56.7

3.⑧ - 2 外来処方件数 D.テリバラチド 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	71
平均値	0.7
標準偏差	2.4
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 E.ソマトロピン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	36.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	62.8

3.⑧ - 2 外来処方件数 E.ソマトロピン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	61
平均値	0.1
標準偏差	0.5
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	29.9
1件	3.7
2件	1.2
3件	1.2
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	4.3
無回答	59.1

3.⑧ - 2 外来処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	67
平均値	4.5
標準偏差	16.5
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	32.9
1件	3.0
2件	2.4
3件	0.6
4件	1.2
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	1.2
10件以上	0.6
無回答	57.9

3.⑧ - 2 外来処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	69
平均値	0.8
標準偏差	2.0
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 H.アガルシダーゼベータ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	35.4
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	1.2
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	63.4

3.⑧ - 2 外来処方件数 H.アガルシダーゼベータ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	60
平均値	0.1
標準偏差	0.7
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 I.ベバシズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	30.5
1件	1.8
2件	0.0
3件	1.8
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	1.2
8件	0.6
9件	0.0
10件以上	5.5
無回答	57.9

3.⑧ - 2 外来処方件数 I.ベバシズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	69
平均値	8.1
標準偏差	23.5
中央値	0

3.⑧ - 2 外来処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	36.6
1件	4.9
2件	2.4
3件	0.0
4件	1.2
5件	0.6
6件	0.0
7件	0.6
8件	0.6
9件	0.6
10件以上	0.0
無回答	52.4

3.⑧ - 2 外来処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	78
平均値	0.7
標準偏差	1.8
中央値	0

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）

_01-2 【後発】単純集計表_v1.3.xlsx_2.病院調査

3.⑧-2 外来処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	37.2
1件	1.2
2件	0.6
3件	1.2
4件	0.6
5件	0.6
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	4.3
無回答	54.3

3.⑧-2 外来処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	75
平均値	2.2
標準偏差	7.3
中央値	0

3.⑧-2 外来処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.8
1件	1.8
2件	2.4
3件	0.0
4件	1.2
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	59.8

3.⑧-2 外来処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	66
平均値	0.3
標準偏差	0.8
中央値	0

3.⑧-2 外来処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	32.3
1件	1.2
2件	1.8
3件	0.6
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.6
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.6
10件以上	1.2
無回答	61.6

3.⑧-2 外来処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	63
平均値	1.0
標準偏差	3.8
中央値	0

3.⑧-2 外来処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	33.5
1件	0.0
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.6
5件	1.2
6件	0.6
7件	0.6
8件	0.6
9件	0.0
10件以上	2.4
無回答	59.1

3.⑧-2 外来処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	67
平均値	2.8
標準偏差	13.9
中央値	0

3.⑧-2 外来処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	33.5
1件	1.2
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.6
無回答	63.4

3.⑧-2 外来処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	60
平均値	1.3
標準偏差	8.8
中央値	0

3.⑧-2 外来処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.8
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.6
10件以上	1.2
無回答	63.4

3.⑧-2 外来処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	60
平均値	1.8
標準偏差	8.9
中央値	0

3.⑧-3 在宅自己注射処方件数 A.エボエチン 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	0.0
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	64.6

3.⑧-3 在宅自己注射処方件数 A.エボエチン 処方総件数

回答数（件）	58
平均値	0.1
標準偏差	0.4
中央値	0

3.⑧-3 在宅自己注射処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.9

3.⑧-3 在宅自己注射処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数

回答数（件）	56
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧-3 在宅自己注射処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.8
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.2

3.⑧-3 在宅自己注射処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数

回答数（件）	57
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧-3 在宅自己注射処方件数 D.テリバラチド 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	26.2
1件	6.1
2件	1.8
3件	0.0
4件	0.6
5件	2.4
6件	0.6
7件	1.2
8件	1.8
9件	0.6
10件以上	3.7
無回答	54.9

3.⑧-3 在宅自己注射処方件数 D.テリバラチド 処方総件数

回答数（件）	74
平均値	9.4
標準偏差	60.8
中央値	0

3.⑧-3 在宅自己注射処方件数 E.ソマトロビン 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	31.7
1件	1.8
2件	0.6
3件	0.0
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.2

3.⑧-3 在宅自己注射処方件数 E.ソマトロビン 処方総件数

回答数（件）	57
平均値	0.2
標準偏差	0.6
中央値	0

3.⑧-3 在宅自己注射処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	35.4
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	64.6

3.⑧-3 在宅自己注射処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数

回答数（件）	58
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）
_01-2 【後発】単純集計表_v1.3.xlsx_2.病院調査

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	25.0
1件	4.9
2件	3.0
3件	0.0
4件	3.0
5件	0.0
6件	0.6
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	2.4
無回答	61.0

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数

回答数（件）	64
平均値	2.9
標準偏差	10.7
中央値	0

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 H.アガルシダーゼベータ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.9

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 H.アガルシダーゼベータ 処方総件数

回答数（件）	56
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 I.ペバシズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	0.6
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.2

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 I.ペバシズマブ 処方総件数

回答数（件）	57
平均値	0.0
標準偏差	0.1
中央値	0

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	22.6
1件	2.4
2件	1.8
3件	1.2
4件	0.6
5件	1.2
6件	0.6
7件	0.6
8件	1.2
9件	0.0
10件以上	13.4
無回答	54.3

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数

回答数（件）	75
平均値	11.7
標準偏差	23.9
中央値	1

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	21.3
1件	1.8
2件	1.2
3件	3.0
4件	0.6
5件	1.8
6件	0.0
7件	1.2
8件	0.6
9件	0.0
10件以上	15.2
無回答	53.0

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数

回答数（件）	77
平均値	12.5
標準偏差	25.2
中央値	2

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	25.6
1件	3.7
2件	0.6
3件	2.4
4件	1.2
5件	1.2
6件	0.6
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	1.8
無回答	62.8

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数

回答数（件）	61
平均値	1.9
標準偏差	5.6
中央値	0

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.9

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数

回答数（件）	56
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.9

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数

回答数（件）	56
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.9

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数

回答数（件）	56
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.9

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数

回答数（件）	56
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 A.エボエチン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	35.4
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	64.6

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 A.エボエチン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	58
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.9

3.⑧ - 3 在宅自己注射処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	56
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）

_01-2 【後発】単純集計表_v1.3.xlsx 2.病院調査

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.8
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.2

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	57
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 D.テリバラチド 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	31.7
1件	3.7
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.0
5件	2.4
6件	1.2
7件	0.0
8件	1.2
9件	1.2
10件以上	2.4
無回答	54.9

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 D.テリバラチド 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	74
平均値	1.9
標準偏差	4.3
中央値	0

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 E.ソマトロビン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.6
無回答	65.2

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 E.ソマトロビン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	57
平均値	0.2
標準偏差	1.4
中央値	0

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	35.4
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	64.6

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	58
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	29.3
1件	4.3
2件	1.2
3件	0.6
4件	1.8
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	1.2
無回答	61.6

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	63
平均値	1.2
標準偏差	4.9
中央値	0

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 H.アガルシダーゼベータ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.9

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 H.アガルシダーゼベータ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	56
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 I.ベバシズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.8
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.2

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 I.ベバシズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	57
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	32.3
1件	1.2
2件	1.8
3件	0.6
4件	0.6
5件	0.6
6件	0.0
7件	0.6
8件	0.6
9件	0.6
10件以上	5.5
無回答	55.5

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	73
平均値	8.9
標準偏差	42.9
中央値	0

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	30.5
1件	4.3
2件	0.0
3件	0.6
4件	1.8
5件	1.2
6件	0.6
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	7.3
無回答	53.7

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	76
平均値	8.3
標準偏差	27.3
中央値	0

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	29.3
1件	1.2
2件	1.8
3件	1.2
4件	1.2
5件	0.6
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	1.2
無回答	63.4

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	60
平均値	2.3
標準偏差	12.5
中央値	0

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	33.5
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.6
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.9

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	56
平均値	0.1
標準偏差	0.5
中央値	0

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.9

3.⑧・3在宅自己注射処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	56
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）

①-2 【後発】単純集計表_v1.3.xlsx 2.病院調査

3.⑧・3 在宅自己注射処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.9

3.⑧・3 在宅自己注射処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	56
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑧・3 在宅自己注射処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	164
0 件	34.1
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	65.9

3.⑧・3 在宅自己注射処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	56
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

3.⑨・1 在宅自己注射指導管理料におけるバイオ後続品導入初期加算の算定有無

	割合
回答数（件）	164
算定あり	20.1
算定なし	68.9
無回答	11.0

3.⑨・1 在宅自己注射指導管理料におけるバイオ後続品導入初期加算の算定件数

回答数（件）	27
平均値	4.2
標準偏差	5.1
中央値	2

3.⑨・2 注射料通則におけるバイオ後続品導入初期加算の算定有無

	割合
回答数（件）	164
算定あり	9.8
算定なし	78.7
無回答	11.6

3.⑨・2 注射料通則におけるバイオ後続品導入初期加算の算定件数

回答数（件）	13
平均値	8.1
標準偏差	9.5
中央値	5

3.⑨・3 バイオ後続品使用体制加算の算定有無

	割合
回答数（件）	164
算定あり	5.5
算定なし	84.8
無回答	9.8

3.⑨・3 バイオ後続品使用体制加算の算定件数

	割合
回答数（件）	5
平均値	31.0
標準偏差	22.8
中央値	34

3.⑨ 加算の算定有無

	割合
回答数（件）	164
算定あり	22.0
算定なし	67.1
無回答	11.0

3.⑩ バイオ後続品導入初期加算を算定していない場合、その理由は何か

	割合
回答数（件）	131
加算点数が少ないから	9.9
初回処方日の属する月から逆算して3か月しか算定できないため	15.3
月1回しか算定できないため	3.8
対象となる患者がいらないため	71.8
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	9.2
その他	7.6
無回答	7.6

3.⑩ バイオ後続品使用体制加算を算定していない場合、その理由は何か

	割合
回答数（件）	139
加算点数が少ないから	7.9
算定要件が厳しいから	16.5
バイオ後続品の使用を促進するための体制が整備できないから	11.5
バイオ医薬品使用回数が少なく施設基準をクリアできないから	26.6
バイオ後続品の置き換え割合が満たせず施設基準をクリアできないから	13.7
入院初日しか算定できないから	5.8
対象となる患者がいらないから	36.0
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	10.1
バイオ後続品への置き換え割合の計算に手間がかかるから	2.9
その他	7.2
無回答	10.8

3.⑩ バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品

	割合
回答数（件）	164
インスリン製剤	31.1
ヒト成長ホルモン剤	15.9
エタネルセプト製剤	17.1
テリバラチド製剤	23.2
リツキシマブ製剤	13.4
トラスツズマブ製剤	14.6
ペバシズマブ製剤	17.7
インフリキシマブ製剤	16.5
アダリムマブ製剤	16.5
ラニビズマブ製剤	11.6
アガルシダーゼ_ベータ製剤	15.2
ベグフィルグラスチム製剤	16.5
ウステキヌマブ製剤	18.9
アフリベルセプト製剤	17.1
バイオ後続品の採用状況の差は、医薬品ごとにあまりない	23.2
バイオ後続品を採用していない	3.0
無回答	12.2

3.⑩ バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品 1つ目

	割合
回答数（件）	101
インスリン製剤	39.6
ヒト成長ホルモン剤	9.9
エタネルセプト製剤	4.0
テリバラチド製剤	9.9
リツキシマブ製剤	1.0
トラスツズマブ製剤	1.0
ペバシズマブ製剤	5.0
インフリキシマブ製剤	3.0
アダリムマブ製剤	2.0
ラニビズマブ製剤	1.0
アガルシダーゼ_ベータ製剤	2.0
ベグフィルグラスチム製剤	6.9
ウステキヌマブ製剤	1.0
アフリベルセプト製剤	0.0
無回答	13.9

3.⑩ バイオ後続品の採用が進んでいない理由 1つ目

	割合
回答数（件）	101
診療報酬上の評価が十分ではないから	10.9
対象の注射薬が対象となる患者がいらないから	29.7
患者負担があまり軽減されないから	5.0
バイオ後続品の品目数が少ないから	8.9
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	29.7
バイオ後続品導入初期加算を知らなかったから	2.0
先行バイオ医薬品との適応症の差があるから	8.9
その他	23.8
無回答	4.0

3.⑩ バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品 2つ目

	割合
回答数（件）	101
インスリン製剤	4.0
ヒト成長ホルモン剤	3.0
エタネルセプト製剤	6.9
テリバラチド製剤	6.9
リツキシマブ製剤	0.0
トラスツズマブ製剤	1.0
ペバシズマブ製剤	3.0
インフリキシマブ製剤	5.9
アダリムマブ製剤	3.0
ラニビズマブ製剤	0.0
アガルシダーゼ_ベータ製剤	2.0
ベグフィルグラスチム製剤	1.0
ウステキヌマブ製剤	7.9
アフリベルセプト製剤	3.0
無回答	52.5

3.⑩ バイオ後続品の採用が進んでいない理由 2つ目

	割合
回答数（件）	101
診療報酬上の評価が十分ではないから	7.9
対象の注射薬が対象となる患者がいらないから	19.8
患者負担があまり軽減されないから	4.0
バイオ後続品の品目数が少ないから	3.0
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	11.9
バイオ後続品導入初期加算を知らなかったから	0.0
先行バイオ医薬品との適応症の差があるから	6.9
その他	6.9
無回答	46.5

3.⑩ バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品 3つ目

	割合
回答数（件）	101
インスリン製剤	0.0
ヒト成長ホルモン剤	1.0
エタネルセプト製剤	2.0
テリバラチド製剤	5.9
リツキシマブ製剤	1.0
トラスツズマブ製剤	4.0
ペバシズマブ製剤	1.0
インフリキシマブ製剤	1.0
アダリムマブ製剤	4.0
ラニビズマブ製剤	0.0
アガルシダーゼ_ベータ製剤	2.0
ベグフィルグラスチム製剤	2.0
ウステキヌマブ製剤	2.0
アフリベルセプト製剤	5.9
無回答	68.3

3.⑩ バイオ後続品の採用が進んでいない理由 3つ目

	割合
回答数（件）	101
診療報酬上の評価が十分ではないから	5.9
対象の注射薬が対象となる患者がいらないから	21.8
患者負担があまり軽減されないから	3.0
バイオ後続品の品目数が少ないから	3.0
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	5.0
バイオ後続品導入初期加算を知らなかったから	0.0
先行バイオ医薬品との適応症の差があるから	0.0
その他	3.0
無回答	64.4

3.⑩・1 前記⑩「1.診療報酬上の評価が十分ではないから」にあてはまる医薬品 1つ目

	割合
回答数（件）	14
インスリン製剤	42.9
ヒト成長ホルモン剤	7.1
エタネルセプト製剤	0.0
テリバラチド製剤	14.3
リツキシマブ製剤	0.0
トラスツズマブ製剤	7.1
ペバシズマブ製剤	0.0
インフリキシマブ製剤	7.1
アダリムマブ製剤	0.0
ラニビズマブ製剤	0.0
アガルシダーゼ_ベータ製剤	7.1
ベグフィルグラスチム製剤	0.0
ウステキヌマブ製剤	0.0
アフリベルセプト製剤	0.0
無回答	14.3

3.⑩・1 前記⑩「1.診療報酬上の評価が十分ではないから」にあてはまる理由 1つ目

	割合
回答数（件）	14
加算点数が少ないから	50.0
算定要件がわからないから	7.1
算定要件が厳しいから	35.7
初回処方日の属する月から逆算して3か月しか算定できないから	50.0
月1回しか算定できないから	14.3
無回答	7.1

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）

3.10-2 【後発】単純集計表_v1.3.xlsx 2.病院調査

3.10-1 前記10「1.診療報酬上の評価が十分ではないから」にあてはまる医薬品 2つ目

	割合
回答数（件）	14
インスリン製剤	7.1
ヒト成長ホルモン剤	0.0
エタネルセプト製剤	14.3
テリパラチド製剤	0.0
リツキシマブ製剤	0.0
トラスツズマブ製剤	0.0
ペバシズマブ製剤	14.3
インフリキシマブ製剤	0.0
アダリムマブ製剤	7.1
ラニビズマブ製剤	0.0
アガルシダーゼ_ベータ製剤	0.0
ベグフィルグラスチム製剤	0.0
ウステキヌマブ製剤	0.0
アフリベルセプト製剤	0.0
無回答	57.1

3.10-1 前記10「1.診療報酬上の評価が十分ではないから」にあてはまる理由 2つ目

	割合
回答数（件）	14
加算点数が少ないから	28.6
算定要件がわからないから	7.1
算定要件が厳しいから	7.1
初回処方日の属する月から逆算して3か月しか算定できないから	35.7
月1回しか算定できないから	21.4
無回答	42.9

3.10-1 前記10「1.診療報酬上の評価が十分ではないから」にあてはまる医薬品 3つ目

	割合
回答数（件）	14
インスリン製剤	0.0
ヒト成長ホルモン剤	0.0
エタネルセプト製剤	0.0
テリパラチド製剤	7.1
リツキシマブ製剤	7.1
トラスツズマブ製剤	7.1
ペバシズマブ製剤	0.0
インフリキシマブ製剤	7.1
アダリムマブ製剤	7.1
ラニビズマブ製剤	0.0
アガルシダーゼ_ベータ製剤	0.0
ベグフィルグラスチム製剤	0.0
ウステキヌマブ製剤	0.0
アフリベルセプト製剤	0.0
無回答	64.3

3.10-1 前記10「1.診療報酬上の評価が十分ではないから」にあてはまる理由 3つ目

	割合
回答数（件）	14
加算点数が少ないから	35.7
算定要件がわからないから	7.1
算定要件が厳しいから	7.1
初回処方日の属する月から逆算して3か月しか算定できないから	21.4
月1回しか算定できないから	7.1
無回答	57.1

3.10 バイオ後続品を発行する際、処方箋にどのように表記しているか

	割合
回答数（件）	108
バイオ後続品の販売名（例：「●●●_B S注射液_含量_会社名」）	66.7
バイオ後続品の一般的名称（「○○○（遺伝子組換え）【●●●後続1】」）	6.5
バイオ後続品の一般的名称だが（遺伝子組換え）と記載しない（「○○○【●●●後続1】」）	0.9
変更不可欄にチェックを入れずに先行品の販売名で処方	4.6
変更不可欄にチェックを入れずに先行品の一般的名称で処方（「○○○（遺伝子組換え）」）	7.4
その他	0.9
無回答	13.0

3.10 バイオ後続品を院外処方するにあたって薬局・薬剤師に望むこと

	割合
回答数（件）	108
「一般名処方の調剤」または「バイオ後続品への変更調剤」について、予め合意した方法で情報提供を受けること	19.4
「一般名処方の調剤」または「バイオ後続品への変更調剤」について、合意方法や頻度によらず情報提供を受けること	15.7
患者に対して、バイオ後続品の品質や有効性、安全性について説明を行うこと	51.9
患者に対して、バイオ後続品の普及啓発を行うこと	19.4
その他	5.6
無回答	19.4

3.10 バイオ後続品の院外処方をしていない理由

	割合
回答数（件）	74
バイオ後続品に限らず、院外処方箋を発行していないから	16.2
バイオ後続品の対象となる患者がいらないから	51.4
バイオ後続品の品質や有効性、安全性に処方医師が疑問を持っているから	1.4
バイオ後続品の品質や有効性、安全性に患者が疑問を持っているから	0.0
バイオ後続品の品目が少ないから	9.5
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	5.4
患者の経済的メリットが小さいから	2.7
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が異なるから	0.0
先行バイオ医薬品とバイオ後続品のデバイスのタイプが異なるから	2.7
バイオAGがないから	2.7
その他	1.4
特に理由はない	1.4
無回答	25.7

3.10 外来腫瘍化学療法診療料を算定しているか

	割合
回答数（件）	221
算定あり	17.6
算定なし	76.0
無回答	6.3

3.10 外来腫瘍化学療法診療料の算定回数

	割合
回答数（件）	39
100回以下	66.7
101～200回	10.3
201～300回	0.0
301～400回	2.6
401～500回	0.0
501～1000回	7.7
1001回以上	2.6
無回答	10.3

3.10 外来腫瘍化学療法診療料の算定回数（回）

回答数（件）	35
平均値	144.9
標準偏差	273.1
中央値	41

3.10 外来腫瘍化学療法診療料の対象患者の平均受診回数

	割合
回答数（件）	39
0回	12.8
0超～1回未満	2.6
1回以上2回未満	35.9
2回以上3回未満	30.8
3回以上	5.1
無回答	12.8

3.10 外来腫瘍化学療法診療料の対象患者の平均受診回数（回）

回答数（件）	34
平均値	1.7
標準偏差	0.9
中央値	1.7

3.10-1 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品） A 後発医薬品がある先発医薬品

	割合
回答数（件）	39
19品目以下	74.4
20～39品目	0.0
40～59品目	0.0
60～79品目	0.0
80品目以上	0.0
無回答	25.6

3.10-1 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品） A 後発医薬品がある先発医薬品

回答数（件）	29
平均値	1.7
標準偏差	1.8
中央値	1

3.10-1 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品） B 後発医薬品

	割合
回答数（件）	39
19品目以下	82.1
20～39品目	0.0
40～59品目	0.0
60～79品目	0.0
80品目以上	0.0
無回答	17.9

3.10-1 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品） B 後発医薬品

回答数（件）	32
平均値	2.1
標準偏差	2.0
中央値	1

3.10-2 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品以外） A 後発医薬品がある先発医薬品

	割合
回答数（件）	39
49品目以下	69.2
50～99品目	2.6
100～149品目	0.0
150～199品目	0.0
200品目以上	0.0
無回答	28.2

3.10-2 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品以外） A 後発医薬品がある先発医薬品

回答数（件）	28
平均値	7.2
標準偏差	11.8
中央値	2

3.10-2 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品以外） B 後発医薬品

	割合
回答数（件）	39
49品目以下	79.5
50～99品目	0.0
100～149品目	0.0
150～199品目	0.0
200品目以上	0.0
無回答	20.5

3.10-2 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品以外） B 後発医薬品

回答数（件）	31
平均値	12.2
標準偏差	10.5
中央値	10

3.10-3 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品（抗悪性腫瘍薬以外のバイオ医薬品も含む） A 後発医薬品がある先発医薬品

	割合
回答数（件）	39
19品目以下	71.8
20～39品目	0.0
40～59品目	0.0
60～79品目	0.0
80品目以上	0.0
無回答	28.2

3.10-3 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品（抗悪性腫瘍薬以外のバイオ医薬品も含む） A 後発医薬品がある先発医薬品

回答数（件）	28
平均値	2.1
標準偏差	2.2
中央値	2

3.10-3 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品（抗悪性腫瘍薬以外のバイオ医薬品も含む） B 後発医薬品

	割合
回答数（件）	39
19品目以下	76.9
20～39品目	2.6
40～59品目	0.0
60～79品目	0.0
80品目以上	0.0
無回答	20.5

3.10-3 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品（抗悪性腫瘍薬以外のバイオ医薬品も含む） B 後発医薬品

回答数（件）	31
平均値	4.1
標準偏差	4.5
中央値	3

3.(21) 外来化学療法加算を算定しているか

	割合
回答数（件）	221
算定あり	17.6
算定ありなし	75.1
無回答	7.2

3.(22)-1 外来化学療法における後発品の使用状況 バイオ医薬品 A 後発医薬品（バイオ後続品を含む）がある先発医薬品

	割合
回答数（件）	39
19品目以下	71.8
20～39品目	0.0
40～59品目	0.0
60～79品目	0.0
80品目以上	0.0
無回答	28.2

3.(22)-1 外来化学療法における後発品の使用状況 バイオ医薬品 A 後発医薬品（バイオ後続品を含む）がある先発医薬品

回答数（件）	28
平均値	1.3
標準偏差	1.6
中央値	1

3.(22)-1 外来化学療法における後発品の使用状況 バイオ医薬品 B 後発医薬品（バイオ後続品を含む）

	割合
回答数（件）	39
19品目以下	76.9
20～39品目	0.0
40～59品目	0.0
60～79品目	0.0
80品目以上	0.0
無回答	23.1

3.(22)-1 外来化学療法における後発品の使用状況 バイオ医薬品 B 後発医薬品（バイオ後続品を含む）

回答数（件）	30
平均値	1.3
標準偏差	1.8
中央値	1

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）

_01-2 【後発】単純集計表_v1.3.xlsx_2.病院調査

3.(22)・2 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品 A 後発医薬品（バイオ後続品を含む）がある先発医薬品

	割合
回答数（件）	39
19品目以下	69.2
20～39品目	0.0
40～59品目	0.0
60～79品目	0.0
80品目以上	0.0
無回答	30.8

3.(22)・2 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品 A 後発医薬品（バイオ後続品を含む）がある先発医薬品

回答数（件）	27
平均値	1.1
標準偏差	2.2
中央値	0

3.(22)・2 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品 B 後発医薬品（バイオ後続品を含む）

	割合
回答数（件）	39
19品目以下	74.4
20～39品目	2.6
40～59品目	0.0
60～79品目	0.0
80品目以上	0.0
無回答	23.1

3.(22)・2 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品 B 後発医薬品（バイオ後続品を含む）

回答数（件）	30
平均値	1.9
標準偏差	4.0
中央値	0

4.① 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数

	割合
回答数（件）	221
0 枚	24.4
1枚	1.4
2枚	1.8
3枚	0.9
4枚以上	45.2
無回答	26.2

4.① 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数（枚）

回答数（件）	163
平均値	350.2
標準偏差	1833.6
中央値	10

4.②・1 前記①で医療上必要性があると医師が判断したもの（枚）

回答数（件）	108
平均値	159.8
標準偏差	807.2
中央値	6

4.②・2 前記①で後発医薬品の在庫がないもの（枚）

回答数（件）	108
平均値	288.8
標準偏差	1977.5
中央値	3

4.②・3 前記①で患者が希望したもの（枚）

回答数（件）	108
平均値	15.4
標準偏差	46.8
中央値	2

4.③ 長期収載品の選定療養によって、どのような影響や課題があったか

	割合
回答数（件）	221
患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい	38.0
患者の制度に対する理解が不十分である	45.7
薬価改定に伴い、これまで選定療養の対象であった長期収載品が対象外となった際に、患者への説明等に苦慮したことが	14.9
薬価改定に伴い、対象品目が変わってしまう	36.2
医療関係者への制度に関する周知が不十分である	29.4
制度そのものがわかりづらい	41.6
特別の料金の計算がわかりづらい	26.7
レセコンなどシステム改修が不十分である	7.2
後発医薬品を選択する患者が増えた	12.7
患者からのクレーム対応に苦慮したことがある	11.3
その他	8.1
わからない	8.1
無回答	10.9

1.① 所在地	
	割合
回答数（件）	383
北海道	2.3
青森県	0.3
岩手県	0.5
宮城県	1.0
秋田県	0.3
山形県	1.0
福島県	0.8
茨城県	1.6
栃木県	1.0
群馬県	1.3
埼玉県	3.7
千葉県	3.1
東京都	18.3
神奈川県	7.6
新潟県	1.6
富山県	1.0
石川県	1.3
福井県	0.0
山梨県	0.5
長野県	1.8
岐阜県	1.6
静岡県	2.1
愛知県	7.3
三重県	0.8
滋賀県	0.8
京都府	2.6
大阪府	7.0
兵庫県	4.2
奈良県	2.6
和歌山県	0.3
鳥取県	0.0
島根県	1.0
岡山県	0.5
広島県	2.3
山口県	1.3
徳島県	1.3
香川県	0.3
愛媛県	0.5
高知県	0.8
福岡県	5.2
佐賀県	0.5
長崎県	1.3
熊本県	1.3
大分県	0.3
宮崎県	1.3
鹿児島県	1.8
沖縄県	1.8
無回答	0.0

1.② 開設者	
	割合
回答数（件）	383
個人	46.7
法人	50.1
その他	2.9
無回答	0.3

1.③ 開設年（西暦）	
	割合
回答数（件）	383
1995年以前	24.3
1996～2000年	10.7
2001～2005年	12.0
2006～2010年	9.1
2011～2015年	10.2
2016～2020年	12.0
2021年以降	14.4
無回答	7.3

1.③ 開設年（西暦）	
回答数（件）	355
平均値	2004.5
標準偏差	15.7
中央値	2005

1.④ 種別	
	割合
回答数（件）	383
無床診療所	93.2
有床診療所	4.2
無回答	2.6

1.④ 許可病床数	
	割合
回答数（件）	16
9床以下	31.3
10～14床	0.0
15床以上	68.8
無回答	0.0

1.④ 許可病床数（床）	
回答数（件）	16
平均値	14.2
標準偏差	6.6
中央値	19

1.⑤ 標榜診療科	
	割合
回答数（件）	383
内科	57.4
外科	12.0
精神科	9.4
小児科	14.9
皮膚科	11.7
泌尿器科	2.9
産婦人科・産科	3.7
眼科	10.7
耳鼻咽喉科	6.3
放射線科	2.6
脳神経外科	1.6
整形外科	11.5
麻酔科	1.0
救急科	0.0
歯科・歯科口腔外科	0.5
リハビリテーション科	7.0
その他	9.1
無回答	0.5

1.⑤ - 1 内科の詳細	
	割合
回答数（件）	220
腎臓内科	5.0
血液内科	0.9
リウマチ内科	2.7
糖尿病内科	14.1
消化器内科	30.9
呼吸器内科	17.3
循環器内科	22.7
1～7.に該当なし	42.7
無回答	1.8

1.⑤ - 2 外科の詳細	
	割合
回答数（件）	46
呼吸器外科	2.2
心臓血管外科	0.0
乳腺外科	10.9
気管食道外科	0.0
消化器外科	19.6
肛門外科	17.4
小児外科	2.2
1～7.に該当なし	43.5
無回答	10.9

1.⑥ オーダリングシステムの導入状況	
	割合
回答数（件）	383
一般名処方に対応できるオーダリングシステムを導入している	52.5
後発医薬品名が表示されるオーダリングシステムを導入している	25.3
バイオ後続品が表示されるオーダリングシステムを導入している	7.3
オーダリングシステムを導入している（上記1～3.の機能はない）	3.4
オーダリングシステムを導入していない	33.4
無回答	5.0

1.⑦ 外来の院内処方の割合	
	割合
回答数（件）	383
0 %	57.2
0 %超～10%未満	9.1
10%以上20%未満	2.9
20%以上30%未満	1.0
30%以上40%未満	1.0
40%以上50%未満	0.3
50%以上60%未満	0.5
60%以上70%未満	0.3
70%以上80%未満	0.5
80%以上90%未満	2.1
90%以上100%未満	9.7
100%_	11.2
無回答	4.2

1.⑦ 外来の院内処方の割合（％）	
回答数（件）	367
平均値	25.1
標準偏差	40.9
中央値	0

1.⑦ 外来の院外処方の割合	
	割合
回答数（件）	383
0 %	11.5
0 %超～10%未満	6.3
10%以上20%未満	4.7
20%以上30%未満	1.0
30%以上40%未満	0.3
40%以上50%未満	0.3
50%以上60%未満	0.5
60%以上70%未満	0.8
70%以上80%未満	0.5
80%以上90%未満	2.1
90%以上100%未満	11.0
100%_	56.9
無回答	4.2

1.⑦ 外来の院外処方の割合（％）	
回答数（件）	367
平均値	74.6
標準偏差	41.0
中央値	100

1.⑦ 外来の院内処方の割合	
	割合
回答数（件）	383
院内処方あり	38.6
院内処方率が80%以上	23.0
無回答	61.4

1.⑧ - 1 医師数 1) 常勤のみ	
	割合
回答数（件）	383
0 人	1.6
1人	78.9
2人	13.6
3人	2.9
4人以上	1.8
無回答	1.3

1.⑧ - 1 医師数 1) 常勤のみ（人）	
回答数（件）	378
平均値	1.2
標準偏差	0.7
中央値	1

1.⑧ - 1 医師数 2) 常勤換算	
	割合
回答数（件）	383
0 人	21.7
0 人超1人未満	14.1
1人以上2人未満	25.3
2人以上3人未満	5.2
3人以上	2.9
無回答	30.8

1.⑧ - 1 医師数 2) 常勤換算（人）	
回答数（件）	265
平均値	0.8
標準偏差	1.0
中央値	0.6

1.⑧ - 2 薬剤師数 1) 常勤のみ	
	割合
回答数（件）	383
0 人	86.2
1人	5.0
2人	0.3
3人	0.0
4人以上	0.0
無回答	8.6

1.⑧ - 2 薬剤師数 1) 常勤のみ（人）	
回答数（件）	350
平均値	0.1
標準偏差	0.2
中央値	0

1.⑧ - 2 薬剤師数 2) 常勤換算（人）	
	割合
回答数（件）	383
0 人	61.1
0 人超1人未満	1.6
1人以上2人未満	1.8
2人以上3人未満	0.0
3人以上	0.3
無回答	35.2

1.⑧ - 2 薬剤師数 2) 常勤換算（人）	
回答数（件）	248
平均値	0.9
標準偏差	13.8
中央値	0

1.⑨ 外来患者延数（人）

回答数（件）	332
平均値	1031.9
標準偏差	913.9
中央値	798

1.⑩ 在院患者延数（人）

回答数（件）	264
平均値	63.6
標準偏差	391.8
中央値	0

1.⑪ - 1 医薬品の備蓄品目数（令和7年7月1日） 調剤用医薬品

	割合
回答数（件）	154
0品目	1.9
1～49品目	29.9
50～99品目	11.7
100～199品目	16.2
200～299品目	6.5
300品目以上	5.8

1.⑪ - 1 医薬品の備蓄品目数（令和7年7月1日） 調剤用医薬品

回答数（件）	111
平均値	106.2
標準偏差	120.0
中央値	68

1.⑪ - 2 医薬品の備蓄品目数（令和7年7月1日） 上記⑪ - 1のうち後発医薬品

	割合
回答数（件）	154
0品目	7.1
1～49品目	40.3
50～99品目	10.4
100～199品目	5.8
200～299品目	5.2
300品目以上	1.9
無回答	29.2

1.⑪ - 2 医薬品の備蓄品目数（令和7年7月1日） 上記⑪ - 1のうち後発医薬品

回答数（件）	109
平均値	59.2
標準偏差	86.8
中央値	26

1.⑪ - 3 医薬品の備蓄品目数（令和7年7月1日） 上記⑪ - 1のうち先行バイオ医薬品

	割合
回答数（件）	154
0品目	51.9
1品目	3.2
2品目	3.2
3品目	0.6
4品目以上	4.5
無回答	36.4

1.⑪ - 3 医薬品の備蓄品目数（令和7年7月1日） 上記⑪ - 1のうち先行バイオ医薬品

回答数（件）	98
平均値	0.9
標準偏差	3.1
中央値	0

1.⑪ - 4 医薬品の備蓄品目数（令和7年7月1日） 上記⑪ - 1のうちバイオ後続品（品目）

	割合
回答数（件）	154
0品目	54.5
1品目	5.8
2品目	1.3
3品目	1.3
4品目以上	0.0
無回答	37.0

1.⑪ - 4 医薬品の備蓄品目数（令和7年7月1日） 上記⑪ - 1のうちバイオ後続品（品目）

回答数（件）	97
平均値	0.2
標準偏差	0.6
中央値	0

1.⑫ 後発医薬品使用割合＜新指標、数量ベース＞（令和7年6月）

	割合
回答数（件）	154
20%未満	11.7
20%以上25%未満	1.3
25%以上30%未満	1.3
30%以上35%未満	2.6
35%以上40%未満	0.6
40%以上45%未満	1.9
45%以上50%未満	0.6
50%以上55%未満	1.9
55%以上60%未満	0.0
60%以上65%未満	1.9
65%以上70%未満	2.6
70%以上75%未満	1.3
75%以上80%未満	2.6
80%以上85%未満	1.9
85%以上90%未満	3.2
90%以上	21.4
無回答	42.9

回答数（件）	88
平均値	61.6
標準偏差	36.8
中央値	76.1

1.⑬ カットオフ値の割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年6月）

	割合
回答数（件）	154
20%未満	7.1
20%以上25%未満	1.3
25%以上30%未満	0.6
30%以上35%未満	1.9
35%以上40%未満	0.0
40%以上45%未満	1.3
45%以上50%未満	0.6
50%以上55%未満	1.3
55%以上60%未満	0.0
60%以上65%未満	5.8
65%以上70%未満	2.6
70%以上75%未満	6.5
75%以上80%未満	3.2
80%以上85%未満	1.9
85%以上90%未満	4.5
90%以上	9.7
無回答	51.3

1.⑬ カットオフ値の割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年6月）（％）

回答数（件）	75
平均値	61.7
標準偏差	31.5
中央値	70

2.① 1年前（令和6年7月1日）と比較して後発医薬品に係る対応において業務量は増えたか

	割合
回答数（件）	383
増えた	41.8
変わらない	55.4
減った	0.5
無回答	2.3

2.② 1年前（令和6年7月1日）と比較して、後発医薬品の供給体制についてどのように感じるか

	割合
回答数（件）	383
改善した	7.6
変わらない	41.5
悪化した	46.2
無回答	4.7

2.③ 現在（令和7年7月1日）の医薬品の調達状況

	割合
回答数（件）	383
医薬品の納品までに時間がかかる	46.2
医薬品の発注作業の回数が増えた	13.1
卸に医薬品の注文を受け付けてもらえない	27.7
卸からの医薬品の注文の取り消しが頻発している	18.8
特に困難な状況はない	27.4
その他	12.3
無回答	5.0

2.④ 医薬品の不安定な供給状況によって生じている影響

	割合
回答数（件）	383
後発医薬品を先発医薬品に採用品目の見直しを行っている	27.9
後発医薬品を別の後発医薬品に採用品目の見直しを行っている	35.5
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、代替のための後発医薬品の調達を行っている	41.3
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、同一成分の先発医薬品の調達を行っている	32.1
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、剤形の変更等を行っている	21.1
患者からの後発医薬品使用に関する相談や苦情等の対応を行っている	20.4
後発医薬品の品質や安全性に係る情報収集を行っている	12.5
後発医薬品メーカーや卸から供給に関する情報の収集を行っている	31.6
処方可能な医薬品のリストを作成し、日々更新している	9.9
オーダリングシステムの医薬品マスタにおいて処方可否の設定を日々更新している	2.9
その他	3.9
特になし	23.0
無回答	3.1

2.⑤ 前記④の選択肢1～11のうち、最もあてはまるもの

	割合
回答数（件）	283
後発医薬品を先発医薬品に採用品目の見直しを行っている	8.1
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、代替のための後発医薬品の調達を行っている	24.7
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、同一成分の先発医薬品の調達を行っている	9.5
同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、剤形の変更等を行っている	5.7
患者からの後発医薬品使用に関する相談や苦情等の対応を行っている	7.8
後発医薬品の品質や安全性に係る情報収集を行っている	1.4
後発医薬品メーカーや卸から供給に関する情報の収集を行っている	9.2
処方可能な医薬品のリストを作成し、日々更新している	4.9
オーダリングシステムの医薬品マスタにおいて処方可否の設定を日々更新している	0.4
その他	3.9
無回答	9.2

2.⑥ 現在（令和7年7月1日）において、後発医薬品の処方割合に変化はあったか

	割合
回答数（件）	383
後発医薬品の処方割合がかなり減った	0.0
後発医薬品の処方割合がやや減った	8.1
後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった	45.7
後発医薬品の処方割合が増えた	21.7
わからない	20.9
無回答	3.7

2.⑦ - 1 出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 先発医薬品

	割合
回答数（件）	383
0品目	15.4
1～9品目	38.9
10～19品目	6.5
20～29品目	0.5
30品目以上	0.3
無回答	38.4

2.⑦ - 1 出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 先発医薬品

回答数（件）	236
平均値	3.4
標準偏差	4.7
中央値	2

2.⑦ - 2 出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 後発医薬品

	割合
回答数（件）	383
0品目	14.1
1～9品目	35.0
10～19品目	8.6
20～29品目	1.6
30品目以上	1.6
無回答	39.2

2.⑦ - 2 出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 後発医薬品

回答数（件）	233
平均値	5.2
標準偏差	8.1
中央値	3

2.⑧ 供給停止となっている後発医薬品等の診療報酬上の臨時的な取扱いの適用

	割合
回答数（件）	383
あり	11.5
なし	66.8
無回答	21.7

2.⑨ 後発医薬品使用体制加算の算定状況

	割合
回答数（件）	16
算定していない	68.8
後発医薬品使用体制加算1	6.3
後発医薬品使用体制加算2	12.5
後発医薬品使用体制加算3	0.0
無回答	12.5

2.⑩ 外来後発医薬品使用体制加算の算定状況

	割合
回答数（件）	383
算定していない	71.5
外来後発医薬品使用体制加算1	10.4
外来後発医薬品使用体制加算2	2.6
外来後発医薬品使用体制加算3	2.6
無回答	12.8

3.① 現在、一般名処方による処方箋を発行しているか

	割合
回答数（件）	383
あり	82.5
なし	15.9
無回答	1.6

3.② 1年前と比較して一般名処方の件数は増えたか

	割合
回答数（件）	316
増えた	38.3
変わらない	58.9
減った	2.2
無回答	0.6

3.③ 一般名処方が増えた理由

	割合
回答数（件）	121
一般名処方加算の点数が引き上げられたから	41.3
後発医薬品の品質への不安が減ったから	17.4
後発医薬品の安定供給への不安が減ったから	5.0
先発医薬品を希望する患者が減ったから	28.9
オーダーリングシステムの変更など一般名処方に対応できる院内体制が整備されたから	28.9
その他	11.6
無回答	1.7

3.④ 一般名処方が増えない理由

	割合
回答数（件）	193
後発医薬品の品質への不安があるから	8.8
後発医薬品の安定供給への不安があるから	21.8
先発医薬品を希望する患者が増えたから	8.3
オーダーリングシステムの変更など一般名処方に対応できる院内体制が整備されていないから	7.8
その他	51.3
無回答	10.4

3.⑤ 一般名処方による処方箋を発行していない理由

	割合
回答数（件）	61
オーダーリングシステムや電子カルテが未導入であるため	23.0
現在のシステムが一般名処方に対応していないため	18.0
処方箋が手書きのため	1.6
一般名では分かりにくく、医療従事者が混乱するため	26.2
一般名では分かりにくく、患者が混乱するため	9.8
手間が増えるため	11.5
保険薬局がメーカーを選択できることに疑問や不安があるため	3.3
その他	24.6
特に理由はない	14.8
無回答	4.9

3.⑥ 施設で実施している医薬品の安定供給に関連する取組

	割合
回答数（件）	383
先発医薬品への切り替え	22.5
クリニカルパスの見直し	2.3
レジメンの見直し	5.0
その他	8.1
特になし	64.2
無回答	2.6

3.⑦ 今後、どのような対応がなされれば、医師の立場として後発医薬品の使用を進めてもよいと思うか

	割合
回答数（件）	383
厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	42.3
後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること	53.0
後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保	33.2
後発医薬品に関する安定供給体制の確保	64.5
後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合	18.8
後発医薬品の在庫管理の負担軽減	10.7
先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダーリングシステムの導入	8.9
後発医薬品に対する患者の理解	26.4
後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価	24.5
後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価	15.1
後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置	22.7
後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示	14.1
調剤に関する保険薬局との連携	15.7
患者負担が軽減されること	15.4
その他	3.7
特に対応は必要ない	8.1
無回答	3.1

3.⑧ 前記⑦の選択肢1.～15.のうち、最もあてはまるもの

	割合
回答数（件）	340
厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	14.1
後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること	17.4
後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保	2.4
後発医薬品に関する安定供給体制の確保	37.9
後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合	1.8
後発医薬品の在庫管理の負担軽減	0.0
先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダーリングシステムの導入	1.2
後発医薬品に対する患者の理解	3.2
後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価	2.4
後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価	0.9
後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置	2.1
後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示	1.5
調剤に関する保険薬局との連携	0.9
患者負担が軽減されること	2.1
その他	2.9
無回答	9.4

4.① バイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）を処方（使用）しているか

	割合
回答数（件）	383
処方（使用）あり	32.4
処方（使用）なし	64.0
無回答	3.7

4.② 院内処方（入院または院内の外来）の有無

	割合
回答数（件）	124
あり	42.7
なし	54.0
無回答	3.2

4.③ 院外処方の有無

	割合
回答数（件）	124
あり	66.9
なし	26.6
無回答	6.5

4.④ 在庫のあるバイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）

	割合
回答数（件）	124
インスリン製剤	31.5
ヒト成長ホルモン剤	0.8
エタネルセプト製剤	4.0
テリパラチド製剤	12.1
リツキシマブ製剤	0.0
トラスツズマブ製剤	1.6
ベバシズマブ製剤	0.8
インフリキシマブ製剤	3.2
アダリムマブ製剤	4.0
ラニビズマブ製剤	8.1
アガルシダーゼ_ベータ製剤	0.0
ベグフィルグラスチム製剤	1.6
ウステキヌマブ製剤	0.8
アフリベルセプト製剤	3.2
バイオ医薬品の在庫なし	25.8
無回答	20.2

4.⑤ 施設におけるバイオ後続品の使用に関する考え方について最も近いもの

	割合
回答数（件）	383
バイオ後続品が発売されているものは、積極的に処方（使用）する	6.8
品質や有効性、安全性に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方（使用）する	17.0
安定供給に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方（使用）する	4.4
品目によってはバイオ後続品を積極的に処方（使用）する	5.0
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が同じ場合は積極的に処方（使用）する	0.5
いわゆるバイオAGであれば積極的に使用する	1.3
バイオ後続品を積極的に処方（使用）していない	17.5
バイオ医薬品（先行バイオ医薬品、バイオ後続品）の対象となる患者がいない	37.3
その他	4.7
無回答	5.5

4.⑤ 施設におけるバイオ後続品の使用に関する考え方について最も近いもの

	割合
回答数（件）	383
バイオ後続品を積極的に処方（使用）する	35.0
バイオ後続品を積極的に処方（使用）していない	17.5
バイオ医薬品（先行バイオ医薬品、バイオ後続品）の対象となる患者がいない	37.3
その他	4.7
無回答	5.5

4.⑥ バイオ後続品を積極的に処方（使用）する場合、その理由は何か

	割合
回答数（件）	134
患者がバイオ後続品の使用を希望するから	11.2
患者の経済的負担が軽減できるから	71.6
診療報酬上の評価があるから	8.2
経営上のメリットがあるから	5.2
医療費削減につながるから	44.8
国がバイオ後続品の使用促進を図っているから	9.0
その他	3.0
無回答	3.7

4.⑦ 既に先行バイオ医薬品を処方（使用）している患者に先行バイオ医薬品からバイオ後続品に変更を考慮する場合、その理由

	割合
回答数（件）	134
患者がバイオ後続品の使用を希望するから	12.7
患者の経済的負担が軽減できるから	72.4
診療報酬上の評価があるから	6.0
経営上のメリットがあるから	4.5
医療費削減につながるから	32.8
国がバイオ後続品の使用促進を図っているから	9.0
その他	2.2
無回答	10.4

4.⑧ バイオ後続品を積極的には処方（使用）していない理由

	割合
回答数（件）	67
バイオ後続品の品質や有効性、安全性に疑問があるから	34.3
バイオ後続品は、先発品（先行バイオ医薬品）と同等／同質の品質・安全性・有効性を有するが同一ではないから	9.0
バイオ後続品に関する情報提供が不足しているから	9.0
バイオ後続品の品目が少ないから	4.5
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	6.0
患者への普及啓発が不足しているから	4.5
患者の経済的メリットが小さいから	7.5
自己負担額が制度により軽減されている患者（生活保護受給者や、難病・障害等による公費負担制度の受給者など）であり、薬剤費の差が治療選択に影響しにくいから	0.0
院内でバイオ後続品の投与や処方を行っていないから	26.9
在庫管理等の負担が大きいため	6.0
薬価差の状況により、バイオ後続品を選択する利点が小さいから	0.0
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の両方を備蓄するのは困難だから	6.0
製造販売後調査（PMS）の手間が大きいため	1.5
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が異なるから	0.0
先行バイオ医薬品とバイオ後続品のデバイスのタイプが異なるから	0.0
その他	16.4
無回答	1.5

4.⑨ 今後、どのような対応が進めば、バイオ後続品の処方（使用）を進めてよいと考えるか

	割合
回答数（件）	383
診療報酬上の評価	29.5
より患者負担が軽減されること	37.9
医師、薬剤師への国からのバイオ後続品に関する情報の周知	26.4
国からの国民への啓発と患者の理解	22.2
バイオ後続品企業からの情報提供	17.8
先行バイオ医薬品からバイオ後続品に切り替えを含む臨床試験データの充実やガイドライン等の整備	18.5
バイオ後続品の品目数が増えること	10.2
バイオ後続品の供給がより安定すること	24.0
バイオ後続品の在庫の負担軽減	6.0
医療機関に対する経営的メリットがあること	17.8
その他	3.7
バイオ後続品を使用する必要はない	14.4
無回答	6.5

4.⑩ バイオ後続品の院内処方（入院または院内の外来）の有無

	割合
回答数（件）	124
あり	29.0
なし	60.5
無回答	10.5

4.⑪ バイオ後続品の院外処方の有無

	割合
回答数（件）	124
あり	44.4
なし	45.2
無回答	10.5

4.⑫ - 1 入院処方件数 A.エボエチン 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫ - 1 入院処方件数 A.エボエチン 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 1 入院処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑫ - 1 入院処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 1 入院処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	1.2
無回答	87.8

4.⑫ - 1 入院処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数

回答数（件）	10
平均値	1.8
標準偏差	5.4
中央値	0

4.⑫ - 1 入院処方件数 D.テリバラチド 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	1.2
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	87.8

4.⑫ - 1 入院処方件数 D.テリバラチド 処方総件数

回答数（件）	10
平均値	0.4
標準偏差	1.2
中央値	0

4.⑫ - 1 入院処方件数 E.ソマトロビン 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑫ - 1 入院処方件数 E.ソマトロビン 処方総件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 1 入院処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑫ - 1 入院処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 1 入院処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑫ - 1 入院処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 1 入院処方件数 H.アガルシダーゼベータ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑫ - 1 入院処方件数 H.アガルシダーゼベータ 処方総件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 1 入院処方件数 I.ベバシズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑫ - 1 入院処方件数 I.ベバシズマブ 処方総件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 1 入院処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	87.8

4.⑫ - 1 入院処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数

回答数（件）	10
平均値	0.2
標準偏差	0.6
中央値	0

4.⑫ - 1 入院処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	1.2
4件	1.2
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	86.6

4.⑫ - 1 入院処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数

回答数（件）	11
平均値	0.6
標準偏差	1.4
中央値	0

4.⑫ - 1 入院処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑫ - 1 入院処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑩・1 入院処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	1.2
無回答	87.8

4.⑩・1 入院処方件数 A.エボエチン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑩・1 入院処方件数 E.ソマトロピン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑩・1 入院処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数

回答数（件）	10
平均値	2.0
標準偏差	6.0
中央値	0

4.⑩・1 入院処方件数 A.エボエチン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑩・1 入院処方件数 E.ソマトロピン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑩・1 入院処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	1.2
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	87.8

4.⑩・1 入院処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑩・1 入院処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑩・1 入院処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数

回答数（件）	10
平均値	0.3
標準偏差	0.9
中央値	0

4.⑩・1 入院処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑩・1 入院処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑩・1 入院処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑩・1 入院処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	1.2
無回答	87.8

4.⑩・1 入院処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑩・1 入院処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑩・1 入院処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	10
平均値	1.8
標準偏差	5.4
中央値	0

4.⑩・1 入院処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑩・1 入院処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	1.2
無回答	87.8

4.⑩・1 入院処方件数 D.テリバラチド 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	1.2
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	87.8

4.⑩・1 入院処方件数 H.アガルスンダーゼベータ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑩・1 入院処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数

回答数（件）	10
平均値	3.0
標準偏差	9.0
中央値	0

4.⑩・1 入院処方件数 D.テリバラチド 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	10
平均値	0.1
標準偏差	0.3
中央値	0

4.⑩・1 入院処方件数 H.アガルスンダーゼベータ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫-1入院処方件数 I.ベパシズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑫-1入院処方件数 I.ベパシズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫-1入院処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	87.8

4.⑫-1入院処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	10
平均値	0.2
標準偏差	0.6
中央値	0

4.⑫-1入院処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	9.8
1件	1.2
2件	1.2
3件	0.0
4件	1.2
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	86.6

4.⑫-1入院処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	11
平均値	0.6
標準偏差	1.2
中央値	0

4.⑫-1入院処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑫-1入院処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫-1入院処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	12.2
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	87.8

4.⑫-1入院処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	10
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫-1入院処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	1.2
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	87.8

4.⑫-1入院処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	10
平均値	0.3
標準偏差	0.9
中央値	0

4.⑫-1入院処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	89.0

4.⑫-1入院処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	9
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫-1入院処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	12.2
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	87.8

4.⑫-1入院処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	10
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫-2外来処方件数 A.エボエチン 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	13.4
1件	1.2
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	3.7
無回答	81.7

4.⑫-2外来処方件数 A.エボエチン 処方総件数

回答数（件）	15
平均値	17.9
標準偏差	50.8
中央値	0

4.⑫-2外来処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫-2外来処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫-2外来処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫-2外来処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫-2外来処方件数 D.テリバラチド 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	18.3
1件	1.2
2件	2.4
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	2.4
無回答	75.6

4.⑫-2外来処方件数 D.テリバラチド 処方総件数

回答数（件）	20
平均値	2.0
標準偏差	5.1
中央値	0

4.⑫ - 2 外来処方件数 E.ソマトロピン 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫ - 2 外来処方件数 E.ソマトロピン 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 2 外来処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	1.2
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	2.4
無回答	81.7

4.⑫ - 2 外来処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数

回答数（件）	15
平均値	1.8
標準偏差	4.1
中央値	0

4.⑫ - 2 外来処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	15.9
1件	2.4
2件	0.0
3件	1.2
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	3.7
無回答	76.8

4.⑫ - 2 外来処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数

回答数（件）	19
平均値	2.0
標準偏差	4.0
中央値	0

4.⑫ - 2 外来処方件数 H.アガルスダーゼベータ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫ - 2 外来処方件数 H.アガルスダーゼベータ 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 2 外来処方件数 I.ペバシズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	13.4
1件	1.2
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫ - 2 外来処方件数 I.ペバシズマブ 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.1
標準偏差	0.3
中央値	0

4.⑫ - 2 外来処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	13.4
1件	8.5
2件	2.4
3件	2.4
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	3.7
無回答	69.5

4.⑫ - 2 外来処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数

回答数（件）	25
平均値	3.9
標準偏差	11.8
中央値	1

4.⑫ - 2 外来処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	9.8
2件	4.9
3件	2.4
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	1.2
10件以上	1.2
無回答	69.5

4.⑫ - 2 外来処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数

回答数（件）	25
平均値	3.4
標準偏差	10.5
中央値	1

4.⑫ - 2 外来処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	17.1
1件	1.2
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	1.2
無回答	79.3

4.⑫ - 2 外来処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数

回答数（件）	17
平均値	6.1
標準偏差	23.5
中央値	0

4.⑫ - 2 外来処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	2.4
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	1.2
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	3.7
無回答	78.0

4.⑫ - 2 外来処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数

回答数（件）	18
平均値	3.2
標準偏差	6.4
中央値	0

4.⑫ - 2 外来処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫ - 2 外来処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 2 外来処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫ - 2 外来処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 2 外来処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫ - 2 外来処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑩・2 外来処方件数 A.エゴエチン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	13.4
1件	1.2
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	2.4
無回答	82.9

4.⑩・2 外来処方件数 A.エゴエチン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	14
平均値	4.9
標準偏差	14.9
中央値	0

4.⑩・2 外来処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑩・2 外来処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑩・2 外来処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑩・2 外来処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑩・2 外来処方件数 D.テリバラチド 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	19.5
1件	2.4
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	1.2
無回答	75.6

4.⑩・2 外来処方件数 D.テリバラチド 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	20
平均値	0.9
標準偏差	3.0
中央値	0

4.⑩・2 外来処方件数 E.ソマトロビン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑩・2 外来処方件数 E.ソマトロビン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑩・2 外来処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	1.2
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	2.4
無回答	81.7

4.⑩・2 外来処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	15
平均値	1.8
標準偏差	4.1
中央値	0

4.⑩・2 外来処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	17.1
1件	1.2
2件	0.0
3件	1.2
4件	0.0
5件	1.2
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	1.2
無回答	78.0

4.⑩・2 外来処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	18
平均値	1.1
標準偏差	2.5
中央値	0

4.⑩・2 外来処方件数 H.アガルスダーゼベータ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑩・2 外来処方件数 H.アガルスダーゼベータ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑩・2 外来処方件数 I.ベバシズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	13.4
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	86.6

4.⑩・2 外来処方件数 I.ベバシズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	11
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑩・2 外来処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	18.3
1件	4.9
2件	1.2
3件	1.2
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	1.2
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	2.4
無回答	70.7

4.⑩・2 外来処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	24
平均値	1.5
標準偏差	3.1
中央値	0

4.⑩・2 外来処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	20.7
1件	6.1
2件	2.4
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	70.7

4.⑩・2 外来処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	24
平均値	0.4
標準偏差	0.6
中央値	0

4.⑩・2 外来処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	18.3
1件	1.2
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	79.3

4.⑩・2 外来処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	17
平均値	0.2
標準偏差	0.5
中央値	0

4.⑫ - 2 外来処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	3.7
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	1.2
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	1.2
10件以上	1.2
無回答	78.0

4.⑫ - 2 外来処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	18
平均値	1.6
標準偏差	3.2
中央値	0

4.⑫ - 2 外来処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫ - 2 外来処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 2 外来処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫ - 2 外来処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 2 外来処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫ - 2 外来処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 A.エボエチン 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	15.9
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	84.1

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 A.エボエチン 処方総件数

回答数（件）	13
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 C.トラスツズマブ 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 D.テリバラチド 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	2.4
2件	4.9
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	1.2
9件	0.0
10件以上	3.7
無回答	73.2

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 D.テリバラチド 処方総件数

回答数（件）	22
平均値	4.0
標準偏差	10.3
中央値	0

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 E.ソマトロビン 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	1.2
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	84.1

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 E.ソマトロビン 処方総件数

回答数（件）	13
平均値	0.2
標準偏差	0.5
中央値	0

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	13.4
1件	1.2
2件	0.0
3件	1.2
4件	1.2
5件	0.0
6件	1.2
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	2.4
無回答	79.3

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数

回答数（件）	17
平均値	2.9
標準偏差	5.8
中央値	0

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 H.アガルスダーゼベータ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.⑫ - 3 在宅自己注射処方件数 H.アガルスダーゼベータ 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 I.ペバシズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 I.ペバシズマブ 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	13.4
1件	12.2
2件	1.2
3件	2.4
4件	0.0
5件	1.2
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	4.9
無回答	64.6

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数

回答数（件）	29
平均値	4.2
標準偏差	11.3
中央値	1

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	11.0
1件	11.0
2件	4.9
3件	2.4
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	1.2
10件以上	7.3
無回答	62.2

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数

回答数（件）	31
平均値	69.4
標準偏差	352.8
中央値	1

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	1.2
2件	0.0
3件	0.0
4件	1.2
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	1.2
10件以上	1.2
無回答	80.5

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数

回答数（件）	16
平均値	3.5
標準偏差	10.2
中央値	0

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	15.9
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	84.1

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数

回答数（件）	13
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 A.エボエチン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	15.9
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	84.1

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 A.エボエチン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	13
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 B.リツキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 C.トラスツマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	0.0
2件	0.0
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	0.0
9件	0.0
10件以上	0.0
無回答	85.4

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 C.トラスツマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	12
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 D.テリバラチド 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

	割合
回答数（件）	82
0 件	14.6
1件	6.1
2件	2.4
3件	0.0
4件	0.0
5件	0.0
6件	0.0
7件	0.0
8件	1.2
9件	0.0
10件以上	2.4
無回答	73.2

4.㊟ - 3 在宅自己注射処方件数 D.テリバラチド 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数

回答数（件）	22
平均値	2.0
標準偏差	4.0
中央値	0

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 E.ソマトロピン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
	割合	
回答数（件）		82
0 件		14.6
1件		1.2
2件		0.0
3件		0.0
4件		0.0
5件		0.0
6件		0.0
7件		0.0
8件		0.0
9件		0.0
10件以上		0.0
無回答		84.1

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 E.ソマトロピン 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
回答数（件）		13
平均値		0.1
標準偏差		0.3
中央値		0

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
	割合	
回答数（件）		82
0 件		14.6
1件		0.0
2件		0.0
3件		0.0
4件		0.0
5件		0.0
6件		0.0
7件		0.0
8件		0.0
9件		0.0
10件以上		0.0
無回答		85.4

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 F.インフリキシマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
回答数（件）		12
平均値		0.0
標準偏差		0.0
中央値		0

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
	割合	
回答数（件）		82
0 件		14.6
1件		0.0
2件		0.0
3件		2.4
4件		0.0
5件		0.0
6件		1.2
7件		0.0
8件		0.0
9件		0.0
10件以上		1.2
無回答		80.5

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 G.エタネルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
回答数（件）		16
平均値		1.7
標準偏差		3.8
中央値		0

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 H.アガシダーゼベータ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
	割合	
回答数（件）		82
0 件		14.6
1件		0.0
2件		0.0
3件		0.0
4件		0.0
5件		0.0
6件		0.0
7件		0.0
8件		0.0
9件		0.0
10件以上		0.0
無回答		85.4

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 H.アガシダーゼベータ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
回答数（件）		12
平均値		0.0
標準偏差		0.0
中央値		0

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 I.ベバシズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
	割合	
回答数（件）		82
0 件		14.6
1件		0.0
2件		0.0
3件		0.0
4件		0.0
5件		0.0
6件		0.0
7件		0.0
8件		0.0
9件		0.0
10件以上		0.0
無回答		85.4

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 I.ベバシズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
回答数（件）		12
平均値		0.0
標準偏差		0.0
中央値		0

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
	割合	
回答数（件）		82
0 件		20.7
1件		6.1
2件		1.2
3件		2.4
4件		0.0
5件		0.0
6件		0.0
7件		1.2
8件		0.0
9件		0.0
10件以上		1.2
無回答		67.1

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 J.インスリンリスプロ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
回答数（件）		27
平均値		1.1
標準偏差		2.4
中央値		0

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
	割合	
回答数（件）		82
0 件		23.2
1件		6.1
2件		2.4
3件		0.0
4件		0.0
5件		0.0
6件		1.2
7件		1.2
8件		0.0
9件		0.0
10件以上		1.2
無回答		64.6

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 K.インスリンアスパルト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
回答数（件）		29
平均値		1.1
標準偏差		2.4
中央値		0

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
	割合	
回答数（件）		82
0 件		14.6
1件		1.2
2件		1.2
3件		0.0
4件		0.0
5件		0.0
6件		1.2
7件		0.0
8件		0.0
9件		0.0
10件以上		1.2
無回答		80.5

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 L.アダリムマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
回答数（件）		16
平均値		3.1
標準偏差		9.7
中央値		0

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
	割合	
回答数（件）		82
0 件		15.9
1件		0.0
2件		0.0
3件		0.0
4件		0.0
5件		0.0
6件		0.0
7件		0.0
8件		0.0
9件		0.0
10件以上		0.0
無回答		84.1

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 M.ラニビズマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
回答数（件）		13
平均値		0.0
標準偏差		0.0
中央値		0

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
	割合	
回答数（件）		82
0 件		14.6
1件		0.0
2件		0.0
3件		0.0
4件		0.0
5件		0.0
6件		0.0
7件		0.0
8件		0.0
9件		0.0
10件以上		0.0
無回答		85.4

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 N.ベグフィルグラスチム 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
回答数（件）		12
平均値		0.0
標準偏差		0.0
中央値		0

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
	割合	
回答数（件）		82
0 件		14.6
1件		0.0
2件		0.0
3件		0.0
4件		0.0
5件		0.0
6件		0.0
7件		0.0
8件		0.0
9件		0.0
10件以上		0.0
無回答		85.4

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 O.ウステキヌマブ 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
回答数（件）		12
平均値		0.0
標準偏差		0.0
中央値		0

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
	割合	
回答数（件）		82
0 件		14.6
1件		0.0
2件		0.0
3件		0.0
4件		0.0
5件		0.0
6件		0.0
7件		0.0
8件		0.0
9件		0.0
10件以上		0.0
無回答		85.4

4.⑩-3在宅自己注射処方件数 P.アフリベルセプト 処方総件数のうち、バイオ後続品の件数		
回答数（件）		12
平均値		0.0
標準偏差		0.0
中央値		0

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）
_01-2 【後発】 単純集計表_v1.3.xlsx_3.一般診療所調査

4.⑬・1 在宅自己注射指導管理料におけるバイオ後続品導入初期加算の算定有無

	割合
回答数（件）	79
算定あり	17.7
算定なし	81.0
無回答	1.3

4.⑬・1 在宅自己注射指導管理料におけるバイオ後続品導入初期加算の算定件数

回答数（件）	14
平均値	3.2
標準偏差	3.0
中央値	2

4.⑬・2 注射料通則におけるバイオ後続品導入初期加算の算定有無

	割合
回答数（件）	79
算定あり	2.5
算定なし	91.1
無回答	6.3

4.⑬・2 注射料通則におけるバイオ後続品導入初期加算の算定件数

回答数（件）	2
平均値	2.0
標準偏差	1.0
中央値	2

4.⑬・2 加算の算定有無

	割合
回答数（件）	82
算定あり	17.1
算定なし	78.0
無回答	4.9

4.⑭ バイオ後続品導入初期加算を算定していない場合、その理由は何か

	割合
回答数（件）	72
加算点数が少ないから	6.9
初回処方日の属する月から逆算して3か月しか算定できないため	19.4
月1回しか算定できないため	2.8
対象となる患者がいないため	52.8
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	9.7
その他	9.7
無回答	9.7

4.⑮ バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品

	割合
回答数（件）	79
インスリン製剤	15.2
ヒト成長ホルモン剤	11.4
エタネルセプト製剤	11.4
テリバラチド製剤	8.9
リツキシマブ製剤	10.1
トラスツズマブ製剤	10.1
ペバシズマブ製剤	10.1
インフリキシマブ製剤	10.1
アダリムマブ製剤	11.4
ラニビズマブ製剤	11.4
アガルシダーゼ_ベータ製剤	10.1
ベグフィルグラスチム製剤	12.7
ウステキヌマブ製剤	10.1
アフリベルセプト製剤	10.1
バイオ後続品の採用状況の差は、医薬品ごとにあまりない	35.4
バイオ後続品を採用していない	8.9
無回答	29.1

4.⑯ バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品 1つ目

	割合
回答数（件）	21
インスリン製剤	52.4
ヒト成長ホルモン剤	4.8
エタネルセプト製剤	4.8
テリバラチド製剤	4.8
リツキシマブ製剤	4.8
トラスツズマブ製剤	0.0
ペバシズマブ製剤	0.0
インフリキシマブ製剤	0.0
アダリムマブ製剤	4.8
ラニビズマブ製剤	0.0
アガルシダーゼ_ベータ製剤	4.8
ベグフィルグラスチム製剤	9.5
ウステキヌマブ製剤	0.0
アフリベルセプト製剤	0.0
無回答	9.5

4.⑯ バイオ後続品の採用が進んでいない理由 1つ目

	割合
回答数（件）	21
診療報酬上の評価が十分ではないから	23.8
対象の注射薬が対象となる患者がいないから	28.6
患者負担があまり軽減されないから	19.0
バイオ後続品の品目数が少ないから	9.5
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	14.3
バイオ後続品導入初期加算を知らなかったから	0.0
先行バイオ医薬品との適応症の差があるから	0.0
その他	23.8
無回答	14.3

4.⑯ バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品 2つ目

	割合
回答数（件）	21
インスリン製剤	0.0
ヒト成長ホルモン剤	14.3
エタネルセプト製剤	4.8
テリバラチド製剤	0.0
リツキシマブ製剤	0.0
トラスツズマブ製剤	4.8
ペバシズマブ製剤	0.0
インフリキシマブ製剤	0.0
アダリムマブ製剤	0.0
ラニビズマブ製剤	4.8
アガルシダーゼ_ベータ製剤	0.0
ベグフィルグラスチム製剤	4.8
ウステキヌマブ製剤	0.0
アフリベルセプト製剤	0.0
無回答	66.7

4.⑯ バイオ後続品の採用が進んでいない理由 2つ目

	割合
回答数（件）	21
診療報酬上の評価が十分ではないから	4.8
対象の注射薬が対象となる患者がいないから	19.0
患者負担があまり軽減されないから	0.0
バイオ後続品の品目数が少ないから	0.0
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	4.8
バイオ後続品導入初期加算を知らなかったから	0.0
先行バイオ医薬品との適応症の差があるから	0.0
その他	4.8
無回答	66.7

4.⑰ バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品 3つ目

	割合
回答数（件）	21
インスリン製剤	0.0
ヒト成長ホルモン剤	4.8
エタネルセプト製剤	4.8
テリバラチド製剤	9.5
リツキシマブ製剤	0.0
トラスツズマブ製剤	0.0
ペバシズマブ製剤	4.8
インフリキシマブ製剤	0.0
アダリムマブ製剤	0.0
ラニビズマブ製剤	0.0
アガルシダーゼ_ベータ製剤	0.0
ベグフィルグラスチム製剤	0.0
ウステキヌマブ製剤	4.8
アフリベルセプト製剤	0.0
無回答	71.4

4.⑰ バイオ後続品の採用が進んでいない理由 3つ目

	割合
回答数（件）	21
診療報酬上の評価が十分ではないから	0.0
対象の注射薬が対象となる患者がいないから	19.0
患者負担があまり軽減されないから	0.0
バイオ後続品の品目数が少ないから	0.0
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	4.8
バイオ後続品導入初期加算を知らなかったから	0.0
先行バイオ医薬品との適応症の差があるから	0.0
その他	4.8
無回答	71.4

4.⑰ 前記⑯「1.診療報酬上の評価が十分ではないから」にあてはまる医薬品 1つ目

	割合
回答数（件）	5
インスリン製剤	60.0
ヒト成長ホルモン剤	0.0
エタネルセプト製剤	0.0
テリバラチド製剤	20.0
リツキシマブ製剤	0.0
トラスツズマブ製剤	0.0
ペバシズマブ製剤	0.0
インフリキシマブ製剤	0.0
アダリムマブ製剤	20.0
ラニビズマブ製剤	0.0
アガルシダーゼ_ベータ製剤	0.0
ベグフィルグラスチム製剤	0.0
ウステキヌマブ製剤	0.0
アフリベルセプト製剤	0.0
無回答	0.0

4.⑰ 前記⑯「1.診療報酬上の評価が十分ではないから」にあてはまる理由 1つ目

	割合
回答数（件）	5
加算点数が少ないから	80.0
算定要件がわからないから	20.0
算定要件が厳しいから	40.0
初回処方日の属する月から逆算して3か月しか算定できないから	40.0
月1回しか算定できないから	20.0
無回答	0.0

4.⑰ 前記⑯「1.診療報酬上の評価が十分ではないから」にあてはまる医薬品 2つ目

	割合
回答数（件）	5
インスリン製剤	0.0
ヒト成長ホルモン剤	0.0
エタネルセプト製剤	0.0
テリバラチド製剤	0.0
リツキシマブ製剤	0.0
トラスツズマブ製剤	0.0
ペバシズマブ製剤	0.0
インフリキシマブ製剤	0.0
アダリムマブ製剤	0.0
ラニビズマブ製剤	20.0
アガルシダーゼ_ベータ製剤	0.0
ベグフィルグラスチム製剤	0.0
ウステキヌマブ製剤	0.0
アフリベルセプト製剤	0.0
無回答	80.0

4.⑰ 前記⑯「1.診療報酬上の評価が十分ではないから」にあてはまる理由 2つ目

	割合
回答数（件）	5
加算点数が少ないから	20.0
算定要件がわからないから	0.0
算定要件が厳しいから	0.0
初回処方日の属する月から逆算して3か月しか算定できないから	0.0
月1回しか算定できないから	0.0
無回答	80.0

4.⑭ 前記⑥「1.診療報酬上の評価が十分ではないから」にあてはまる医薬品 3つ目

	割合
回答数（件）	5
インスリン製剤	0.0
ヒト成長ホルモン剤	0.0
エタネルセプト製剤	0.0
テリパラチド製剤	0.0
リツキシマブ製剤	0.0
トラスツズマブ製剤	0.0
ペバシズマブ製剤	0.0
インフリキシマブ製剤	0.0
アダリムマブ製剤	0.0
ラニビズマブ製剤	0.0
アガルシダーゼ_ベータ製剤	0.0
ベグフィルグラスチム製剤	0.0
ウステキヌマブ製剤	0.0
アフリベルセプト製剤	0.0
無回答	100.0

4.⑰ 前記⑥「1.診療報酬上の評価が十分ではないから」にあてはまる理由 3つ目

	割合
回答数（件）	5
加算点数が少ないから	0.0
算定要件がわからないから	0.0
算定要件が厳しいから	0.0
初回処方日の属する月から逆算して3か月しか算定できないから	0.0
月1回しか算定できないから	0.0
無回答	100.0

4.⑱ バイオ後続品を発行する際、処方箋にどのように表記しているか

	割合
回答数（件）	55
バイオ後続品の販売名（例：「 ●●● _B S注射液_含量_会社名」）	50.9
バイオ後続品の一般的名称（「 ○○○ （遺伝子組換え） ●●● 後続1」）	7.3
バイオ後続品の一般的名称だが（遺伝子組換え）と記載しない（「 ○○○ [●●● 後続1」）	1.8
変更不可欄にチェックを入れずに先行品の販売名で処方	14.5
変更不可欄にチェックを入れずに先行品の一般的名称で処方（「 ○○○ （遺伝子組換え）」）	5.5
その他	1.8
無回答	18.2

4.⑲ バイオ後続品を院外処方するにあたって薬局・薬剤師に望むこと

	割合
回答数（件）	55
「一般名処方の調剤」または「バイオ後続品への変更調剤」について、予め合意した方法で情報提供を受けること	23.6
「一般名処方の調剤」または「バイオ後続品への変更調剤」について、合意方法や頻度によらず情報提供を受けること	20.0
患者に対して、バイオ後続品の品質や有効性、安全性について説明を行うこと	50.9
患者に対して、バイオ後続品の普及啓発を行うこと	12.7
その他	1.8
無回答	21.8

4.⑳ バイオ後続品の院外処方をしていない理由

	割合
回答数（件）	56
バイオ後続品に限らず、院外処方箋を発行していないから	5.4
バイオ後続品の対象となる患者がいらないから	28.6
バイオ後続品の品質や有効性、安全性に処方医師が疑問を持っているから	10.7
バイオ後続品の品質や有効性、安全性に患者が疑問を持っているから	7.1
バイオ後続品の品目が少ないから	3.6
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	8.9
患者の経済的メリットが小さいから	1.8
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が異なるから	1.8
先行バイオ医薬品とバイオ後続品のデバイスのタイプが異なるから	0.0
バイオAGがないから	7.1
その他	7.1
特に理由はない	5.4
無回答	37.5

4.(21) 外来腫瘍化学療法診療料を算定しているか

	割合
回答数（件）	383
算定あり	0.3
算定なし	88.8
無回答	11.0

4.(22) 外来腫瘍化学療法診療料の算定回数

	割合
回答数（件）	1
49回以下	0.0
50～99回	0.0
100～149回	100.0
150～199回	0.0
200回以上	0.0
無回答	0.0

4.(22) 外来腫瘍化学療法診療料の算定回数（回）

回答数（件）	1
平均値	107.0
標準偏差	0.0
中央値	107

4.(23) 外来腫瘍化学療法診療料の対象患者の平均受診回数（回）

	割合
回答数（件）	1
0回	0.0
0超～1回未満	0.0
1回以上2回未満	0.0
2回以上3回未満	0.0
3回以上	0.0
無回答	100.0

4.(23) 外来腫瘍化学療法診療料の対象患者の平均受診回数（回）

回答数（件）	0
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.(24) - 1 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品） A 後発医薬品がある先発医薬品

	割合
回答数（件）	1
9品目以下	0.0
10～19品目	0.0
20～29品目	0.0
30～39品目	0.0
40品目以上	0.0
無回答	100.0

4.(24) - 1 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品） A 後発医薬品がある先発医薬品

回答数（件）	0
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.(24) - 1 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品） B 後発医薬品

	割合
回答数（件）	1
4品目以下	100.0
5～9品目	0.0
10～14品目	0.0
15～19品目	0.0
20品目以上	0.0
無回答	0.0

4.(24) - 1 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品） B 後発医薬品

回答数（件）	1
平均値	1.0
標準偏差	0.0
中央値	1

4.(24) - 2 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品以外） A 後発医薬品がある先発医薬品

	割合
回答数（件）	1
0品目	0.0
1品目	0.0
2品目	0.0
3品目	0.0
4品目以上	0.0
無回答	100.0

4.(24) - 2 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品以外） A 後発医薬品がある先発医薬品

回答数（件）	0
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.(24) - 2 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品以外） B 後発医薬品

	割合
回答数（件）	1
9品目以下	100.0
10～19品目	0.0
20～29品目	0.0
30～39品目	0.0
40品目以上	0.0
無回答	0.0

4.(24) - 2 外来化学療法における後発品の使用状況 抗悪性腫瘍薬（バイオ医薬品以外） B 後発医薬品

回答数（件）	1
平均値	6.0
標準偏差	0.0
中央値	6

4.(24) - 3 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品（抗悪性腫瘍薬以外のバイオ医薬品も含む） A 後発医薬品がある先発医薬品

	割合
回答数（件）	1
9品目以下	0.0
10～19品目	0.0
20～29品目	0.0
30～39品目	0.0
40品目以上	0.0
無回答	100.0

4.(24) - 3 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品（抗悪性腫瘍薬以外のバイオ医薬品も含む） A 後発医薬品がある先発医薬品

	割合
回答数（件）	1
9品目以下	0.0
10～19品目	0.0
20～29品目	0.0
30～39品目	0.0
40品目以上	0.0
無回答	100.0

4.(24) - 3 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品（抗悪性腫瘍薬以外のバイオ医薬品も含む） A 後発医薬品がある先発医薬品

回答数（件）	0
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.(24) - 3 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品（抗悪性腫瘍薬以外のバイオ医薬品も含む） B 後発医薬品

	割合
回答数（件）	1
0品目	0.0
1品目	0.0
2品目	0.0
3品目	0.0
4品目以上	100.0
無回答	0.0

4.(24) - 3 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品（抗悪性腫瘍薬以外のバイオ医薬品も含む） B 後発医薬品

回答数（件）	1
平均値	4.0
標準偏差	0.0
中央値	4

4.(25) 外来化学療法加算を算定しているか

	割合
回答数（件）	383
算定あり	0.5
算定ありなし	85.4
無回答	14.1

4.(26) - 1 外来化学療法における後発品の使用状況 バイオ医薬品 A 後発医薬品がある先発医薬品

	割合
回答数（件）	2
9品目以下	0.0
10～19品目	0.0
20～29品目	0.0
30～39品目	0.0
40品目以上	0.0
無回答	100.0

4.(26) - 1 外来化学療法における後発品の使用状況 バイオ医薬品 A 後発医薬品がある先発医薬品

回答数（件）	0
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.(26) - 1 外来化学療法における後発品の使用状況 バイオ医薬品 B 後発医薬品

	割合
回答数（件）	2
9品目以下	50.0
10～19品目	0.0
20～29品目	0.0
30～39品目	0.0
40品目以上	0.0
無回答	50.0

4.(26) - 1 外来化学療法における後発品の使用状況 バイオ医薬品 B 後発医薬品

回答数（件）	1
平均値	1.0
標準偏差	0.0
中央値	1

4.(26) - 2 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品 A 後発医薬品がある先発医薬品

	割合
回答数（件）	2
0品目	0.0
1品目	0.0
2品目	0.0
3品目	0.0
4品目以上	0.0
無回答	100.0

4.(26) - 2 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品 A 後発医薬品がある先発医薬品

回答数（件）	0
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

4.(26) - 2 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品 B 後発医薬品

	割合
回答数（件）	2
0品目	0.0
1品目	0.0
2品目	0.0
3品目	0.0
4品目以上	50.0
無回答	50.0

4.(26) - 2 外来化学療法における後発品の使用状況 支持療法に用いる医薬品 B 後発医薬品

回答数（件）	1
平均値	4.0
標準偏差	0.0
中央値	4

5.① 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数（枚）

	割合
回答数（件）	383
49枚以下	82.0
50～99枚	1.6
100～149枚	1.8
150～199枚	0.3
200枚以上	2.1
無回答	12.3

5.① 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数（枚）

回答数（件）	336
平均値	23.0
標準偏差	142.9
中央値	1

5.② - 1 前記①で医療上必要性があると医師が判断したもの（枚）

回答数（件）	172
平均値	21.9
標準偏差	138.9
中央値	2

5.② - 2 前記①で後発医薬品の在庫がないもの（枚）

回答数（件）	172
平均値	9.6
標準偏差	54.9
中央値	0

5.② - 3 前記①で患者が希望したもの（枚）

回答数（件）	172
平均値	5.8
標準偏差	23.7
中央値	1

5.③ 長期収載品の選定療養によって、どのような影響や課題があったか

	割合
回答数（件）	383
患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい	43.9
患者の制度に対する理解が不十分である	46.7
薬価改定に伴い、これまで選定療養の対象であった長期収載品が対象外となった際に、患者への説明等に苦慮したことがある	16.2
薬価改定に伴い、対象品目が変わってしまう	12.3
医療関係者への制度に関する周知が不十分である	12.5
制度そのものがわかりづらい	35.5
特別の料金の計算がわかりづらい	21.1
レセコンなどシステム改修が不十分である	3.4
後発医薬品を選択する患者が増えた	13.8
患者からのクレーム対応に苦慮したことがある	13.6
その他	3.9
わからない	17.2
無回答	6.3

1.① 所在地	
	割合
回答数（件）	627
北海道	3.3
青森県	0.8
岩手県	0.8
宮城県	1.4
秋田県	1.3
山形県	0.5
福島県	1.3
茨城県	2.9
栃木県	1.6
群馬県	1.3
埼玉県	6.7
千葉県	4.1
東京都	11.3
神奈川県	6.9
新潟県	4.0
富山県	0.8
石川県	0.5
福井県	0.2
山梨県	0.5
長野県	2.4
岐阜県	1.4
静岡県	3.0
愛知県	6.5
三重県	1.4
滋賀県	1.0
京都府	2.1
大阪府	7.5
兵庫県	2.7
奈良県	1.1
和歌山県	1.0
鳥取県	0.3
島根県	0.2
岡山県	2.2
広島県	3.0
山口県	1.4
徳島県	1.0
香川県	0.8
愛媛県	0.5
高知県	0.2
福岡県	4.1
佐賀県	0.6
長崎県	1.3
熊本県	1.0
大分県	0.2
宮崎県	0.5
鹿児島県	1.4
沖縄県	1.1
無回答	0.0

1.② 開設者	
	割合
回答数（件）	627
個人	79.4
法人	19.9
その他	0.5
無回答	0.2

1.③ 開設年	
	割合
回答数（件）	627
1995年以前	36.7
1996～2000年	10.7
2001～2005年	10.2
2006～2010年	7.5
2011～2015年	8.0
2016～2020年	11.6
2021年以降	8.6
無回答	6.7

1.③ 開設年（西暦）	
回答数（件）	585
平均値	1999.8
標準偏差	18.0
中央値	2000

1.④ 標榜診療科	
	割合
回答数（件）	627
歯科	97.8
矯正歯科	25.8
小児歯科	50.1
歯科口腔外科	28.9
その他	0.8
無回答	0.3

1.⑤ 医科の医療機関の併設状況	
	割合
回答数（件）	627
併設している	1.3
併設していない	96.2
無回答	2.6

1.⑥ 外来の院内処方の割合	
	割合
回答数（件）	627
0 %_	10.0
0 %超～10%未満	2.4
10%以上20%未満	2.9
20%以上30%未満	1.1
30%以上40%未満	0.3
40%以上50%未満	0.5
50%以上60%未満	1.4
60%以上70%未満	0.3
70%以上80%未満	0.6
80%以上90%未満	1.3
90%以上100%未満	16.7
100%_	58.5
無回答	3.8

1.⑥ 外来の院内処方の割合（％）	
回答数（件）	603
平均値	81.1
標準偏差	36.3
中央値	100

1.⑥ 外来の院外処方の割合	
	割合
回答数（件）	627
0 %_	59.2
0 %超～10%未満	13.9
10%以上20%未満	2.9
20%以上30%未満	1.6
30%以上40%未満	0.3
40%以上50%未満	0.3
50%以上60%未満	1.4
60%以上70%未満	0.5
70%以上80%未満	0.8
80%以上90%未満	0.6
90%以上100%未満	5.3
100%_	9.4
無回答	3.8

1.⑥ 外来の院外処方の割合（％）	
回答数（件）	603
平均値	18.3
標準偏差	35.8
中央値	0

1.⑥ 外来の院内処方の割合	
	割合
回答数（件）	627
院内処方あり	86.1
院内処方率が80%以上	76.6
無回答	13.9

1.⑦ - 1 歯科医師数 1）常勤のみ	
	割合
回答数（件）	627
0 人	0.5
1人	77.0
2人	17.5
3人	2.6
4人以上	2.2
無回答	0.2

1.⑦ - 1 歯科医師数 1）常勤のみ（人）	
回答数（件）	626
平均値	1.3
標準偏差	0.7
中央値	1

1.⑦ - 1 歯科医師数 2）常勤換算	
	割合
回答数（件）	627
0 人	61.2
0 人超1人未満	8.5
1人以上2人未満	10.0
2人以上3人未満	3.0
3人以上	3.5
無回答	13.7

1.⑦ - 1 歯科医師数 2）常勤換算（人）	
回答数（件）	541
平均値	0.4
標準偏差	0.9
中央値	0

1.⑦ - 2 薬剤師数 1）常勤のみ	
	割合
回答数（件）	627
0 人	84.5
1人	0.8
2人	0.0
3人	0.0
4人以上	0.0
無回答	14.7

1.⑦ - 2 薬剤師数 1）常勤のみ（人）	
回答数（件）	535
平均値	0.0
標準偏差	0.1
中央値	0

1.⑦ - 2 薬剤師数 2）常勤換算	
	割合
回答数（件）	627
0 人	79.4
0 人超1人未満	0.2
1人以上2人未満	0.0
2人以上3人未満	0.0
3人以上	0.0
無回答	20.4

1.⑦ - 2 薬剤師数 2）常勤換算（人）	
回答数（件）	499
平均値	0.0
標準偏差	0.0
中央値	0

1.⑧ 外来患者延数	
	割合
回答数（件）	627
249人以下	28.9
250～499人	22.8
500～749人	14.4
750～999人	6.9
1000人以上	7.2
無回答	19.9

1.⑧ 外来患者延数（人）	
回答数（件）	502
平均値	495.1
標準偏差	803.4
中央値	341.5

1.⑨ 外来後発医薬品使用体制加算の届出状況	
	割合
回答数（件）	627
届出していない	89.6
外来後発医薬品使用体制加算1	5.9
外来後発医薬品使用体制加算2	0.8
外来後発医薬品使用体制加算3	0.3
無回答	3.3

2.① 1年前（令和6年7月1日）と比較して、後発医薬品の供給体制についてどのように感じるか	
	割合
回答数（件）	627
改善した	11.8
変わらない	69.4
悪化した	14.4
無回答	4.5

2.② 現在（令和7年7月1日）において、後発医薬品の処方割合に変化はあったか	
	割合
回答数（件）	627
後発医薬品の処方割合がかなり減った	2.7
後発医薬品の処方割合がやや減った	5.3
後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった	41.6
後発医薬品の処方割合が増えた	19.3
わからない	27.3
無回答	3.8

2.③ - 1 出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 先発医薬品	
	割合
回答数（件）	627
0 品目	28.4
1品目	21.4
2品目	13.4
3品目	6.1
4品目以上	2.2
無回答	28.5

2.③ - 1 出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 先発医薬品	
回答数（件）	448
平均値	1.1
標準偏差	1.2
中央値	1

2.③・2 出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 後発医薬品

	割合
回答数（件）	627
0 品目	31.1
1品目	16.6
2品目	10.4
3品目	6.4
4品目以上	2.4
無回答	33.2

2.③・2 出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 後発医薬品

回答数（件）	419
平均値	1.0
標準偏差	1.2
中央値	1

2.④ 供給停止となっている後発医薬品等の診療報酬上の臨時的な取扱いの適用（令和7年7月1日時点）

	割合
回答数（件）	44
あり	13.6
なし	77.3
無回答	9.1

2.⑤ 後発医薬品使用割合＜数量ベース＞（令和7年6月）

	割合
回答数（件）	44
20％未満	4.5
20％以上25％未満	0.0
25％以上30％未満	0.0
30％以上35％未満	0.0
35％以上40％未満	0.0
40％以上45％未満	0.0
45％以上50％未満	2.3
50％以上55％未満	0.0
55％以上60％未満	2.3
60％以上65％未満	0.0
65％以上70％未満	0.0
70％以上75％未満	0.0
75％以上80％未満	0.0
80％以上85％未満	0.0
85％以上90％未満	2.3
90％以上	63.6
無回答	25.0

回答数（件）	33
平均値	89.3
標準偏差	21.8
中央値	100

2.⑥ カットオフ値の割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年6月）

	割合
回答数（件）	44
20％未満	6.8
20％以上25％未満	0.0
25％以上30％未満	0.0
30％以上35％未満	0.0
35％以上40％未満	0.0
40％以上45％未満	0.0
45％以上50％未満	0.0
50％以上55％未満	2.3
55％以上60％未満	0.0
60％以上65％未満	0.0
65％以上70％未満	0.0
70％以上75％未満	0.0
75％以上80％未満	4.5
80％以上85％未満	0.0
85％以上90％未満	4.5
90％以上	36.4
無回答	45.5

2.⑥ カットオフ値の割合（調剤報酬算定上の数値）（令和7年6月）（％）

回答数（件）	24
平均値	83.0
標準偏差	31.8
中央値	100

2.⑦ 現在、一般名処方による処方箋を発行しているか

	割合
回答数（件）	627
あり	33.5
なし	61.6
無回答	4.9

2.⑧ 1年前と比較して一般名処方の件数は増えたか

	割合
回答数（件）	210
増えた	20.0
変わらない	75.2
減った	4.3
無回答	0.5

2.⑨ 一般名処方が増えた理由

	割合
回答数（件）	42
一般名処方加算の点数が引き上げられたから	40.5
後発医薬品の品質への不安が減ったから	26.2
後発医薬品の安定供給への不安が減ったから	19.0
先発医薬品を希望する患者が減ったから	23.8
その他	11.9
無回答	0.0

2.⑩ 一般名処方が増えない理由

	割合
回答数（件）	167
後発医薬品の品質への不安があるから	28.1
後発医薬品の安定供給への不安があるから	33.5
先発医薬品を希望する患者が増えたから	12.0
その他	28.7
無回答	4.8

2.⑪ 一般名処方による処方箋を発行していない理由

	割合
回答数（件）	386
現在のシステムが一般名処方に対応していないため	18.4
処方箋が手書きのため	8.0
一般名では分かりにくく、医療従事者が混乱するため	9.3
一般名では分かりにくく、患者が混乱するため	8.8
手間が増えるため	16.8
保険薬局がメーカーを選択できることに疑問や不安があるため	1.3
その他	24.1
特に理由はない	31.9
無回答	1.8

2.⑫ 今後、どのような対応がなされれば、歯科医師の立場として後発医薬品の使用を進めてもよいと思うか

	割合
回答数（件）	627
厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	48.0
後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること	51.0
後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保	28.4
後発医薬品に関する安定供給体制の確保	55.5
後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合	17.7
後発医薬品の在庫管理の負担軽減	13.2
先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダーリングシステムの導入	11.0
後発医薬品に対する患者の理解	23.9
後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価	20.7
後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置	20.4
後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示	8.3
調剤に関する保険薬局との連携	7.7
患者負担が軽減されること	21.2
その他	2.1
特に対応は必要ない	7.7
無回答	3.2

2.⑬ 前記⑫の選択肢1.～15.のうち、最もあてはまるもの

	割合
回答数（件）	560
厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	17.9
後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること	12.3
後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保	2.9
後発医薬品に関する安定供給体制の確保	22.3
後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合	0.9
後発医薬品の在庫管理の負担軽減	0.9
先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダーリングシステムの導入	1.6
後発医薬品に対する患者の理解	2.9
後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価	3.8
後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価	0.4
後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置	3.4
後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示	0.7
調剤に関する保険薬局との連携	0.4
患者負担が軽減されること	4.8
その他	2.3
無回答	22.7

3.① 長期収載品の選定療養費について知っているか

	割合
回答数（件）	627
はい	41.5
いいえ	55.3
無回答	3.2

3.② 令和7年6月における処方箋発行枚数

	割合
回答数（件）	627
9枚以下	66.8
10～19枚	6.7
20～29枚	4.1
30～39枚	3.5
40枚以上	8.0
無回答	10.8

3.② 令和7年6月における処方箋発行枚数（枚）

回答数（件）	559
平均値	10.7
標準偏差	25.1
中央値	0

3.②・1 上記②で回答した枚数のうち、選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数

	割合
回答数（件）	627
0 枚	78.0
1枚	1.6
2枚	1.0
3枚	0.3
4枚以上	5.9
無回答	13.2

3.②・1 上記②で回答した枚数のうち、選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数

回答数（件）	544
平均値	2.3
標準偏差	14.1
中央値	0

3.②・2 1）選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数のうち、医療上必要性があると歯科医師が判断したもの

回答数（件）	53
平均値	6.4
標準偏差	27.5
中央値	0

3.②・2 2）選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数のうち、後発医薬品の在庫がないため長期収載品を処方したもの（枚）

回答数（件）	53
平均値	13.4
標準偏差	23.1
中央値	2

回答数（件）	53
平均値	4.2
標準偏差	22.4
中央値	0

3.③ 長期収載品の選定療養によって、どのような影響や課題があったか

	割合
回答数（件）	627
患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい	22.0
患者の制度に対する理解が不十分である	31.6
薬価改定に伴い、これまで選定療養の対象であった長期収載品が対象外となった際に、患者への説明等に苦慮したことがある	7.0
薬価改定に伴い、対象品目が変わってしまう	6.5
医療関係者への制度に関する周知が不十分である	19.1
制度そのものがわかりづらい	36.4
特別の料金の計算がわかりづらい	14.7
レセコンなどシステム改修が不十分である	12.4
後発医薬品を選択する患者が増えた	2.1
患者からのクレーム対応に苦慮したことがある	1.9
その他	2.1
わからない	35.6
無回答	5.6

4.④ 施設で実施している医薬品の安定供給に関連する取組

	割合
回答数（件）	627
銘柄名処方と比較し一般名処方において、医薬品が安定的に提供可能である旨を周知	20.4
院内処方から院外処方への切り替え	14.5
処方可能な医薬品に関する保険薬局との情報共有	18.5
安定供給問題に備えた処方薬の見直しの検討	43.1
その他	8.8
無回答	11.2

1.④ 性別

	割合
回答数（件）	306
男性	85.3
女性	13.1
無回答	1.6

1.② 年代

	割合
回答数（件）	306
20歳代	0.3
30歳代	7.8
40歳代	19.9
50歳代	30.7
60歳代以上	40.8
無回答	0.3

1.③ 主たる担当診療科

	割合
回答数（件）	306
内科	45.4
外科	12.4
精神科	18.3
小児科	3.6
皮膚科	1.6
泌尿器科	2.3
産婦人科・産科	2.3
眼科	1.3
耳鼻咽喉科	0.0
放射線科	0.0
脳神経外科	2.3
整形外科	7.2
麻酔科	0.0
救急科	0.0
歯科・歯科口腔外科	0.0
リハビリテーション科	0.7
その他	1.6
無回答	1.0

1.③・1 内科の詳細

	割合
回答数（件）	139
腎臓内科	5.8
血液内科	5.0
リウマチ内科	3.6
糖尿病内科	13.7
消化器内科	21.6
呼吸器内科	12.2
循環器内科	18.7
1～7.に該当なし	30.9

1.③・2 外科の詳細

	割合
回答数（件）	38
呼吸器外科	5.3
心臓血管外科	10.5
乳腺外科	18.4
気管食道外科	0.0
消化器外科	68.4
肛門外科	18.4
小児外科	2.6
1～7.に該当なし	7.9

2.① 1年前（令和6年7月1日）と比較して、後発医薬品の供給体制についてどのように感じるか

	割合
回答数（件）	306
改善した	13.4
変わらない	50.7
悪化した	34.0
無回答	2.0

2.② 現時点（令和7年7月1日）において、後発医薬品の処方割合に変化はあったか

	割合
回答数（件）	306
後発医薬品の処方割合がかなり減った	0.7
後発医薬品の処方割合がやや減った	11.8
後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった	44.8
後発医薬品の処方割合が増えた	36.9
わからない	5.6
無回答	0.3

2.③ クリニカルパスの変更はあったか

	割合
回答数（件）	306
あった	12.1
なかった	84.0
無回答	3.9

2.⑤ 1年前と比較して一般名処方の件数は増えたか

	割合
回答数（件）	215
増えた	42.3
変わらない	54.4
減った	3.3

2.⑥ 一般名処方が増えた理由

	割合
回答数（件）	91
一般名処方加算の点数が引き上げられたから	41.8
後発医薬品の品質への不安が減ったから	11.0
後発医薬品の安定供給への不安が減ったから	6.6
先発医薬品を希望する患者が減ったから	13.2
オーダーリングシステムの変更など一般名処方に対応できる院内体制が整備されたから	57.1
長期収載品の選定療養が始まったから	14.3
その他	5.5

2.⑦ 一般名処方が増えない理由

	割合
回答数（件）	124
後発医薬品の品質への不安があるから	8.9
後発医薬品の安定供給への不安があるから	28.2
先発医薬品を希望する患者が増えたから	4.0
オーダーリングシステムの変更など一般名処方に対応できる院内体制が整備されていないから	7.3
すでに十分な対応を行っているから	58.9
市場から撤退した品目があるから	16.9
その他	3.2
無回答	3.2

2.⑧ 一般名処方による処方箋を発行していない理由

	割合
回答数（件）	85
オーダーリングシステムや電子カルテが未導入であるため	21.2
現在のシステムが一般名処方に対応していないため	44.7
処方箋が手書きのため	9.4
一般名では分かりにくく、医療従事者が混乱するため	22.4
一般名では分かりにくく、患者が混乱するため	16.5
手間が増えるため	11.8
保険薬局がメーカーを選択できることに疑問や不安があるため	4.7
その他	9.4
特に理由はない	8.2
無回答	4.7

2.⑨ 医薬品の供給状況は不安定だと感じるか

	割合
回答数（件）	306
感じる	90.2
感じない	8.8
無回答	1.0

2.⑩ 医薬品の不安定な供給状況によって生じている影響はあるか

	割合
回答数（件）	276
治療計画の見直し	37.3
代替薬の選定による負担	71.7
後発医薬品に関する安定供給体制の確保	50.7
患者負担額の増加	13.8
緊急治療の対応遅延	18.8
治療品質の低下	33.3
その他	2.2
無回答	0.7

2.⑪ 今後どのような対応がなされれば、医師の立場として後発医薬品の使用を進めてもよいと思うか

	割合
回答数（件）	306
厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	46.4
後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること	55.9
後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保	37.6
後発医薬品に関する安定供給体制の確保	74.2
後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合	24.5
後発医薬品の在庫管理の負担軽減	19.3
先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダーリングシステムの導入	34.3
後発医薬品に対する患者の理解	33.3
後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価	33.7
後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価	22.2
後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置	31.4
後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示	20.6
調剤に関する保険薬局との連携	14.7
患者負担が軽減されること	20.9
その他	3.3
特に対応は必要ない	2.3
無回答	0.7

2.⑫ 前記⑪の選択肢1.～15.のうち、最もあてはまるもの

	割合
回答数（件）	297
厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	11.8
後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること	12.8
後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保	2.0
後発医薬品に関する安定供給体制の確保	38.4
後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合	0.7
後発医薬品の在庫管理の負担軽減	0.0
先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダーリングシステムの導入	1.7
後発医薬品に対する患者の理解	3.0
後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価	4.7
後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価	0.0
後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置	3.7
後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示	1.7
調剤に関する保険薬局との連携	0.3
患者負担が軽減されること	0.7
その他	1.3
無回答	17.2

3.① バイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）を処方しているか

	割合
回答数（件）	306
処方あり	55.2
処方なし	43.1
無回答	1.6

3.② 院内処方（入院または院内の外来）の有無

	割合
回答数（件）	169
あり	95.9
なし	4.1

3.③ 院外処方の有無

	割合
回答数（件）	169
あり	58.0
なし	39.1
無回答	3.0

3.④ 施設におけるバイオ後続品の使用に関する考え方について最も近いもの

	割合
回答数（件）	306
バイオ後続品が発売されているものは、積極的に処方（使用）する	16.7
品質や有効性、安全性に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方（使用）する	31.7
安定供給に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方（使用）する	4.2
品目によってはバイオ後続品を積極的に処方（使用）する	7.2
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が同じ場合は積極的に処方（使用）する	3.6
いわゆるバイオAGであれば積極的に使用する	1.0
バイオ後続品を積極的にには使用していない	12.7
バイオ医薬品（先行バイオ医薬品、バイオ後続品）の対象となる患者がいない	17.3
その他	2.6
無回答	2.9

3.⑤ バイオ後続品を積極的に使用する場合、その理由は何か

	割合
回答数（件）	197
患者がバイオ後続品の使用を希望するから	6.1
患者の経済的負担が軽減できるから	69.5
診療報酬上の評価があるから	17.3
医療費削減につながるから	67.5
国がバイオ後続品の使用促進を図っているから	13.2
その他	2.5
無回答	1.0

3.⑥ 先行バイオ医薬品を使用している患者に、先行バイオ医薬品からバイオ後続品に変更を考慮する場合、その理由

	割合
回答数（件）	197
患者がバイオ後続品の使用を希望するから	8.6
患者の経済的負担が軽減できるから	69.0
診療報酬上の評価があるから	15.2
医療費削減につながるから	60.4
国がバイオ後続品の使用促進を図っているから	10.2
その他	4.1
無回答	2.0

2.④ 現在、一般名処方による処方箋を発行しているか

	割合
回答数（件）	306
している	70.3
していない	27.8
無回答	2.0

3.⑦ バイオ後続品を積極的には使用していない理由

	割合
回答数（件）	39
バイオ後続品の品質や有効性、安全性に疑問があるから	33.3
バイオ後続品は、先発品（先行バイオ医薬品）と同等／同質の品質・安全性・有効性を有するが同一ではないから	12.8
バイオ後続品に関する情報提供が不足しているから	10.3
バイオ後続品の品目が少ないから	7.7
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	17.9
患者への普及啓発が不足しているから	12.8
患者の経済的メリットが小さいから	5.1
自己負担額が制度により軽減されている患者（生活保護受給者や、難病・障害等による公費負担制度の受給者など）であり、薬剤費の差が治療選択に影響しにくいから	0.0
院内でバイオ後続品の投与や処方を行っていないから	25.6
在庫管理等の負担が大きいため	7.7
薬価差の状況により、バイオ後続品を選択する利点が小さいから	10.3
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の両方を備蓄するのは困難だから	2.6
製造販売後調査（PMS）の手間が大きいため	0.0
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が異なるから	0.0
先行バイオ医薬品とバイオ後続品のデバイスのタイプが異なるから	2.6
その他	15.4
無回答	2.6

3.⑧ 今後、どのような対応が進めば、バイオ後続品の使用を進めてよいと考えるか

	割合
回答数（件）	306
診療報酬上の評価	41.2
より患者負担が軽減されること	46.1
医師、薬剤師への国からのバイオ後続品に関する情報の周知	31.0
国からの国民への啓発と患者の理解	28.1
バイオ後続品企業からの情報提供	18.6
先行バイオ医薬品からバイオ後続品に切り替えを含む臨床試験データの充実やガイドライン等の整備	29.1
バイオ後続品の品目数が増えること	12.7
バイオ後続品の供給がより安定すること	42.5
バイオ後続品の在庫の負担軽減	11.8
医療機関に対する経営的メリットがあること	35.3
その他	2.3
バイオ後続品を使用する必要はない	3.9
無回答	2.6

3.⑨ バイオ後続品の院内処方（入院または院内の外来）の有無

	割合
回答数（件）	169
あり	78.7
なし	19.5
無回答	1.8

3.⑩ バイオ後続品の院外処方の有無

	割合
回答数（件）	169
あり	50.9
なし	46.7
無回答	2.4

3.⑪ 令和6年度診療報酬改定でバイオ後続品使用体制加算が新設されたことを知っているか

	割合
回答数（件）	306
知っている	21.6
知らない	75.5
無回答	2.9

3.⑫ - 1 バイオ後続品使用体制加算を、施設において算定しているか

	割合
回答数（件）	66
算定している	45.5
算定していない	53.0
無回答	1.5

3.⑫ - 2 令和6年度診療報酬改定でバイオ後続品使用体制加算が新設されたことで、バイオ後続品の使用件数が増えたか

	割合
回答数（件）	30
はい	36.7
いいえ	13.3
わからない	50.0

3.⑬ 発行する際、処方箋にどのように表記しているか

	割合
回答数（件）	86
バイオ後続品の販売名（例：「●●●_B S注射液_含量_会社名」）	48.8
バイオ後続品の一般的名称（「○○○（遺伝子組換え）【●●●後続1】」）	14.0
バイオ後続品の一般的名称だが（遺伝子組換え）と記載しない（「○○○【●●●後続1】」）	10.5
変更不可欄にチェックを入れずに先行品の販売名で処方	11.6
変更不可欄にチェックを入れずに先行品の一般的名称で処方（「○○○（遺伝子組換え）」）	7.0
その他	3.5
無回答	4.7

3.⑭ バイオ後続品を院外処方するにあたって薬局・薬剤師に望むこと

	割合
回答数（件）	86
「一般名処方の調剤」または「バイオ後続品への変更調剤」について、予め合意した方法で情報提供を受けること	27.9
「一般名処方の調剤」または「バイオ後続品への変更調剤」について、合意方法や頻度によらず情報提供を受けること	19.8
患者に対して、バイオ後続品の品質や有効性、安全性について説明を行うこと	66.3
患者に対して、バイオ後続品の普及啓発を行うこと	29.1
その他	3.5
無回答	5.8

3.⑮ バイオ後続品の院外処方をしていない理由

	割合
回答数（件）	79
バイオ後続品に限らず、院外処方箋を発行していないから	15.2
バイオ後続品の対象となる患者がいないから	44.3
バイオ後続品の品質や有効性、安全性に疑問を持っているから	3.8
バイオ後続品の品質や有効性、安全性に患者が疑問を持っているから	5.1
バイオ後続品の品目が少ないから	6.3
バイオ後続品の安定供給に不安があるから	8.9
患者の経済的メリットが小さいから	1.3
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が異なるから	1.3
先行バイオ医薬品とバイオ後続品のデバイスのタイプが異なるから	2.5
バイオAGがないから	0.0
その他	7.6
特に理由はない	10.1
無回答	11.4

4.① 選定療養の対象となりうる長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）の処方箋を発行したことがあるか

	割合
回答数（件）	306
ある	56.2
ない	39.2
無回答	4.6

4.② 選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋を発行した理由

	割合
回答数（件）	172
医療上必要があると判断したため	40.7
医療上必要があると薬剤師から提案があったため	3.5
後発医薬品の在庫がないため	19.2
患者から希望があったため	68.6
その他	1.2
わからない	0.6
無回答	0.6

4.③ 患者が選定療養の対象となりうる長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）の処方等又は調剤を希望した理由

	割合
回答数（件）	306
効果が異なると考えたため	44.1
副作用の心配があるため	37.3
家族や知人・友人等のすすめがあったため	6.2
その他	7.2
わからない	24.8
無回答	7.2

4.④ 「特別の料金」によって、どのような影響や課題があったか

	割合
回答数（件）	306
患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担増になっている	36.3
患者の制度に対する理解が不十分である	28.4
医療関係者への制度に関する周知が不十分である	15.0
その他	3.3
特になし	22.5
わからない	19.6
無回答	9.2

0.調査票の記入者

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
患者本人（代筆の場合も含む）	83.6	78.7
本人以外の家族	13.1	21.2
その他	1.5	0.1
無回答	1.8	0.0

1.① 性別

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
男性	41.2	50.0
女性	57.0	50.0
無回答	1.7	0.0

1.② 年代

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
9歳以下	2.3	10.0
10歳代	1.7	10.0
20歳代	5.0	10.0
30歳代	11.8	10.0
40歳代	14.6	10.0
50歳代	20.1	10.0
60歳代	17.0	20.0
70歳代	16.2	17.1
80歳代	8.8	2.5
90歳以上	1.8	0.4
無回答	0.7	0.0

1.③ 居住地

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
北海道	4.3	4.1
青森県	0.9	0.7
岩手県	0.9	0.7
宮城県	2.0	2.7
秋田県	0.4	0.8
山形県	1.3	0.7
福島県	2.3	1.3
茨城県	2.7	1.7
栃木県	1.2	1.0
群馬県	0.9	0.8
埼玉県	4.0	5.5
千葉県	3.5	5.2
東京都	8.0	13.0
神奈川県	6.9	8.9
新潟県	1.0	1.3
富山県	0.4	0.8
石川県	0.0	1.0
福井県	0.2	0.4
山梨県	0.9	0.4
長野県	1.2	0.9
岐阜県	1.0	1.4
静岡県	3.2	2.7
愛知県	5.5	7.0
三重県	1.7	1.2
滋賀県	0.9	0.6
京都府	1.1	1.8
大阪府	7.1	7.1
兵庫県	4.9	4.3
奈良県	0.6	1.2
和歌山県	0.6	0.7
鳥取県	0.1	0.4
島根県	0.2	0.3
岡山県	1.7	1.4
広島県	2.1	2.7
山口県	2.6	0.8
徳島県	0.7	0.6
香川県	1.2	0.8
愛媛県	1.3	1.1
高知県	1.0	0.4
福岡県	6.0	5.8
佐賀県	0.0	0.5
長崎県	0.1	1.2
熊本県	0.2	1.0
大分県	0.2	0.6
宮崎県	1.0	0.6
鹿児島県	0.6	1.0
沖縄県	0.7	0.7
無回答	10.6	0.0

1.④ 持っている健康保険証の種類

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
国民健康保険（国保）	21.1	32.8
健康保険組合（健保組合）	27.1	29.1
全国健康保険協会（協会けんぽ）	29.5	19.4
共済組合（共済）	2.6	8.2
後期高齢者医療広域連合（広域連合）	14.0	6.0
生活保護	0.4	0.5
その他	-	0.3
わからない	1.0	2.5
無回答	4.5	1.2

1.⑤ 医療費の自己負担額（医療機関や薬局の窓口で支払う金額）があるか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
ある	92.9	84.5
ない	7.0	15.5
無回答	0.1	0.0

1.⑥ かかりつけ医がいるか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
いる	64.7	69.9
いない	34.9	30.1
無回答	0.4	0.0

1.⑦ 薬について相談ができる、かかりつけ薬剤師がいるか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
いる	52.3	34.5
いない	47.6	65.5
無回答	0.1	0.0

1.⑧ 病気の治療や管理のため、注射剤（抗リウマチ薬やインスリン製剤、成長ホルモン剤、骨粗鬆症治療薬など）を自身で注射しているか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
している	4.0	4.5
していない	96.0	95.5
無回答	0.0	0.0

2.① ジェネリック医薬品を知っていたか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
知っていた	96.2	93.4
名前は聞いたことがあった	3.3	5.6
知らなかった	0.5	1.1
無回答	0.0	0.0

2.② 今までにジェネリック医薬品を使用したことがあるか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
ある	98.2	91.4
ない	0.6	2.9
わからない・覚えていない	1.2	5.8
無回答	0.0	0.0

2.③ 医師からジェネリック医薬品についての説明を受けたことがあるか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
ある	36.8	63.3
ない	44.4	22.8
わからない・覚えていない	18.6	13.9
無回答	0.1	0.0

2.④ 薬剤師からジェネリック医薬品についての説明を受けたことがあるか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
ある	72.3	78.2
ない	19.5	10.6
わからない・覚えていない	8.0	11.2
無回答	0.2	0.0

2.⑤ 薬剤師にジェネリック医薬品の調剤をお願いしたことはあるか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
ある	85.3	59.1
ない	7.6	29.2
わからない・覚えていない	7.1	11.7
無回答	0.0	0.0

2.⑥ 今までに、先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬はあるか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
ある	64.5	58.3
ない	18.7	21.5
わからない・覚えていない	16.5	20.2
無回答	0.2	0.0

2.⑥ - 1 ジェネリック医薬品に変更したきっかけ

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	527	2915
かかりつけ医からの説明	10.4	24.6
かかりつけ医以外の医師からの説明	0.9	2.8
かかりつけ薬剤師からの説明	34.9	27.4
かかりつけ薬剤師以外の薬剤師からの説明	26.2	17.2
家族・知人等からのすすめ	5.5	2.2
薬剤情報提供文書を受け取って	1.3	2.2
ジェネリック医薬品希望カードを受け取って	2.7	6.3
ジェネリック医薬品軽減額通知（差額通知等）受け取って	3.6	2.0
健保組合・市町村国保等の保険者からのお知らせを受け取って	4.7	4.8
テレビCM等の広告を見て	3.8	5.0
国の広報を見て	1.3	1.1
その他	4.2	4.3
無回答	0.4	0.0

2.⑦ 薬局においていつもの薬が手に入らないなどの理由で、ジェネリック医薬品から先発医薬品や他のジェネリック医薬品に変更された薬はあるか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
先発医薬品に変更された	25.0	14.4
他のジェネリック医薬品に変更された	34.4	22.3
変更されたことはない	37.7	45.1
薬が中止された	0.2	0.2
わからない	11.6	21.5
無回答	1.0	0.0

3.① 令和6年10月から、ジェネリック医薬品のある薬で先発医薬品の処方希望する場合には特別の料金を支払うことになったが、そのことを知っていたか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
知っていた	70.3	28.9
知らなかった	29.5	71.1
無回答	0.2	0.0

3.② 令和6年10月以降、この特別の料金を支払ったか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
支払った	5.4	9.2
支払っていない	79.1	50.7
わからない	14.6	40.1
無回答	1.0	0.0

3.② - 1 特別の料金をいくら支払ったか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	44	462
500円未満	50.0	24.9
500～999円	9.1	16.0
1000～1499円	4.5	17.5
1500～1999円	0.0	6.1
2000円以上	6.8	31.0
無回答	29.5	4.5

3.② - 1 特別の料金をいくら支払ったか（円）

回答数（件）	31	445
平均値	560.6	2149.2
標準偏差	838.8	3772.2
中央値	300	1000

3.② - 2 先発医薬品（長期収載品）の処方を希望した理由

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	44	462
ジェネリック医薬品の使用に不安があるから	20.5	24.0
先発医薬品（ジェネリック医薬品がある先発医薬品）のほうが効果があると思うから	20.5	31.0
使い慣れた薬を使いたいから	40.9	35.3
自己負担が増えてもあまり気にならないから	0.0	9.7
その他	15.9	0.0
無回答	2.3	0.0

3.② - 3 特別の料金が具体的にいくらになれば、先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えようと思うか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	44	462
1円～500円	9.1	12.1
501円～1,000円	20.5	19.5
1,001円～2,000円	6.8	16.7
2,001円～3,000円	2.3	11.7
3,001円以上	11.4	10.2
特別の料金がいくらであろうと、先発医薬品を選択する	34.1	12.1
現在の特別の料金でもそのうち切り替える	2.3	3.5
わからない	11.4	14.3
無回答	2.3	0.0

3.② - 4 特別の料金を支払っていない理由

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	646	2534
先発医薬品を使用する医療上の必要があったため	4.5	8.1
医療機関又は薬局にジェネリック医薬品の在庫がなかったため	14.2	9.2
これまで先発医薬品を使用していたが特別の料金を支払いたくないのでジェネリック医薬品へ変更したため	5.6	10.3
従来からジェネリック医薬品を使用していたため	73.4	71.4
無回答	9.3	0.0

4.① ジェネリック医薬品使用に関する考えとして、最も近いもの

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
できればジェネリック医薬品を使いたい	32.2	40.8
とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい	8.9	14.8
できればジェネリック医薬品を使いたくない	8.2	9.9
ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない	46.5	26.2
わからない	3.5	8.2
無回答	0.6	0.0

4.② ジェネリック医薬品を使用するにあたって重要なこと

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
効果（効き目）が先発医薬品と同じであること	81.6	75.0
使用感（味を含む）がよいこと	23.1	13.9
副作用の不安が少ないこと	43.7	45.5
有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること	20.8	27.7
先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえること	16.0	22.0
医師のすすめがあること	11.6	18.9
薬剤師のすすめがあること	19.8	18.7
窓口で支払う薬代が安くなること	55.2	44.3
医療費が安くなり、医療保険制度の持続可能性に貢献すること	29.5	27.3
その他	0.7	0.5
特にない	2.8	8.1
無回答	0.2	0.0

4.③ 前記②の選択肢1.～10.のうち、最も重要なこと

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	794	4593
効果（効き目）が先発医薬品と同じであること	40.8	58.1
使用感（味を含む）がよいこと	1.3	1.4
副作用の不安が少ないこと	5.8	10.2
有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること	3.8	6.2
先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえること	1.1	2.4
医師のすすめがあること	1.0	2.4
薬剤師のすすめがあること	1.3	1.7
窓口で支払う薬代が安くなること	14.9	13.0
医療費が安くなり、医療保険制度の持続可能性に貢献すること	6.0	4.1
その他	0.4	0.5
無回答	23.7	0.0

5.④ 現在、以下に該当する疾患の治療のために通院しているか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
はい	20.8	15.9
いいえ	76.9	84.1
無回答	2.3	0.0

5.④ - 1 治療のために通院している疾患

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	170	797
糖尿病	48.2	38.5
骨粗鬆症	36.5	21.2
腎性貧血	1.8	2.8
成長ホルモン分泌不全性低身長症	0.6	2.7
ファブリー病	0.0	1.0
加齢黄斑変性、黄斑浮腫、脈絡膜、新生血管、糖尿病黄斑浮腫	2.9	2.9
関節リウマチ	7.1	8.1
クローン病、潰瘍性大腸炎	4.1	4.2
ペーチェット病	0.0	1.0
がん（リンパ腫）	0.0	2.1
がん（乳がん、胃がん）	7.1	5.6
がん（結腸・直腸がん、肺がん、卵巣がん）	2.4	5.3
好中球減少症	0.6	0.7
尋常性乾癬、関節性乾癬	2.4	4.0
無回答	1.8	0.0

5.② 「バイオ後続品（バイオシミラー）」という名称を知っているか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
知っていた	22.2	6.8
知らなかった	76.9	93.2
無回答	1.0	0.0

5.③ 「バイオ後続品（バイオシミラー）」を使用したことがあるか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	181	341
ある	3.3	21.4
ない	93.9	71.0
わからない	1.7	7.6
無回答	1.1	0.0

5.④ 「バイオ後続品（バイオシミラー）」を使用したいと思うか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	181	341
できればバイオ後続品を使用したい	14.9	15.5
とりあえずバイオ後続品を試してみたい	13.3	21.7
バイオ後続品かどうかにはこだわらない	30.9	29.6
できればバイオ後続品を使いたくない	11.6	12.0
わからない	23.8	21.1
無回答	5.5	0.0

5.⑤ 「バイオ後続品（バイオシミラー）」をできれば使いたくないと考える理由

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	21	41
効果に対する不安があるから	90.5	28.0
副作用に対する不安があるから	57.1	31.7
担当医師がバイオ後続品を勧めないから	0.0	3.7
バイオ後続品を作っている会社には不信感があるから	9.5	9.8
使い慣れた薬を使いたいから	4.8	15.9
バイオ後続品について説明されても理解できないから	4.8	7.3
その他	4.8	3.7
無回答	0.0	0.0

5.⑤ 本日、薬局の窓口で支払った自己負担額がどのくらい安くなれば、今後「バイオ後続品(バイオシミラー)」を使用したいと思うか

	郵送調査	インターネット調査
回答数（件）	817	5000
いくら安くなるかにかかわらず、使用したい	7.6	6.0
少しでも安くなるのであれば使用したい	38.3	28.8
本日支払った金額よりも一定額安くなるのであれば使用したい	3.2	13.7
いくら安くなっても使用したくない	7.6	4.5
わからない	38.6	46.3
その他	1.8	0.7
無回答	2.9	0.0

5.⑥ 安くなる金額の目安（円程度）

回答数（件）	18	628
平均値	1616.7	1045.7
標準偏差	1311.6	1622.9
中央値	1000	800

ID番号:

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和7年度調査)

後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査 保険薬局票

※この「保険薬局票」は、保険薬局の開設者・管理者の方に、貴薬局における後発医薬品の使用状況や考え等についてお伺いするものです。

＜ご回答方法＞

- ・あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。
- ・「※○は1つ」という質問については、あてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。
- ・（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。
- ・数値を入力する設問で、「小数点以下第1位まで」と記載されている場合は、小数点以下第2位を四捨五入してご記入ください。記載されていない場合は、整数をご記入下さい
- ・特に断りのない場合は、令和7年7月1日現在の貴薬局の状況についてお答えください。
- ・災害に被災した等の事情により回答が困難な場合には事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. 貴薬局の状況についてお伺いします（令和7年7月1日現在）。

①所在地(都道府県)	() 都・道・府・県
②開設者 ※○は1つ	1. 法人 2. 個人 3. その他
③貴薬局の所在について、あてはまるものをお選びください。 ※○は1つ	1. 特別区 2. 政令指定都市 3. 中核市 4. その他
④同一グループ(財務上又は営業上若しくは事業上、緊密な関係にある範囲の保険薬局をいう)等※1による薬局店舗数	() 店舗 ※当該店舗を含めてお答えください。

※1: 同一グループは次の基準により判断する(調剤基本料の施設基準における同一グループの考え方と同様)
1. 保険薬局の事業者の最終親会社 2. 保険薬局の事業者の最終親会社の子会社
3. 保険薬局の事業者の最終親会社の関連会社 4. 1から3までに掲げる者と保険薬局の運営に関するフランチャイズ契約を締結している者

⑤開設年 ※当該店舗の開設年をお答えください。	西暦 () 年
⑥貴薬局の処方箋の応需状況として最も近いものは、次のうちどれですか。 ※○は1つ	1. 様々な保険医療機関からの処方箋を応需している薬局 2. 主に近隣にある特定の病院の処方箋を応需している薬局 3. 主に不動産賃貸借関係のある特定の病院の処方箋を応需している薬局 4. 主に近隣にある特定の診療所の処方箋を応需している薬局 5. 主に不動産賃貸借関係のある特定の診療所の処方箋を応需している薬局 6. 主に複数の近接する特定の保険医療機関（いわゆる医療モールやビル診療所など）の処方箋を応需している薬局 7. その他（具体的に： ）
⑦応需医療機関数	() 機関 ※令和7年6月1か月間
⑧貴薬局において、処方箋の集中率が高い診療科 ※上位3つをお選び下さい	1. 内科※2 2. 外科※3 3. 精神科 4. 小児科 5. 皮膚科 6. 泌尿器科 7. 産婦人科・産科 8. 眼科 9. 耳鼻咽喉科 10. 放射線科 11. 脳神経外科 12. 整形外科 13. 麻酔科 14. 救急科 15. 歯科・歯科口腔外科 16. リハビリテーション科 17. その他（具体的に： ）

※2: 内科、腎臓内科、血液内科、リウマチ内科、糖尿病内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、感染症内科、アレルギー内科、心療内科、神経内科は、「1.内科」としてご回答ください。
※3: 外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科は、「2.外科」としてご回答ください。

⑨貴薬局の売上高に占める保険調剤売上の割合 ※令和6年度決算 ※OTC医薬品等(食品、雑貨等を含む)の販売がなく、保険調剤収入のみである場合は100%とご記入ください。 ※「保険調剤売上」には医療保険分の他、居宅療養管理指導費(介護保険)も含めてください。	約 () %
⑩調剤基本料 ※○は1つ	1. 調剤基本料 1 2. 調剤基本料 2 3. 調剤基本料 3 イ 4. 調剤基本料 3 ロ 5. 調剤基本料 3 ハ 6. 特別調剤基本料 A 7. 特別調剤基本料 B
⑩-1 全処方箋の受付回数(調剤基本料の根拠となる数字) ※令和7年6月1か月間 ※同一グループの保険薬局の場合、貴薬局単独の受付回数	() 回/月
⑩-2 主たる保険医療機関に係る処方箋の受付回数の割合 (調剤基本料の根拠となる数字)	(.) % ※小数点以下第1位まで

⑪後発医薬品調剤割合(調剤報酬算定上の数値)	⑪-1 令和7年1月～3月 3か月間	() %
	⑪-2 令和7年4月～6月 3か月間	() %
⑫カットオフ値の割合※ ⁴ (調剤報酬算定上の数値)	⑫-1 令和7年1月～3月 3か月間	() %
	⑫-2 令和7年4月～6月 3か月間	() %
⑬供給停止となっている後発医薬品等の診療報酬上の臨時的な取扱いの適用(令和7年7月1日時点)※ ⁵ ※○は1つ		1. あり 2. なし

※4: カットオフ値(%)の算出式 = (後発医薬品ありの先発医薬品 + 後発医薬品) ÷ 全医薬品。

※5: 供給が停止されていると報告された医薬品のうち、別に示す供給停止品目と同一成分・同一投与形態の医薬品については、「後発医薬品調剤体制加算」等において後発医薬品の使用(調剤)割合を算出する際に算出対象から除外しても差し支えないこととするもの。

⑭後発医薬品の調剤数量割合が著しく低い薬局の調剤基本料の減算対象に該当するか(令和7年7月1日時点) ※○は1つ	1. 該当する	
	2. 該当しない → 該当しない理由 ※○はいくつでも	
	21. 後発医薬品の調剤数量割合が50%超	
	22. 処方箋の受付回数が月600回以下	
⑮後発医薬品調剤体制加算 ※○は1つ	23. 直近1か月の処方箋受付回数の5割以上が先発医薬品変更不可	
	1. 後発医薬品調剤体制加算 1	2. 後発医薬品調剤体制加算 2
	3. 後発医薬品調剤体制加算 3	4. 届出(算定) なし
⑯地域支援体制加算 ※○は1つ	1. 地域支援体制加算 1	2. 地域支援体制加算 2 3. 地域支援体制加算 3
	4. 地域支援体制加算 4	5. 届出(算定) なし
⑰在宅薬学総合体制加算 ※○は1つ	1. 在宅薬学総合体制加算 1	2. 在宅薬学総合体制加算 2
⑱職員数 ※該当者がいない場合は「0」とご記入ください。	常勤職員※ ⁶	
	非常勤職員(常勤換算※ ⁷)	
⑱-1 薬剤師	() 人	() 人
⑱-2 その他(事務職員等)	() 人	() 人
⑲貴薬局の認定等の状況 ※○はいくつでも	1. 地域連携薬局	
	2. 専門医療機関連携薬局	
	3. 健康サポート薬局(健康増進支援薬局) ※ ⁸	4. 該当なし

※6: 常勤職員数(常勤薬剤師数)には、貴薬局における実労働時間が週32時間以上である職員(保険薬剤師)の実人数を計上します。常勤薬剤師数については、直近3月間の勤務状況に基づき算出します。

※7: 常勤換算とは、事業所の従業者の勤務延時間数を当該事業所において常勤の従業者が勤務すべき時間数で除することにより、常勤の従業者の員数に換算する方法。非常勤職員(非常勤薬剤師)は、貴薬局における実労働時間が週32時間に満たない職員(保険薬剤師)をいい、常勤換算数は、以下により算出します(小数点第二位を四捨五入して小数点第一位まで求める)。非常勤薬剤師数については、直近3か月間の勤務状況に基づき算出します。

非常勤薬剤師数(常勤換算) = $\frac{\text{当該保険薬局における週32時間に満たない保険薬剤師の実労働時間の合計(時間/3か月)}}{32(\text{時間/週}) \times 13(\text{週/3月})}$

※8: 令和7年5月成立の改正薬機法が施行されると、健康サポート薬局が健康増進支援薬局へと名称変更となります。

2. 後発医薬品に係る最近の対応状況についてお伺いします。

【全ての方にお伺いします】

①現時点での後発医薬品の供給体制についてどのように感じますか。 ※○は1つ		
1. 支障を来している	2. 影響はあるが大きな支障は無い	3. 支障は無い
②1年前(令和6年7月1日)と比較して、後発医薬品の供給体制についてどのように感じますか。 ※○は1つ		
1. 改善した	2. 変わらない	3. 悪化した
③現在(令和7年7月1日)の医薬品の調達状況についてお伺いします。 ※○はいくつでも		
1. 医薬品の発注から納品までに時間がかかる		
2. 医薬品の発注作業の回数が増えた		
3. 卸に医薬品の新規の注文を受けてもらえない(実績のある注文のみ)		
4. 卸の医薬品在庫がないため注文を受けてもらえない		
5. 卸からの医薬品の注文の取り消しが頻発している		
6. 処方薬が必要量準備できず、不足医薬品を後日患者に届ける業務が頻発している		
7. 処方薬が必要量準備できず、不足医薬品を近隣の薬局間で融通する業務が頻発している		
8. これまでの取引実績にもかかわらず、限定出荷となった医薬品が入荷しない		
9. 限定出荷等が解除された医薬品がある一方で、別の医薬品では新たに限定出荷等が発生している		
10. 特に困難な状況はない		

④供給不安定の状況への対応として実施していることについてお伺いします。※〇はいくつでも	
1. 後発医薬品を先発医薬品へ切り替える採用品目の見直しを行った	
2. 事前対応として後発医薬品を別の後発医薬品に採用品目の見直しを行った	
3. 同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、代替のための後発医薬品の調達を行った	
4. 同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、同一成分の先発医薬品の調達を行った	
5. 同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、剤形の変更等を行った	
6. 後発医薬品に関する患者の意向を把握または確認する頻度を増やした	
7. 患者からの後発医薬品使用に関する相談や苦情等の対応を行った	
8. 患者に対し医薬品の供給が不安定であるという旨の啓発を行った	
9. 後発医薬品の品質や安全性に係る情報収集を行った	
10. 後発医薬品メーカーや卸から供給に関する情報の収集を行った	
11. 地域の薬局間で医薬品の備蓄状況の共有や医薬品の融通を行った →④-1~4へ	
12. 医師と医薬品の供給・在庫の状況を踏まえた処方内容の調整を行った	
13. 卸と医薬品の供給・在庫の状況に関する情報共有を行った	
14. 医療機関と医薬品の供給・在庫の状況や使用に関する情報共有を行った	
15. 行政機関（都道府県、保健所等）と医薬品の供給情報等に関する連携を行った (具体的に：)	)
16. その他(具体的に：)	)
17. 特に困難な状況はない	

【前記④で「11. 地域の薬局間で医薬品の備蓄状況の共有や医薬品の融通を行った」と回答した方にお伺いします】

④-1 供給不安定への対策における地域の薬局間での医薬品の備蓄状況等の共有や医薬品の融通について、どのような薬局と連携していますか。※〇はいくつでも		
1. 同一法人間での連携	2. 近隣薬局との連携	
3. 地域薬剤師会・都道府県薬剤師会による薬局間の連携	4. その他(具体的に：)	
5. 実施していない		
④-2 薬局間での具体的な連携内容について、あてはまるものをお選びください。※〇はいくつでも		
1. 地域の薬局に対して、自薬局の医薬品の在庫状況を薬剤師会等が作成しているリストやシステムを通じて情報提供を行うとともに、必要に応じて、同一グループではない薬局間において医薬品の融通や分譲を行っている		
2. 自薬局の医薬品の在庫状況に関する情報提供について、他の薬局からの問い合わせなどがあつた際には、融通・分譲可能な医薬品やその量などについて情報提供し、必要な対応を行っている		
3. 現在はシステムを使用していないが、今後導入を予定している		
4. その他(具体的に：)		
④-3 他の薬局又は薬剤師会等から開示された在庫状況の活用について、あてはまるものをお選びください。※〇は1つ		
1. 活用している	2. 仕組みがあるが活用していない	3. 在庫状況が開示される仕組みがない
④-4 医薬品の融通について、あてはまるものをお選びください。※〇は1つ		
1. 融通している →頻度：年間() 回程度		
2. 融通していない		

【全ての方にお伺いします】

⑤医薬品の供給上の問題により当該医薬品が入手困難であり、やむを得ず自家製剤加算を算定した場合の適用の有無※1 ※〇は1つ	1. あり	2. なし
---	-------	-------

※1：令和6年度改定より、医薬品供給に支障が生じている際に不足している医薬品の製剤となるよう、他の医薬品を用いて調製した場合も、自家製剤加算として評価できるように改正された。

⑥特定薬剤管理指導加算3の算定の件数についてご回答ください。(令和7年6月実績)	算定件数
⑥-1 長期収載品の選定療養に関する説明を実施した場合 ※算定実績がない場合は「0(ゼロ)」を記載	() 件
⑥-2 前記⑥-1で説明したうち、実際に長期収載品から後発医薬品に変更した件数 ※算定実績がない場合は「0(ゼロ)」を記載	() 件
⑥-3 医薬品の供給上の問題により別の銘柄の医薬品に変更が必要となった患者に対する説明を実施した場合 ※算定実績がない場合は「0(ゼロ)」を記載	() 件
⑦供給不安報告制度の開始前(令和2年12月より以前)と比べ、後発医薬品の調剤割合に変化はありましたか。※〇は1つ	
1. 後発医薬品の調剤割合がかなり減った →⑧へ	2. 後発医薬品の調剤割合がやや減った →⑧へ
3. 後発医薬品の調剤割合の変化はほとんどなかった	4. 後発医薬品の調剤割合が増えた
5. 分からない	

【⑧は前記⑦で「1. 後発医薬品の調剤割合がかなり減った」又は「2. 後発医薬品の調剤割合がやや減った」と回答した方にお伺いします。】

⑧後発医薬品の調剤割合が減った理由は何ですか。※最も影響が大きい項目を1つ選んで〇	
1. 後発医薬品を調剤できる処方箋が減った	2. 患者(家族含む)が先発医薬品を希望した
3. 後発医薬品の在庫が無い、あるいは入庫(入手)できないのでやむをえず先発医薬品を調剤した	
4. その他(具体的に：)	)

3. 後発医薬品の使用促進に関して伺います。

<用語の定義>

- 「長期収載品」：「長期収載品の選定療養の対象医薬品リスト」に掲載されている医薬品
「先発医薬品」：「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」における「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」欄が、1（後発医薬品がない先発医薬品（後発医薬品の上市前の先発医薬品等））、2（後発医薬品がある先発医薬品）、☆（2のうち後発医薬品と同額又は薬価が低いもの）の医薬品
「後発医薬品」：「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」における「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」欄が、3（後発医薬品）、★（3のうち先発医薬品と同額又は薬価が高いもの）の医薬品

長期収載品の選定療養制度を導入したことによる影響について伺います。

令和6年10月1日から、後発医薬品のある先発医薬品を処方する際には患者が特別の料金を支払うことになりました。また、対象となる先発医薬品を処方する場合には、処方箋に医療上の必要によるものか、患者の希望かを明記することとなりました。この制度を「長期収載品の選定療養」と呼びます。
※詳細は厚生労働省ホームページをご参照ください：https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_39830.html

①特別の料金を支払っても、長期収載品の調剤を希望する患者の有無 ※○は1つ			
1. よくいる	2. 時々いる	3. まれにいる	4. いない
②長期収載品の銘柄名処方に変更不可の処方について、1年前と比較してどう変化しましたか。 ※○は1つ			
1. 減った	2. 変わらない	3. 増えた	
②-1 前記②の長期収載品の銘柄名処方のうち、処方箋に「患者の希望」が明記されていた品目数 ※○は1つ			
1. 減った	2. 変わらない	3. 増えた	
②-2 前記②の長期収載品の銘柄名処方のうち、処方箋に「患者の希望」が明記されていないが、患者が長期収載品の調剤を希望した品目数 ※○は1つ			
1. 減った	2. 変わらない	3. 増えた	
②-3 前記②のうち、処方箋に「変更不可(医療上必要)」が指示されていた品目数 ※○は1つ			
1. 減った	2. 変わらない	3. 増えた	
③長期収載品の選定療養制度を導入したことによって、どのような影響や課題がありましたか。 ※○はいくつでも			
1. 患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい			
2. 患者の制度に対する理解が不十分である			
3. 薬価改定に伴い、これまで選定療養の対象であった長期収載品が対象外となった際に、患者への説明等に苦慮したことがある			
4. 薬価改定に伴い、対象品目が変わってしまう			
5. 医療関係者への制度に関する周知が不十分である			
6. 制度そのものがわかりづらい			
7. 特別の料金の計算がわかりづらい			
8. レセコンなどシステム改修が不十分である			
9. 後発医薬品を選択する患者が増えた			
10. 患者からのクレーム対応に苦慮したことがある			
11. その他（具体的に：_____）			
12. わからない			

調剤用医薬品の備蓄状況について、伺います。

※令和7年7月1日または把握可能な直近月の初日時点についてご記入ください。

※正確な数がわからない場合は、概数でご記入ください。

※規格単位が異なる場合は、別品目として数えてください。

④調剤用医薬品備蓄品目数(全医薬品)	約（ ）品目
④-1 前記④のうち、先発医薬品	約（ ）品目
④-2 前記④のうち、後発医薬品	約（ ）品目

1年前と比較した備蓄品目数の変化について伺います。

⑤発医薬品の備蓄品目数は増えましたか。 ※○は1つ	1. 増えた 2. 変わらない 3. 減った
⑥後発医薬品の備蓄品目数は増えましたか。 ※○は1つ	1. 増えた 2. 変わらない 3. 減った

4. 一般名処方の状況等についてお伺いします。

①1年前(令和6年7月1日)と比較して一般名処方の件数に変化はありましたか。※○は1つ		1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った
②一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の件数※ ¹ (令和7年6月1日～14日実績)				
②-1 患者の意向	②-2 保険薬局の備蓄	②-3 後発医薬品なし	②-4 その他	
() 件	() 件	() 件	() 件	
③1年前と比較して一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由に変化はありましたか。※○はそれぞれ1つ				
③-1 患者の意向	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った	
③-2 医薬品の備蓄品目数	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った	
③-3 後発医薬品なし	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った	
④供給不安報告制度の開始前(令和2年12月より以前)と比較して一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由に変化はありましたか。※○はそれぞれ1つ				
④-1 患者の意向	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った	
④-2 医薬品の備蓄品目数	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った	
④-3 後発医薬品なし	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った	

※1:本項目は、区分10の3の2(3)カに規定する、一般名処方が行われた医薬品については、原則として後発医薬品を調剤することとするが、患者に対し後発医薬品の有効性、安全性や品質について適切に説明した上で、後発医薬品を調剤しなかった場合は、その理由を調剤報酬明細書の摘要欄に記載することとしているところの件数。

5. 貴薬局におけるバイオ後続品の備蓄状況及び対応状況等についてお伺いします。

※バイオ後続品とは、国内で既に新有効成分含有医薬品として承認されたバイオテクノロジー応用医薬品（以下「先行バイオ医薬品」という。）と同等／同質の品質、安全性、有効性を有する医薬品として、異なる製造販売業者により開発される医薬品。本調査における「バイオ後続品」には、後発医薬品として承認されたバイオ医薬品（いわゆるバイオAG、先行品工場で製造された先行品と同一のバイオ医薬品）を含む。

表1 国内でバイオ後続品が承認されている先行バイオ医薬品のうち在宅自己注射可能なもの

先行バイオ医薬品の一般的名称	先行バイオ医薬品 販売名
ソマトロピン	ジェントロピン
フィルグラスチム	グラン
インスリン グラルギン	ランタス
エタネルセプト	エンブレル
テリパラチド	フォルテオ
インスリン リスプロ	ヒューマログ
インスリン アスパルト	ノボラピッド
アダリムマブ	ヒュミラ

①バイオ後続品について現在取扱いがありますか。※○は1つ	1. ある →②へ	2. ない →⑧へ
【②～⑦は、前記①で「1. ある」と回答した方にお伺いします】		
②バイオ後続品の備蓄状況から不安定供給を感じたことはありますか。※○は1つ	1. ある →③へ	2. ない →④へ
【③は前記②で「1. ある」と回答した方にお伺いします】		
③バイオ後続品のうち、不安定供給を感じた製品は何ですか。※○はいくつでも		
1. ソマトロピン	2. フィルグラスチム	3. インスリン グラルギン
4. エタネルセプト	5. テリパラチド	6. インスリン リスプロ
7. インスリン アスパルト	8. アダリムマブ	9. 特定の医薬品はない

④バイオ医薬品(表1に示す先行バイオ医薬品及びそのバイオ後続品)のうち、貴薬局が備蓄している医薬品、及び令和7年6月1か月間で調剤した医薬品は何ですか。※あてはまる項目すべてに○

選択肢	備蓄している医薬品		調剤した医薬品(令和7年6月1か月間)	
	先行バイオ医薬品	バイオ後続品	先行バイオ医薬品	バイオ後続品
1. ソマトロピン	1	1	1	1
2. フィルグラスチム	2	2	2	2
3. インスリン グラルギン	3	3	3	3
4. エタネルセプト	4	4	4	4
5. テリパラチド	5	5	5	5
6. インスリン リスプロ	6	6	6	6
7. インスリン アスパルト	7	7	7	7
8. アダリムマブ	8	8	8	8
9. 備蓄及び調剤した 医薬品はない	9	9	9	9
⑤備蓄/調剤品目数 ※上記で○付けたものの合計数	() 品目	() 品目	() 品目	() 品目

【1年前と比較した備蓄品目数の変化についてお伺いします】

⑥先行バイオ医薬品の備蓄品目数は増えましたか。※○は1つ	1. 増えた 3. 減った	2. 変わらない 4. 備蓄していない
⑦バイオ後続品の備蓄品目数は増えましたか。 ※○は1つ	1. 増えた 3. 減った	2. 変わらない 4. 備蓄していない

【全ての方にお伺いします】

⑧バイオ後続品の使用促進に関する説明について、最も近いものはどれですか。 ※○は1つ

1. 全般的に、積極的にバイオ後続品の説明や情報提供を行っている →⑪へ
2. 患者によって、バイオ後続品の説明や情報提供を行っている →⑪へ
3. 新規でバイオ医薬品が処方された患者に、バイオ後続品の説明や情報提供を行っている →⑪へ
4. バイオ後続品の説明や情報提供に積極的には取り組んでいない →⑨へ

【⑨～⑩は前記⑧で「4. バイオ後続品の説明や情報提供に積極的には取り組んでいない」と回答した方にお伺いします】

⑨バイオ後続品の使用促進における課題等について回答ください。 ※○はいくつでも

1. バイオ後続品の品質や有効性、安全性に疑問がある
2. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品の違いが分からない
3. バイオ後続品は、先行バイオ医薬品と同等/同質の品質・安全性・有効性を有するが同一ではないこと
4. バイオ後続品の安定供給に不安
5. バイオ後続品に関する情報提供の不足
→不足している情報(具体的に:)
6. 患者への普及啓発の不足
7. バイオ後続品の説明に時間がかかること
8. 患者が先行バイオ医薬品を希望すること(自己注射)
9. 患者の費用負担が変わらないこと
10. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品では適応症が異なること
11. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品のデバイスのタイプが異なること
12. 在庫管理の負担が大きいこと
13. 経営者(会社)の理解が得られないこと
14. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品の両方を備蓄すること
15. バイオ後続品の調剤対象となる患者がいない
16. その他(具体的に:)

⑩前記⑨の選択肢 1. ～16. のうち、最もあてはまる番号を1つだけお書きください。

【全ての方にお伺いします】

⑪今後、どのような対応が進めば、バイオ後続品の使用が推進すると思いますか。 ※〇はいくつでも	
1. 調剤報酬を含む経営的メリットがあること	2. 患者負担の軽減がより明確になること
3. 医師、薬剤師への国からのバイオ後続品に関する情報の周知	4. 国からの国民への啓発と患者の理解
5. バイオ後続品企業から医師、薬剤師への情報提供	6. バイオ後続品の安定供給
7. バイオ後続品の在庫負担の軽減	8. バイオ後続品の品目数の増加
9. 先行バイオ医薬品からバイオ後続品に切り替えを含む臨床試験データの充実やガイドライン等の整備	
10. 卸売業者への返品が可能になること	
11. 一社流通品目における安定供給の確保	
12. その他（具体的に： _____）	
13. バイオ後続品の使用推進の必要はない →⑬へ	
⑫前記⑪の選択肢 1. ～12. のうち、最もあてはまる番号を1つだけお書きください。	
⑬患者からバイオ後続品に関する相談を受けたことはありますか。 ※〇は1つ	
1. ある →⑭へ	2. ない →設問6へ

【⑭～⑯は前記⑬で「1. ある」と回答した場合にお伺いします】

⑭患者からバイオ後続品に関するどのような相談を受けましたか。 ※〇はいくつでも		
1. バイオ後続品そのものに関する相談（患者がバイオ後続品を知らない場合など）		
2. バイオ後続品の品質・有効性及び安全性に関する相談		
3. バイオ医薬品全般に関する相談（患者がバイオ医薬品を知らない場合など）		
4. 先行バイオ医薬品とデバイスが異なる場合の使用方法に関する相談		
5. 患者負担に関する相談		
6. その他（具体的に： _____）		
⑮前記⑭の選択肢 1. ～6. のうち、最もあてはまる番号を1つだけお書きください。		
⑯前記⑭の選択肢3.を選択された方で、相談を受けた患者が使用していたバイオ医薬品は何ですか。 ※〇はいくつでも		
1. ソマトロピン	2. フィルグラスチム	3. インスリン グラルギン
4. エタネルセプト	5. テリパラチド	6. インスリン リスプロ
7. インスリン アスパルト	8. アダリムマブ	9. バイオ医薬品未使用の患者

6. 高額医薬品や希少疾病医薬品の備蓄・調剤状況についてお伺いします。

①薬局として医薬品を提供する際に、いくらからが「高額医薬品」と感じますか。		薬価 () 円 一日薬価 () 円
②調剤用医薬品の廃棄額(薬価ベース)について、お伺いします。 ※金額を記入する設問では、千円未満は切り捨て(例: 10万4400円⇒104,000円)		
②-1 全医薬品 ※令和7年度(令和7年4月～6月の合計値)		約 () 円
②-2 うち、後発医薬品 ※令和7年度(令和7年4月～6月の合計値)		約 () 円
③廃棄した医薬品のうち、廃棄金額が最も多かった医薬品(製品)は何ですか。		製品名 ()
③-1 ③について、廃棄額(薬価ベース)を記載してください。 ※令和7年度(令和7年4月～6月の合計値)		約 () 円
④廃棄を減らすために行っている工夫や取組について、あてはまるものをすべてお選びください。 ※〇はいくつでも		
1. 同一グループ（調剤基本料のグループ）で分譲・融通を行っている		
2. 地域の同一グループ以外の薬局間で分譲・融通を行っている		
3. 医薬品の発注単位を見直している		
4. 医薬品の使用頻度や期限を踏まえた在庫管理を強化している		
5. 医療機関と連携し、処方傾向に応じた在庫調整を行っている		
6. 廃棄リスクの高い医薬品の採用を見直している		
7. 特に工夫していることはない		
8. その他（具体的に： _____）		
⑤希少疾病用医薬品備蓄品目数 ※令和7年7月1日または把握可能な直近月の初日時点についてご記入ください。 ※正確な数がわからない場合は、概数でご記入ください。 ※規格単位が異なる場合は、別品目として数えてください。		約 () 品目

※希少疾病用医薬品は、医薬品医療機器法第77条の2に基づき、対象患者数が本邦において5万人未満であること、医療上特にその必要性が高いもののなどの条件に合致するものとして、薬事審議会の意見を聴いて厚生労働大臣が指定するものです。

7. 令和6年3月以降における医療用医薬品の流通改善に向けて流通関係者が遵守すべきガイドライン（以下「流通改善ガイドライン」という。）の遵守状況についてお伺いします。

①流通改善ガイドラインをご存知ですか。※○は1つ	1. 知っている	2. 知らない
②卸売業者との単品単価契約に関して、あてはまるものをお選びください。※○はいくつでも		
1. 卸売業者と原則として全ての品目について単品単価交渉を行い、単品ごとの価格を明示した覚書を利用する等により契約を締結している		
2. 卸売業者と価格交渉の段階から個々の医薬品の価値を踏まえた単品単価交渉を行い、前年度より単品単価交渉の範囲を拡大している		
3. 基礎的医薬品、安定確保医薬品（カテゴリーA）、不採算品再算定品、血液製剤、麻薬、覚醒剤及び覚醒剤原料については、価格交渉の段階から別枠とし、卸売業者と個々の医薬品の価値を踏まえた単品単価交渉を行っている		
4. 新薬創出等加算品等についても、引き続き単品単価交渉を行っている		
5. いずれもしていない		
③過大な値引き交渉及び不当廉売に関して、あてはまるものをお選びください。※○はいくつでも		
1. 取引条件等を考慮せずにベンチマークを用いての一方的な値引き交渉は行っていない		
2. 取引品目等の相違を無視して同一の総値引率を用いた交渉は行っていない		
3. 取引条件等を考慮せずに同一の納入単価での取引を求める交渉は行っていない		
4. 価格交渉を代行する者に価格交渉を依頼する場合、価格交渉を代行する者が1.～3.に記載した交渉を行うことがないよう流通改善ガイドラインを遵守させている		
5. いずれもしていない		
④頻繁な価格交渉の改善に関して、あてはまるものをお選びください。※○は1つ		
1. これまで、期中で薬価改定（再算定等）があるなど医薬品の価値に変動がある場合を除き、年度内に卸売業者と妥結価格の変更を行ったことはない		
2. 年度内に卸売業者と妥結価格の変更を行ったことがある		
⑤医薬品の返品に関して、返品の取扱いに関する「医療用医薬品の流通の改善に関する懇談会」の提言（平成18年）を遵守していますか。※○は1つ		
1. 遵守している		2. 遵守していない
⑥以下のうち、返品したことがある医薬品は何ですか。※○はいくつでも		
1. 厳格な温度管理を要する医薬品		2. 有効期限を経過した医薬品
3. 開封された医薬品		4. 汚損、破損した医薬品
5. 卸売業者と保険医療機関・保険薬局等との契約により「返品不能」と指定されている医薬品		
6. その他、価値、安全性等が棄損されている又はそのおそれがあると合理的に認められる医薬品		
7. 在庫調整を目的とした医薬品		8. 1.～7.の中で返品したことがある医薬品はない
⑦公正な競争の確保と法令の遵守に関して、あてはまるものをお選びください。※○はいくつでも		
1. 独占禁止法をはじめ、不当景品類及び不当表示防止法（昭和37年法律第134号）に基づく「医療用医薬品製造販売業における景品類の提供の制限に関する公正競争規約」及び「医療用医薬品卸売業における景品類の提供の制限に関する公正競争規約」などの関係法令等を遵守している		
2. 企業又は団体等が主催する研修を定期的に受講すること等により、その実効性の担保に努めている		
3. いずれもしていない		
⑧カテゴリーごとの流通のあり方に関して、あてはまるものをお選びください。※○は1つ		
1. 特別な管理が必要な医薬品、長期収載品、後発医薬品など、カテゴリーごとの特徴を踏まえた、流通改善の取組を進めている		
2. 上記取組はしていない		
⑨流通の効率化と安全性・安定供給の確保に関して、あてはまるものをお選びください。 ※○はいくつでも		
1. 流通の効率化と安定供給の確保のため、常に適正な在庫量を維持している		
2. 高額な医薬品の増加などに伴い、偽造品の混入を防止するため、流通関係者間で取組を進めている		
3. サプライチェーンの安定性確保のため、過剰な在庫確保や不必要な急配を控えるとともに、実際に供給不安が生じた際には、安定供給の確保のための取組を行っている、又は行う予定である		
4. 安定確保医薬品については、医療上の重要性に鑑み、特に安定供給の確保に配慮している		
5. 医薬品の供給量が不足している状況において、必要な患者に必要な医薬品が行き渡るよう、過剰な発注は控え、当面の必要量に見合う量のみを購入を行っている、又は行う予定である		
6. 医薬品の供給量が不足している状況において、自らの店舗で不足している医薬品について、系列店舗や地域における連携により、可能な限り不足している医薬品の調整に努めている、又はその予定である		
7. 医療安全の観点からGS1 識別コードを活用している		
8. いずれもしていない		

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。
 お手数をおかけいたしますが、令和7年8月29日（金）までに専用の返信用封筒（切手不要）に封入し、お近くのポストに投函してください。

ID番号:

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和7年度調査)
後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査
病院票

※この病院票は、病院の開設者・管理者の方に、貴施設における後発医薬品の採用状況や長期収載品の選定療養費に関するお考えについてお伺いするものですが、開設者・管理者が指名する方にご回答いただいても結構です。
※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
※特に断りのない場合は、令和7年7月1日現在の状況についてご記入ください。
※数値を入力する設問で、「小数点以下第1位まで」と記載されている場合は、小数点以下第2位を四捨五入してご記入ください。記載されていない場合は、整数をご記入ください。
※災害に被災した等の事情により回答が困難な場合には、事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. 貴施設の状況についてお伺いします(令和7年7月1日現在)。

①所在地	() 都・道・府・県
②開設者※1 ※○は1つ	1. 国 2. 公立 3. 公的 4. 社会保険関係団体 5. 医療法人 6. その他の法人 7. 個人

※1: 国立(国、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康安全機構、国立高度専門医療研究センター、独立行政法人地域医療機能推進機構)
公立(都道府県、市町村、地方独立行政法人)
公的(日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会)
社会保険関係(健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合)
医療法人(社会医療法人は含まない)
その他の法人(公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人、特定医療法人等、その他の法人)

③開設年	西暦() 年
④標榜診療科 ※○はいくつでも	1. 内科 →④-1へ 2. 外科 →④-2へ 3. 精神科 4. 小児科 5. 皮膚科 6. 泌尿器科 7. 産婦人科・産科 8. 眼科 9. 耳鼻咽喉科 10. 放射線科 11. 脳神経外科 12. 整形外科 13. 麻酔科 14. 救急科 15. 歯科・歯科口腔外科 16. リハビリテーション科 17. その他(具体的に:)

【前記④で「1. 内科」と回答した方にお伺いします】

④-1 内科の詳細 ※○はいくつでも			
1. 腎臓内科	2. 血液内科	3. リウマチ内科	4. 糖尿病内科
5. 消化器内科	6. 呼吸器内科	7. 循環器内科	8. 1.～7.に該当なし

【前記④で「2. 外科」と回答した方にお伺いします】

④-2 外科の詳細 ※○はいくつでも			
1. 呼吸器外科	2. 心臓血管外科	3. 乳腺外科	4. 気管食道外科
5. 消化器外科	6. 肛門外科	7. 小児外科	8. 1.～7.に該当なし

【全ての方にお伺いします】

⑤オーダリングシステムの導入状況 ※○はいくつでも	1. 一般名処方に対応できるオーダリングシステムを導入している 2. 後発医薬品名が表示されるオーダリングシステムを導入している 3. バイオ後続品※2が表示されるオーダリングシステムを導入している 4. オーダリングシステムを導入している(上記 1.～3.の機能はない) 5. オーダリングシステムを導入していない
⑥外来の院内・院外処方の割合	院内処方() % + 院外処方() % = 100% ※3

※2: バイオ後続品とは、国内で既に新有効成分含有医薬品として承認されたバイオテクノロジー応用医薬品(以下「先行バイオ医薬品」という。)と同等／同質の品質、安全性、有効性を有する医薬品として、異なる製造販売業者により開発される医薬品です。
本調査における「バイオ後続品」には、後発医薬品として承認されたバイオ医薬品(いわゆるバイオAG、先行品工場で製造された先行品と同一のバイオ医薬品)を含みます。
※3: 算定回数ベースにて整数でご記入ください。正確な数がわからない場合は概数でご記入ください。
例えば、院内投薬のみの場合は、院内処方に「100」を、院外処方に「0」をご記入ください。また、院外処方だけの場合は、「院内処方」に「0」を、「院外処方」に「100」をご記入ください。

⑦特定入院料の状況 ※貴施設で算定している もの全てに○	1. 回復期リハビリテーション病棟入院料	2. 地域包括ケア病棟入院料
	3. 地域包括医療病棟入院料	4. 救命救急入院料
	5. 特定集中治療室管理料	6. 小児入院医療管理料
	7. その他、投薬・注射に係る薬剤料が包括されている特定入院料（精神科救急入院料等）	
	8. いずれも算定していない	
⑧許可病床数※4	1) 一般病床 () 床	2) 療養病床 () 床
	3) 精神病床 () 床	4) 結核病床 () 床
	5) 感染症病床 () 床	6) 合 計 () 床

※4: 回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟等の病床数は、医療法上の一般病床又は療養病床に分類されます。そのため、病床数を記入する際は、それぞれの記入欄に、これらの病床数も含めてご記入ください。

	1)常勤のみ ※ゼロの場合は「0」とご記入ください。	2)常勤換算※5
⑨-1 医師数	() 人	() 人
⑨-2 薬剤師数	() 人	() 人
⑩外来患者延数 ※令和7年6月1か月間	() 人	
⑪在院患者延数 ※令和7年6月1か月間	() 人	

※5: 常勤換算とは、事業所の従業者の勤務延時間数を当該事業所において常勤の従業者が勤務すべき時間数で除することにより、常勤の従業者の員数に換算する方法。非常勤職員(非常勤医師等)は、貴薬局における実労働時間が週32時間に満たない職員(医師等)をいい、常勤換算数は、以下により算出します(小数点第二位を四捨五入して小数点第一位まで求める)。非常勤医師等数については、届出前3か月間の勤務状況に基づき算出します。

非常勤医師等数（常勤換算）＝
$$\frac{\text{当該病院における週32時間に満たない医師等の実労働時間の合計（時間/3か月）}}{32（時間/週） \times 13（週/3月）}$$

調剤用医薬品の備蓄状況について、お伺いします。
※令和7年7月1日または把握可能な直近月の初日時点についてご記入ください。
※正確な数がわからない場合は、概数でご記入ください。 ※規格単位が異なる場合は、別品目として数えてください。

⑫調剤用医薬品備蓄品目数 ※内服薬等、内訳の記入が難しい場合は、4)合計品目数のみ記入してください。		
	全医薬品	うち、後発医薬品
⑫-1 内服薬	約 () 品目	約 () 品目
⑫-2 外用薬	約 () 品目	約 () 品目
⑫-3 注射薬	約 () 品目	約 () 品目
⑫-4 合計	★約 () 品目	約 () 品目
⑬前記⑫(★欄)のうち、先行バイオ医薬品		約 () 品目
⑭前記⑫(★欄)のうち、バイオ後続品		約 () 品目

【2. はすべての施設の方にお伺いします】

2. 後発医薬品に係る貴施設での最近の対応状況についてお伺いします。

①1年前(令和6年7月1日)と比較して後発医薬品に係る対応において業務量は増えましたか。 ※○は1つ	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った		
②1年前(令和6年7月1日)と比較して、後発医薬品の供給体制についてどのように感じますか。 ※○は1つ					
1. 改善した				2. 変わらない	3. 悪化した
③現在(令和7年7月1日)の医薬品の調達状況についてお伺いします。 ※○はいくつでも					
1. 医薬品の納品までに時間がかかる				2. 医薬品の発注作業の回数が増えた	
3. 卸に医薬品の注文を受け付けてもらえない				4. 卸からの医薬品の注文の取り消しが頻発している	
5. 特に困難な状況はない					
6. その他（具体的に：)					
④医薬品の不安定な供給状況によって生じている影響についてお伺いします。 ※○はいくつでも					
1. 後発医薬品を先発医薬品に採用品目の見直しを行っている					
2. 後発医薬品を別の後発医薬品に採用品目の見直しを行っている					
3. 同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、代替のための後発医薬品の調達を行っている					
4. 同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、同一成分の先発医薬品の調達を行っている					
5. 同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、剤形の変更等を行っている					
6. 患者からの後発医薬品使用に関する相談や苦情等の対応を行っている					
7. 後発医薬品の品質や安全性に係る情報収集を行っている					
8. 後発医薬品メーカーや卸から供給に関する情報の収集を行っている					
9. 処方可能な医薬品のリストを作成し、日々更新している					
10. オーダリングシステムの医薬品マスタにおいて処方可否の設定を日々更新している					
11. その他（具体的に：)					
12. 特になし →⑥へ					
⑤前記④の選択肢 1.～11.のうち、最もあてはまるものの番号を1つお書きください。				()	

⑥現在(令和7年7月1日)において、後発医薬品の処方割合に変化はありましたか。※○は1つ		
1. 後発医薬品の処方割合がかなり減った	2. 後発医薬品の処方割合がやや減った	
3. 後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった	4. 後発医薬品の処方割合が増えた	
5. わからない		
⑦出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 ※令和7年6月1か月間	⑦-1 先発医薬品	() 品目
	⑦-2 後発医薬品	() 品目
⑧供給停止となっている後発医薬品等の診療報酬上の臨時的な取扱いの適用※1 (令和7年7月1日時点) ※○は1つ		1. あり 2. なし

※1: 供給が停止されていると報告された医薬品のうち、別に示す供給停止品目と同一成分・同一投与形態の医薬品については、「後発医薬品調剤体制加算」等において後発医薬品の使用(調剤)割合を算出する際に算出対象から除外しても差し支えないこととするもの。

⑨後発医薬品使用体制加算 の算定状況 ※○は1つ	1. 算定していない	2. 後発医薬品使用体制加算1
	3. 後発医薬品使用体制加算2	4. 後発医薬品使用体制加算3

【全ての方にお伺いします】

⑩後発医薬品使用割合<新指標、数量ベース> ※令和7年6月 ※小数点以下第1位まで	約 () %
⑪カットオフ値※2の割合(調剤報酬算定上の数値) ※令和7年6月 ※小数点以下第1位まで	約 () %

※2: カットオフ値(%)の算出式 = (後発医薬品ありの先発医薬品 + 後発医薬品) ÷ 全医薬品

⑫現在、一般名処方による処方箋を発行していますか。 ※○は1つ	1. あり→⑭へ 2. なし→⑬へ
---------------------------------	------------------------

【前記⑫で「2. なし」(一般名処方による処方箋の発行なし)と回答した方にお伺いします】

⑬一般名処方による処方箋を発行していない理由は何ですか。 ※○はいくつでも	
1. オーダリングシステムや電子カルテが未導入であるため	2. 現在のシステムが一般名処方に対応していないため
3. 処方箋が手書きのため	4. 一般名では分かりにくく、医療従事者が混乱するため
5. 一般名では分かりにくく、患者が混乱するため	6. 手間が増えるため
7. 保険薬局がメーカーを選択できることに疑問や不安があるため	
8. その他(具体的に:)	
9. 特に理由はない	

【全ての方にお伺いします】

⑭貴施設で実施している医薬品の安定供給に関連する取組は何ですか。 ※○はいくつでも		
1. 先発医薬品へ切り替えた	2. クリニカルパスの見直しを行った	3. レジメンの見直しを行った
4. その他(具体的に:)		
5. 特になし		
⑮今後、どのような対応がなされれば、後発医薬品の使用を進めてもよいと思いますか。 ※○はいくつでも		
1. 厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底		
2. 後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること		
3. 後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保		
4. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保		
5. 後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合		
6. 後発医薬品の在庫管理の負担軽減		
7. 先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダリングシステムの導入		
8. 後発医薬品に対する患者の理解		
9. 後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価		
10. 後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価		
11. 後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置		
12. 後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示		
13. 調剤に関する保険薬局との連携		
14. 患者負担が軽減されること		
15. その他(具体的に:)		
16. 特に対応は必要ない →⑮へ		
⑯前記⑮の選択肢 1. ~15. のうち、最もあてはまるものの番号を1つだけお書きください。		()
⑰後発医薬品の使用促進について、国や地方自治体、製薬会社、医療関係者、国民においてどのような取組を行うことが効果的と考えますか。ご意見を自由にお書きください。		

3. バイオ後続品の使用に関するお考えについてお伺いします。

※バイオ後続品とは、国内で既に新有効成分含有医薬品として承認されたバイオテクノロジー応用医薬品（以下「先行バイオ医薬品」という。）と同等／同質の品質、安全性、有効性を有する医薬品として、異なる製造販売業者により開発される医薬品です。

本調査における「バイオ後続品」には、後発医薬品として承認されたバイオ医薬品（いわゆるバイオAG、先行品工場で製造された先行品と同一のバイオ医薬品）を含みます。

国内でバイオ後続品が承認されている先行バイオ医薬品

先行バイオ医薬品の一般的名称※1	先行バイオ医薬品 販売名	先行バイオ医薬品の一般的名称	先行バイオ医薬品 販売名
ソマトロピン	ジェノトロピン	ダルベポエチン アルファ※2	ネスプ
エポエチン アルファ	エスポー	テリパラチド	フォルテオ
フィルグラスチム	グラン	インスリン リスプロ	ヒューマログ
インフリキシマブ	レミケード	アダリムマブ	ヒュミラ
インスリン グラルギン	ランタス	インスリン アスパルト	ノボラピッド
リツキシマブ	リツキサン	ラニビズマブ	ルセンティス
トラスツズマブ	ハーセプチン	ベグフィルグラスチム	ジーラスタ
エタネルセプト	エンブレル	ウステキヌマブ	ステラール
アガルシダーゼ ベータ	ファブラザイム	アフリベルセプト	アイリーア
ベバシズマブ	アバステン		

※1：（遺伝子組換え）を省略して記載

※2：バイオ後続品と後発バイオ医薬品のそれぞれが承認されている

《バイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）について》

①バイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）を処方）していますか。 ※○は1つ	1. 処方あり →②へ 2. 処方なし →⑤へ
--	----------------------------

【②～④は前記①で「1. 処方あり」と回答した方にお伺いします】

②院内処方（入院または院内の外来）の有無 ※○は1つ		1. あり	2. なし
③院外処方の有無 ※○は1つ		1. あり	2. なし
④在庫のあるバイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）についてご回答ください。※あてはまる番号すべてに○			
1. インスリン製剤	2. ヒト成長ホルモン剤	3. エタネルセプト製剤	4. テリパラチド製剤
5. リツキシマブ製剤	6. トラスツズマブ製剤	7. ベバシズマブ製剤	8. インフリキシマブ製剤
9. アダリムマブ製剤	10. ラニビズマブ製剤	11. アガルシダーゼ ベータ製剤	12. ペグフィルグラスチム製剤
13. ウステキヌマブ製剤	14. アフリベルセプト製剤	15. バイオ医薬品の在庫なし	

《バイオ後続品について》

【全ての方にお伺いします】

⑤貴施設におけるバイオ後続品の使用に関する考え方について最も近いものはどれですか。 ※○は1つ
1. バイオ後続品が発売されているものは、積極的に処方（使用）する
2. 品質や有効性、安全性に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方（使用）する
3. 安定供給に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方（使用）する
4. 品目によってはバイオ後続品を積極的に処方（使用）する
5. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が同じ場合は積極的に処方（使用）する
6. いわゆるバイオAG※3であれば積極的に使用する
7. バイオ後続品を積極的には処方（使用）していない
8. バイオ医薬品（先行バイオ医薬品、バイオ後続品）の対象となる患者がいない
9. その他（具体的に：_____）

※3：後発医薬品として承認されたバイオ医薬品（先行品工場で製造された先行品と同一のバイオ医薬品）を指します。

【⑥～⑦は前記①で「1. 処方あり」(バイオ医薬品(先行バイオ医薬品・バイオ後続品)処方あり)と回答した方にお伺いします】

⑥バイオ後続品の院内処方(入院または院内の外来)の有無 ※○は1つ	1. あり	2. なし
⑦バイオ後続品の院外処方の有無 ※○は1つ	1. あり	2. なし

【⑧～⑬は前記⑥⑦のいずれかで「1. あり」(院内・院外いずれかでバイオ後続品処方あり)と回答した方にお伺いします】

※いずれも「2. なし」と回答した方は⑰へ

⑧令和6年度診療報酬改定でバイオ後続品使用体制加算が新設されたことで、貴施設におけるバイオ後続品の使用件数が増えましたか。※○は1つ		
1. はい	2. いいえ	3. わからない

⑧-1 令和7年6月1か月間の入院処方におけるバイオ後続品の処方件数について対象医薬品ごとにご回答ください。

	入院処方件数	
	処方総件数	うち、バイオ後続品の件数
A. エポエチン	() 件	() 件
B. リツキシマブ	() 件	() 件
C. トラスツズマブ	() 件	() 件
D. テリパラチド	() 件	() 件
E. ソマトロピン	() 件	() 件
F. インフリキシマブ	() 件	() 件
G. エタネルセプト	() 件	() 件
H. アガルシダーゼベータ	() 件	() 件
I. ベバシズマブ	() 件	() 件
J. インスリンリスプロ	() 件	() 件
K. インスリンアスパルト	() 件	() 件
L. アダリムマブ	() 件	() 件
M. ラニビズマブ	() 件	() 件
N. ペグフィルグラスチム	() 件	() 件
O. ウステキヌマブ	() 件	() 件
P. アフリベルセプト	() 件	() 件

⑧-2 令和7年6月1か月間の外来で実施する処方におけるバイオ後続品の処方件数について対象医薬品ごとにご回答ください。

	外来処方件数	
	処方総件数	うち、バイオ後続品の件数
A. エポエチン	() 件	() 件
B. リツキシマブ	() 件	() 件
C. トラスツズマブ	() 件	() 件
D. テリパラチド	() 件	() 件
E. ソマトロピン	() 件	() 件
F. インフリキシマブ	() 件	() 件
G. エタネルセプト	() 件	() 件
H. アガルシダーゼベータ	() 件	() 件
I. ベバシズマブ	() 件	() 件
J. インスリンリスプロ	() 件	() 件
K. インスリンアスパルト	() 件	() 件
L. アダリムマブ	() 件	() 件
M. ラニビズマブ	() 件	() 件
N. ペグフィルグラスチム	() 件	() 件
O. ウステキヌマブ	() 件	() 件
P. アフリベルセプト	() 件	() 件

⑧-3 令和7年6月1か月間の在宅自己注射におけるバイオ後続品の処方件数について対象医薬品ごとにご回答ください。		
	在宅自己注射処方件数	
	処方総件数	うち、バイオ後続品の件数
A. エポエチン	() 件	() 件
B. リツキシマブ	() 件	() 件
C. トラスツズマブ	() 件	() 件
D. テリパラチド	() 件	() 件
E. ソマトロピン	() 件	() 件
F. インフリキシマブ	() 件	() 件
G. エタネルセプト	() 件	() 件
H. アガルシダーゼベータ	() 件	() 件
I. ペバシズマブ	() 件	() 件
J. インスリンリスプロ	() 件	() 件
K. インスリンアスパルト	() 件	() 件
L. アダリムマブ	() 件	() 件
M. ラニビズマブ	() 件	() 件
N. ペグフィルグラスチム	() 件	() 件
O. ウステキヌマブ	() 件	() 件
P. アフリベルセプト	() 件	() 件

⑨令和7年6月1か月間における以下の診療報酬の算定の有無・件数についてご回答ください。※それぞれ〇は1つ		
⑨-1 在宅自己注射指導管理料におけるバイオ後続品導入初期加算	1. 算定あり () 件	2. 算定なし
⑨-2 注射料通則におけるバイオ後続品導入初期加算	1. 算定あり () 件	2. 算定なし
⑨-3 バイオ後続品使用体制加算	1. 算定あり () 件	2. 算定なし

【前記⑨-1又は⑨-2のいずれかで「2. 算定なし」と回答した方にお伺いします】

⑩バイオ後続品導入初期加算を算定していない場合、その理由は何ですか。 ※〇はいつでも	
1. 加算点数が少ないから	
2. 初回処方日の属する月から逆算して3か月しか算定できないため	
3. 月1回しか算定できないため	
4. 対象となる患者がいないため	
5. バイオ後続品の安定供給に不安があるから	
6. その他（具体的に：)	

【前記⑨-3で「2. 算定なし」と回答した方にお伺いします】

⑪バイオ後続品使用体制加算を算定していない場合、その理由は何ですか。 ※〇はいつでも	
1. 加算点数が少ないから	
2. 算定要件が厳しいから	
3. バイオ後続品の使用を促進するための体制が整備できないから	
4. バイオ医薬品使用回数が少なく施設基準をクリアできないから	
5. バイオ後続品の置き換え割合が満たせず施設基準をクリアできないから	
6. 入院初日しか算定できないから	
7. 対象となる患者がいないから	
8. バイオ後続品の安定供給に不安があるから	
9. バイオ後発品への置き換え割合の計算に手間がかかるから	
10. その他（具体的に：)	

⑫ バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品についてご回答ください。 ※あてはまる番号すべてに○

1. インスリン製剤	2. ヒト成長ホルモン剤	3. エタネルセプト製剤	4. テリパラチド製剤
5. リツキシマブ製剤	6. トラスツズマブ製剤	7. ベバシズマブ製剤	8. インフリキシマブ製剤
9. アダリムマブ製剤	10. ラニビズマブ製剤	11. アガルシダーゼ ベータ製剤	12. ペグフィルグラスチム製剤
13. ウステキヌマブ製剤	14. アフリベルセプト製剤		
15. バイオ後続品の採用状況の差は、医薬品ごとにあまりない → バイオ後続品の院外処方ありの場合、⑭へ → バイオ後続品の院外処方なしの場合、⑯へ			
16. バイオ後続品を採用していない →⑯へ			

【前記⑫で選択肢 1. ～14.のいずれかを回答した方にお伺いします】

⑬ バイオ後続品の採用が進んでいない理由は何ですか。

前記⑫で選択した医薬品のうち特に採用が進んでいない医薬品を最大3つ選び、1.～8.に記載した理由の中から、あてはまる番号を○で囲んでください。 ※○はいくつでも

	1つ目	2つ目	3つ目
特に採用が進んでいない医薬品を最大3つ記載→ (前記⑫の選択肢 1.～14.から選択して記入)	()	()	()
1. 診療報酬上の評価が十分ではないから	1.	1.	1.
2. 対象の注射薬が対象となる患者がいらないから	2.	2.	2.
3. 患者負担があまり軽減されないから	3.	3.	3.
4. バイオ後続品の品目数が少ないから	4.	4.	4.
5. バイオ後続品の安定供給に不安があるから	5.	5.	5.
6. バイオ後続品導入初期加算を知らなかったから	6.	6.	6.
7. 先行バイオ医薬品との適応症の差があるから	7.	7.	7.
8. その他 (具体的に:)	8.	8.	8.

【前記⑬で「1. 診療報酬上の評価が十分ではないから」と回答した方にお伺いします】

⑬-1 前記⑬「1. 診療報酬上の評価が十分ではないから」の中であてはまる理由は何ですか。1.～5.に記載した理由の中から、あてはまる番号を○で囲んでください。 ※○はいくつでも

	1つ目	2つ目	3つ目
前記⑬において選択した医薬品について回答ください→	()	()	()
1. 加算点数が少ないから	1.	1.	1.
2. 算定要件がわからないから	2.	2.	2.
3. 算定要件が厳しいから	3.	3.	3.
4. 初回処方日の属する月から逆算して3か月しか算定できないから	4.	4.	4.
5. 月1回しか算定できないから	5.	5.	5.

《バイオ後続品の院外処方について》

【⑭～⑮は前記⑦で「1. あり」(バイオ後続品の院外処方あり)と回答した方にお伺いします】

⑭発行する際、処方箋にどのように表記していますか。 ※○は1つ	
1. バイオ後続品の販売名 (例: 「●●● B S注射液 含量 会社名」)	
2. バイオ後続品の一般的名称 (「○○○ (遺伝子組換え) [●●●後続1]」)	
3. バイオ後続品の一般的名称だが (遺伝子組換え) と記載しない (「○○○ [●●●後続1]」)	
4. 変更不可欄にチェックを入れずに先行品の販売名で処方	
5. 変更不可欄にチェックを入れずに先行品の一般的名称で処方 (「○○○ (遺伝子組換え)」)	
6. その他 (具体的に:)	
⑮バイオ後続品を院外処方するにあたって薬局・薬剤師に望むことはありますか。 ※○はいくつでも	
1. 「一般名処方の調剤」または「バイオ後続品への変更調剤」について、予め合意した方法で情報提供を受けること	
2. 「一般名処方の調剤」または「バイオ後続品への変更調剤」について、合意方法や頻度によらず情報提供を受けること	
3. 患者に対して、バイオ後続品の品質や有効性、安全性について説明を行うこと	
4. 患者に対して、バイオ後続品の普及啓発を行うこと	
5. その他 (具体的に:)	

【前記⑦で「2. なし」(バイオ後続品の院外処方なし)と回答した方にお伺いします】

⑯バイオ後続品の院外処方をしていない理由は何ですか。 ※○はいくつでも	
1. バイオ後続品に限らず、院外処方箋を発行していないから	
2. バイオ後続品の対象となる患者がいらないから	
3. バイオ後続品の品質や有効性、安全性に処方医師が疑問を持っているから	
4. バイオ後続品の品質や有効性、安全性に患者が疑問を持っているから	
5. バイオ後続品の品目が少ないから	
6. バイオ後続品の安定供給に不安があるから	
7. 患者の経済的メリットが小さいから	
8. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が異なるから	
9. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品のデバイスのタイプが異なるから	
10. バイオAGがないから	
11. その他 (具体的に:)	
12. 特に理由はない	

《外来腫瘍化学療法診療料について》

【全ての方にお伺いします】

⑰外来腫瘍化学療法診療料を算定していますか。 ※○は1つ	1. 算定あり →⑱へ 2. 算定なし →㉑へ
---------------------------------	----------------------------

【⑱～㉑は前記⑰で「1. 算定あり」と回答した方にお伺いします】

⑱外来腫瘍化学療法診療料の算定回数 ※令和7年6月1か月間	() 回	
⑲外来腫瘍化学療法診療料の対象患者の平均受診回数(小数点第1位まで) ※令和7年6月1か月間	() 回	
⑳院内で採用している外来化学療法における後発品の使用状況(※過去1か月間で使用した品目数を記入ください)		
	A 後発医薬品(バイオ後続品を含む)がある先発医薬品	B 後発医薬品(バイオ後続品を含む)
㉑-1 抗悪性腫瘍薬(バイオ医薬品)	() 品目	() 品目
㉑-2 抗悪性腫瘍薬(バイオ医薬品以外)	() 品目	() 品目
㉑-3 支持療法に用いる医薬品(抗悪性腫瘍薬以外のバイオ医薬品も含む)	() 品目	() 品目

《外来化学療法加算について》

【全ての方にお伺いします】

②①外来化学療法加算を算定していますか。 ※〇は1つ	1. 算定あり → ②②へ 2. 算定なし → 設問4へ
-------------------------------	---------------------------------

【②②は前記②①で「1. 算定あり」と回答した方にお伺いします】

②②院内で採用している外来化学療法における後発品の使用状況(※過去1か月間で使用した品目数を記入ください)		
	A 後発医薬品(バイオ後続品を含む)がある先発医薬品	B 後発医薬品(バイオ後続品を含む)
②②-1 バイオ医薬品	() 品目	() 品目
②②-2 支持療法に用いる医薬品	() 品目	() 品目

4. 長期収載品(後発医薬品のある先発医薬品)についてお伺いします。

令和6年10月1日から、患者の希望により後発医薬品のある先発医薬品を処方する際には患者が特別の料金を支払うことになりました。また、対象となる先発医薬品を処方する場合には、処方箋に医療上の必要によるものか、患者の希望かを明記することとなりました。この制度を「長期収載品の選定療養」と呼びます。

※詳細は厚生労働省ホームページをご参照ください：https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_39830.html

【全ての方にお伺いします】

①選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数をご記入ください。 (令和7年6月1か月間)	() 枚
---	-------

【②は前記①で「1枚以上」と回答した方にお伺いします】

②上記で1枚以上と回答した場合、その内訳をご記入ください。	
②-1 医療上必要性があると医師が判断したもの	() 枚
②-2 後発医薬品の在庫がないもの	() 枚
②-3 患者が希望したもの	() 枚

【全ての方にお伺いします】

③長期収載品の選定療養によって、どのような影響や課題がありましたか。※〇はいくつでも
1. 患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい
2. 患者の制度に対する理解が不十分である
3. 薬価改定に伴い、これまで選定療養の対象であった長期収載品が対象外となった際に、患者への説明等に苦慮したことがある
4. 薬価改定に伴い、対象品目が変わってしまう
5. 医療関係者への制度に関する周知が不十分である
6. 制度そのものがわかりづらい
7. 特別の料金の計算がわかりづらい
8. レセコンなどシステム改修が不十分である
9. 後発医薬品を選択する患者が増えた
10. 患者からのクレーム対応に苦慮したことがある
11. その他(具体的に:)
12. わからない

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

お手数をおかけいたしますが、**令和7年8月29日(金)**までに専用の返信用封筒(切手不要)に封入し、お近くのポストに投函してください。

ID番号:

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和7年度調査)
後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査
一般診療所票

※この「一般診療所票」は医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における後発医薬品の使用状況や長期収載品の選定療養費に関するお考えについてお伺いするものですが、開設者・管理者が指名する方にご回答いただいても結構です。
※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また()内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
※数値を入力する設問で、「小数点以下第1位まで」と記載されている場合は、小数点以下第2位を四捨五入してご記入ください。記載されていない場合は、整数をご記入ください。
※特に断りのない場合は、令和7年7月1日時点の状況についてご記入ください。
※災害に被災した等の事情により回答が困難な場合には、事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. 貴施設の状況についてお伺いします(令和7年7月1日時点)。

①所在地	() 都・道・府・県
②開設者 ※○は1つ	1. 個人 2. 法人 3. その他
③開設年	西暦 () 年
④種別 ※○は1つ	1. 無床診療所 2. 有床診療所 →許可病床数 () 床
⑤標榜診療科 ※○はいくつでも	1. 内科 →⑤-1へ 2. 外科 →⑤-2へ 3. 精神科 4. 小児科 5. 皮膚科 6. 泌尿器科 7. 産婦人科・産科 8. 眼科 9. 耳鼻咽喉科 10. 放射線科 11. 脳神経外科 12. 整形外科 13. 麻酔科 14. 救急科 15. 歯科・歯科口腔外科 16. リハビリテーション科 17. その他(具体的に:)

【前記⑤で「1. 内科」と回答した方にお伺いします】

⑤-1 内科の詳細 ※○はいくつでも			
1. 腎臓内科	2. 血液内科	3. リウマチ内科	4. 糖尿病内科
5. 消化器内科	6. 呼吸器内科	7. 循環器内科	8. 1.～7.に該当なし

【前記⑤で「2. 外科」と回答した方にお伺いします】

⑤-2 外科の詳細 ※○はいくつでも			
1. 呼吸器外科	2. 心臓血管外科	3. 乳腺外科	4. 気管食道外科
5. 消化器外科	6. 肛門外科	7. 小児外科	8. 1.～7.に該当なし

【全ての方にお伺いします】

⑥オーダーリングシステムの導入状況 ※○はいくつでも	1. 一般名処方に対応できるオーダーリングシステムを導入している 2. 後発医薬品名が表示されるオーダーリングシステムを導入している 3. バイオ後続品※1が表示されるオーダーリングシステムを導入している 4. オーダーリングシステムを導入している(上記1.～3.の機能はない) 5. オーダーリングシステムを導入していない
⑦外来の院内・院外処方割合	院内処方 () % + 院外処方 () % = 100% ※2

※1: バイオ後続品とは、国内で既に新有効成分含有医薬品として承認されたバイオテクノロジー応用医薬品(以下「先行バイオ医薬品」という。)と同等/同質の品質、安全性、有効性を有する医薬品として、異なる製造販売業者により開発される医薬品です。本調査における「バイオ後続品」には、後発医薬品として承認されたバイオ医薬品(いわゆるバイオAQ、先行品工場で製造された先行品と同一のバイオ医薬品)を含みます。
※2: 算定回数ベースにて整数でご記入ください。正確な数がわからない場合は概数でご記入ください。例えば、院内投薬のみの場合は、院内処方「100」を、院外処方「0」をご記入ください。また、院外処方の場合は、「院内処方」に「0」を、「院外処方」に「100」をご記入ください。

	1) 常勤のみ ※ゼロの場合は「0」とご記入ください。	2) 常勤換算 ※3
⑧-1 医師数	() 人	() 人
⑧-2 薬剤師数	() 人	() 人
⑨外来患者延数 ※令和7年6月1か月間	() 人	
⑩在院患者延数 ※令和7年6月1か月間	() 人	

※3: 常勤換算とは、事業所の従業員の勤務延時間数を当該事業所において常勤の従業員が勤務すべき時間数で除することにより、常勤の従業員の員数に換算する方法。常勤職員(非常勤医師等)は、貴薬局における実労働時間が週32時間に満たない職員(医師等)をいい、常勤換算数は、以下により算出します(小数点第二位を四捨五入して小数点第一位まで求める)。非常勤医師等数については、直近3か月間の勤務状況に基づき算出します。

非常勤医師等数(常勤換算) =
$$\frac{\text{当該診療所における週32時間に満たない医師等の実労働時間の合計(時間/3か月)}}{32(\text{時間/週}) \times 13(\text{週/3月})}$$

【有床診療所の方、または無床診療所で院内処方を行っている施設の方にお伺いします】

⑪医薬品の備蓄品目数(令和7年7月1日)※4		
⑪-1 調剤用医薬品	約 ()	品目
⑪-2 上記⑪-1のうち後発医薬品	約 ()	品目
⑪-3 上記⑪-1のうち先行バイオ医薬品	約 ()	品目
⑪-4 上記⑪-1のうちバイオ後続品	約 ()	品目

※4: 令和7年7月1日の数値が不明の場合は、貴施設が把握している直近月の初日の数値をご記入ください

⑫後発医薬品使用割合(新指標、数量ベース) ※令和7年6月 ※小数点以下第1位まで	約 () %
⑬カットオフ値※5の割合(調剤報酬算定上の数値) ※令和7年6月 ※小数点以下第1位まで	約 () %

※5: カットオフ値(%)の算出式 = (後発医薬品ありの先発医薬品 + 後発医薬品) ÷ 全医薬品

2. 後発医薬品に係る貴施設での最近の対応状況についてお伺いします。

【全ての方にお伺いします】

①1年前(令和6年7月1日)と比較して後発医薬品に係る対応において業務量は増えましたか。 ※○は1つ	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った
②1年前(令和6年7月1日)と比較して、後発医薬品の供給体制についてどのように感じますか。 ※○は1つ			
1. 改善した	2. 変わらない	3. 悪化した	
③現在(令和7年7月1日)の医薬品の調達状況についてお伺いします。 ※○はいくつでも			
1. 医薬品の納品までに時間がかかる	2. 医薬品の発注作業の回数が増えた		
3. 卸に医薬品の注文を受け付けてもらえない	4. 卸からの医薬品の注文の取り消しが頻発している		
5. 特に困難な状況はない			
6. その他(具体的に:)			
④医薬品の不安定な供給状況によって生じている影響についてお伺いします。 ※○はいくつでも			
1. 後発医薬品を先発医薬品に採用品目の見直しを行っている			
2. 後発医薬品を別の後発医薬品に採用品目の見直しを行っている			
3. 同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、代替のための後発医薬品の調達を行っている			
4. 同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、同一成分の先発医薬品の調達を行っている			
5. 同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、剤形の変更等を行っている			
6. 患者からの後発医薬品使用に関する相談や苦情等の対応を行っている			
7. 後発医薬品の品質や安全性に係る情報収集を行っている			
8. 後発医薬品メーカーや卸から供給に関する情報の収集を行っている			
9. 処方可能な医薬品のリストを作成し、日々更新している			
10. オーダリングシステムの医薬品マスタにおいて処方可否の設定を日々更新している			
11. その他(具体的に:)			
12. 特になし →⑥へ			
⑤前記④の選択肢1. ~11. のうち、最もあてはまるものの番号を1つお書きください。	()		
⑥現在(令和7年7月1日)において、後発医薬品の処方割合に変化はありましたか。 ※○は1つ			
1. 後発医薬品の処方割合がかなり減った	2. 後発医薬品の処方割合がやや減った		
3. 後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった	4. 後発医薬品の処方割合が増えた		
5. わからない			
⑦出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 ※令和7年6月1か月間	⑦-1 先発医薬品	()	品目
	⑦-2 後発医薬品	()	品目
⑧供給停止となっている後発医薬品等の診療報酬上の臨時的な取扱いの適用※1(令和7年7月1日時点) ※○は1つ	1. あり	2. なし	

※1: 供給が停止されていると報告された医薬品のうち、別に示す供給停止品目と同一成分・同一投与形態の医薬品については、「後発医薬品調剤体制加算」等において後発医薬品の使用(調剤)割合(以下、「新指標の割合」)を算出する際に算出対象から除外しても差し支えないこととするもの。

【⑨は有床診療所の方にお伺いします】

⑨後発医薬品使用体制加算の算定状況 ※○は1つ	1. 算定していない	2. 後発医薬品使用体制加算1
	3. 後発医薬品使用体制加算2	4. 後発医薬品使用体制加算3

【全ての方にお伺いします】

⑩外来後発医薬品使用体制加算の算定状況 ※○は1つ	1. 算定していない	2. 外来後発医薬品使用体制加算1
	3. 外来後発医薬品使用体制加算2	4. 外来後発医薬品使用体制加算3

3. 一般名処方に係る貴施設での最近の対応状況についてお伺いします。

【全ての方にお伺いします】

①現在、一般名処方による処方箋を発行していますか。※○は1つ	1. あり →②へ	2. なし→⑤へ
--------------------------------	-----------	----------

【②は前記①で「1. あり」と回答した方にお伺いします】

②1年前と比較して一般名処方の件数は増えましたか。※○は1つ	1. 増えた →③へ	2 変わらない →④へ
	3. 減った →④へ	

【③は前記②で「1. 増えた」と回答した方にお伺いします】

③一般名処方が増えた理由は何ですか。※○はいくつでも	
1. 一般名処方加算の点数が引き上げられたから	2. 後発医薬品の品質への不安が減ったから
3. 後発医薬品の安定供給への不安が減ったから	4. 先発医薬品を希望する患者が減ったから
5. オーダリングシステムの変更など一般名処方に対応できる院内体制が整備されたから	
6. その他（具体的に：_____）	

【④は前記②で「2. 変わらない」又は「3. 減った」と回答した方にお伺いします】

④一般名処方が増えない理由は何ですか。※○はいくつでも	
1. 後発医薬品の品質への不安があるから	2. 後発医薬品の安定供給への不安があるから
3. 先発医薬品を希望する患者が増えたから	
4. オーダリングシステムの変更など一般名処方に対応できる院内体制が整備されていないから	
5. その他（具体的に：_____）	

【⑤は前記①で「2. なし」(一般名処方による処方箋の発行なし)と回答した方にお伺いします】

⑤一般名処方による処方箋を発行していない理由は何ですか。※○はいくつでも	
1. オーダリングシステムや電子カルテが未導入であるため	2. 現在のシステムが一般名処方に対応していないため
3. 処方箋が手書きのため	4. 一般名では分かりにくく、医療従事者が混乱するため
5. 一般名では分かりにくく、患者が混乱するため	6. 手間が増えるため
7. 保険薬局がメーカーを選択できることに疑問や不安があるため	
8. その他（具体的に：_____）	
9. 特に理由はない	

【全ての方にお伺いします】

⑥貴施設で実施している医薬品の安定供給に関連する取組は何ですか。※○はいくつでも		
1. 先発医薬品への切り替え	2. クリニカルパスの見直し	3. レジメンの見直し
4. その他（具体的に：_____）		
5. 特になし		

⑦今後、どのような対応がなされれば、医師の立場として後発医薬品の使用を進めてもよいと思いますか。
※○はいくつでも

1. 厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底
2. 後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること
3. 後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保
4. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保
5. 後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合
6. 後発医薬品の在庫管理の負担軽減
7. 先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダリングシステムの導入
8. 後発医薬品に対する患者の理解
9. 後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価
10. 後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価
11. 後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置
12. 後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示
13. 調剤に関する保険薬局との連携
14. 患者負担が軽減されること
15. その他（具体的に：_____）
16. 特に対応は必要ない →⑨へ

⑧前記⑦の選択肢 1. ～15. のうち、最もあてはまるものの番号を1つお書きください。

()

⑨後発医薬品の使用促進について、国や地方自治体、製薬会社、医療関係者、国民においてどのような取組を行うことが効果的と考えますか。ご意見を自由にお書きください。

4. バイオ後続品の使用に関するお考えについてお伺いします。

※バイオ後続品とは、国内で既に新有効成分含有医薬品として承認されたバイオテクノロジー応用医薬品（以下「先行バイオ医薬品」という。）と同等／同質の品質、安全性、有効性を有する医薬品として、異なる製造販売業者により開発される医薬品です。

本調査における「バイオ後続品」には、後発医薬品として承認されたバイオ医薬品（いわゆるバイオAG、先行品工場で製造された先行品と同一のバイオ医薬品）を含みます。

国内でバイオ後続品が承認されている先行バイオ医薬品

先行バイオ医薬品の一般的名称※1	先行バイオ医薬品 販売名	先行バイオ医薬品の一般的名称	先行バイオ医薬品 販売名
ソマトロビン	ジェノトロビン	ダルベポエチン アルファ※2	ネスブ
エポエチン アルファ	エスポー	テリパラチド	フォルテオ
フィルグラスチム	グラン	インスリン リスプロ	ヒューマログ
インフリキシマブ	レミケード	アダリムマブ	ヒュミラ
インスリン グラルギン	ランタス	インスリン アスパルト	ノボラビッド
リツキシマブ	リツキサン	ラニビズマブ	ルセンティス
トラスツズマブ	ハーセプチン	ベグフィルグラスチム	ジューラスタ
エタネルセプト	エンブレル	ウステキヌマブ	ステラーラ
アガルシダーゼ ベータ	ファブラザイム	アフリベルセプト	アイリーア
ベバシズマブ	アバستن		

※1：（遺伝子組換え）を省略して記載

※2：バイオ後続品と後発バイオ医薬品のそれぞれが承認されている

《バイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）について》

①バイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）を処方（使用）していますか。 ※○は1つ	1. 処方（使用）あり →②へ 2. 処方（使用）なし →⑤へ
--	------------------------------------

【②～④は前記①で「1. 処方（使用）あり」と回答した方にお伺いします】

②院内処方（入院または院内の外来）の有無 ※○は1つ	1. あり	2. なし	
③院外処方の有無 ※○は1つ	1. あり	2. なし	
④在庫のあるバイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）についてご回答ください。※○はいくつでも			
1. インスリン製剤	2. ヒト成長ホルモン剤	3. エタネルセプト製剤	4. テリパラチド製剤
5. リツキシマブ製剤	6. トラスツズマブ製剤	7. ベバシズマブ製剤	8. インフリキシマブ製剤
9. アダリムマブ製剤	10. ラニビズマブ製剤	11. アガルシダーゼ ベータ製剤	12. ベグフィルグラスチム製剤
13. ウステキヌマブ製剤	14. アフリベルセプト製剤	15. バイオ医薬品の在庫なし	

《バイオ後続品について》

【全ての方にお伺いします】

⑤貴施設におけるバイオ後続品の使用に関する考え方について最も近いものはどれですか。 ※○は1つ
1. バイオ後続品が発売されているものは、積極的に処方（使用）する →⑥へ
2. 品質や有効性、安全性に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方（使用）する →⑥へ
3. 安定供給に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方（使用）する →⑥へ
4. 品目によってはバイオ後続品を積極的に処方（使用）する →⑥へ
5. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が同じ場合は積極的に処方（使用）する →⑥へ
6. いわゆるバイオAG※3であれば積極的に使用する →⑥へ
7. バイオ後続品を積極的に処方（使用）していない →⑧へ
8. バイオ医薬品（先行バイオ医薬品、バイオ後続品）の対象となる患者がいらない →⑨へ
9. その他（具体的に： ） →⑨へ

※3：後発医薬品として承認されたバイオ医薬品（先行品工場で製造された先行品と同一のバイオ医薬品）を指します。

【⑥～⑦は前記⑤で選択肢 1～6.(バイオ後続品を積極的に処方(使用)する)と回答した方にお伺いします】

⑥バイオ後続品を積極的に処方(使用)する場合、その理由は何ですか。※○はいくつでも	
1. 患者がバイオ後続品の使用を希望するから	2. 患者の経済的負担が軽減できるから
3. 診療報酬上の評価があるから	4. 経営上のメリットがあるから
5. 医療費削減につながるから	6. 国がバイオ後続品の使用促進を図っているから
7. その他(具体的に:)	
⑦既に先行バイオ医薬品を処方(使用)している患者に、先行バイオ医薬品からバイオ後続品に変更を考慮する場合、その理由は何ですか。※○はいくつでも	
1. 患者がバイオ後続品の使用を希望するから	2. 患者の経済的負担が軽減できるから
3. 診療報酬上の評価があるから	4. 経営上のメリットがあるから
5. 医療費削減につながるから	6. 国がバイオ後続品の使用促進を図っているから
7. その他(具体的に:)	

【⑧は前記⑤で「7. バイオ後続品を積極的に処方(使用)していない」と回答した方にお伺いします】

⑧バイオ後続品を積極的に処方(使用)していない理由としてあてはまるものをお選びください。 ※○はいくつでも	
1. バイオ後続品の品質や有効性、安全性に疑問があるから	
2. バイオ後続品は、先発品(先行バイオ医薬品)と同等/同質の品質・安全性・有効性を有するが同一ではないから	
3. バイオ後続品に関する情報提供が不足しているから →不足している情報(具体的に:)	
4. バイオ後続品の品目が少ないから	
5. バイオ後続品の安定供給に不安があるから	
6. 患者への普及啓発が不足しているから	
7. 患者の経済的メリットが小さいから	
8. 自己負担額が制度により軽減されている患者(生活保護受給者や、難病・障害等による公費負担制度の受給者など)であり、薬剤費の差が治療選択に影響しにくいから	
9. 院内でバイオ後続品の投与や処方を行っていないから	
10. 在庫管理等の負担が大きいから	
11. 薬価差の状況により、バイオ後続品を選択する利点が小さいから	
12. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品の両方を備蓄するのは困難だから	
13. 製造販売後調査(PMS)の手間が大きいから	
14. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が異なるから	
15. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品のデバイスのタイプが異なるから	
16. その他(具体的に:)	

【全ての方にお伺いします】

⑨今後、どのような対応が進めば、バイオ後続品の処方(使用)を進めてよいと考えますか。※○はいくつでも	
1. 診療報酬上の評価	
2. より患者負担が軽減されること	
3. 医師、薬剤師への国からのバイオ後続品に関する情報の周知	
4. 国からの国民への啓発と患者の理解	
5. バイオ後続品企業からの情報提供	
6. 先行バイオ医薬品からバイオ後続品に切り替えを含む臨床試験データの充実やガイドライン等の整備	
7. バイオ後続品の品目数が増えること	
8. バイオ後続品の供給がより安定すること	
9. バイオ後続品の在庫の負担軽減	
10. 医療機関に対する経営的メリットがあること	
11. その他(具体的に:)	
12. バイオ後続品を使用する必要はない	

【⑩～⑪は前記①で「1. 処方(使用)あり」(バイオ医薬品(先行バイオ医薬品・バイオ後続品)処方あり)と回答した方にお伺いします】

⑩バイオ後続品の院内処方(入院または院内の外来)の有無 ※○は1つ	1. あり	2. なし
⑪バイオ後続品の院外処方の有無 ※○は1つ	1. あり	2. なし

【⑫～⑰は前記⑩⑪のいずれかで「1. あり」(院内・院外いずれかでバイオ後続品処方あり)と回答した方にお伺いします】
※いずれも「2. なし」と回答した方は⑳へ

⑫-1 令和7年6月1か月間の入院処方におけるバイオ後続品の処方件数について対象医薬品ごとにご回答ください。		
	入院処方件数	
	処方総件数	うち、バイオ後続品の件数
A. エポエチン	() 件	() 件
B. リツキシマブ	() 件	() 件
C. トラスツズマブ	() 件	() 件
D. テリパラチド	() 件	() 件
E. ソマトロピン	() 件	() 件
F. インフリキシマブ	() 件	() 件
G. エタネルセプト	() 件	() 件
H. アガルシダーゼベータ	() 件	() 件
I. ベバシズマブ	() 件	() 件
J. インスリンリスプロ	() 件	() 件
K. インスリンアスパルト	() 件	() 件
L. アダリムマブ	() 件	() 件
M. ラニビズマブ	() 件	() 件
N. ペグフィルグラスチム	() 件	() 件
O. ウステキヌマブ	() 件	() 件
P. アフリベルセプト	() 件	() 件

⑫-2 令和7年6月1か月間の外来で実施する処方におけるバイオ後続品の処方件数について対象医薬品ごとにご回答ください。		
	外来処方件数	
	処方総件数	うち、バイオ後続品の件数
A. エポエチン	() 件	() 件
B. リツキシマブ	() 件	() 件
C. トラスツズマブ	() 件	() 件
D. テリパラチド	() 件	() 件
E. ソマトロピン	() 件	() 件
F. インフリキシマブ	() 件	() 件
G. エタネルセプト	() 件	() 件
H. アガルシダーゼベータ	() 件	() 件
I. ベバシズマブ	() 件	() 件
J. インスリンリスプロ	() 件	() 件
K. インスリンアスパルト	() 件	() 件
L. アダリムマブ	() 件	() 件
M. ラニビズマブ	() 件	() 件
N. ペグフィルグラスチム	() 件	() 件
O. ウステキヌマブ	() 件	() 件
P. アフリベルセプト	() 件	() 件

⑫-3 令和7年6月1か月間の在宅自己注射におけるバイオ後続品の処方件数について対象医薬品ごとにご回答ください。		
	在宅自己注射処方件数	
	処方総件数	うち、バイオ後続品の件数
A. エポエチン	() 件	() 件
B. リツキシマブ	() 件	() 件
C. トラスツズマブ	() 件	() 件
D. テリパラチド	() 件	() 件
E. ソマトロピン	() 件	() 件
F. インフリキシマブ	() 件	() 件
G. エタネルセプト	() 件	() 件
H. アガルシダーゼベータ	() 件	() 件
I. ベバシズマブ	() 件	() 件
J. インスリンリスプロ	() 件	() 件
K. インスリンアスパルト	() 件	() 件
L. アダリムマブ	() 件	() 件
M. ラニビズマブ	() 件	() 件
N. ペグフィルグラスチム	() 件	() 件
O. ウステキヌマブ	() 件	() 件
P. アフリベルセプト	() 件	() 件

⑬令和7年6月1か月間における以下の診療報酬の算定の有無・件数についてご回答ください。※それぞれ〇は1つ		
⑬-1 在宅自己注射指導管理料におけるバイオ後続品導入初期加算	1. 算定あり () 件	2. 算定なし
⑬-2 注射料通則におけるバイオ後続品導入初期加算	1. 算定あり () 件	2. 算定なし

【前記⑬-1または⑬-2のいずれかで「2. 算定なし」と回答した方にお伺いします】

⑭バイオ後続品導入初期加算を算定していない場合、その理由 ※〇はいくつでも
1. 加算点数が少ないから
2. 初回処方日の属する月から逆算して3か月しか算定できないため
3. 月1回しか算定できないため
4. 対象となる患者がいらないため
5. バイオ後続品の安定供給に不安があるから
6. その他（具体的に：)

⑮ バイオ後続品の採用が進んでいない医薬品についてご回答ください。 ※〇はいくつでも

1. インスリン製剤	2. ヒト成長ホルモン剤	3. エタネルセプト製剤	4. テリパラチド製剤
5. リツキシマブ製剤	6. トラスツズマブ製剤	7. ベバシズマブ製剤	8. インフリキシマブ製剤
9. アダリムマブ製剤	10. ラニビズマブ製剤	11. アガルシダーゼ ベータ製剤	12. ペグフィルグラスチム製剤
13. ウステキヌマブ製剤	14. アフリベルセプト製剤		
15. バイオ後続品の採用状況の差は、医薬品ごとにあまりない → バイオ後続品の院外処方ありの場合、⑮へ → バイオ後続品の院外処方なしの場合、⑳へ			
16. バイオ後続品を採用していない → ㉑へ			

【前記⑮で選択肢 1.～14.のいずれかを回答した方にお伺いします】

⑯ バイオ後続品の採用が進んでいない理由は何ですか。

前記⑮で選択した医薬品のうち特に採用が進んでいない医薬品を最大3つ選び、1.～8.に記載した理由の中から、**あてはまる番号を〇で囲んでください。** ※〇はいくつでも

	1つ目	2つ目	3つ目
特に採用が進んでいない医薬品を最大3つ記載→ (前記⑮選択肢1.～14.から選択して記入)	()	()	()
1. 診療報酬上の評価が十分ではないから	1.	1.	1.
2. 対象の注射薬が対象となる患者がいらないから	2.	2.	2.
3. 患者負担があまり軽減されないから	3.	3.	3.
4. バイオ後続品の品目数が少ないから	4.	4.	4.
5. バイオ後続品の安定供給に不安があるから	5.	5.	5.
6. バイオ後続品導入初期加算を知らなかったから	6.	6.	6.
7. 先行バイオ医薬品との適応症の差があるから	7.	7.	7.
8. その他 (具体的に:)	8.	8.	8.

【前記⑯で「1. 診療報酬上の評価が十分ではないから」と回答した方にお伺いします】

⑰ 前記⑯「1. 診療報酬上の評価が十分ではないから」の中であてはまる理由は何ですか。1.～5.に記載した理由の中から、**あてはまる番号を〇で囲んでください。** ※〇はいくつでも

	1つ目	2つ目	3つ目
前記⑯において選択した医薬品について回答ください→	()	()	()
1. 加算点数が少ないから	1.	1.	1.
2. 算定要件がわからないから	2.	2.	2.
3. 算定要件が厳しいから	3.	3.	3.
4. 初回処方日の属する月から逆算して3か月しか算定できないから	4.	4.	4.
5. 月1回しか算定できないから	5.	5.	5.

《バイオ後続品の院外処方について》

【⑱～⑲は前記⑪で「1.あり」(バイオ後続品の院外処方あり)と回答した方にお伺いします】

⑱ 発行する際、処方箋にどのように表記していますか。 ※〇は1つ

1. バイオ後続品の販売名 (例: 「●●● B S 注射液 含量 会社名」)
2. バイオ後続品の一般的名称 (「○○○ (遺伝子組換え) [●●●後続1]」)
3. バイオ後続品の一般的名称だが (遺伝子組換え) と記載しない (「○○○ [●●●後続1]」)
4. 変更不可欄にチェックを入れずに先行品の販売名で処方
5. 変更不可欄にチェックを入れずに先行品の一般的名称で処方 (「○○○ (遺伝子組換え)」)
6. その他 (具体的に:)

⑱ バイオ後続品を院外処方するにあたって薬局・薬剤師に望むことはありますか。※○はいくつでも
1. 「一般名処方の調剤」または「バイオ後続品への変更調剤」について、予め合意した方法で情報提供を受けること
2. 「一般名処方の調剤」または「バイオ後続品への変更調剤」について、合意方法や頻度によらず情報提供を受けること
3. 患者に対して、バイオ後続品の品質や有効性、安全性について説明を行うこと
4. 患者に対して、バイオ後続品の普及啓発を行うこと
5. その他（具体的に：_____）

【⑳は前記⑱で「2. なし」（バイオ後続品の院外処方なし）と回答した方にお伺いします】

㉑ バイオ後続品の院外処方をしていない理由は何ですか。※○はいくつでも
1. バイオ後続品に限らず、院外処方箋を発行していないから
2. バイオ後続品の対象となる患者がいないから
3. バイオ後続品の品質や有効性、安全性に疑問を持っているから
4. バイオ後続品の品質や有効性、安全性に患者が疑問を持っているから
5. バイオ後続品の品目が少ないから
6. バイオ後続品の安定供給に不安があるから
7. 患者の経済的メリットが小さいから
8. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が異なるから
9. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品のデバイスのタイプが異なるから
10. バイオAGがないから
11. その他（具体的に：_____）
12. 特に理由はない

《外来腫瘍化学療法診療料について》

【全ての方にお伺いします】

㉒ 外来腫瘍化学療法診療料を算定していますか。※○は1つ	1. 算定あり →㉓へ 2. 算定なし →㉔へ
------------------------------	----------------------------

【㉓～㉔は前記㉒で「1. 算定あり」と回答した方にお伺いします】

㉓ 外来腫瘍化学療法診療料の算定回数 ※令和7年6月1か月間	() 回	
㉔ 外来腫瘍化学療法診療料の対象患者の平均受診回数(小数点第1位まで) ※令和7年6月1か月間	() 回	
㉕ 院内で採用している外来化学療法における後発品の使用状況(※過去1か月間で使用した品目数を記入ください)		
	A 後発医薬品(バイオ後続品を含む)がある先発医薬品	B 後発医薬品(バイオ後続品を含む)
㉕-1 抗悪性腫瘍薬(バイオ医薬品)	() 品目	() 品目
㉕-2 抗悪性腫瘍薬(バイオ医薬品以外)	() 品目	() 品目
㉕-3 支持療法に用いる医薬品(抗悪性腫瘍薬以外のバイオ医薬品も含む)	() 品目	() 品目

《外来化学療法加算について》

【全ての方にお伺いします】

㉖ 外来化学療法加算を算定していますか。 ※○は1つ	1. 算定あり →㉗へ 2. 算定なし →設問5へ
----------------------------	------------------------------

【㉗は前記㉖で「1. 算定あり」と回答した方にお伺いします】

㉗ 院内で採用している外来化学療法における後発品の使用状況(※過去1か月間で使用した品目数を記入ください)		
	A 後発医薬品(バイオ後続品を含む)がある先発医薬品	B 後発医薬品(バイオ後続品を含む)
㉗-1 バイオ医薬品	() 品目	() 品目
㉗-2 支持療法に用いる医薬品	() 品目	() 品目

5. 長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）についてお伺いします。

令和6年10月1日から、患者の希望により後発医薬品のある先発医薬品を処方する際には患者が特別の料金を支払うことになりました。また、対象となる先発医薬品を処方する場合には、処方箋に医療上の必要によるものか、患者の希望かを明記することとなりました。この制度を「長期収載品の選定療養」と呼びます。

※詳細は厚生労働省ホームページをご参照ください：https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_39830.html

【全ての方にお伺いします】

①選定療養の対象となりうる長期収載品の処方箋発行枚数をご記入ください。 (令和7年6月1か月間)	() 枚
---	-------

【②は前記①で「1枚以上」と回答した方にお伺いします】

②上記で1枚以上と回答した場合、その内訳をご記入ください。	
②-1 医療上必要があると医師が判断したもの	() 枚
②-2 後発医薬品の在庫がないもの	() 枚
②-3 患者が希望したもの	() 枚

【全ての方にお伺いします】

③長期処方の選定療養によって、どのような影響や課題がありましたか。 ※〇はいくつでも
1. 患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい
2. 患者の制度に対する理解が不十分である
3. 薬価改定に伴い、これまで選定療養の対象であった長期収載品が対象外となった際に、患者への説明等に苦慮したことがある
4. 薬価改定に伴い、対象品目が変わってしまう
5. 医療関係者への制度に関する周知が不十分である
6. 制度そのものがわかりづらい
7. 特別の料金の計算がわかりづらい
8. レセコンなどシステム改修が不十分である
9. 後発医薬品を選択する患者が増えた
10. 患者からのクレーム対応に苦慮したことがある
11. その他（具体的に：)
12. わからない

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

お手数をおかけいたしますが、**令和7年8月29日（金）**までに専用の返信用封筒（切手不要）に封入し、お近くのポストに投函してください。

ID番号：

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和7年度調査)

後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査

歯科診療所票

※この「歯科診療所票」は医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における後発医薬品の使用状況や長期収載品の選定療養費に関するお考えについてお伺いするものですが、開設者・管理者が指名する方にご回答いただいても結構です。

※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また()内には具体的な数値、用語等をご記入ください。

()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をご記入ください。

※数値を入力する設問で、「小数点以下第1位まで」と記載されている場合は、小数点以下第2位を四捨五入してご記入ください。記載されていない場合は、整数をご記入ください。

※特に断りのない場合は、令和7年7月1日現在の状況についてご記入ください。

※災害に被災した等の事情により回答が困難な場合には、事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. 貴施設の状況についてお伺いします(令和7年7月1日現在)。

①所在地	() 都・道・府・県		
②開設者 ※○は1つ	1. 個人	2. 法人	3. その他
③開設年	西暦() 年		
④標榜診療科 ※○はいくつでも	1. 歯科	2. 矯正歯科	3. 小児歯科
	4. 歯科口腔外科		
	5. その他(具体的に:)		
⑤医科の医療機関の併設状況 ※○は1つ	1. 併設している		2. 併設していない
⑥外来の院内・院外処方の割合	院内処方() % + 院外処方() % = 100% ※1		

※1: 算定回数ベースにて整数でご記入ください。正確な数がわからない場合は概数でご記入ください。

例えば、院内投薬のみの場合は、院内処方に「100」を、院外処方に「0」をご記入ください。また、院外処方のみ場合は、「院内処方」に「0」を、「院外処方」に「100」をご記入ください。

	1) 常勤のみ ※ゼロの場合は「0」とご記入ください。	2) 非常勤(常勤換算※2)
⑦-1 歯科医師数	() 人	() 人
⑦-2 薬剤師数	() 人	() 人
⑧外来患者延数 令和7年6月1か月間	() 人	

※2: 常勤換算とは、事業所の従業員の勤務延時間数を当該事業所において常勤の従業員が勤務すべき時間数で除することにより、常勤の従業員の員数に換算する方法。非常勤職員(歯科医師等)は、貴施設における実労働時間が週32時間に満たない職員(歯科医師等)をいい、常勤換算数は、以下により算出します(小数点第二位を四捨五入して小数点第一位まで求める)。非常勤歯科医師数については、直近3か月間の勤務状況に基づき算出します。

非常勤歯科医師等数(常勤換算) = $\frac{\text{当該歯科診療所における週32時間に満たない歯科医師数等の実労働時間の合計(時間/3か月)}}{32(\text{時間/週}) \times 13(\text{週/3月})}$

⑨外来後発医薬品使用体制加算の届出状況 ※○は1つ	1. 届出していない → 設問2(①~③、⑦~⑬)を回答ください 2. 外来後発医薬品使用体制加算1 → 設問2を全て回答ください 3. 外来後発医薬品使用体制加算2 → 設問2を全て回答ください 4. 外来後発医薬品使用体制加算3 → 設問2を全て回答ください
---------------------------	--

2. 後発医薬品に係る貴施設での最近の対応状況についてお伺いします。

①1年前(令和6年7月1日)と比較して、後発医薬品の供給体制についてどのように感じますか。 ※○は1つ		
1. 改善した	2. 変わらない	3. 悪化した
②現在(令和7年7月1日)において、後発医薬品の処方割合に変化はありましたか。 ※○は1つ		
1. 後発医薬品の処方割合がかなり減った		
2. 後発医薬品の処方割合がやや減った		
3. 後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった		
4. 後発医薬品の処方割合が増えた		
5. わからない		
③出荷調整等で入手が難しくなっている品目数 ※令和7年6月1か月間	③-1 先発医薬品	() 品目
	③-2 後発医薬品	() 品目

④供給停止となっている後発医薬品等の診療報酬上の臨時的な取扱いの適用 ^{※1} (令和7年7月1日時点) ※○は1つ ※設問1-⑨で【外来後発医薬品使用体制加算を算定していない】と回答された施設は回答不要	1. あり	2. なし
---	-------	-------

※1: 供給が停止されていると報告された医薬品のうち、別に表示供給停止品目と同一成分・同一投与形態の医薬品については、「後発医薬品調剤体制加算」等において後発医薬品の使用(調剤)割合(以下、「新指標の割合」)を算出する際に算出対象から除外しても差し支えないこととするもの。

⑤後発医薬品使用割合<数量ベース> ※令和7年6月 ※小数点以下第1位まで ※設問1-⑨で【外来後発医薬品使用体制加算を算定していない】と回答された施設は回答不要	約 () %
⑥カットオフ値 ^{※2} の割合(調剤報酬算定上の数値) ※令和7年6月 ※小数点以下第1位まで ※設問1-⑨で【外来後発医薬品使用体制加算を算定していない】と回答された施設は回答不要	約 () %

※2: カットオフ値(%)の算出式 = (後発医薬品ありの先発医薬品 + 後発医薬品) ÷ 全医薬品

⑦現在、一般名処方による処方箋を発行していますか。 ※○は1つ	1. あり →⑧へ 2. なし →⑪へ
------------------------------------	------------------------

【⑧は前記⑦で「1. あり」(一般名処方による処方箋の発行あり)と回答した方にお伺いします】

⑧1年前と比較して一般名処方の件数は増えましたか。 ※○は1つ	1. 増えた →⑨へ 2. 変わらない →⑩へ 3. 減った →⑩へ
---------------------------------	--

【⑨は前記⑧で「1. 増えた」と回答した方にお伺いします】

⑨一般名処方が増えた理由は何ですか。 ※○はいくつでも	
1. 一般名処方加算の点数が引き上げられたから	2. 後発医薬品の品質への不安が減ったから
3. 後発医薬品の安定供給への不安が減ったから	4. 先発医薬品を希望する患者が減ったから
5. その他 (具体的に:)	

【⑩は前記⑧で「2. 変わらない」又は「3. 減った」と回答した方にお伺いします】

⑩一般名処方が増えない理由は何ですか。 ※○はいくつでも	
1. 後発医薬品の品質への不安があるから	2. 後発医薬品の安定供給への不安があるから
3. 先発医薬品を希望する患者が増えたから	
4. その他 (具体的に:)	

【⑪は前記⑦で「2. なし」(一般名処方による処方箋の発行なし)と回答した方にお伺いします】

⑪一般名処方による処方箋を発行していない理由は何ですか。 ※○はいくつでも	
1. 現在のシステムが一般名処方に対応していないため	2. 処方箋が手書きのため
3. 一般名では分かりにくく、医療従事者が混乱するため	4. 一般名では分かりにくく、患者が混乱するため
5. 手間が増えるため	6. 保険薬局がメーカーを選択できることに疑問や不安があるため
7. その他 (具体的に:)	
8. 特に理由はない	

【全ての方にお伺いします】

⑫今後、どのような対応がなされれば、歯科医師の立場として後発医薬品の使用を進めてもよいと思いますか。 ※○はいくつでも	
1. 厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	
2. 後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること	
3. 後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保	
4. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保	
5. 後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合	
6. 後発医薬品の在庫管理の負担軽減	
7. 先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダーリングシステムの導入	
8. 後発医薬品に対する患者の理解	
9. 後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価	
10. 後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価	
11. 後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置	
12. 後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示	
13. 調剤に関する保険薬局との連携	
14. 患者負担が軽減されること	
15. その他 (具体的に:)	
16. 特に対応は必要ない →設問3へ	
⑬前記⑫の選択肢 1. ~15. のうち、最もあてはまるものの番号を1つお書きください。	()

ID番号：

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和7年度調査)
後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査
医師票

※この「医師票」は貴施設において、外来診療を担当する医師の方に、後発医薬品の使用状況やお考えについてお伺いするものです。
※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
※数値を入力する設問で、「小数点以下第1位まで」と記載されている場合は、小数点以下第2位を四捨五入してご記入ください。記載されていない場合は、整数をご記入ください。
※ご回答頂いた調査票は、専用の返信用封筒(切手不要)にて、直接事務局までご返送いただけますよう、お願い申し上げます。
※特に断りのない場合は、令和7年7月1日現在の状況についてご記入ください。

1. あなたご自身についてお伺いします (令和7年7月1日現在)。

①性別 ※○は1つ	1. 男性	2. 女性			
②年代 ※○は1つ	1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代	5. 60歳代以上
③主たる担当診療科 ※○は1つ	1. 内科※1→③-1へ	2. 外科※2→③-2へ	3. 精神科	4. 小児科	
	5. 皮膚科	6. 泌尿器科	7. 産婦人科・産科	8. 眼科	
	9. 耳鼻咽喉科	10. 放射線科	11. 脳神経外科	12. 整形外科	
	13. 麻酔科	14. 救急科	15. 歯科・歯科口腔外科	16. リハビリテーション科	
	17. その他 (具体的に：)				

※1：内科、腎臓内科、血液内科、リウマチ内科、糖尿病内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、感染症内科、アレルギー内科、心療内科、神経内科は、「1.内科」としてご回答ください。
※2：外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科は、「2.外科」としてご回答ください。

【前記③で「1. 内科」と回答した方にお伺いします】

③-1 内科の詳細 ※○はいくつでも			
1. 腎臓内科	2. 血液内科	3. リウマチ内科	4. 糖尿病内科
5. 消化器内科	6. 呼吸器内科	7. 循環器内科	8. 1.～7.に該当なし

【前記③で「2. 外科」と回答した方にお伺いします】

③-2 外科の詳細 ※○はいくつでも			
1. 呼吸器外科	2. 心臓血管外科	3. 乳腺外科	4. 気管食道外科
5. 消化器外科	6. 肛門外科	7. 小児外科	8. 1.～7.に該当なし

2. 後発医薬品に係る最近の対応状況についてお伺いします。

①1年前(令和6年7月1日)と比較して、後発医薬品の供給体制についてどのように感じますか。 ※○は1つ		
1. 改善した	2. 変わらない	3. 悪化した
②現時点(令和7年7月1日)において、後発医薬品の処方割合に変化はありましたか。主観で結構ですので回答ください。 ※○は1つ		
1. 後発医薬品の処方割合がかなり減った	2. 後発医薬品の処方割合がやや減った	
3. 後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった	4. 後発医薬品の処方割合が増えた	
5. わからない		
③クリニカルパスの変更はありましたか。 ※○は1つ	1. あった	2. なかった
④現在、一般名処方による処方箋を発行していますか。 ※○は1つ	1. している→⑤へ	2. していない→⑧へ

【⑤は前記④で「1. している」と回答した方にお伺いします】

⑤1年前と比較して一般名処方の件数は増えましたか。 ※○は1つ	1. 増えた →⑥へ	2. 変わらない →⑦へ
	3. 減った →⑦へ	

【⑥は前記⑤で「1. 増えた」と回答した方にお伺いします】

⑥一般名処方が増えた理由は何ですか。 ※○はいくつでも	
1. 一般名処方加算の点数が引き上げられたから	2. 後発医薬品の品質への不安が減ったから
3. 後発医薬品の安定供給への不安が減ったから	4. 先発医薬品を希望する患者が減ったから
5. オーダリングシステムの変更など一般名処方に対応できる院内体制が整備されたから	
6. 長期収載品の選定療養が始まったから	
7. その他 (具体的に：)	

【⑦は前記⑤で「2. 変わらない」又は「3. 減った」と回答した方にお伺いします】

⑦一般名処方が増えない理由は何ですか。※○はいくつでも	
1. 後発医薬品の品質への不安があるから	
2. 後発医薬品の安定供給への不安があるから	
3. 先発医薬品を希望する患者が増えたから	
4. オーダリングシステムの変更など一般名処方に対応できる院内体制が整備されていないから	
5. すでに十分な対応を行っているから	
6. 市場から撤退した品目があるから	
7. その他（具体的に：_____）	

【⑧は前記④で「2. していない」（一般名処方による処方箋の発行なし）と回答した方にお伺いします】

⑧一般名処方による処方箋を発行していない理由は何ですか。※○はいくつでも	
1. オーダリングシステムや電子カルテが未導入であるため	2. 現在のシステムが一般名処方に対応していないため
3. 処方箋が手書きのため	4. 一般名では分かりにくく、医療従事者が混乱するため
5. 一般名では分かりにくく、患者が混乱するため	6. 手間が増えるため
7. 保険薬局がメーカーを選択できることに疑問や不安があるため	
8. その他（具体的に：_____）	
9. 特に理由はない	

【全ての方にお伺いします】

⑨医薬品の供給状況は不安定だと感じますか。※○は1つ	
1. 感じる →⑩へ	2. 感じない →⑪へ

【⑩は前記⑨で「1. 感じる」と回答した方にお伺いします】

⑩医薬品の不安定な供給状況によって生じている影響はありますか。※○はいくつでも	
1. 治療計画の見直し	2. 代替薬の選定による負担
3. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保	4. 患者負担額の増加
5. 緊急治療の対応遅延	6. 治療品質の低下
7. その他（具体的に：_____）	

【全ての方にお伺いします】

⑪今後どのような対応がなされれば、医師の立場として後発医薬品の使用を進めてもよいと思いますか。※○はいくつでも	
1. 厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	
2. 後発医薬品メーカー・卸による品質保証が十分であること	
3. 後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保	
4. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保	
5. 後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合	
6. 後発医薬品の在庫管理の負担軽減	
7. 先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダリングシステムの導入	
8. 後発医薬品に対する患者の理解	
9. 後発医薬品を使用する際の診療報酬上の評価	
10. 後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価	
11. 後発医薬品の出荷停止・出荷調整等を含む安定供給に係る特例措置	
12. 後発医薬品の原薬、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国、共同開発などの情報開示	
13. 調剤に関する保険薬局との連携	
14. 患者負担が軽減されること	
15. その他（具体的に：_____）	
16. 特に対応は必要ない →⑬へ	

⑫前記⑪の選択肢 1.～15.のうち、最もあてはまるものの番号を1つだけお書きください。

⑬後発医薬品の使用促進について、国や地方自治体、製薬会社、医療関係者、国民においてどのような取組を行うことが効果的と考えますか。ご意見を自由にお書きください。

176

【前記④で「7. バイオ後続品を積極的には使用していない」と回答した方にお伺いします】

⑦ バイオ後続品を積極的には使用していない理由としてあてはまるものをお選びください。 ※○はいくつでも	
1. バイオ後続品の品質や有効性、安全性に疑問があるから	
2. バイオ後続品は、先発品（先行バイオ医薬品）と同等／同質の品質・安全性・有効性を有するが同一ではないから	
3. バイオ後続品に関する情報提供が不足しているから →不足している情報（具体的に：_____）	
4. バイオ後続品の品目が少ないから	
5. バイオ後続品の安定供給に不安があるから	
6. 患者への普及啓発が不足しているから	
7. 患者の経済的メリットが小さいから	
8. 自己負担額が制度により軽減されている患者（生活保護受給者や、難病・障害等による公費負担制度の受給者など）であり、薬剤費の差が治療選択に影響しにくいから	
9. 院内でバイオ後続品の投与や処方を行っていないから	
10. 在庫管理等の負担が大きいから	
11. 薬価差の状況により、バイオ後続品を選択する利点が小さいから	
12. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品の両方を備蓄するのは困難だから	
13. 製造販売後調査（PMS）の手間が大きいから	
14. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が異なるから	
15. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品のデバイスのタイプが異なるから	
16. その他（具体的に：_____）	

【全ての方にお伺いします】

⑧ 今後、どのような対応が進めば、バイオ後続品の使用を進めてよいと考えますか。※○はいくつでも	
1. 診療報酬上の評価	
2. より患者負担が軽減されること	
3. 医師、薬剤師への国からのバイオ後続品に関する情報の周知	
4. 国からの国民への啓発と患者の理解	
5. バイオ後続品企業からの情報提供	
6. 先行バイオ医薬品からバイオ後続品に切り替えを含む臨床試験データの充実やガイドライン等の整備	
7. バイオ後続品の品目数が増えること	
8. バイオ後続品の供給がより安定すること	
9. バイオ後続品の在庫の負担軽減	
10. 医療機関に対する経営的メリットがあること	
11. その他（具体的に：_____）	
12. バイオ後続品を使用する必要はない	

【⑨～⑩は前記①で「1. 処方あり」（バイオ医薬品（先行バイオ医薬品・バイオ後続品）処方あり）と回答した方にお伺いします】

⑨ バイオ後続品の院内処方（入院または院内の外来）の有無 ※○は1つ	1. あり	2. なし
⑩ バイオ後続品の院外処方の有無 ※○は1つ	1. あり	2. なし

【全ての方にお伺いします】

⑪ 令和6年度診療報酬改定でバイオ後続品使用体制加算が新設されたことを知っていますか。※○は1つ	1. 知っている →⑫-1へ	2. 知らない
--	-------------------	---------

【⑫-1は前記⑪で「1. 知っている」と回答した方にお伺いします】

⑫-1 バイオ後続品使用体制加算を、貴施設において算定していますか。※○は1つ	
1. 算定している →⑫-2へ	2. 算定していない

【⑫-2は前記⑫-1で「1. 算定している」と回答した方にお伺いします】

⑫-2 令和6年度診療報酬改定でバイオ後続品使用体制加算が新設されたことで、バイオ後続品の使用件数が増えましたか。※○は1つ		
1. はい	2. いいえ	3. わからない

《バイオ後続品の院外処方について》

【⑬～⑭は前記⑩で「1. あり」(バイオ後続品の院外処方あり)と回答した方にお伺いします】

⑬発行する際、処方箋にどのように表記していますか。※○は1つ	
1. バイオ後続品の販売名（例：「●●● B S注射液 含量 会社名」）	
2. バイオ後続品の一般的名称（「○○○（遺伝子組換え）[●●●後続1]」）	
3. バイオ後続品の一般的名称だが（遺伝子組換え）と記載しない（「○○○[●●●後続1]」）	
4. 変更不可欄にチェックを入れずに先行品の販売名で処方	
5. 変更不可欄にチェックを入れずに先行品の一般的名称で処方（「○○○（遺伝子組換え）」）	
6. その他（具体的に：	）
⑭バイオ後続品を院外処方するにあたって薬局・薬剤師に望むことはありますか。※○はいくつでも	
1. 「一般名処方の調剤」または「バイオ後続品への変更調剤」について、予め合意した方法で情報提供を受けること	
2. 「一般名処方の調剤」または「バイオ後続品への変更調剤」について、合意方法や頻度によらず情報提供を受けること	
3. 患者に対して、バイオ後続品の品質や有効性、安全性について説明を行うこと	
4. 患者に対して、バイオ後続品の普及啓発を行うこと	
5. その他（具体的に：	）

【⑮は前記⑩で「2. なし」(バイオ後続品の院外処方なし)と回答した方にお伺いします】

⑮バイオ後続品の院外処方をしていない理由は何ですか。※○はいくつでも	
1. バイオ後続品に限らず、院外処方箋を発行していないから	
2. バイオ後続品の対象となる患者がいないから	
3. バイオ後続品の品質や有効性、安全性に疑問を持っているから	
4. バイオ後続品の品質や有効性、安全性に患者が疑問を持っているから	
5. バイオ後続品の品目が少ないから	
6. バイオ後続品の安定供給に不安があるから	
7. 患者の経済的メリットが小さいから	
8. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が異なるから	
9. 先行バイオ医薬品とバイオ後続品のデバイスのタイプが異なるから	
10. バイオAGがないから	
11. その他（具体的に：	）
12. 特に理由はない	

4. 長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）の選定療養（令和6年10月1日開始）についてお伺いします。

令和6年10月1日から、患者の希望により後発医薬品のある先発医薬品を処方する際には患者が特別の料金を支払うことになりました。また、対象となる先発医薬品を処方する場合には、処方箋に医療上の必要によるものか、患者の希望かを明記することとなりました。この制度を「長期収載品の選定療養」と呼びます。

※詳細は厚生労働省ホームページをご参照ください：https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_39830.html

【全ての方にお伺いします】

①選定療養の対象となりうる長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）の処方箋※1を発行したことがありますか。（令和7年6月1か月間）

1. ある →②へ

2. ない →③へ

【②は前記①で「1. ある」と回答した方にお伺いします】

②前記①で「1. ある」と回答した場合、その理由をご記入ください。

※○はいつでも

1. 医療上必要があると判断したため →②-1へ

2. 医療上必要があると薬剤師から提案があったため

3. 後発医薬品の在庫がないため

4. 患者から希望があったため

5. その他（具体的に：_____）

6. わからない

【全ての方にお伺いします】

③患者が選定療養の対象となりうる長期収載品（後発医薬品のある先発医薬品）の処方等又は調剤を希望した理由は何か。※○はいつでも

1. 効果が異なると考えたため

2. 副作用の心配があるため

3. 家族や知人・友人等のすすめがあったため

4. その他（具体的に：_____）

5. わからない

④「特別の料金」によって、どのような影響や課題がありましたか。

※○はいつでも

1. 患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担増になっている

2. 患者の制度に対する理解が不十分である

3. 医療関係者への制度に関する周知が不十分である

4. その他（具体的に：_____）

5. 特になし

6. わからない

※1: 処方箋内の「変更不可(医療上必要)」、「患者希望」欄にチェックまたは×印を品目ごとに記された処方箋

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

令和7年8月29日（金）までに返信用封筒（切手不要）に封入し、お近くのポストに投函してください。

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和7年度調査)

後発医薬品(ジェネリック医薬品)の使用に関するアンケート

このアンケートは、患者ご本人に、医療機関や薬局の利用状況やお考えなどをお伺いするものです。調査結果は、診療報酬の見直しなどについて検討するための資料となります。本調査のご回答内容は統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。また、医師や薬剤師に個人の回答内容をお知らせすることはありません。本調査票に回答しない場合も、患者ご本人が不利益を受けることはありません。

※ 回答はあてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

※ 特に断りのない限り、**令和7年7月1日時点**の状況についてお答えください。



0. 最初にこの調査票のご記入者について、お伺いします。この調査票のご記入者は、患者ご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者本人(代筆の場合も含む)	2. 本人以外のご家族(具体的に: _____)
3. その他(具体的に: _____)	

1. 患者ご本人のことについてお伺いします。

①性別 ※○は1つ	1. 男性	2. 女性			
②年代 ※○は1つ	1. 9歳以下	2. 10歳代	3. 20歳代	4. 30歳代	5. 40歳代
	6. 50歳代	7. 60歳代	8. 70歳代	9. 80歳代	10. 90歳以上
③お住まい	(_____)都・道・府・県				

以降の設問についても、全て患者ご本人のことをお答えください(ご記入者が患者ご本人でない場合も、患者ご本人についてご回答ください)

④お手持ちの健康保険証の種類 ※○は1つ ※お手持ちの健康保険証の「保険者」名称をご確認ください。		
1. 国民健康保険(国保)	2. 健康保険組合(健保組合)	3. 全国健康保険協会(協会けんぽ)
4. 共済組合(共済)	5. 後期高齢者医療広域連合(広域連合)	6. 生活保護
7. その他(具体的に: _____)		8. わからない
⑤医療費の自己負担額(医療機関や薬局の窓口で支払う金額)がありますか。 ※○は1つ		
1. ある		2. ない
⑥かかりつけ医※がいますか。 ※○は1つ ※なんでも相談でき、必要な時には専門医や専門の医療機関に紹介してくれる、身近で頼りになる医師のことです。		
1. いる		2. いない
⑦薬について相談ができる、かかりつけ薬剤師※がいますか。 ※○は1つ ※日頃から患者と継続的に関わることで信頼関係を構築し、薬に関していつでも気軽に相談できる薬剤師のことです。前提として、患者による同意書への署名が必要です。		
1. いる		2. いない
⑧病気の治療や管理のため、注射剤(抗リウマチ薬やインスリン製剤、成長ホルモン剤、骨粗鬆症治療薬など)を、あなたご自身で注射していますか。 ※○は1つ		
1. している		2. していない

2. ジェネリック医薬品の使用に関するご経験などについてお伺いします。ここからは、本日のことだけではなく、
今までのご経験についてお答えください。

「後発医薬品（ジェネリック医薬品）」とは

先発医薬品（新薬）の特許が切れた後に販売される、先発医薬品と同じ有効成分、同様の効能・効果を持つ医薬品のことです。ジェネリック医薬品は先発医薬品より安価で、経済的です。



①ジェネリック医薬品を知っていましたか。※〇は1つ

1. 知っていた	2. 名前は聞いたことがあった	3. 知らなかった
----------	-----------------	-----------

②今までにジェネリック医薬品を使用したことがありますか。※〇は1つ

1. ある	2. ない	3. わからない・覚えていない
-------	-------	-----------------

③医師からジェネリック医薬品についての説明を受けたことがありますか。※〇は1つ

1. ある	2. ない	3. わからない・覚えていない
-------	-------	-----------------

④薬剤師からジェネリック医薬品についての説明を受けたことがありますか。※〇は1つ

1. ある	2. ない	3. わからない・覚えていない
-------	-------	-----------------

⑤薬剤師にジェネリック医薬品の調剤をお願いしたことはありますか。※〇は1つ

1. ある	2. ない	3. わからない・覚えていない
-------	-------	-----------------

⑥今までに、先発医薬品からジェネリック医薬品に変更したお薬はありますか。※〇は1つ

1. ある →⑥-1へ	2. ない →⑦へ	3. わからない・覚えていない →⑦へ
-------------	-----------	---------------------

【前記⑥で「1.ある」と回答した方にお伺いします】

⑥-1 ジェネリック医薬品に変更したきっかけは何ですか。※〇は1つ

1. かかりつけ医からの説明	2. かかりつけ医以外の医師からの説明
3. かかりつけ薬剤師からの説明	4. かかりつけ薬剤師以外の薬剤師からの説明
5. 家族・知人等からのすすめ	6. 薬剤情報提供文書※1を受け取って
7. ジェネリック医薬品希望カードを受け取って	8. ジェネリック医薬品軽減額通知(差額通知等)※2を受け取って
9. 健保組合・市町村国保等の保険者からのお知らせを受け取って	
10. テレビCM等の広告を見て	11. 国の広報を見て
12. その他(具体的に: _____)	

「※1：薬剤情報提供文書」とは

保険薬局から調剤したお薬と一緒に渡される文書で、薬の名前や写真、効能・効果、用法、副作用、注意事項などが書かれています。平成 24 年 4 月以降、ジェネリック医薬品についての説明（ジェネリック医薬品の有無や価格など）もこの文書に記載し、患者に情報提供することとなりました。

「※2：ジェネリック医薬品軽減額通知（差額通知等）」とは

処方された薬をジェネリック医薬品に切り替えることにより、どのくらい薬代（薬剤料）の自己負担額が軽減されるかを健康保険組合や市町村国保などの保険者が具体的に試算して、例えば「ジェネリック医薬品に切り替えた場合の薬代の自己負担の軽減額に関するお知らせ」のような名前で通知してくれるサービスです。

【全ての方にお伺いします】

⑦薬局においていつもの薬が手に入らないなどの理由で、ジェネリック医薬品から先発医薬品や他のジェネリック医薬品に変更された薬はありますか。※〇はいくつでも

1. 先発医薬品に変更された	2. 他のジェネリック医薬品に変更された	3. 変更されたことはない
4. 薬が中止された	5. わからない	

3. ジェネリック医薬品のある先発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

以下の「ジェネリック医薬品のある先発医薬品の選定療養」、「特別の料金について」を読み、ご回答ください。

【ジェネリック医薬品のある先発医薬品の選定療養】

令和6年10月から後発医薬品(ジェネリック医薬品)があるお薬で、先発医薬品の処方を希望される場合は、都度ごとに特別の料金をお支払いいただくことになりました。

【特別の料金について】

特別の料金とは先発医薬品と後発医薬品(ジェネリック医薬品)の価格差の4分の1相当の料金のことを言います。(例えば、先発医薬品の価格が1錠100円、後発医薬品の価格が1錠60円の場合、差額40円の4分の1である10円を、通常の1~3割の患者負担とは別に特別の料金としてお支払いいただくことになります。)

特別の料金の金額については、医療機関又は薬局が発行する領収書の保険外負担の欄からご確認いただけます。なお、特別の料金は課税対象であるため、消費税分を加えてお支払いいただくことになります。



【全ての方にお伺いします】

①上記の解説のとおり、令和6年10月から、ジェネリック医薬品のあるお薬で、先発医薬品の処方を希望される場合には、特別の料金を支払うことになりました。このことをご存知でしたか。※○は1つ

1. 知っていた 2. 知らなかった

②令和6年10月以降、この特別の料金を支払いましたか。※○は1つ

1. 支払った →②-1へ 2. 支払っていない →②-4へ 3. わからない →設問4へ

【前記②で「1.支払った」と回答した方にお伺いします】

②-1 具体的にいくら支払いましたか。

※料金については直近で支払った金額を回答ください

※わからない場合は医療機関又は薬局にお尋ねください

()円 ※数字で記載

②-2 先発医薬品(長期収載品)の処方を希望した理由は何ですか。※○は1つ

1. ジェネリック医薬品の使用に不安があるから
2. 先発医薬品(ジェネリック医薬品がある先発医薬品)のほうが効果があると思うから
3. 使い慣れた薬を使いたいから
4. 自己負担が増えてもあまり気にならないから
5. その他(具体的に:)

②-3 この特別の料金が具体的にいくらになれば、先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えようと思いますか。以下の選択肢から該当するものをお選びください。※○は1つ

1. 1円~500円
2. 501円~1,000円
3. 1,001円~2,000円
4. 2,001円~3,000円
5. 3,001円以上
6. 特別の料金がいくらであろうと、先発医薬品を選択する
7. 現在の特別の料金でもそのうち切り替える
8. わからない

【前記②で「2.支払っていない」と回答した方にお伺いします】

②-4 この特別の料金を支払っていない理由は何ですか。※○はいくつでも

1. 先発医薬品を使用する医療上の必要があったため
2. 医療機関又は薬局にジェネリック医薬品の在庫がなかったため
3. これまで先発医薬品を使用していたが、特別の料金を支払いたくないので、ジェネリック医薬品へ変更したため
4. 従来からジェネリック医薬品を使用していたため

4. ジェネリック医薬品の使用に関するお考えや、使用促進の取組についてお伺いします。

①ジェネリック医薬品使用に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。※○は1つ	
1. できればジェネリック医薬品を使いたい	2. とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい
3. できればジェネリック医薬品を使いたくない	4. ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない
5. わからない	
②あなたがジェネリック医薬品を使用するにあたって重要なことは何ですか。※○はいくつでも	
1. 効果(効き目)が先発医薬品と同じであること	
2. 使用感(味を含む)がよいこと	
3. 副作用の不安が少ないこと	
4. 有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること	
5. 先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえること	
6. 医師のすすめがあること	
7. 薬剤師のすすめがあること	
8. 窓口で支払う薬代が安くなること	
9. 医療費が安くなり、医療保険制度の持続可能性に貢献すること	
10. その他(具体的に:)	
11. 特になし →設問5へ	
③前記②の選択肢 1.~10.のうち、最も重要なことは何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。	

5. バイオ医薬品の使用に関するお考えや、使用促進の取組についてお伺いします。

「バイオ医薬品（バイオテクノロジー応用医薬品）」とは
 遺伝子組換え技術等を応用して製造される医薬品です。インスリン（糖尿病治療薬）、
 リツキシマブ（抗がん剤等）、ソマトロピン（成長ホルモン製剤）などがあります。

「バイオ後続品（バイオシミラー）」とは
 既に販売されているバイオ医薬品の特許期間・再審査期間満了後に、異なるメーカーから販売される製
 品です。一般的に先発医薬品に比べて薬価が安く、医療費の軽減につながります。



【全ての方にお伺いします】

①現在あなたは以下に記載された疾患の治療のために通院していますか。		1. はい →①-1へ	2. いいえ →②へ
11. 糖尿病	12. 骨粗鬆症	13. 腎性貧血	
14. 成長ホルモン分泌不全性低身長症	15. ファブリー病	16. 加齢黄斑変性、黄斑浮腫、脈絡膜、新生血管、糖尿病黄斑浮腫	
17. 関節リウマチ	18. クローン病、潰瘍性大腸炎	19. ベーチェット病	
20. がん(リンパ腫)	21. がん(乳がん、胃がん)	22. がん(結腸・直腸がん、肺がん、卵巣がん)	
23. 好中球減少症	24. 尋常性乾癬、関節性乾癬		

【前記①で「1.はい」と回答した方にお伺いします】

①-1 治療のために通院している疾患について、前記①の選択肢11.~24.の中からあてはまる番号を全てお書きください。	
---	--

【全ての方にお伺いします】

②あなたは「バイオ後続品(バイオシミラー)」という名称を知っていますか。※○は1つ

1. 知っていた →③へ

2. 知らなかった →⑥へ

【前記②で「1.知っていた」と回答した方にお伺いします】

③「バイオ後続品(バイオシミラー)」を使用したことがありますか。※○は1つ

1. ある

2. ない

3. わからない

④「バイオ後続品(バイオシミラー)」を使用したいと思いますか。※○は1つ

1. できればバイオ後続品を使用したい

2. とりあえずバイオ後続品を試してみたい

3. バイオ後続品かどうかにはこだわらない

4. できればバイオ後続品を使いたくない →⑤へ

5. わからない

【前記④で「4.できればバイオ後続品を使いたくない」と回答した方にお伺いします】

⑤「バイオ後続品(バイオシミラー)」をできれば使いたくないと考える理由は何ですか。※○はいくつでも

1. 効果に対する不安があるから

2. 副作用に対する不安があるから

3. 担当医師がバイオ後続品を勧めないから

4. バイオ後続品を作っている会社に不信感があるから

5. 使い慣れた薬を使いたいから

6. バイオ後続品について説明されても理解できないから

7. その他(具体的に:

)

【全ての方にお伺いします】

⑥本日、薬局の窓口で支払った自己負担額がどのくらい安くなれば、今後「バイオ後続品(バイオシミラー)」を使用したいと思いますか。

※○は1つ

※本日の自己負担額が0円の方は回答不要です。

1. いくら安くなるかにかかわらず、使用したい

2. 少しでも安くなるのであれば使用したい

3. 本日支払った金額よりも一定額安くなるのであれば使用したい

→(安くなる金額の目安: 円程度)

4. いくら安くなっても使用したくない

5. わからない

6. その他(具体的に:

)

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

令和7年8月29日(金)までに返信用封筒(切手不要)に封入し、お近くのポストに投函してください。